

このたびは、スバル車をお買い上げいただき、 ありがとうございます。

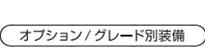
本書は、ステラの正しい取り扱いかたや、お手入れの方法などについて説明しているほか、車を操作するうえで必ず守っていただきたいこと、また、万一のときの処置についても記載しています。安全で快適なカーライフをお楽しみいただくために、ご使用前に必ずお読みください。

必読！ドライバーのみなさまへ

特に重要な事柄です。必ず読んでから操作、あるいは作業に取りかかってください。これらを守らないと思わぬけがや事故につながったり、車を損傷するおそれがあります。

安全についての表示マーク・その他の表示マーク

本文中に記載されているマークの意味は下記の通りです。

 警告	警告事項を守らないと、生命にかかわるけが、あるいは重大なけがにつながるおそれがあります。
 注意	注意事項を守らないと、けがや事故、車の破損につながるおそれがあります。
 知識	お車を使ううえで守っていただきたい、または知っておいていただきたい事項です。
 オプション/グレード別装備	オプション、またはグレードなどにより、装備の有無の異なる項目です。

ご愛車のために

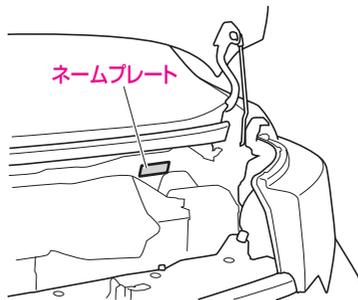
- 車種によって取り扱い方法が異なる場合は、車両型式やエンジン型式を確認したうえで操作を行ってください。車両型式、エンジン型式は本書の「ご愛車に関するメモ」にあらかじめ記入しておくとう便利です。
- 保証および点検・整備については、別冊の「メンテナンスノート」に記載していますのでお読みください。
- お車をゆずられる際は、次のオーナーのために必ず本書を車に付けておいてください。
 - 車の仕様変更により、本書の内容やイラストがお車と一部異なる場合がございますがご了承ください。
 - 本書は別冊の「メンテナンスノート」とともに、いつもお車に保管しておいてください。
 - ご不明な点は、ご購入先のスバル販売店（営業スタッフ）におたずねください。

ご愛車に関するメモ

記入される記号・番号は、車検証、ネームプレートをご覧ください。

ご愛車のメモ	
車名および型式	車名:
	型式:
車台番号	
エンジン型式	KF型エンジン
総排気量	658cc
車体色(番号)	
トランスミッション	CVT

ネームプレートはエンジンルームに貼り付けしてあります。



目次

絵目次	2
こんなときは	10

必読！ ドライバーのみなさまへ

走行する前に	14
エンジンをかけるときは	17
走行しているときは	18
駐停車するときは	21
お子さまを乗せるときは	23
こんなときは	25
お車を長持ちさせるには	28
知っておいていただきたいこと	30

安全なドライブのために

正しい運転姿勢	34
正しい運転姿勢	34
シートベルト	35
正しいシートベルトの着用	35
シートベルトの使いかた	35
チャイルドシート	41
チャイルドシート	41
チャイルドシートの選びかた	44
チャイルドシートの 固定のしかた	49
SRS エアバッグ	64
SRS エアバッグ	64
SRS エアバッグ コンピューター	73
盗難防止機能	75
イモビライザー機能	75
盗難警報装置	76

各部の開閉と各部の調整

車体各部の開閉	84
キー	84
電波式リモコンドアロック	89
キーレスアクセス	90
ドア	101
リヤゲート	110
パワーウィンドウ	114
給油のしかた	119
車体各部の調整	122
フロントシート	122
リヤシート	124
ヘッドレスト	127
シートアレンジ	129
ルームミラー	130
ドアミラー	131
チルトステアリング	134

計器類とスイッチ

警告灯、表示灯	136
警告灯	136
表示灯	149
メーターのはたらき	156
メーター	156
TFT カラーマルチ インフォメーション ディスプレイ	168
スイッチの使いかた	218
ライティングスイッチ	218
光軸調整ダイヤル	222
フォグランプスイッチ	223
ワイパー・ウォッシャー スイッチ	223
ホーンスイッチ	226
方向指示レバー	226
非常点滅表示灯スイッチ	227

車を運転するにあたって

運転するとき	230
運転をする前に	230
運転のしかた	232
運転するときの注意事項	235
運転装置の使いかた	239
エンジンスイッチ (電波式リモコンドアロック装着車)	239
プッシュエンジンスイッチ (キーレスアクセス装着車)	241
駐車ブレーキ	246
セレクトレバー	247
POWER モード切り替え スイッチ	250
ABS	252
ABS (EBD 機能付)	252
VDC&TRC	254
VDC (ビークル ダイナミクス コントロール)	254
TRC	255
メーター表示	257
VDC&TRC OFF スイッチ	259
ヒルホールドシステム	260
ヒルホールドシステム	260
スマートアシストII	262
スマートアシストII	262
レーザーレーダー	264
単眼カメラ	266
ソナー	267
衝突警報機能(対車両・対歩行者)、 衝突回避支援ブレーキ機能	268
誤発進抑制制御機能、 後方誤発進抑制制御機能	276
先行車発進お知らせ機能	285
車線逸脱警報機能	288
メーター表示	292
スマートアシスト OFF スイッチ	299
エマージェンシーストップ シグナル	301
エマージェンシーストップ シグナル	301

アイドリングストップ

システム	302
「アイドリングストップ」	302
発電制御	315
発電制御	315

装備品の使いかた

空調	318
マニュアルエアコン	318
オートエアコン	326
リヤウインドウデフォグガー	
スイッチ	335
ワイパーディアイサー	
スイッチ	336
オーディオ	337
ルーフアンテナ	337
室内装備品	338
室内照明	338
アクセサリーソケット	341
アームレスト	342
運転席シートヒーター	343
サンバイザー	344
アシストグリップ	345
収納装備	346
ドリンクホルダー	352
ショッピングフック	355

車のお手入れ

日常のお手入れ	358
ボディ、塗装面のお手入れ	358
室内のお手入れ	361
簡単な点検・部品の交換	362
エンジンルーム内の点検	362
消耗品の補給、交換	367
タイヤの点検	370
ワイパーの交換	377
エアコンガス、フィルターの交換	381
ヒューズの交換	382
電球（バルブ）交換	386
キーの電池交換	401

積雪、寒冷時の取り扱い

積雪、寒冷時の取り扱い	408
冬に向かってのお手入れ	408
走行前点検と準備	409
積雪、寒冷時の走行	410
走行中の点検と注意	411
走行後の取り扱い	412

いざというときに

工具類	414
格納場所	414
ジャッキの使いかた	415
タイヤパンク応急修理セット	419
いざというときの処置	426
エンジンがかからないとき	426
スタック（立ち往生）	
したとき	426
故障したとき	427
けん引されるとき	429
パンクしたとき	432
バッテリーあがりの処置	432
オーバーヒートの処置	436
アクセスキーが	
使用できないとき	438
キーを閉じ込めたとき	440
車両を緊急停止するには	441
事故が起きたとき	442

サービスデータ

サービスデータ	444
---------	-----

さくいん

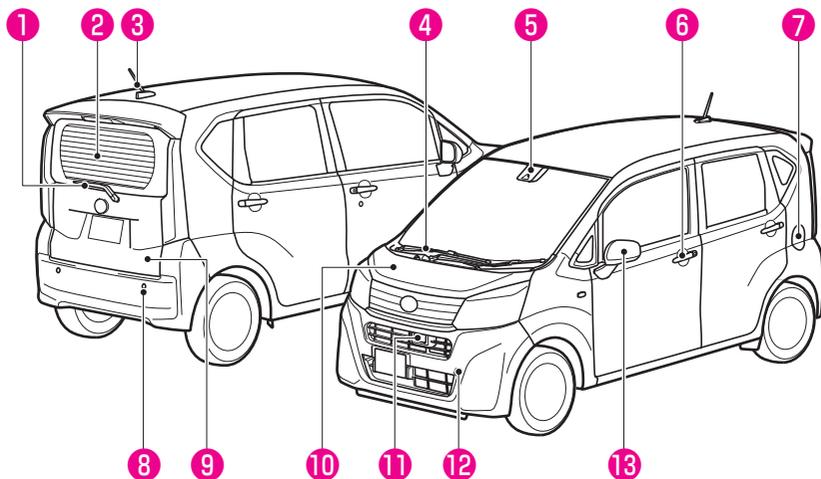
さくいん	450
------	-----

絵目次

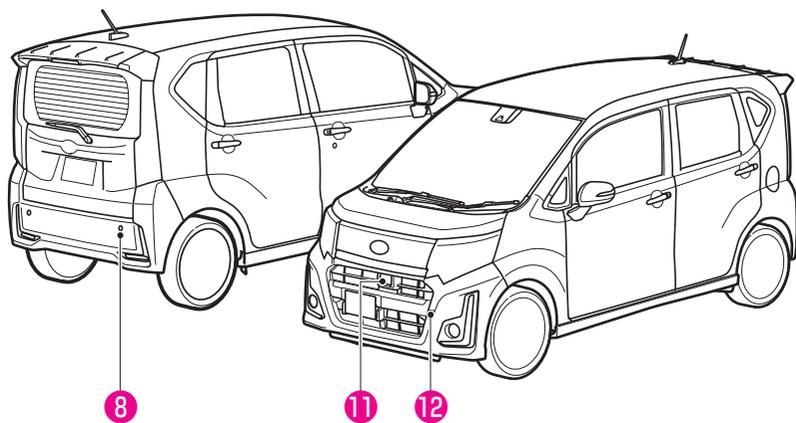
■ 外観

グレードの違い、メーカーオプションも記載しています。

標準車



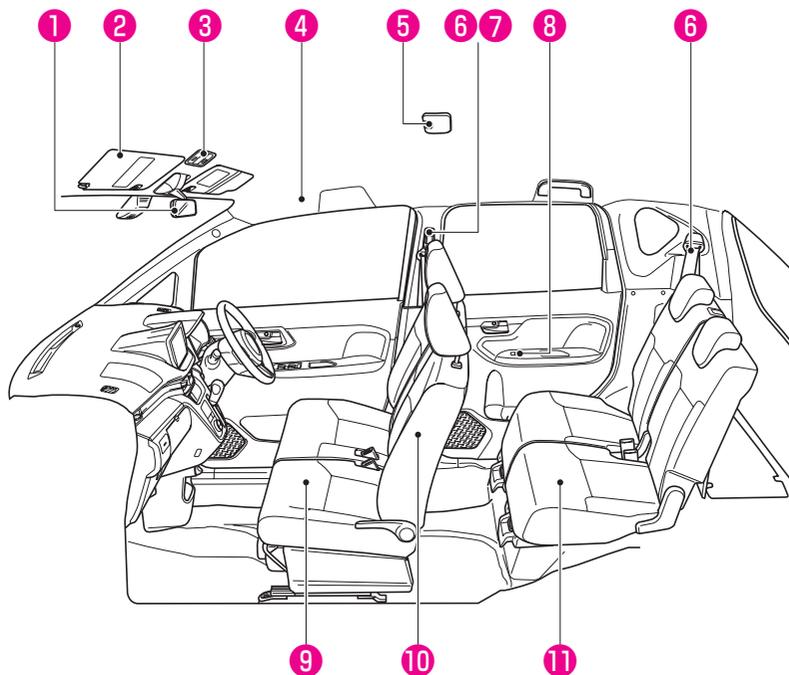
カスタム仕様車



①	リヤワイパー	225
②	リヤウインドウデフォッガー	335
③	ルーフアンテナ	337
④	フロントワイパー	224
⑤	単眼カメラ	266
⑥	ドアの開閉	101
⑦	フューエルリッド	120
⑧	ソナー	267
⑨	リヤゲート	110
⑩	ボンネット	364
⑪	レーザーレーダー	264
⑫	けん引フック	431
⑬	電動格納式ドアミラー	131

■ 内装 (1)

グレードの違い、メーカーオプションも記載しています。



助手席に前向き、後ろ向きを問わずチャイルドシートを絶対に
取り付けないでください。

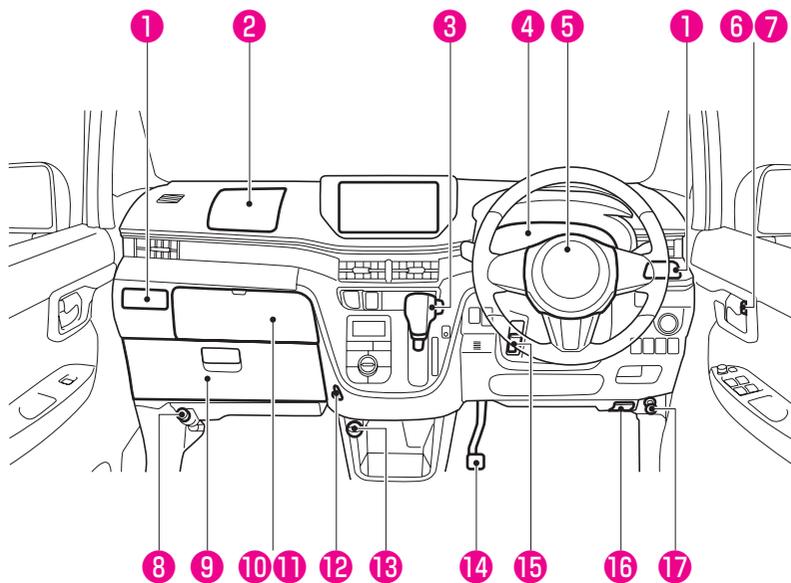
事故などで助手席SRSエアバッグが膨らんだとき、重大な傷
害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

(チャイルドシートの固定のしかた→ 49 ページ)

① ルームミラー	130
② サンバイザー	344
③ フロントマップランプ	338
④ SRS カーテンシールドエアバッグ	64
⑤ ルームランプ	339
⑥ シートベルト	35
⑦ ショルダーアジャスター	37
⑧ パワーウインドウスイッチ	114
⑨ フロントシート	122
⑩ SRS サイドエアバッグ	64
⑪ リヤシート	124

■ 内装 (2)

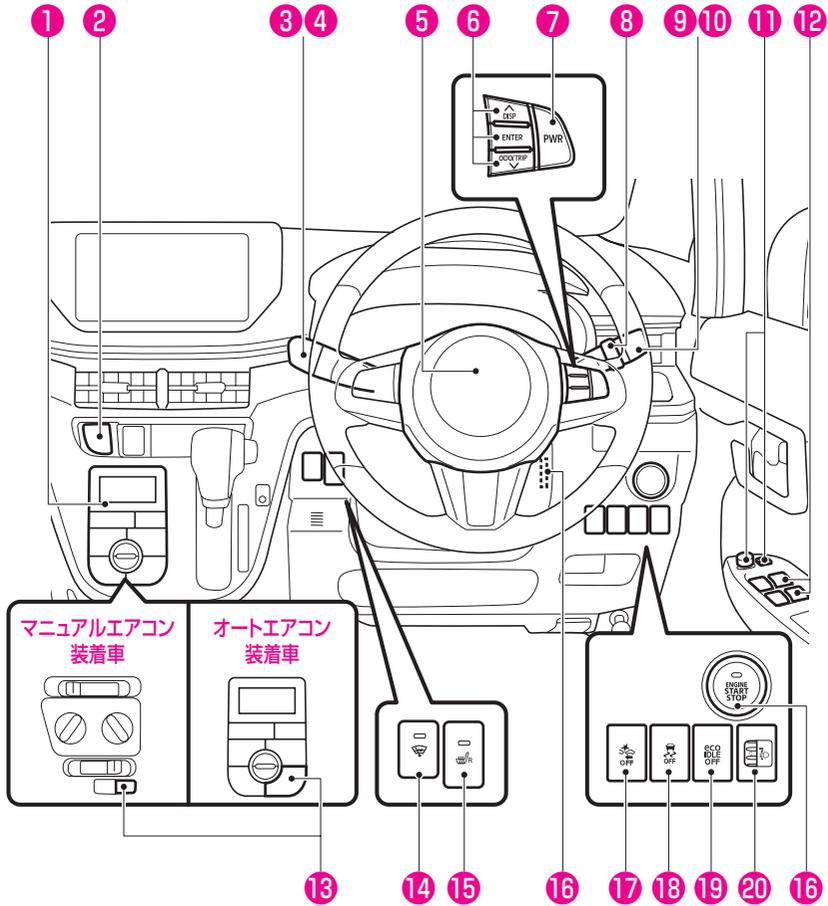
グレードの違い、メーカーオプションも記載しています。



①	ドリンクホルダー	352
②	助手席 SRS エアバッグ	64
③	セレクトレバー	247
④	メーター	156
⑤	運転席 SRS エアバッグ	64
⑥	車内からの施錠・解錠	105
⑦	集中ドアロック	107
⑧	発炎筒	428
⑨	グローブボックス	348
⑩	インパネトレイ（助手席）	347
⑪	イルミネーション付きインパネボックス（助手席）	349
⑫	ショッピングフック	355
⑬	アクセサリースOCKET	341
⑭	駐車ブレーキ	246
⑮	チルトステアリングレバー	134
⑯	フューエルリッドオープナーレバー	119
⑰	ボンネットオープナー	364

運転席まわり

グレードの違い、メーカーオプションも記載しています。



1 エアコン	
マニュアルエアコン	318
オートエアコン	326
2 非常点滅表示灯スイッチ	227
3 フロントワイパー・ウォッシャースイッチ	223
4 リヤワイパー・ウォッシャースイッチ	225
5 ホーンスイッチ	226
6 TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ	
操作スイッチ	168
7 POWER モード切り替えスイッチ	250
8 フォグランプスイッチ	223
9 ライティングスイッチ	218
10 方向指示レバー	226
11 ドアミラースイッチ	131
12 パワーウインドウスイッチ	114
13 リヤウインドウデフォグガススイッチ	335
14 ワイパーディアイサースイッチ	336
15 運転席シートヒータースイッチ	343
16 エンジンスイッチ	
キーレスアクセス装着車	241
電波式リモコンドアロック装着車	239
17 スマートアシスト OFF スwitch	299
18 VDC&TRC OFF スwitch	259
19 「アイドリングストップ」 OFF スwitch	312
20 光軸調整ダイヤル	222

お困りの際は、次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

- **電波式リモコンドアロック装着車** メインキーの電池の消耗、または電池が切れていませんか？
- **キーレスアクセス装着車** アクセスキーの電池の消耗、または電池が切れていませんか？
症状を確認して、該当すれば電池を交換してください。
→ 401 ページ（キーの電池交換）
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。
→ 電波式リモコンドアロック装着車：89 ページ
→ キーレスアクセス装着車：92 ページ
（作動範囲）

エンジンがかからない

- ブレーキペダルをしっかりと踏めていますか？
- セレクトレバーは **P** になっていますか？
「エンジンのかけかた」を参照して、もう一度操作してください。
→ 電波式リモコンドアロック装着車：239 ページ
→ キーレスアクセス装着車：241 ページ
（エンジンのかけかた）
- ハンドルがロックされていませんか？
ハンドルを軽く左右に回しながら、もう一度エンジンの始動操作をしてください。

キーレスアクセス装着車

- **アクセスキーの電池の消耗、または電池が切れていませんか？**
アクセスキーの電池が切れているときは、一時的な対処として、キーをプッシュエンジンスイッチに接触させるとエンジン始動が可能です。
→ 439 ページ
（アクセスキーが使用できないときーエンジンのかけかた）
→ 440 ページ
（アクセスキーが使用できないときーハンドルロックを解除するには）

アイドリングストップをしない アイドリングストップ中にエンジンが再始動した

- 「アイドリングストップ」には作動する条件、また再始動する条件があります。

以下のページを参照してください。

→ 305 ページ（システムの作動条件について）

警告灯、警告メッセージが表示された

- 以下のページを参照してください。

→ 136 ページ（警告灯）

→ 189 ページ（警告メッセージ）

安全のためにぜひ守りましょう



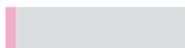
必読！

ドライバーのみなさまへ

ご使用の前に、特に守っていただきたいこと、
知っておいていただきたいことをまとめています。



警告に値する項目です



注意に値する項目です

走行する前に	14
エンジンをかけるときは	17
走行しているときは	18
駐停車するときには	21
お子さまを乗せるときは	23
こんなときは	25
お車を長持ちさせるには	28
知っておいていただきたいこと	30

走行する前に

お出かけの前に知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

日常点検などをおこなわず行ってください

安全で快適な運転をしていただくために、日常点検・定期点検整備を実施することが法律で義務付けられています。

点検・整備はメンテナンスノートにしたがって実施してください。

詳しくは別冊の「メンテナンスノート」をご覧ください。

各部を正しく調整してください

シート、ミラー類の位置を正しく調整してください。

(車体各部の調整→122 ページ)

シートベルトは乗員全員が必ず着用してください

「正しいシートベルトの着用」をよくお読みいただき、正しく着用してください。

(正しいシートベルトの着用→35 ページ)

危険物は持ち込まないでください

車内や荷室内には、ガソリン、灯油、シンナーなどの引火物の入った容器やスプレー缶類を持ち込まないでください。蒸発ガスに引火したり容器が破損すると非常に危険です。

ペダル操作が確実にできる履き物を着用してください

安全な運転をしていただくために、ペダル操作が確実にできる履き物を着用してください。ペダル操作が確実にできないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

運転席足元に物を置かないでください

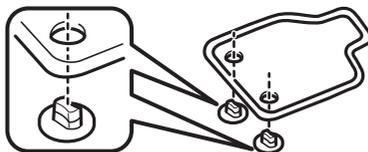
走行中に空缶などの動きやすい物を足元に置くと、ブレーキペダルの下に挟まり、ブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルが戻らなくなるなどのおそれがあり危険です。

荷物を積み過ぎないでください

- 助手席や後席に荷物を積み重ねないでください。視界をさまたげたり、ブレーキをかけたときや旋回しているときに荷物が飛び出して体にあたるなどして、思わぬけがや事故につながるおそれがあります。
- 重い荷物を積み過ぎないでください。車両や走行に悪い影響をおよぼし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

車に合わないフロアマットは使用しないでください

- フロアマットはペダルに引っかからないよう、車に合った物を正しく敷いてください。また、ずれないように固定フックなどで必ず固定してください。



- フロアマットを正しく敷かなかったり、重ねて敷くとペダル操作をさまたげ、思わぬ事故につながるおそれがあります。



タイヤ空気圧の点検をしてください

「タイヤ空気圧の点検」をお読みいただき、定期的に点検を実施して指定空気圧に調整してください。

(タイヤ空気圧の点検→ 370 ページ)

安全な燃料給油のために

燃料給油する場合に知っておいていただきたい、お守りいただきたいこと、特にセルフガソリンスタンドなどでお客様自身で燃料給油する場合に注意していただきたいことがあります。

「給油のしかた」をよくお読みいただき、安全に給油を行ってください。

(給油のしかた→ 119 ページ)

SRS エアバッグについて

SRS エアバッグについて知っておいていただきたい、お守りいただきたいこと、ご注意くださいことがあります。

「SRS エアバッグ」をよくお読みください。

(SRS エアバッグ→ 64 ページ)

CVT 車について

CVT 車の特性や操作上で注意していただきたいことがあります。

「運転するときは」をよくお読みください。

(運転するときは→ 230 ページ)

エンジンをかけるときは

エンジンをかけるときに知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

車両後方に可燃物がないことを確認してください

エンジン始動前に、車両後方や排気管の周りに可燃物（枯草・紙・木材など）がないか確認してください。可燃物があると排気管や排気ガスが高温になり、火災になるおそれがあり危険です。

排気ガスにご注意ください

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素が含まれているため、吸い込むと一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

換気の悪い場所（車庫など、周囲が閉鎖された場所）でエンジンをかけたままにしないでください。換気が不十分になり、一酸化炭素中毒事故を起こす危険があります。

排気管はときどき点検してください。排気管の異常（腐食による穴や亀裂など）または排気音の異常などに気付いたときは、スバル販売店で点検を受けてください。そのまま走行すると排気ガスが車内に侵入するおそれがあり危険です。

車内に排気ガスが侵入してきたと感じたらすぐに換気をし、車内に新鮮な空気を入れてください。また、ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

CVT 車で注意していただきたいこと

駐車ブレーキをかけた状態でセレクトレバーを必ず **P** レンジにして、ブレーキペダルをしっかりと踏みエンジンを始動してください。

（エンジンスイッチ（電波式リモコンドアロック装着車）→ 239 ページ）

（プッシュエンジンスイッチ（キーレスアクセス装着車）→ 241 ページ）

走行しているときは

走行しているときに知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

走行中はエンジンを止めないでください

走行中にエンジンを止めると、下記のような現象が起こるおそれがあります。

- ブレーキの倍力装置がはたらかなくなるため、ブレーキの効きが悪くなり、事故につながるおそれがあり危険です。
- 各警告灯が作用しなくなります。
- ハンドル操作が重くなります。
- 触媒装置を損傷するおそれがあります。

万一、車が止まらなくなったときの非常時は、車両の緊急停止方法にしたがってください。

(車両を緊急停止するには→ 441 ページ)

下り坂ではエンジンブレーキを併用してください

長い下り坂や急な下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱して、ブレーキの効きが悪くなり危険です。

路面状態やスピードに応じてシフトダウンしてエンジンブレーキを併用しましょう。

- セレクトレバーを **S** レンジに入れる

また、より強いエンジンブレーキが必要な場合は **B** レンジに入れる

その際には、急激なエンジンブレーキ（セレクトレバー操作）を避けてください。タイヤをロックさせ、スリップなどの原因となり、事故につながるおそれがあり危険です。

また、ぬれた路面や、積雪路、凍結路などのスリップしやすい路面では、十分速度を落としてエンジンブレーキを使用してください。

エンジンブレーキ

エンジンブレーキとは、走行中アクセルペダルから足を離したときにかかるブレーキのことです。低速ギヤになるほどよく効きます。

雨、風の強い日には走行に注意してください

雨や風の強い日は、スピードを控え目にしましょう。特に橋や土手の上、トンネルの出口、山の切通しの部分など、横風の発生しやすい場所では、ハンドルをしっかり持ち、スピードを落として走行してください。

冠水した道路を走行しないでください

冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電装品のショート、エンジンの破損などの重大な車両故障につながるおそれがあります。

万一、水中に浸かってしまったときは、必ずスバル販売店で点検を受けてください。

水たまりを走行したあとはブレーキの効きを確認してください

深い水たまりを走行したあとや洗車をしたあとは、ブレーキパッドがしめり、効きが悪くなることがあります。ブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキの効き具合が正常かを確認してください。

効き具合が悪いときは前後の車に十分注意し、ブレーキペダルを軽く踏みながら低速でしばらく走行し、ブレーキのしめりを乾かしてください。

スタック（立ち往生）などしたときにはタイヤを高速で回転させないでください

タイヤのバースト（破裂）、トランスミッションなどの損傷による思わぬ事故につながるおそれがあります。

（スタック（立ち往生）したとき→ 426 ページ）

高速道路を走行するときに注意していただきたいこと

- 燃料、冷却水、エンジンオイルの量、タイヤの空気圧、摩耗状態などの点検は特に念入りに行ってください。
- 高速での急ブレーキは特に危険です。十分な車間距離を取って走行してください。
- 法定速度を守って走行してください。

正しいシート位置で走行してください

シートを倒した状態で人を乗せたまま走行しないでください。

また、リヤシートの背当てを前倒した状態で荷室に人を乗せての走行もしないでください。急ブレーキをかけたときなど、体が固定されず大変危険です。

人を乗せて走行するときは必ず通常のシート位置で走行してください。

（正しい運転姿勢→ 34 ページ）

ブレーキペダルに足をのせたまま走行しないでください

ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

ハンドルの中からの操作をしないでください

走行中にはハンドルの中に手を入れて、スイッチなどの操作をしないでください。ハンドル操作のさまたげになり、万一のときに大変危険です。

「急」の付く運転はしないでください

急激なハンドル操作、急発進、急加速、急ブレーキや急激なエンジンブレーキなど「急」の付く運転はさけてください。

後退するときは子供や障害物に気を付けてください

ルームミラーやドアミラーなどでは確認しにくい死角があります。安全確認をしながらゆっくり後退してください。

窓から手や顔などを出さないでください

窓から身を乗り出したり、手や顔を絶対に出さないでください。思わぬけがをするおそれがあります。

駐停車するときは

駐停車するときに知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

長時間駐車するときに注意していただきたいこと

エンジンを必ず止めて駐車してください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

駐停車のときは駐車ブレーキをかけてください

駐停車するときは、必ず駐車ブレーキをかけ、セレクトレバーを  レンジに入れます。坂道で駐車するときは、さらに輪止めを置いて駐車すると安全です。

燃えやすい物のそばに車を止めないでください

排気管や排気ガスは高温になり、可燃物（枯草・紙・木材など）があると、火災になるおそれがあり危険です。車の後方に可燃物があるときは、車両後端を 30cm 以上離して止めてください。隙間が少ないと排気ガスによって変色や変形したり、火災になるおそれがあり危険です。また、可燃物（枯草・紙・木材など）の上で走行したり、車を止めたりしないでください。

車から離れるときに注意していただきたいこと

車から離れるときは、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけ、必ずドアを施錠してください。

車が動き出したり、車両盗難、貴重品盗難のおそれがあります。

また、乳幼児のみを車内に残して車を離れないでください。炎天下での車内の温度は、想像以上に高くなり危険です。

仮眠するときは必ずエンジンを止めてください

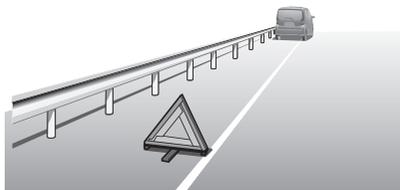
エンジンがかかった状態のまま仮眠すると、無意識にセレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、車の不意な発進やエンジン過熱による火災など、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

また、風通しの良くない所や、風向きによっては排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒事故を起こすおそれがあります。

高速道路で停車するときに注意していただきたいこと

高速道路で、故障などのためやむを得ず停車するときは道路の端によせ、必ず停止表示板（停止表示灯）を置いてください。

万一のために停止表示板（停止表示灯）は車に常備しましょう。高速道路では停止表示板（停止表示灯）の設置は法律で義務付けられています。



ターボ車は走行後にアイドリングを行ってください

高速および登坂走行の直後にエンジンを止めるときは、停車後、1分程度アイドリング運転でエンジンを冷やしてからエンジンを止めてください。（ただし、「アイドリングストップ」が作動したときは、アイドリング運転は不要です。）

高温になっている場所には触れないでください

- 荷物の積み降ろし時などに、手や足がマフラーに触れないようにしてください。エンジンがかかっているときやエンジン停止直後のマフラーは高温になっているため、やけどをするおそれがあります。
- タイヤ交換時などに、ディスクホイールやブレーキ回りに触れないようにしてください。走行後のディスクホイールやブレーキ回りは高温になっているため、やけどをするおそれがあります。

車が雪でおおわれたときに注意していただきたいこと

雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。エンジンをかけた状態で車の周りに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入して一酸化炭素中毒事故を起こすおそれがあり危険です。

お子さまを乗せるときは

車を離れるときはお子さまも一緒に離れてください

お子さまのいたずらによる車の発進、火災など思わぬ事故が起こるおそれがあり危険です。また、炎天下での車内の温度は想像以上に高くなり、危険です。必ずお子さまと一緒に車を離れてください。

ドアやウィンドウなどの開閉、シートの調整は大人が注意しながら操作してください

- ドアやウィンドウの開閉、シート、アームレストの調整など、特にお子さまの手や足を挟まないよう注意しましょう。また、お子さまが作動部に触れないように注意しましょう。
- ドアやウィンドウの開閉、シート、アームレストの調整などは大人が操作してください。また、安全のためにチャイルドプルーフを使用してください。
- パワーウィンドウは、お子さまが自分で操作できないようにロックスイッチを“OFF”にしてください。(ロックスイッチ→117ページ)

お子さまは大人と一緒にリヤシートにお座りください

助手席ではお子さまの動作が気になり、運転のさまたげになるだけでなく、お子さまが運転装置に触れて思わぬ事故につながるおそれがあります。

また、万一のとき、お子さまがインストルメントパネルに頭をぶつけたり、放り出されるおそれがあります。

お子さまを荷室に乗せたり、遊ばせないでください

荷室は、シートの状態にかかわらず人が乗る構造になっていないため、絶対にお子さまを乗せないでください。急ブレーキ時などに、思わぬ事故につながるおそれがあります。

また、停車中であってもお子さまを荷室で遊ばせないでください。

シートベルトでお子さまを遊ばせないでください

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一シートベルトが首に巻き付いた場合、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

誤ってそのような状態になってしまい、シートベルトのバックルも外せない場合は、はさみなどでシートベルトを切断してください。



お子さまにもシートベルトを着用させてください

- お子さまをひざの上に抱いて走行しないでください。衝突したときなど十分に支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 6歳未満のお子さまはチャイルドシートの着用が法律で義務付けられていますので、必ずスバル純正チャイルドシートを使用してください。
通常のシートベルトでは衝突のとき首などに強い圧迫を受け、けがをするおそれがあり危険です。
- チャイルドシートは、お子さまの年齢や体格に合わせて選んでください。
(チャイルドシート→ 41 ページ)

チャイルドシートは正しく取り付けてください

- お子さまはリヤシートに乗せてください。
- チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
- 6歳未満のお子さまはチャイルドシートの着用が法律で義務付けられていますので、必ずスバル純正チャイルドシートを使用してください。
スバル純正チャイルドシートの使用方法はチャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みください。
- 助手席にチャイルドシートを絶対に取り付けしないでください。SRS エアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。
(SRS エアバッグ→ 64 ページ)

お子さまが窓から手や顔を出さないように注意しましょう

走行中に限らず、お子さまが窓から手や顔を出さないように注意しましょう。思わぬけがをするおそれがあります。

絶対に身を乗り出したり、シートの上に立たせたりしないでください。転落などして重大な傷害をうけるおそれがあります。

こんなときは

警告灯が点灯、点滅、または警告メッセージが表示されたとき

警告灯類が異常を知らせたとき、そのまま走行すると危険な場合があります。安全な場所に停車し、正しい処置を行ってください。

(警告灯→ 136 ページ)

(警告メッセージ→ 189 ページ)

オーバーヒートしたとき

水温警告灯が赤色に点滅・点灯して、警告ブザーが鳴ったときは、オーバーヒートが考えられます。そのときボンネットから蒸気が出ている場合は、絶対にボンネットを開けないでください。また、あわてて冷却水注入口を外さないでください。熱湯が吹き出し、やけどをするおそれがあります。

(オーバーヒートの処置→ 436 ページ)

エンストしたとき

落ち着いて操作してください。

ブレーキの倍力装置やパワーステアリング装置が作動しなくなり、ブレーキの効が悪くなったり、ハンドルが重くなったりします。この場合、通常より強い力でハンドルやブレーキを操作してください。

パンクしたとき

走行中にパンクやバースト（破裂）をしたときは、ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。急ブレーキをかけるとハンドルを強く取られ危険です。

(タイヤパンク応急修理セット→ 419 ページ)

(タイヤの交換→ 372 ページ)

床下に強い衝撃を感じたとき

車体の床下に強い衝撃を感じたときは、すぐに安全な場所に車を停車し、下回りを点検してください。

ブレーキ液や燃料の漏れ、損傷などが見つかった場合はそのまま運転すると思わぬ事故につながるおそれがあります。スバル販売店で点検を受けてください。

いつもと違うとき

地面に油や液の漏れたあとが残っているときや、異臭、異音、振動などに気付いたときは、車に異常のおそれがあります。このようなときは、スバル販売店で点検を受けてください。

車両の火災につながるおそれがあるため、下記の点に注意をしてください

- 車内（特にインストルメントパネルの上など）に、ライターなどの発火物や炭酸飲料を置かないでください。車内が高温になり火災や爆発につながるおそれがあり危険です。
- ライターを車内（グローブボックス内など）に放置したままにしないでください。荷物を押し込んだときや、シートを動かしたときに、ライターの操作部が誤作動し、火災になるおそれがあり危険です。
- ウィンドウガラスには吸盤を付けたり、インストルメントパネルに芳香剤の容器などを置いたりしないでください。吸盤や容器がレンズのはたらきをして、火災になるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウィンドウガラスを開けたまま放置しないでください。ドアやウィンドウガラスを開けたまま放置すると、直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズのはたらきをして、火災になるおそれがあり危険です。
- エンジン始動前にエンジンルームに可燃物の置き忘れがないことを確認してください。特に長期間使用しなかったときは、エンジンルームに小動物や鳥類が持ち込んだ小枝などの可燃物がないことを確認してください。車両の火災につながるおそれがあり危険です。
- また、走行中にエンジンルームからこげた臭いがするときは、ただちに安全な場所に停車し、スバル販売店にご連絡ください。

車内に水などをかけないでください

- インstrumentパネルやドア、フロア下などにあるスイッチや電気部品、配線類の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
万一、水、飲み物などがかかった場合は、可能な限り水分を取り除き、すみやかにスバル販売店にご相談ください。

こんな点にも注意をしてください

- 炎天下での駐車は高温になりますので、メガネなどを車内に放置したり、小物入れなどに入れたままにしないでください。炎天下では車内が高温になるため、レンズやフレーム、耐熱性の低い物は、変形・ひび割れを起こすことがあります。
- Instrumentパネルの上に物を置いたまま走行しないでください。運転者の視界をさまたげたり、発進時や走行時に動いて思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 運転者はハンズフリー以外の携帯電話などを走行中に使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 運転者は走行中、テレビを見たり、カーナビゲーションを操作しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- リヤシートの調整および収納状態から元に戻したときは必ずロックがかかったことを確認してください。ロックがかかっていない状態での走行は思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤは4輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）の物を装着してください。
- 摩耗差の著しいタイヤは使用しないでください。

車止めなどに注意をしてください

下記のような場合には、バンパーや床下などを損傷するおそれがありますので、十分に注意してください。

- 車止めのある場所への駐車、路肩に沿っての駐車
- 路肩など段差のある場所への乗り降り
- 駐車場など急な坂道への出入り
- 凹凸やわだちのある道路の走行
- くぼみ（穴）のある場所の通過

お車を長持ちさせるには

点検整備を行きましょう

車は日頃の管理が大切です。安全、快適にご使用いただくため、必ず実施してください。

- 日常点検
- 新車時点検
- 定期点検
- 定期交換部品の交換整備

これらの点検整備は法令で定められているものと、スバルが推奨するものに基づいています。詳しくは別冊の「メンテナンスノート」をご覧ください。

海岸地帯、凍結防止剤を散布した道路を走行したあとは

海岸地帯や凍結防止剤を散布した道路などを走行したあとは、早めに洗車をしてください。特に車体の下回り、足回りは念入りに洗車してください。洗車をせずに放置すると腐食の原因となります。

腐食が進行すると、ブレーキや燃料、オイル、エアコンなどの配管類からの液漏れ、ガス漏れにつながるおそれがありますので、早めの洗車とともに定期的な点検整備を実施してください。

エンジン冷却水温が低い間は、エンジンに負担のかかる運転をさけてください

- エンジン冷却水温が低い間は、急激な空ぶかし・急加速・高速走行をさけた運転でエンジンを暖機させてください。暖機不足の状態では、急激な空ぶかし・急加速・高速走行をすると、エンジンに悪い影響をあたえたり、触媒装置の損傷の原因になるおそれがあります。
- 暖機は水温表示灯が消灯すれば十分です。

無鉛ガソリンのみ使用してください

必ず、無鉛レギュラーガソリンを使用してください。

給油時に、指定されている燃料であることを確認してください。

指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール系燃料*、軽油、灯油など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングや出力の低下などが発生する場合があります。また、そのまま使用していると、エンジンや燃料系部品を損傷するおそれがあります。

車の改造や自己流の調整はしないでください

- 車の性能や機能に適さない部品を装着したり、自己流のエンジン調整や配線などを行わないでください。正常な性能を発揮できなかったり、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 国土交通省に届け出をした部品以外の物を装着すると、違法改造になることがあります。
- ガラス面に、着色フィルムやステッカーなどを貼り付けしないでください。運転のさまたげになり危険です。特にフロントガラスおよびフロントドア左右のガラスへの貼り付けは法令で禁止されています。
- タイヤを交換するときは、指定以外の物を装着しないでください。また、ホイール、ホイール取り付けナットを交換するときは、この車専用以外の物を装着しないでください。性能や機能に支障をきたし、安全な走行ができなくなります。交換するときは、スバル販売店にご相談ください。
- 無線機やスバル指定部品以外の電装品などを取り付けると、取り扱い方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。スバル販売店にご相談ください。
- バッテリー端子にスバル指定部品以外の電装品やアース線を直接つなげないでください。バッテリーあがりや火災など思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- お客様自身でのハンドルを取り外しはしないでください。ハンドルにはSRSエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと誤作動につながり、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

指定部品を使いましょう

部品を交換する場合は「スバル指定部品」のご使用をおすすめします。

知っておいていただきたいこと

車両データの記録について

このお車には、車両を制御するためのコンピューターが複数装備されており、車両の制御や操作に関するデータなどを記録しています。

参考

- グレードやオプション装備により記録されるデータ項目は異なります。
- コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

データの取り扱いについて

スバルおよびスバルが委託した第三者は、コンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、スバルおよびスバルが委託した第三者は、取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは一定の衝突や衝突に近い状態（SRSエアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生したときに車両システムの作動状況に関するデータを記録します。

EDRは車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDRは次のようなデータを記録します。

- 車両の各システムの作動状況
- アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意

EDRは衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータとEDRデータを組み合わせて使用することがあります。EDRで記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両またはEDRへ接続する必要があります。スバルにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDRに接続した場合でも情報を読み出すことができます。

EDRデータの情報開示

次の場合を除き、スバルはEDRで記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- スバルが訴訟で使用する場合

ただし、スバルは

- データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

【ここでのスバルは、富士重工業株式会社を意味しています。】

磁石式の運転者標識の取り付けについて

磁石式の初心者標識や高齢者標識などを樹脂部分（バンパーやリヤゲートなど）に取り付けることはできません。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

安全なドライブのために

正しい運転姿勢	
正しい運転姿勢	34
シートベルト	
正しいシートベルトの着用	35
シートベルトの使いかた	35
チャイルドシート	
チャイルドシート	41
チャイルドシートの 選びかた	44
チャイルドシートの 固定のしかた	49
SRS エアバッグ	
SRS エアバッグ	64
SRS エアバッグ コンピューター	73
盗難防止機能	
イモビライザー機能	75
盗難警報装置	76

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢

安全な運転操作を行うため、正しい運転姿勢が取れるように、下記のことに注意して走行前にシートやミラーなどを調整してください。



- ペダル類が十分に踏み込めること
- 背当てから背中を離すことなく、ハンドル操作ができること
(フロントシート→122 ページ)
- シートベルトが正しく着用できること
(シートベルト→35 ページ)
- ヘッドレスト中央の高さが耳の後方になること
(ヘッドレスト→127 ページ)

警告

- 走行中は運転席シートの調整を絶対にしないでください。シートが突然動き、運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートを必要以上に倒して走行しないでください。シートベルトの性能が発揮されません。正しい運転姿勢を取りましょう。
- 背当てと背中 사이에クッションなどを入れないでください。正しい姿勢が取れないばかりか、衝突したときシートベルトなどの拘束保護装置の効果が十分に発揮されず重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

(シートベルト→35 ページ)

シートベルト

正しいシートベルトの着用

運転者は車を運転する前に、下記のことには注意してシートベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。

シートベルトの使用方法を十分に理解し、正しい取り扱い方を身に付けてください。

▼ 正しい着用のしかた



- シートを調整し、上体を起こし深く腰かけて座ること
- シートベルトにねじれがないこと
- シートベルトが肩に十分かかっていること、また必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させること

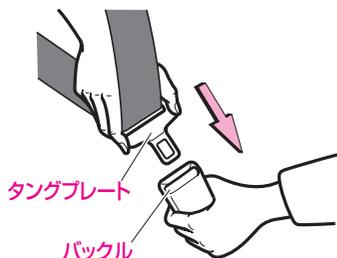
⚠ 警告

- シートベルトの着用は腹部をさげ、必ず腰骨の位置にしてください。衝突したときなどに腹部に強い圧迫を受け、シートベルトによりけがをするおそれがあります。
- シートベルトの肩にかかる部分を脇の下に通して着用しないでください。シートベルトが肩に十分かかっていないと衝突したときなどに体が前方に投げ出されるおそれがあります。

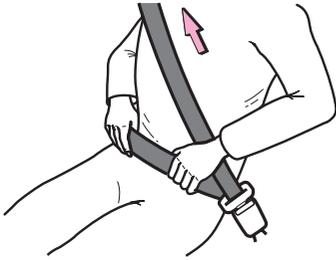
シートベルトの使いかた

長さ調整の必要はありません。通常は体の動きに合わせて伸縮しますが、緊急時にはロックし、体を固定します。

▼ 着けるとき



- 1 タングプレートをつかんでゆっくり引き出し、ベルトがねじれていないことを確認したのち、バックルの中にタングプレートを「カチッ」と音がするまで差し込む



- 2 腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにし、肩部ベルトを引いて腰部に密着させる

▼ 外すとき



バックルのボタンを押します。ベルトは自動的に収納されますので、ねじれや引っかかりなどがないかを確認しながら、タングプレートに手を添えてゆっくり戻します。

⚠ 注意

タングプレートを差し込むときは

- タングプレートでバックルを無理にこじらないでください。

📖 知識

ベルトがロックし引き出せないときは

- ベルトをゆるめてからゆっくり引き出してください。それでも引き出せない場合は、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、もう一度ゆっくり引き出してください。

シートベルト警告について

- 運転席および助手席のシートベルトを着用していない状態（警告灯が点滅状態）で、約 20km/h 以上で走行すると、ブザーが約 2 分間鳴ります。

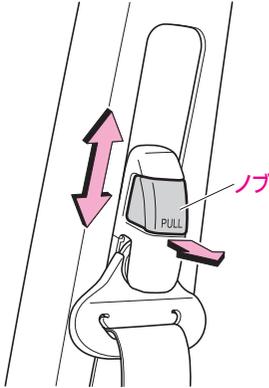
（シートベルト警告灯（運転席・助手席）→ 141 ページ）

ショルダーアジャスター

フロントシート

シートベルトが肩に十分かかるように、シートベルトの高さを調整することができます。

シートベルトが首に当たったり、肩から外れて腕にかかってしまうときに使用します。



▼ 調整方法

ノブを引きながら、アジャスターを上下に調整します。

知識

- 4段階に調整できますので、最適な位置で固定してください。

プリテンショナー & 可変ロードリミッター機構

プリテンショナー機構

前方からの強い衝撃を受けると、シートベルトを瞬時に引き込み、上体をシートにしっかりと固定してシートベルトや SRS エアバッグの効果をいっそう高めます。

可変ロードリミッター機構

前方からの強い衝撃を受けた場合、シートベルトにある一定以上の荷重がかかったときに、それ以上荷重がかからないようにする機構で、乗員の胸に加わる力を減少させます。

警告

- プリテンショナー & 可変ロードリミッター機構付シートベルトは絶対に取り外したり、分解、改造をしないでください。
- 下記のような場合は必ずスバル販売店にご相談ください。お客様自身で行うと、プリテンショナー機構が思いがけなく作動するおそれがあるほか、故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - 車両前部を修理するとき
 - 無線機を取り付けるとき
 - 廃車にするとき

注意

- プリテンショナー & 可変ロードリミッター機構付シートベルトは一度作動すると再使用できません。最寄りのスバル販売店で交換してください。

知識

- プリテンショナー機構はシートベルトを着用していなくても前方からの強い衝撃を受けると作動します。

シートベルトの取扱いとお手入れ

警告

- シートベルトの経路をさまたげる荷物の積みかたはしないでください。衝突したときなどに効果が十分発揮されません。



警告

- お子さまをひざの上に抱いて走行しないでください。
ひざの上でお子さまを抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまへの重大な傷害につながるおそれがあります。
- シートベルトは、それを着用するのに十分な大人の体格を持った人用に設計されています。
- 6歳未満のお子さまはチャイルドシートの着用が法律で義務付けられていますので、必ずチャイルドシート（別売）を使用してください。
(チャイルドシート→41ページ)
(チャイルドシートの固定のしかた→49ページ)
- シートベルトは1人用です。2人以上で1本のシートベルトを使用しないでください。衝突時にシートベルトが正常に動かず、けがをするおそれがあります。



- 妊娠中の方もシートベルトを着用してください。ただし、万一のとき腹部などに強い圧迫を受けるおそれがありますので、シートベルトの着用については、医師に相談のうえ、注意事項を確認してください。
 - 腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置、お腹の膨らみの下に密着させます。
 - 肩部ベルトは、お腹の膨らみをさけ必ず胸部に着用します。



警告

- シートの背当てを必要以上に倒して走行しないでください。衝突時に体がシートベルトの下にもぐり、ベルトが腰骨にかからず腹部にかかることになり、シートベルトによりけがをするおそれがあります。



- ハンドルやメーターに必要以上に近付いて運転しないでください。衝突したときなどシートベルトの効果が発揮されません。
- シートベルト使用時、クリップなどでたるみをつけないでください。衝突時など効果を発揮しなくなります。
- シートベルトが汚れた場合は中性洗剤を使用してください。ベンジンなどの有機溶剤を使用すると、シートベルトの性能が落ち、十分な効果を発揮できません。同様にシートベルトの脱色や染色もやめてください。
- シートベルトを着用した状態で万一事故にあった場合は、スバル販売店でシートベルト一式を交換してください。シートベルト自体が損傷している場合があり、性能を十分発揮できないおそれがあります。
- 常にシートベルトにほつれや、擦り切れなどの異常がないかを点検してください。異常がある状態で使用をすると衝突時に正常にはたらかず、性能を十分発揮できないおそれがありますので、スバル販売店で交換してください。
- バックルや巻き取り装置の内部に異物などを入れないようにしてください。また、シートベルトの改造や取り付け、取り外しをしないでください。衝突時に十分な効果を発揮できないおそれがあります。



チャイルドシート

チャイルドシート

お子さまが乗車するときは、チャイルドシートを正しく使用し安全を確保してください。

知っておいていただきたいこと

- お子さまの年齢や体格に合わせ、適切なチャイルドシートを選んでください。
- チャイルドシートの取り付け方法および取り外し方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。
- この車は、2006年10月1日施行の保安基準に適合したISO*¹FIX固定バーを標準装備しています。

チャイルドシートの種類

UN (ECE) R44*²の基準に適合するチャイルドシートは、お子さまの体重によって下表の通り5つの質量グループに分類されます。

質量グループ	お子さまの体重
グループ0	10kgまで
グループ0+	13kgまで
グループI	9~18kg
グループII	15~25kg
グループIII	22~36kg

*¹ International Organization for Standardization (国際標準化機構) の略
*² チャイルドシートに関する国際的な安全基準です。

安全なドライブのために チャイルドシート

スバル純正チャイルドシートは、次のカテゴリーの商品をご用意しています。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

チャイルドシート

体重の目安：～ 18kg

新保安基準の質量グループ0、0⁺ およびIに適合しています。

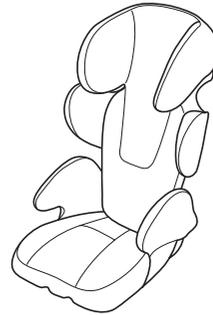


ジュニアシート (ベルト固定専用)

体重の目安：15～36kg

年齢の目安：3～12歳

新保安基準の質量グループIIおよびIIIに適合しています。

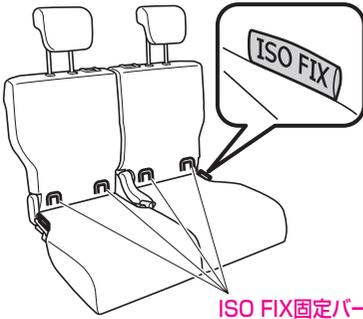


チャイルドシートの固定装置

警告

- 必ず ISO FIX 固定バーとテザーアンカーまたはサポートレッグをセットで使用してください。セットで使わない場合は、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ISO FIX チャイルドシートを取り付ける際は、以下の部分に異物やシートベルトの噛み込みがないことを確認してください。シートベルトや異物が噛み込んだ場合、確実にロックされず、衝撃を受けたときに重大な傷害につながるおそれがあります。
 - ISO FIX 固定バー
 - ベースシートのロック部
 - テザーベルトのフック
- 詳しくは、チャイルドシート（別売）に付属の取扱説明書をお読みください。

ISO FIX 固定バー

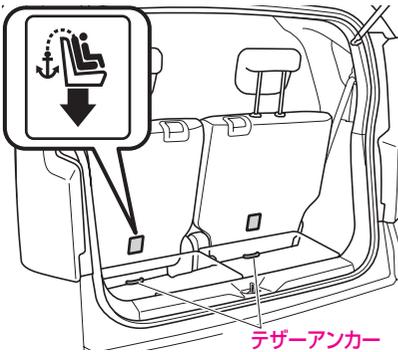


クッションと背当ての間にあります。

- 固定バーが装備されていることを示すタグがシートについています。

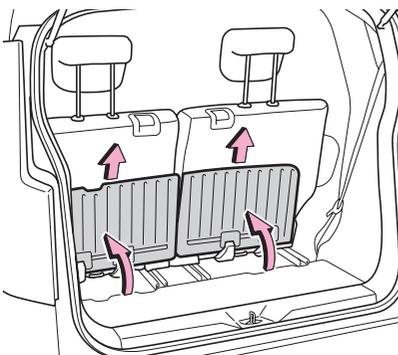
ISO FIX固定バー

テザーアンカー



テザーアンカーを示すマークが背当て裏側にあります。

テザーアンカー



テザーアンカーはカーゴボード下にあります。

- テザーアンカーを使用するときは、リヤシートを前方いっぱいまでスライドし、車両前側のカーゴボードを取り外します。
- テザーベルトを取り付けた後、カーゴボードは元に戻します。

サポートレッグ

(ISO FIX 固定バー&サポートレッグによる固定→ 51 ページ)

チャイルドシートの選びかた

次の適合性一覧表から、各シート位置で「どのチャイルドシート」が使用できるかを選択してください。

- ISO FIX 固定バー方式で固定するチャイルドシートについて
(適合性一覧表 (ISO FIX 方式での取り付け) → 45 ページ)
- シートベルトで固定するチャイルドシートについて
(適合性一覧表 (シートベルトを使用して取り付け) → 47 ページ)

知識

- お子さまに適切なチャイルドシートについては、スバル販売店、チャイルドシート製造業者、または販売店にご相談ください。

ISO FIX 固定バー方式で固定するチャイルドシートについて

リヤシートの左右席には、幼児用（チャイルド）のスバル純正 ISO FIX チャイルドシートを固定するための専用の ISO FIX 固定バーとテザーアンカーが装備されています。

適合性一覧表 (ISO FIX 方式での取り付け)

お子さまの体格に合わせ、チャイルドシートを適切にご使用ください。

質量グループ (お子さまの体重)	サイズ等級	固定具	車両ISO FIX位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
O(10kgまで)	E	ISO/R1	IL1※1
O+(13kgまで)	E	ISO/R1	IL1※1
	D	ISO/R2	IL1※1
	C	ISO/R3	IL1※1
I(9~18kg)	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IL2※1※2またはIUF※1※2
	B1	ISO/F2X	IL2※1※2またはIUF※1※2
	A	ISO/F3	IL2※1※2またはIUF※1※2
II(15~25kg)			×
III(22~36kg)			×

●記号の説明

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用(ユニバーサル)カテゴリーのISO FIX対応の前向きのチャイルドシートに適しています。

IL1：スバル純正ISO FIXチャイルドシート(後ろ向き)

IL2：スバル純正ISO FIXチャイルドシート(前向き)

×：ISO FIX対応チャイルドシートを取り付けることはできません。

※1 リヤシートの背当てを直立状態にしてください。

※2 ヘッドレストを取り外して使用してください。

●取り付け可能なチャイルドシート

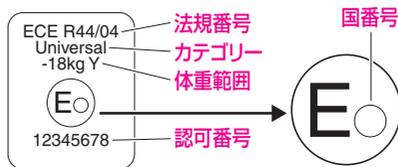
質量グループ	サイズ等級	固定具	ISO FIX対応チャイルドシート	使用の向き	カテゴリー
0(10kgまで)	E	ISO/R1	スバル純正ISO FIX チャイルドシート	後ろ向き	準汎用
0+(13kgまで)	E	ISO/R1			
	D	ISO/R2			
	C	ISO/R3			
I(9~18kg)	B	ISO/F2		前向き	
	B1	ISO/F2X			
	A	ISO/F3			

知識

- チャイルドシートを購入する際は、ISO FIX サイズ等級に一致した商品をお選びください。

サイズ等級	固定具	お子さまの体格	使用の向き	形状、大きさ
A	ISO/F3	幼児	前	大型
B	ISO/F2	幼児	前	中型
B1	ISO/F2X	幼児	前	中型
C	ISO/R3	幼児	後ろ	大型
D	ISO/R2	幼児	後ろ	中型
E	ISO/R1	乳児	後ろ	小型

- 「IUf」のチャイルドシートには、UN (ECE) R44 認可表示と取扱説明書に「UNIVERSAL ISO FIX」と案内があります。



- スバル純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入およびご使用に際してはスバル販売店にご相談ください。

シートベルトで固定するチャイルドシートについて

適合性一覧表（シートベルトを使用して取り付け）

お子さまの体格に合わせ、チャイルドシートを適切にご使用ください。

質量グループ (お子さまの体重)	着座位置	
	フロントシート	リヤシート
	助手席	左右席
0(10kgまで)	×	U ^{*1}
0+(13kgまで)	×	U ^{*1}
I (9~18kg)	×	U ^{*1*2}
II (15~25kg)	×	U ^{*1*2}
III (22~36kg)	×	U ^{*1*2}

●記号の説明

U : この質量グループでの使用を許可された汎用(ユニバーサル)カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

× : チャイルドシートを取り付けることはできません。

※1 リヤシートの背当てを直立状態にしてください。

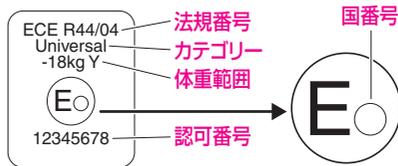
※2 ヘッドレストを取り外して使用してください。

●取り付け可能なチャイルドシート

質量グループ	チャイルドシート	使用の向き	カテゴリー
0(10kgまで)	スバル純正チャイルドシート	後ろ向き	汎用
0+(13kgまで)			
I (9~18kg)		前向き	
II (15~25kg)	スバル純正ジュニアシート	前向き	汎用
III (22~36kg)			

知識

- チャイルドシートに関する国際的な安全基準であるUN (ECE) R44 に適合しているチャイルドシートには、シートベルトで固定する機構が付いています。詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みください。
- チャイルドシートを購入する際は、質量グループに一致した商品をお選びください。
- 「U」、「UF」のチャイルドシートには、UN (ECE) R44 認可表示と取扱説明書に「UNIVERSAL」（汎用）と案内されているものもあります。



- スバル純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入およびご使用に際してはスバル販売店にご相談ください。

チャイルドシートの固定のしかた

警告

- チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
- 助手席に前向き、後ろ向きを問わずチャイルドシートを絶対に取り付けしないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。



- 急ブレーキや事故の際、お子さまの安全のために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してください。
また、お子さまをひざの上で抱いて走行しないでください。衝突したときなどに、十分に支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- チャイルドシート（ジュニアシート）を使用しているときは、チャイルドシート付属の取扱説明書に従ってシートベルトで固定してください。お守りいただかないと、急ブレーキや衝突時などにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みの上、確実に取り付けして使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- チャイルドシートやシートベルトが確実に固定されていることを前後左右にゆさぶり確認してください。
- チャイルドシートは、お子さまを乗せていないときでもしっかりとシートに固定しておいてください。また、荷室に収納する場合でも、ロープなどを利用して固定してください。固定しないまま客室または、荷室に放置すると、ブレーキをかけたときなどにチャイルドシートが動き乗員や物に当たるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一シートベルトが首に巻き付いた場合、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
誤ってそのような状態になってしまい、シートベルトのバックルも外せない場合は、はさみなどでシートベルトを切断してください。

警告

SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ装着車

- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドアやシート、フロント・センターピラー、ルーフサイド部付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけさせないでください。SRS エアバッグが膨らんだときに、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

- 標準装備のシートベルトは大人用です。6歳未満のお子さまは、チャイルドシートの着用が法律で義務付けられていますので、必ずチャイルドシートを使用してください。取り付けはチャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んで、確実に取り付けてください。
- シートベルトに損傷をあたえないよう、取り付けにあたっては十分注意してください。

知識

チャイルドシートをリヤシートに取り付けたときは

- 運転席とチャイルドシートが干渉し、正しい運転姿勢が確保できない場合は、リヤシートの助手席側に取り付けてください。

(正しい運転姿勢→34 ページ)

チャイルドシートを使用しないときは

- チャイルドシートを長時間使用しない場合は、荷室に収納し、しっかりと固定しておくか、車両から外して保管してください。シートに取り付けたままにしておくと、シートが変色したり、型くずれするおそれがあります。

ISO FIX 固定バー&サポートレッグによる固定

スバル純正 ISO FIX チャイルドシート（サポートレッグ式）を使用する場合

詳しい取り付け、取り外し方法については、別売のスバル純正 ISO FIX チャイルドシート（サポートレッグ式）に付属の取扱説明書をお読みください。

⚠ 警告

- 必ず ISO FIX 固定バーとサポートレッグをセットで使用してください。セットで使用しない場合は、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 詳しくは、チャイルドシート（別売）に付属の取扱説明書をお読みください。
- ISO FIX チャイルドシートを取り付ける際は、ISO FIX 固定バーおよびベースシートのロック部にシートベルトや異物の噛み込みがないことを確認してください。
シートベルトや異物が噛み込んだ場合、確実にロックされず、衝撃を受けたときに重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- チャイルドシートを取り付ける際に、可動部などに手を挟まないよう、気をつけてください。

▼ ベースシートの取り付け



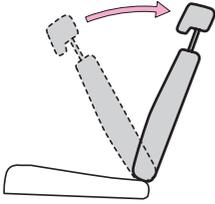
ベースシートを ISO FIX 固定バーに固定し、サポートレッグが床につくよう調整する

⚠ 注意

- ベースだけを取り付けたまま放置しないでください。突起部分で頭などをぶつけるおそれがあります。ベースシートを車内に置く場合は、安全のため ISO FIX 固定バーに取り付けたベースシートにチャイルドシートを固定してください。

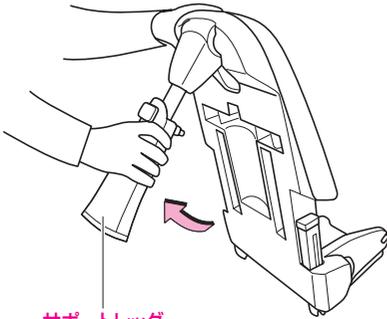
📖 知識

- 長期間チャイルドシートを取り付けることにより、シート跡がつく場合があります。



1 リヤシートの背当ての角度を調整する

- 背当てをいったん前に倒し、1 段目の固定位置に起こします。



サポートレッグ

2 サポートレッグを「カチッ」と音がするまで引き出し、確実にロックする

警告

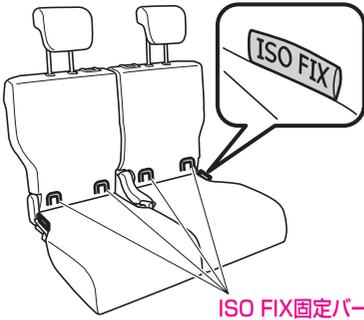
- ロックをしていないと、事故の際に重大な傷害につながるおそれがあります。



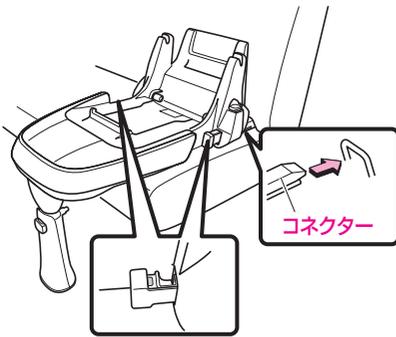
コネクター調整ボタン

3 コネクター調整ボタンを押した状態で、コネクターを全て押し出す

4 ISO FIX 固定バーの位置を確認する



5 コネクター部を ISO FIX 固定バーに「カチッ」と音がし、両方のインジケーターの赤色部分が緑色に変わるまで差し込む

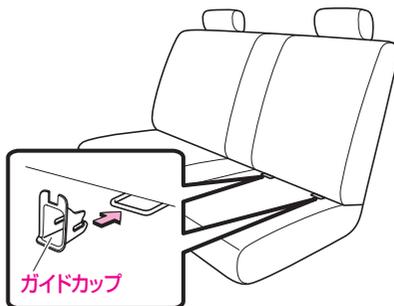


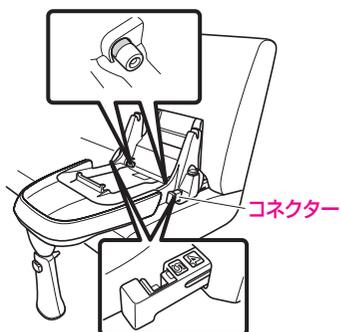
警告

- コネクターを必ず正しいロック状態にしてください。正しくロックしていないと、事故の際に重大な傷害につながるおそれがあります。

知識

- 取り付けにくいときは、ISO FIX 固定バーに付属のガイドカップを差し込み、ご使用ください。



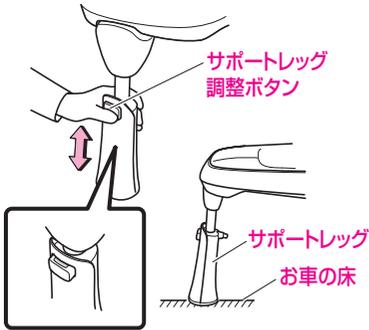


6 両側のコネクター調整ボタンを押しながら、ベースシートをシートにしっかりと押さえつける

7 左右のコネクター調整ボタンがロック位置（緑のラベルが見える状態）まで戻っていること、またコネクターの左右の数字が同じことを確認する

知識

- コネクター調整ボタンがロック位置に戻っていない場合（緑色のラベルが見えていない状態）は、ベースシートを前後にゆさぶりロックしてください。



8 サポートレッグ調整ボタンを押し、サポートレッグの先端が必ず床に接触するように高さを調整する

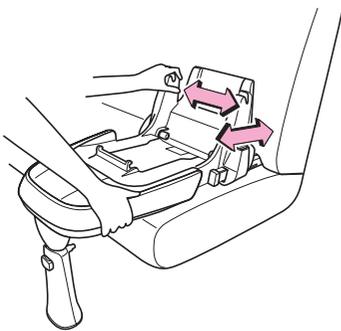
- 調整後はボタンの緑色の表示が見え、ロックされていることを確認してください。

警告

- サポートレッグの先端は必ず床に接触させてください。接触していない場合、事故の際に重大な傷害につながるおそれがあります。
- ボタンがロックされているか必ず確認してください。ロックされていない場合、事故の際に重大な傷害につながるおそれがあります。

知識

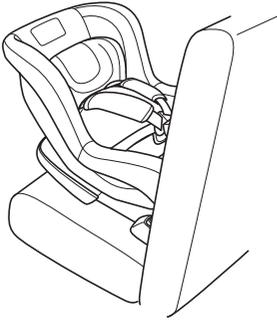
- サポートレッグを床に接触させると、シートとベースシートの底面に少しすき間ができる場合があります。
- 事故などの際、強い衝撃を受けるとロックが解除できなくなる場合があります。



9 ベースシートがしっかりと取り付けられていることを前後左右にゆさぶり確認する

- ぐらつきがある場合は手順 2 からやり直してください。

▼ ISO FIX チャイルドシート (サポートレッグ式) の取り付け<後ろ向き>



進行方向に対し、後ろ向きになるようチャイルドシートをベースシートに取り付ける

警告

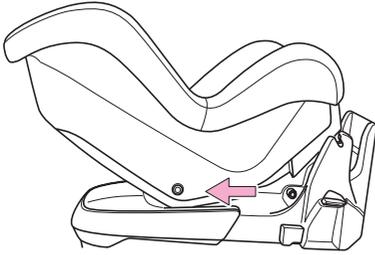
- ベースシートの上に物がないことを確認してから本体を取り付けてください。ベースの上に物があると本体が正しくロックできず、事故の際に重大な傷害につながるおそれがあります。

知識

- 長期間チャイルドシートを取り付けることにより、シート跡がつく場合があります。



チャイルドシート底面の3カ所のピンを以下の手順でベースシートの取り付け部に差し込む



- 1 チャイルドシートをベースの上に置き、滑らすようにしてシートの「後ろ向き用取り付けピン(A)」をベースシートの「シートロック部(A)」にロックする



- 2 チャイルドシートの前端を押し付け、チャイルドシートの「後ろ向き用取り付けピン(B)」をベースシートの「シートロック部(B)」にロックする
- 3 正しくロックされると、ベース側面のシート着脱ボタンが上がり、緑色のラベルが見える状態になっていることを確認する
 - 必ず左右両方ともロックされているか確認してください。

警告

- 全てのピンが正しくロックされていないと、事故の際に重大な傷害につながるおそれがあります。



- 4 チャイルドシートがベースシートにしっかりと取り付けられていることを前後左右にゆさぶり確認する
 - ぐらつきがある場合は手順 1 からやり直してください。

▼ ISO FIX チャイルドシート (サポートレッグ式) の取り付け<前向き>

進行方向に対し、前向きになるようチャイルドシートをベースシートに取り付ける

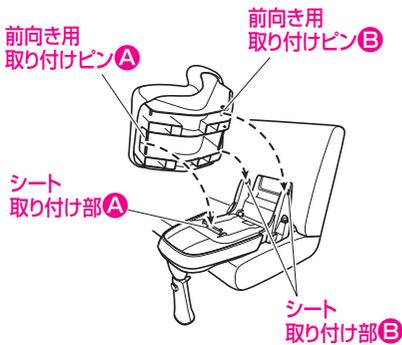


警告

- ベースシートの上に物がないことを確認してから本体を取り付けてください。ベースの上に物があると本体が正しくロックできず、事故の際に重大な傷害につながるおそれがあります。

知識

- 長期間チャイルドシートを取り付けることにより、シート跡がつく場合があります。



チャイルドシート底面の 3 カ所のピンを以下の手順でベースシートの取り付け部に差し込む



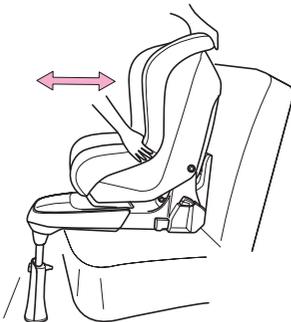
- 1 チャイルドシートをベースの上に置き、滑らすようにしてシートの「前向き用取り付けピン(A)」をベースシートの「シートロック部(A)」にロックする



- 2 チャイルドシートの前端を押し付け、チャイルドシートの「前向き用取り付けピン(B)」をベースシートの「シートロック部(B)」にロックする
- 3 正しくロックされると、ベース側面のシート着脱ボタンが上がり、緑色のラベルが見える状態になっていることを確認する
 - 必ず左右両方ともロックされているか確認してください。

警告

- 全てのピンが正しくロックされていないと、事故の際に重大な傷害につながるおそれがあります。

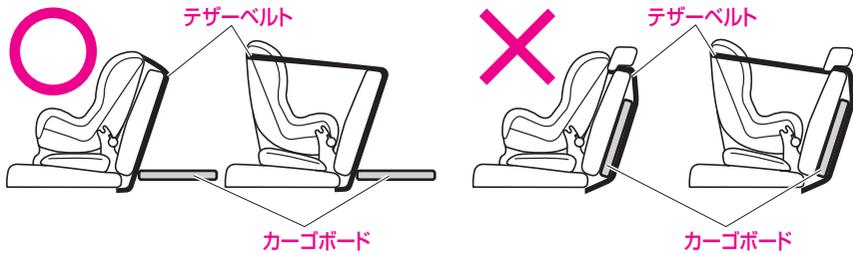


- 4 チャイルドシートがベースシートにしっかりと取り付けられていることを前後左右にゆさぶり確認する
 - ぐらつきがある場合は手順 1 からやり直してください。

ISO FIX 固定バー&テザーアンカーによる固定

⚠ 警告

- チャイルドシートを取り付けるときは、リヤシートのヘッドレストを取り外してから、テザーアンカーに固定してください。



- カーゴボードをリヤシートとテザーベルトの間に挟み込んだりしないでください。テザーベルトがたるみ、衝突したときなどにチャイルドシートが動いて重大な傷害を受けるおそれがあります。

スバル純正 ISO FIX チャイルドシート（テザー式）を前向き（幼児用）として使用する場合

詳しい取り付け、取り外し方法については、別売のスバル純正 ISO FIX チャイルドシート（テザー式）に付属の取扱説明書をお読みください。

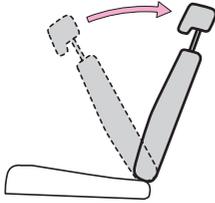
⚠ 警告

- 必ず ISO FIX 固定バーとテザーアンカーをセットで使用してください。セットで使用しない場合は、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 詳しくは、チャイルドシート（別売）に付属の取扱説明書をお読みください。
- ISO FIX チャイルドシートを取り付ける際は、ISO FIX 固定バーおよびベースシートのロック部にシートベルトや異物の噛み込みがないことを確認してください。
シートベルトや異物が噛み込んだ場合、確実にロックされず、衝撃を受けたときに重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- チャイルドシートを取り付ける際に、可動部などに手を挟まないよう、気をつけてください。

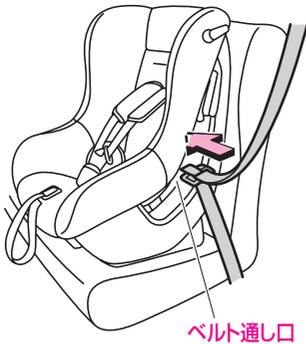
シートベルトによる固定



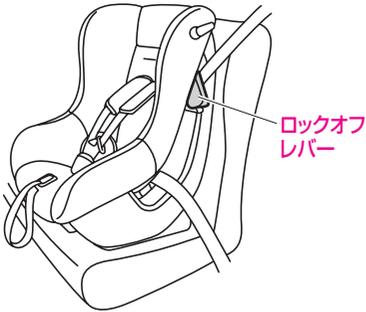
- 1 リヤシートを後方いっぱいまでスライドする
- 2 リヤシートの背当ての角度を調整する

- 背当てをいったん前に倒し、1 段目の固定位置に起こします。（操作しづらいときは、チャイルドシートを置いたときに、チャイルドシートの背面とリヤシートの背当てとの間にすき間ができないように調整します。）

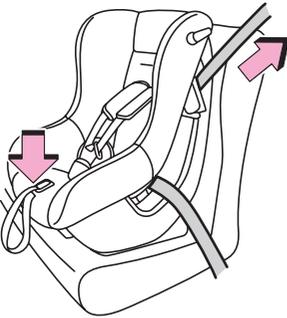
- 3 チャイルドシートを取り付けるシートのヘッドレストを取り外す
- 4 チャイルドシートを、後席の外側席にまっすぐに置く
- 5 チャイルドシート背面のベルト通し口に、シートベルトをねじれがないように通す



- 6 シートベルトのタングプレートをバックルの中へ、「カチッ」と音がするまで差し込む



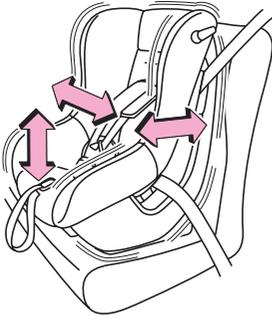
- 7 チャイルドシートのロックオフレバーを開き、肩ベルトをロックオフレバーの下に通す



- 8 チャイルドシートに体重をかけて後席に押しつけながら、肩ベルトをたるみがなくなるまで巻き取らせる

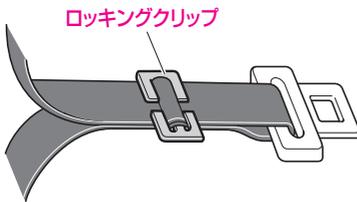


- 9 チャイルドシートのロックオフレバーを閉じ、肩ベルトを固定する



10 チャイルドシートやシートベルトが確実に固定されていることを前後左右にゆさぶり確認する

- ぐらつきがある場合は手順 4 からやり直してください。



チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロックングクリップを使用して固定する

- 取り付け後はチャイルドシートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。

解除のしかた

バックルの「PRESS」ボタンを押して、シートベルトを外す

知識

- 詳しい取り付け、取り外し方法については、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。
- ロックングクリップについて、詳しくはスバル販売店にご相談ください。

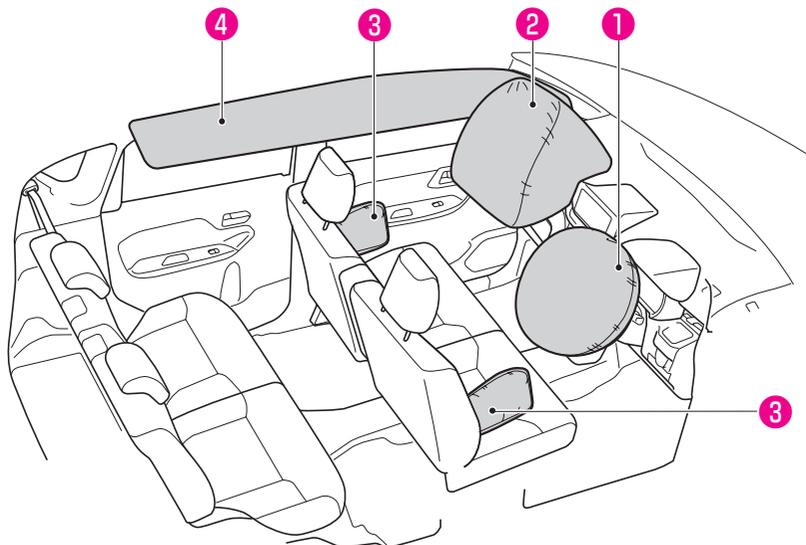
【固定のしかたは代表例です。また、イラストは説明のための物であり、実際のチャイルドシートの形状とは異なります。】

SRS エアバッグ

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

【SRS：Supplemental Restraint System（サブプリメンタルレストレイントシステム）の略で、乗員保護補助拘束装置の意味です】



① 運転席 SRS エアバッグ

運転者の頭や胸などへの衝撃をやわらげる装置です。

② 助手席 SRS エアバッグ

助手席同乗者の頭や胸などへの衝撃をやわらげる装置です。

③ SRS サイドエアバッグ

オプション/グレード別装備

運転者や助手席同乗者の胸部や上体への衝撃をやわらげる装置です。

④ SRS カーテンシールドエアバッグ

オプション/グレード別装備

運転席・助手席同乗者・リヤシート左右席同乗者のおもに頭部への衝撃をやわらげる装置です。

作動する場合

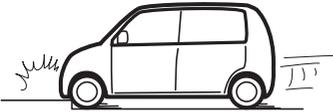
運転席 SRS エアバッグ、助手席 SRS エアバッグ

車両前方からフロントバンパーに強い衝撃を受けたとき作動します。(同時にシートベルトのプリテンショナー機構も作動します)

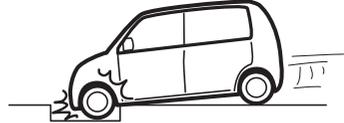
また、下記のように走行中に路面などから車両下部に強い衝撃を受けたときは、まれに SRS エアバッグが作動することがあります。

- 高速で縁石などに衝突したとき
- 深い穴や溝に落ち込んだとき

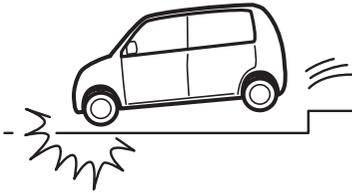
縁石など



深い穴や溝



- ジャンプして地面に衝突したとき



SRS サイドエアバッグ、SRS カーテンシールドエアバッグ

オプション/グレード別装備

車両側方から強い衝撃を受けたときに作動します。

作動しない場合

下記のときは、SRS エアバッグが作動しません。

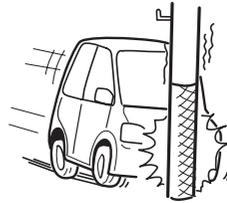
- エンジンスイッチが“OFF”、“ACC” のときに衝突したとき
- SRS エアバッグ警告灯点灯時



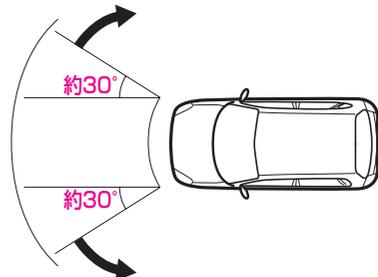
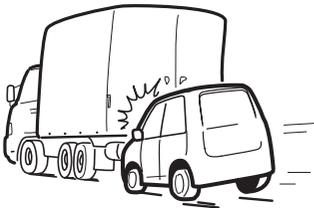
運転席 SRS エアバッグ、助手席 SRS エアバッグ

下記のように前方からの衝撃が弱い場合や、衝撃が車体により十分吸収された場合など、車両の損傷が大きくても作動しないことがあります。

- コンクリートの壁に約 20km/h 以下の速
度で正面衝突したとき
- 電柱などポール状の物に正面衝突したとき



- 大型トラックの後部荷台下にもぐり込んだとき
- 前方約 30°以上の角度でコンクリートの壁やガードレールなどに衝突したとき



下記のようなときも作動しないことがあり効果を発揮しません。

- 側面や後方から衝撃を受けたとき
- 車両が横転、転覆したとき

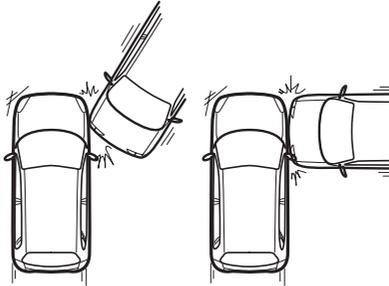


■ SRS サイドエアバッグ、SRS カーテンシールドエアバッグ

オプション/グレード別装備

下記のような側面からの衝撃を受けたときは、作動しないことがあります。

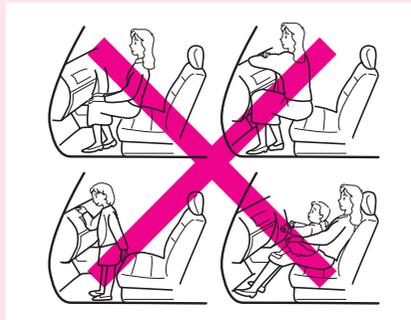
- 側面に斜め方向から、あるいは客室部以外の側面に衝突されたとき



SRS エアバッグの取り扱い

⚠ 警告

- シートベルトは必ず着用してください。SRS エアバッグはシートベルトを補助するための装置でシートベルトの代わりではありません。
- シートベルトを正しく着用してください。シートベルトを着用していないと、急ブレーキなどで放り出されると同時に SRS エアバッグが膨らんだ場合、強い衝撃を受け危険です。
(正しいシートベルトの着用→ 35 ページ)
- シートを正しい位置に調整してください。シートを正しい位置に調整しないと、SRS エアバッグの効果を発揮させることができず、衝突したときなど重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 正しい姿勢でシートに座ってください。正しい姿勢で座らないと SRS エアバッグの効果を発揮させることができません。また、運転席 SRS エアバッグはハンドルに近付きすぎると、SRS エアバッグが膨らんだときに重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ハンドル、インストルメントパネルは、絶対に取り外したり、分解しないでください。また、強い衝撃もあたえないでください。いざというときに作動しないおそれがあります。
- SRS エアバッグは、絶対に改造や分解をしないでください。
- SRS エアバッグが膨らんだあとに、その構成部品に触れないでください。非常に熱くなっているのやけどをするおそれがあります。
- 助手席 SRS エアバッグについては必ず下記の注意事項をお守りください。
 - シートの前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。また、お子さまをインストルメントパネルの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしないでください。助手席 SRS エアバッグは瞬時に車室内に大きく膨らみますので、SRS エアバッグが膨らんだときの強い衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。



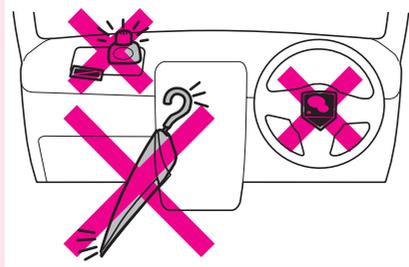
- お子さまはリヤシートに座らせて、必ずシートベルトを着用させてください。

警告

- 助手席に前向き、後ろ向きを問わずチャイルドシートを絶対に取り付けしないでください。SRS エアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。



- SRS エアバッグの展開部にステッカーを貼ったり、カバーを付けないでください。いざというときにパッド部が開かず SRS エアバッグが作動しないおそれがあります。
- インstrumentパネルの上にジュースや物を置かないでください。SRS エアバッグが膨らむときの衝撃でけがをするおそれがあります。



- ステアリングパッド、インstrumentパネルの上など SRS エアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるなどで、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの効力を十分に発揮させるため、下記の事項を必ず守ってください。
 - サスペンションを改造しないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わると SRS エアバッグの誤作動につながるおそれがあります。
 - 車両前部にグリルガードなどを装着する場合は、最寄りのスバル販売店にご相談ください。
- 無線機の電波などは、SRS エアバッグを作動させるコンピューターに悪影響をあたえるおそれがありますので、無線機などを取り付けるときは、スバル販売店にご相談ください。
- SRS エアバッグは非常に速い速度で膨らむため、SRS エアバッグとの接触によりすり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

警告

SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ装着車

- 正しい姿勢でシートに座ってください。正しい姿勢で座らないとSRS サイドエアバッグ、SRS カーテンシールドエアバッグの効果を発揮させることができません。また、ドア付近にもたれかからないでください。SRS サイドエアバッグ、SRS カーテンシールドエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



- フロントシート表皮の張り替えをしたり、フロントシート、フロント・センター・リヤピラー、ルーフサイド部を取り外したり、分解しないでください。また、強い衝撃もあたえないでください。いざというときに作動しないおそれがあります。必ず、スバル販売店にご相談ください。
- フロントシートにSRS サイドエアバッグ専用のスバル指定シートカバー以外は取り付けしないでください。フロントシート側面のSRS サイドエアバッグ展開部をおおくと、SRS サイドエアバッグが正常に作動しないおそれがあります。
- ドアやその周辺に専用のスバル指定用品以外を取り付けしないでください。SRS サイドエアバッグ、SRS カーテンシールドエアバッグが膨らんだときに飛ばされたり、SRS サイドエアバッグ、SRS カーテンシールドエアバッグが正常に作動せず重大な傷害を受けるおそれがあります。



警告

- SRS カーテンシールドエアバッグ周辺部（フロントガラス、フロント・リヤドアガラス、フロント・センター・リヤピラー、ルーフサイド部）にアクセサリー、ハンズフリーマイクなどを付けしないでください。SRS カーテンシールドエアバッグが膨らんだときに飛ばされたり、SRS カーテンシールドエアバッグが正常に作動せず重大な傷害を受けるおそれがあります。
- フロントシート側部、フロント・センター・リヤピラー、ルーフサイド部など SRS サイドエアバッグ、SRS カーテンシールドエアバッグ展開部は、強くたたきなど過度の力を加えないでください。SRS サイドエアバッグ、SRS カーテンシールドエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害をうけるおそれがあり危険です。

注意

- SRS エアバッグが作動すると作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。このガスを吸うと、喘息などの呼吸器系を患った経緯のある方は、呼吸が苦しくなることがあります。
この場合は、乗員が車外に出ても安全であることを確認して、車外に出てください。なお、車外に出ることができない場合は、窓やドアを開けて新鮮な空気を入れてください。
また、SRS エアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方は、まれに皮膚を刺激する場合があります。
- 衝突時などに助手席 SRS エアバッグが膨らむことによって、車両のフロントウインドウガラスが破損することがあります。
- SRS エアバッグは一度作動すると再使用できません。必ずスバル販売店で交換してください。
- 下記のような場合は必ずスバル販売店にご相談ください。
お客様自身で行うと、SRS エアバッグが思いがけなく作動し、故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - ハンドルを取り外すとき
 - 車両前部を修理するとき
 - フロントシート、フロント・センター・リヤピラー、ルーフサイド部を取り外すとき（SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ装着車）
 - 車両側部を修理するとき（SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ装着車）

 注意

- 車や SRS エアバッグを廃棄するときは必ずスバル販売店にご相談ください。SRS エアバッグが思いがけず作動し、けがをするおそれがあります。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずスバル販売店で交換してください。衝突したときなどに SRS エアバッグが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

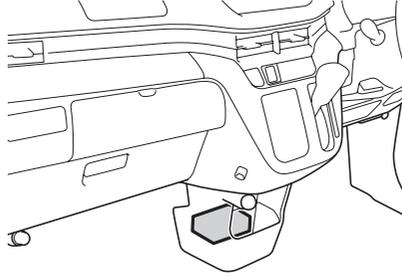
 知識

SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ装着車の場合

- SRS エアバッグ（運転席・助手席）と SRS サイドエアバッグ、SRS カーテンシールドエアバッグは、作動判定時における衝撃の方向が異なるため、下記のような作動をすることがあります。
 - SRS エアバッグ（運転席・助手席）のみ作動
 - SRS サイドエアバッグ、SRS カーテンシールドエアバッグのみ作動
 - SRS カーテンシールドエアバッグのみ作動

SRS エアバッグコンピューター

SRS エアバッグを制御する装置です。

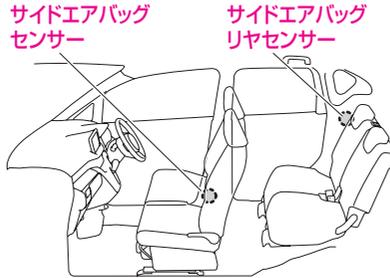


⚠ 注意

- SRS エアバッグコンピューターは、絶対に取り外したり、分解しないでください。
SRS エアバッグが誤って展開したり、いざというときに作動しないおそれがあります。
- SRS エアバッグコンピューターには、水、飲み物などをかけないでください。
- SRS エアバッグコンピューターおよびその近くを強くたたいたり、蹴ったりしないでください。
- SRS エアバッグが一度作動すると再使用できません。スバル販売店で交換してください。

SRS サイドエアバッグ、SRS カーテンシールドエアバッグ用センサー

SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ装着車



サイドエアバッグセンサー

フロントシート付近の車体左右両側に取り付けられています。

サイドエアバッグリヤセンサー

リヤシート付近の車体左右両側に取り付けられています。

⚠ 注意

- サイドエアバッグセンサー、サイドエアバッグリヤセンサーは、絶対に取り外したり、分解しないでください。
SRS サイドエアバッグ、SRS カーテンシールドエアバッグが誤って展開したり、いざというときに作動しないおそれがあります。
- サイドエアバッグセンサー、サイドエアバッグリヤセンサーおよびその近くを強くたたいたり、蹴ったりしないでください。

盗難防止機能

イモビライザー機能

キーレスアクセス装着車

車両の盗難防止のため、アクセスキーには信号アンテナが内蔵されており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンの始動ができません。

▼ 操作方法

- プッシュエンジンスイッチを“OFF”にすると、イモビライザー機能が作動し、セキュリティ表示灯が点滅します。
- プッシュエンジンスイッチを“OFF”から“ACC”にすると、イモビライザー機能が解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。

(セキュリティ表示灯→151 ページ)

📖 知識

- セキュリティ表示灯は盗難警報装置と兼用しているため、リクエストスイッチ操作・アクセスキーのリモコン操作により施錠すると、約 30 秒間点灯に変わります。
- 盗難警報装置が解除されていない場合は、プッシュエンジンスイッチを“ACC”にしても消灯しない場合があります。
- アクセスキーに登録された信号はキーごとに異なります。

イモビライザー機能のメンテナンスについて

イモビライザー機能のメンテナンスは不要です。

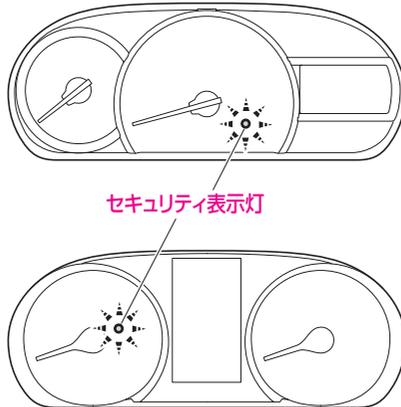
⚠️ 注意

イモビライザー機能を正常に作動させるために

- イモビライザー機能の改造や取り外しをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

盗難警報装置

盗難警報装置は、不正な侵入を検知した場合に、音と光で周囲に異常を知らせる機能です。



知識

盗難警報装置について

- 盗難警報装置は、周囲に異常を知らせる機能です。室内への侵入・盗難を防ぐ機能ではありません。
- ほかの方にお車を貸したときや、盗難警報装置の作動について知らない方が運転するときは、盗難警報装置について十分ご説明ください。
盗難警報装置の作動について知らない方が操作を誤った場合、警報が作動し周辺への迷惑になります。

ドアを施錠する前の確認

- 盗難警報装置の思わぬ作動および盗難を防ぐため以下のことを必ず確認してください。
 - 車内に人が乗っていないか
 - ドアガラスが閉じているか
 - 車内に貴重品などを放置していないか

盗難警報装置のセット方法

1 すべてのドアを閉める

2 次のいずれかの方法でドアを施錠する（セキュリティ表示灯が点灯）

電波式リモコンドアロック装着車

キーレスアクセス装着車

●メインキーのリモコン操作

（電波式リモコンドアロックによる
施錠・解錠→103ページ）

●リクエストスイッチ操作

（リクエストスイッチ操作
→104ページ）

●アクセスキーのリモコン操作

（リモコン操作→105ページ）

3 30秒以上経過すると、自動的にセットされる

（セットされると警戒状態になり、セキュリティ表示灯が点灯から点滅に変わる）

知識

- 上記のセット方法以外で施錠した場合、盗難警報装置はセットされません。
（タイマーロック機能で施錠された場合は、セットされます）
- セキュリティ表示灯が点灯してから約30秒以内に下記の操作をしたときは、盗難警報装置のセットが中断されます。
 - 運転席ドアを解錠したとき
 - ドアを開けたとき
 - 電波式リモコンドアロック装着車で、キーがエンジンスイッチのキー挿入口に差し込まれたとき
 - キーレスアクセス装着車で、プッシュエンジンスイッチを“ON”にしたとき

盗難警報装置のセット解除

下記のいずれかの操作で盗難警報装置のセット（警戒状態）を解除します。

電波式リモコンドアロック装着車

- メインキーのリモコン操作でドアを解錠する
- エンジンスイッチを“ON”にする

キーレスアクセス装着車

- リクエストスイッチ操作で解錠する
- アクセスキーのリモコン操作でドアを解錠する
- プッシュエンジンスイッチを“ON”にする

知識

セキュリティ表示灯について

- イモビライザー機能の表示灯を兼ねているため、盗難警報装置のセットを解除しても、エンジンスイッチを“ACC”にするまで消灯しません。
また、エンジンスイッチを“ACC”から“OFF”にすると点滅します。

盗難警報装置作動

盗難警報装置がセットされた状態で下記の操作以外で解錠し、ドアを開けると盗難警報装置が作動します。

電波式リモコンドアロック装着車

- メインキーのリモコン操作

キーレスアクセス装着車

- リクエストスイッチ操作
- アクセスキーのリモコン操作

盗難警報装置は2段階で作動します。

▼ 1次作動

- セキュリティ表示灯が点滅
- 非常点滅表示灯が10秒間点滅
- 室内ブザーが10秒間断続して鳴る

1次作動の間に警報が解除されなかった場合、2次作動に入ります。

▼ 2次作動

- セキュリティ表示灯が点滅
- 非常点滅表示灯が30秒間点滅
- 室内ブザーが30秒間断続して鳴る
- ホーンが30秒間断続して鳴る

知識

- 盗難警報装置作動中にドアを閉めても、作動は停止しません。
- 盗難警報装置作動後にドアを閉めると、盗難警報装置が再び警戒状態になりますが、施錠はされません。お車を離れる際は確実に施錠してください。

盗難警報装置作動の停止方法

以下のいずれかの操作で警報作動を停止できます。

電波式リモコンドアロック装着車

- メインキーの“LOCK”または“UNLOCK”ボタンを押す
- エンジンスイッチを“ON”の位置にする

キーレスアクセス装着車

- アクセスキーの“LOCK”または“UNLOCK”スイッチを押す
- アクセスキーを携帯してリクエストスイッチを押す
- アクセスキーを携帯して乗車する
- プッシュエンジンスイッチを“ON”にする

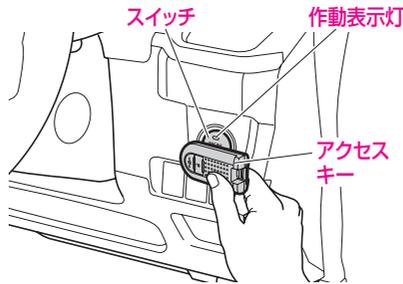
■ アクセスキーが使用できないとき

キーレスアクセス装着車

電池の消耗などにより、アクセスキーが使用できないときは、次の操作で警報作動を停止してください。

▼ 操作方法

- 1 ブレーキペダルをしっかりと踏む
- 2 ペダルを踏んだまま、アクセスキーを図のようにプッシュエンジンスイッチに接触させる



- アクセスキーの中心をスイッチの中心に接触させます。
- 3 キーが認識されて警報が停止する
 - 作動表示灯が点灯します。

📖 知識

電池の消耗などにより、アクセスキーが使用できないときは

- メカニカルキーでドアの施錠、解錠、アクセスキーでプッシュエンジンスイッチの操作を行うことができます。

(アクセスキーが使用できないとき→ 438 ページ)

盗難警報装置作動履歴の確認

盗難警報装置のセット中に警報が作動したことを確認することができます。
(2次作動までした場合のみ)

▼ 確認方法

エンジンスイッチを“ON”にすると、室内ブザーが「ピーッピッ」と鳴ります。

📖 知識

- 作動履歴の確認は、2次作動後、1回のみ行うことができます。

盗難警報装置のメンテナンスについて

盗難警報装置のメンテナンスは不要です。

⚠ 注意

盗難警報装置を正常に作動させるために

- 盗難警報装置の改造や取り外しをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

各部の開閉と各部の調整

車体各部の開閉

キー	84
電波式リモコンドアロック	89
キーレスアクセス	90
ドア	101
リヤゲート	110
パワーウインドゥ	114
給油のしかた	119

車体各部の調整

フロントシート	122
リヤシート	124
ヘッドレスト	127
シートアレンジ	129
ルームミラー	130
ドアミラー	131
チルトステアリング	134

車体各部の開閉

キー

キーはエンジンの始動や停止のほか、ドアの施錠・解錠など車を操作するためにはなくてはならない物です。大切に管理してください。

電波式リモコンドアロック装着車

メインキー



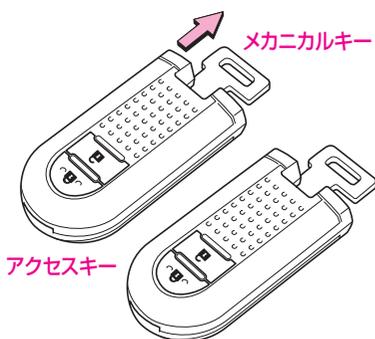
スペアキー



▼ お客様にお渡しするキー

- お車には、メインキー 1 枚とスペアキー 1 枚が付いています。

キーレスアクセス装着車



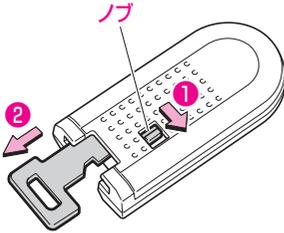
▼ お客様にお渡しするキー

- お車には、アクセスキー（メカニカルキー内蔵）が 2 つ付いています。

知識

- アクセスキーは必ず運転者が携帯し、管理してください。

メカニカルキー



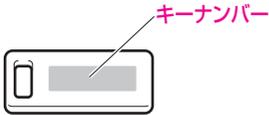
▼ メカニカルキーの取り出しかた

- アクセスキーのノブを①の方向にスライドさせたまま、メカニカルキーを②の方向に引いて取り出します。

知識

- 使用後は元に戻し、必ずアクセスキーと一緒に携帯してください。
アクセスキーが電池の消耗などで使用できなくなったときに必要になります。

キーナンバープレート



キーナンバーは、キーではなくプレートに打刻しています。

- プレートは、お客様以外にキーナンバーがわからないように、車両以外の場所に大切に保管してください。

知識

- スペアキーを作るときにもこのキーナンバーは必要になりますので、車両以外の場所に大切に保管してください。

キーの取扱い

電波式リモコンドアロック装着車

注意

故障を防ぐために

- メインキーには精密な電子部品が組み込まれています。故障の原因となりますので下記のことをお守りください。
 - 直射日光や高温下に放置しない
 - 落とすなどして、強い衝撃や圧力を加えない
 - 水にぬらしたり、ゴミ、ほこりなどが入らないようにする

知識

航空機に乗るときは

- 航空機にメインキーを持ち込む場合は、航空機内で“LOCK”、“UNLOCK”のボタンを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にボタンが押されないように保管してください。ボタンが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

電池の消耗について

- メインキーの電池寿命は、1日10回乗降時で約2年です。
- ボタンを押しても作動しない場合や、著しく作動可能距離が短くなった場合、またはインジケータが点滅しなくなった場合は、電池の消耗が考えられます。早めに電池を交換してください。
(キーの電池交換→401ページ)

スペアキーについて

- 大切に保管しておいてください。

キーのご購入について

- メインキーは4枚まで設定することができます。ご購入方法、ご使用方法についてはスバル販売店にご相談ください。

万一キーを紛失したときは

- キーナンバーをスバル販売店にご連絡いただければ、指定キーを作ることができます。

キーレスアクセス装着車

⚠ 注意

故障を防ぐために

- アクセスキーには精密な電子部品が組み込まれています。故障の原因になりますので、下記のことを守り、取り扱いには注意してください。
 - アクセスキーをズボンなどの後ろポケットに入れない
 - 直射日光や高温下に放置しない
 - 落とすなどして、強い衝撃や圧力を加えない
 - 水にぬらさない
 - 分解をしない
 - 超音波洗浄機などにつけない
 - 磁気を帯びたキーホルダーなどを付けない

📖 知識

- アクセスキーは、人体に影響しない程度の微弱な電波を使用しています。

航空機に乗るときは

- 航空機にアクセスキーを持ち込む場合は、航空機内で“LOCK”、“UNLOCK”のボタンを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にボタンが押されないように保管してください。ボタンが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

アクセスキーが使用できないときは

- 電池の消耗などによりアクセスキーが使用できないときは、メカニカルキーを使用してください。

(アクセスキーが使用できないとき→ 438 ページ)

 **知識**

アクセスキーの電池寿命について

- 1日10回程度の乗降で約2年です。(アクセスキーは車両との通信のために常に受信動作をしているため電池を消費しています)
ただし、アクセスキーのスイッチ操作(ドアの施錠・解錠など)の使用頻度が高い場合、またはアクセスキーの保管状況によって著しく電池寿命が短くなるおそれがあります。
- アクセスキーの電池残量が少なくなると、メーター表示とブザー音でお知らせします。
(キーレスアクセス電池残量警告→97ページ)
- 下記のような強い電波を発するおそれのある機器の近くや車内、または車両の近くにアクセスキーを置かないでください。アクセスキーが常時通信状態になり、電池が著しく消耗します。
 - テレビ
 - オーディオ
 - パソコン
 - ACアダプター
 - 携帯電話、コードレス電話
 - 充電器
 - 電気スタンド
 - 低周波治療器などの医療用電気機器
 - 液晶表示器
 - モーター類
- ボタンを押しても作動しない場合や、著しく作動可能距離が短くなった場合、またはインジケータが点滅しなくなった場合は、電池の消耗が考えられます。早めに電池を交換してください。
(キーの電池交換→401ページ)

キーのご購入について

- アクセスキーは最大4枚まで設定することができます。
ご購入方法、ご使用方法についてはスバル販売店にご相談ください。

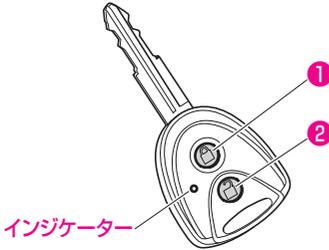
万一キーを紛失したときは

- キーナンバーをスバル販売店にご連絡いただければ、指定キーを作ることができます。

電波式リモコンドアロック

オプション/グレード別装備

メインキーのスイッチを押すことで、ドアの施錠・解錠ができます。



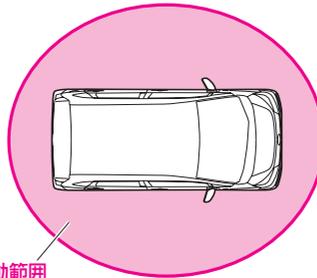
▼ リモコン操作

● スイッチを押すと、以下の操作ができます。

- ① ドアの施錠
- ② ドアの解錠

(ドアの施錠・解錠→ 103 ページ)

作動範囲



作動範囲
車両中心から周囲約3m以内

知識

● 周囲の状況により、作動範囲が変化することがあります。

電波式リモコンドアロックが正常に作動しないおそれのある状況

- 近くに下記のような強い電波を発生する設備があるとき
 - TV 塔
 - 発電所
 - 放送局

キーレスアクセス

オプション/グレード別装備

アクセスキーをポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。

- ドアを施錠・解錠する
- エンジンの始動・モード切りかえをする

また、アクセスキーのスイッチを操作すると、ドアの施錠・解錠操作が行えます。

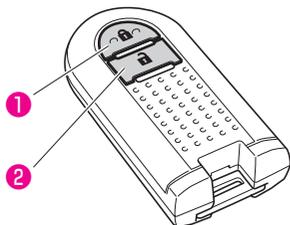
(ドアの施錠・解錠→104 ページ)

(プッシュエンジンスイッチ→241 ページ)

知識

- アクセスキーは必ず運転者が携帯し、管理してください。

アクセスキー



▼ リモコン操作

- スイッチを押すと、以下の操作ができます。

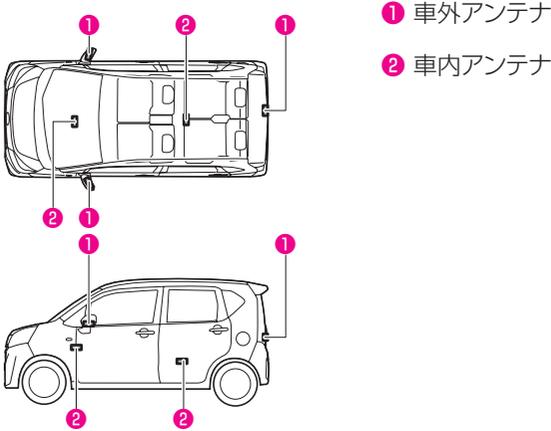
- 1 ドアの施錠
- 2 ドアの解錠

(ドアの施錠・解錠→105 ページ)

アンテナ

車両のアンテナから発せられる電波をアクセスキーが感知することによって、キーレスアクセスが作動します。

▼ アンテナの位置



⚠ 警告

植込み型心臓ペースメーカー、および植込み型除細動器を使用されている方へ

- 車外アンテナ・車内アンテナから約 22cm 以内に近付かないようにしてください。ドア開閉時、各ドアのリクエストスイッチ操作時、エンジン始動時などに車両のアンテナから発せられる電波により、植込み型心臓ペースメーカー、および植込み型除細動器の作動に影響をあたえるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、および植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用されている方は、電波による影響について、医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。
電波により、医療用電気機器の作動に影響をあたえるおそれがあります。

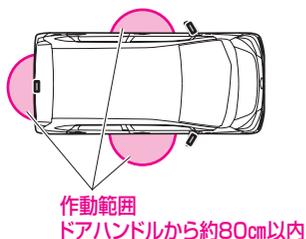
📖 知識

アンテナの電波を停止したいときは

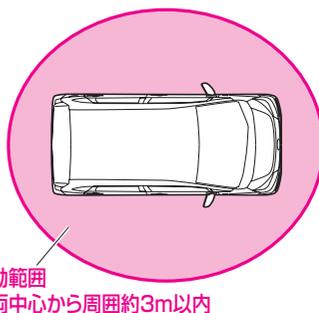
- アンテナから発する電波を停止（キーレスアクセスを停止）させることもできます。詳しくは、最寄りのスバル販売店にご相談ください。
- アンテナから発する電波を停止させたいときは、プッシュエンジンスイッチにアクセスキーを接触させなければエンジンを始動できません。（アクセスキーのリモコン操作は行えます）
(エンジンのかけかた→ 439 ページ)

作動範囲

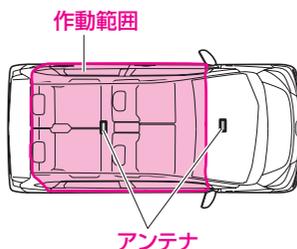
▼ リクエストスイッチ作動



▼ リモコン作動



▼ プッシュエンジンスイッチ作動



知識

- 周囲の状況により、作動範囲が変化することがあります。

リクエストスイッチ作動が正常に作動しないおそれのある状況

- アクセスキーの携帯のしかたにより、リクエストスイッチを押しても作動がされない場合があります。
- 下記のような場合は、アクセスキーが作動範囲にあっても、正常に作動しない場合があります。
 - ドアの施錠・解錠時に、アクセスキーをドアガラスやドアハンドル周辺に近付けすぎたとき
 - 地面の近く、もしくは高い場所にアクセスキーがあるとき

 知識**ブッシュエンジンスイッチ作動が正常に作動しないおそれのある状況**

- インstrumentパネルの上や中（グローブボックス内など）・荷室・ドアポケット・アームレスト内など、電波を感知しない場所があります。
- 車外でもドアやドアハンドルに近付きすぎた場合は、エンジン始動が可能になることがあります。

キーレスアクセスが正常に作動しないおそれのある状況

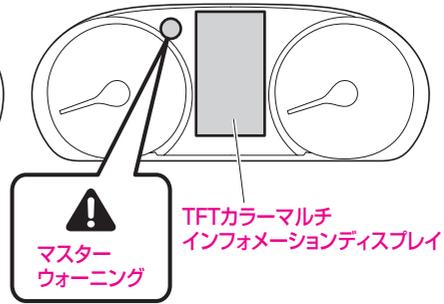
- 近くに下記のような強い電波を発生する設備があるとき
 - TV 塔
 - 発電所
 - 放送局
 - 電光掲示板
 - ガソリンスタンド
 - コインパーキング
- 無線機や携帯電話などの無線通信機器やポータブルオーディオ、または他車のアクセスキーと一緒に携行したとき
- アクセスキー本体が金属製の物と接していたり、覆われたりしているとき
- アクセスキーの電池が消耗しているとき

警告ブザー、メーター表示による警告

キーレスアクセスでは、誤操作や車両の盗難を防ぐために、警告ブザーとメーター表示で警告を行います。



〈標準車〉



〈カスタム仕様車〉

アクセスキー持ち出し警告

▼ 原因

- プッシュエンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときに、いずれかのドアを開けてアクセスキーを車外に持ち出しドアを閉める

▼ 警告音

- 車内で「ピピピピピ」、車外で「ピッピッピッ」と警告ブザーが鳴る

▼ メーター表示

標準車

- キーレスアクセス警告灯が高速点滅する

カスタム仕様車

- TFTカラーマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示される
(警告メッセージ→189ページ)

▼ 対処方法

アクセスキーを携帯して乗車してください。

知識

- ドア開閉をせずにアクセスキーを車外に持ち出したときは、警告は行われません。
- アクセスキーを車外に置いたまま、いずれかのドアを一度開けてから閉めたときも、同様の警告が行われます。

■ エンジンスイッチ切り忘れ警告 ①

▼ 原因

- プッシュエンジンスイッチが“ACC”のときに運転席ドアを開ける

▼ 警告音

- 車内で「ポーン ポーン ポーン …」と警告ブザーが鳴り続ける

▼ 対処方法

プッシュエンジンスイッチを“OFF”にして、ドアを閉めてください。

■ エンジンスイッチ切り忘れ警告 ②

▼ 原因

- プッシュエンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときに、ドアのリクエストスイッチで施錠しようとする

▼ 警告音

- 車外で「ピーツ」と警告ブザーが鳴る

▼ メーター表示

カスタム仕様車

- TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示される
(警告メッセージ→ 189 ページ)

▼ 対処方法

プッシュエンジンスイッチを“OFF”にして、ドアを施錠してください。

■ アクセスキー置き忘れ警告

▼ 原因

- 車内にアクセスキーが放置された状態で、ドアのリクエストスイッチで施錠しようとする

▼ 警告音

- 車外で「ピーツ」と警告ブザーが鳴る

▼ メーター表示

カスタム仕様車

- TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示される
(警告メッセージ→ 189 ページ)

▼ 対処方法

アクセスキーを携帯して、ドアを施錠してください。

半ドア警告

▼ 原因

- いずれかのドアが開いているときに、
 - ドアのリクエストスイッチで施錠しようとする
 - アクセスキーのリモコン操作でドアを施錠しようとする

▼ 対処方法

すべてのドアを閉めてから施錠してください。

▼ 警告音

- 車外で「ピーッ」と警告ブザーが鳴る

アクセスキー閉じ込み警告

▼ 原因

- 車内にアクセスキーが放置された状態で、車内の運転席ドアのロックレバーを施錠方向に押し込み、運転席ドアハンドルを引いたままドアを閉めた
- プッシュエンジンスイッチが“OFF”のとき、すべてのドアが施錠されている状態で、運転席以外のドアロックレバーを車内から解錠し、ドアを開けて閉めた

▼ 対処方法

アクセスキーを携帯して、ドアを施錠してください。

▼ 警告音

- 車外で「ピーッ」と警告ブザーが鳴り、同時にすべてのドアが解錠する

▼ メーター表示

カスタム仕様車

- TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示される
(警告メッセージ→189ページ)

■ キーレスアクセス電池残量警告

▼ 原因

- アクセスキーの電池切れが近いときに、プッシュエンジンスイッチを“OFF”にした

▼ 警告音

- 車内で「ピッピッピッ」と警告ブザーが鳴る

▼ メーター表示

標準車

- キーレスアクセス警告灯が点滅する

カスタム仕様車

- TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示される
(警告メッセージ→189 ページ)

▼ 対処方法

新しい電池に交換してください。

(キーの電池交換→401 ページ)

📖 知識

- アクセスキーの電池切れが近い状態を継続すると、プッシュエンジンスイッチを“OFF”から“ACC”、または“ON”にしたときも警告します。

■ ハンドルロック未完了警告

▼ 原因

- 運転席ドアが開いているときに、プッシュエンジンスイッチを“ON”から“OFF”にする

▼ 警告音

- 車内で「ポーン ポーン ポーン…」と警告ブザーが鳴り続ける

▼ 対処方法

運転席ドアを閉めてください。

キー無し警告

▼ 原因

- アクセスキーを携帯せずにプッシュエンジンスイッチを押した

▼ メーター表示

標準車

- キーレスアクセス警告灯が点滅する

カスタム仕様車

- TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示される
(警告メッセージ→ 189 ページ)

▼ 対処方法

- アクセスキーを携帯してプッシュエンジンスイッチを押してください。
- アクセスキーを携帯してプッシュエンジンスイッチを押しても、キーレスアクセス警告灯が点滅する場合は、アクセスキーの電池が切れています。プッシュエンジンスイッチにアクセスキーを接触させて、スイッチを押してください。

(アクセスキーが使用できないとき→ 438 ページ)

キーレスアクセス異常警告

▼ 原因

- キーレスアクセスに異常がある

▼ メーター表示

標準車

- キーレスアクセス警告灯が点灯する

カスタム仕様車

- TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示される
(警告メッセージ→ 189 ページ)
- マスターウォーニングが点灯する

▼ 対処方法

ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

メーター表示

キーレスアクセス警告灯

標準車



- プッシュエンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- プッシュエンジンスイッチに関係なく、キーレスアクセスに異常があると点灯します。
- 下記の場合に点滅します。
 - アクセスキーを携帯せずにプッシュエンジンスイッチを押したとき
 - プッシュエンジンスイッチが“ACC”または“ON”で、いずれかのドアを開けてアクセスキーを車外に持ち出しドアを閉めたとき
 - アクセスキーの電池切れに近い状態で、プッシュエンジンスイッチを“OFF”にしたとき（電池切れに近い状態を継続すると、プッシュエンジンスイッチを“OFF”から“ACC”、または“ON”にしたときも点滅します。）

（警告ブザー、メーター表示による警告
→ 94 ページ）

⚠ 注意

点灯した場合

- ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

マスターウォーニング

カスタム仕様車



- プッシュエンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- プッシュエンジンスイッチに関係なく、キーレスアクセス異常があると点灯します。

⚠ 注意

点灯した場合

- 同時に TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されます。警告メッセージの表示に従って処置してください。

(警告メッセージ→ 189 ページ)

📖 知識

- 下記の場合にも点灯します。
 - エンジンオイルの圧力が低下したとき
 - 充電系統に異常があるとき
 - スマートアシストIIに異常があるとき
 - スマートアシストIIが作動したとき *
 - 車両通信システムに異常があるとき

(警告灯 (マスターウォーニング) → 148 ページ)

ドア

▼ 操作を行う前に

⚠ 警告

- ドアの開閉は確実に行ってください。ドアが確実に閉まっていないと、走行中にドアが開き、思わぬ事故につながったり、運転者や同乗者、または荷物が車から投げ出されるおそれがあります。
- 走行中は絶対にドアを開けないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ドアを開けるときは、周囲の安全を十分確認してください。いきなり開けると後続車にぶつかるおそれがあり危険です。風が強いときは特に注意してドアを開けてください。
- 車から離れるときは、必ずエンジンを止め施錠してください。無人で車が動き出したり、車両盗難のおそれがあります。
- お子さまに各ドアの開閉をさせたり、いたずらをさせないでください。思わぬ事故の原因となるおそれがあります。
- ドアを閉めるとき指などを挟まないように注意してください。

📖 知識

車を離れるときは

- ドアハンドルを引き、確実にドアが施錠されていることを確認してください。
- 貴重品などを車の中に置いたままにしないでください。

車外からキーを使用した施錠・解錠

電波式リモコンドアロック装着車

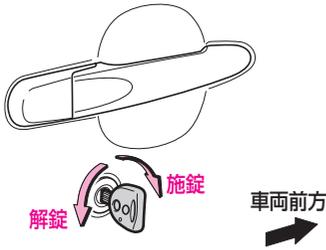
キー操作

知識

盗難警報装置がセットされている場合

- キーを差して解錠しドアを開けると、盗難警報装置が作動します。
警報が作動した場合は、ただちに「盗難警報装置作動の停止方法」にしたがって、警報を停止させてください。

(盗難警報装置作動の停止方法→79 ページ)



操作方法

キーを確実に差し込み、

施錠：車両前方に回す

解錠：車両後方に回す

施錠・または解錠すると、すべてのドアが施錠・解錠されます。

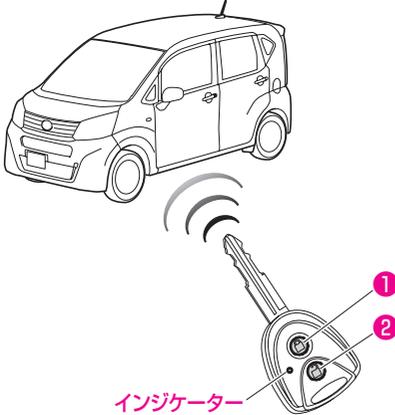
知識

- キーは挿入口に確実に差し込んでください。
- キー挿入口は助手席側ドアには設定していません。

電波式リモコンドアロックによる施錠・解錠

電波式リモコンドアロック装着車

リモコン操作



▼ 操作方法

- ① スイッチを押すと、すべてのドアが施錠される
- ② スイッチを押すと、すべてのドアが解錠される

知識

ドアの施錠・解錠ができない状況

- キーがエンジンスイッチのキー挿入口に差し込まれているとき

ドアの施錠ができない状況

- いずれかのドアが開いているとき

ドアのタイマーロック機能について

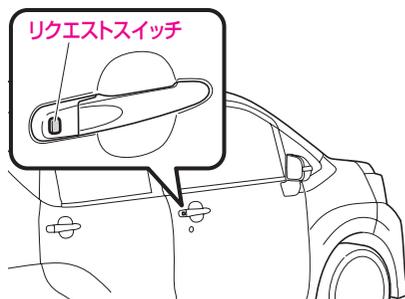
- ドアが解錠されたあとにドアの開閉を行わなかった場合は、約 30 秒後に自動ですべてのドアが施錠されます。

キーレスアクセスによる施錠・解錠

キーレスアクセス装着車

リクエストスイッチ操作

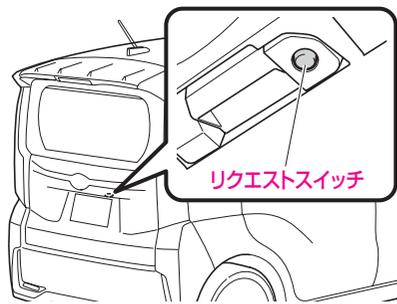
フロントドア



▼ 操作方法

- 1 アクセスキーを携帯する
- 2 ドアのリクエストスイッチを押すと、すべてのドアが施錠・解錠される

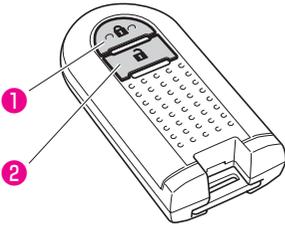
リヤゲート



⚠ 注意

- フロントドアおよびリヤゲートのリクエストスイッチは強い力で押したり、鋭利なもので押さないでください。スイッチが破損するおそれがあります。

リモコン操作



▼ 操作方法

- ① スイッチを押すと、すべてのドアが施錠される
- ② スイッチを押すと、すべてのドアが解錠される

知識

ドアの施錠・解錠ができない状況

- プッシュエンジンスイッチが“ACC”、または“ON”のとき

ドアの施錠ができない状況

- いずれかのドアが開いているとき

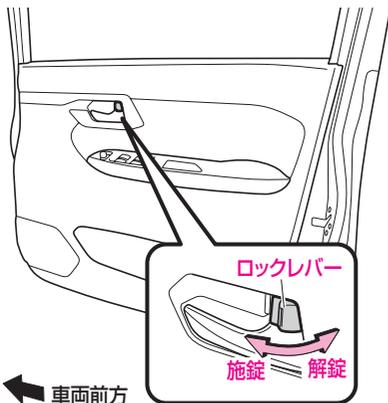
リクエストスイッチの取扱いについて

- リクエストスイッチは確実に押して、施錠・解錠したことを確認してください。スイッチを早押しした場合、施錠・解錠されないことがあります。
- アクセスキーを携帯している人が作動範囲にいるときは、携帯していない人でも、同じ作動範囲のリクエストスイッチでの施錠・解錠が可能です。

ドアのタイマーロック機能について

- ドアが解錠されたあとにドアの開閉を行わなかった場合は、約 30 秒後に自動ですべてのドアが施錠されます。

車内からの施錠・解錠



▼ 操作方法

施錠：ロックレバーを車両前方に押し込む

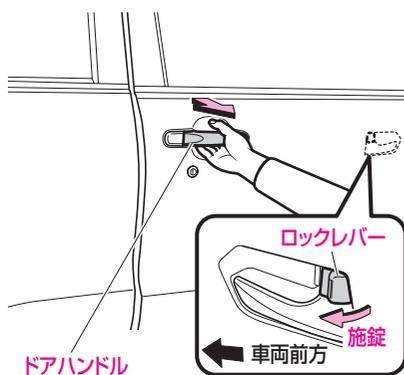
解錠：ロックレバーを車両後方に引く

車外からキーを使用しない施錠

知識

- キーを使用せずにドアを施錠するときは、キーを手に持っていることを確認してからドアを閉めてください。キーを閉じ込めてしまうおそれがあります。

運転席ドア



操作方法

- 1 ロックレバーを車両前方に押し込む
- 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉めると、施錠される

助手席ドア、リヤドア

操作方法

- 1 ロックレバーを車両前方に押し込む
- 2 ドアを閉めると、施錠される

ドアの施錠・解錠の合図（アンサーバック）

電波式リモコンドアロック装着車

非常点滅表示灯の点滅でお知らせします。

施錠：1回

解錠：2回

キーレスアクセス装着車

ブザーと非常点滅表示灯の点滅でお知らせします。

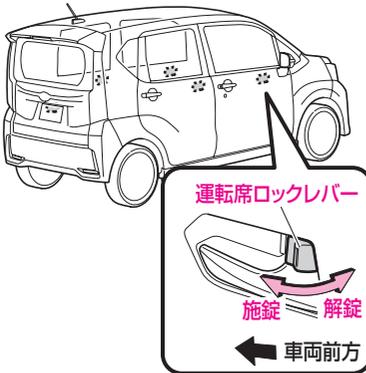
施錠：1回

解錠：2回

知識

- ドアの施錠・解錠と連動して、室内照明（スイッチが“DOOR”のとき）は点灯・消灯します。（ドア連動機能→340ページ）
- アンサーバックの設定を変更することができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

集中ドアロック



運転席ドアを施錠・解錠すると、連動してすべてのドアが施錠・解錠します。

キー閉じ込み防止機能

キーを車内に残したまま、施錠することを防ぐ機能です。

以下の状態で作動します。

電波式リモコンドアロック装着車

キーがエンジンスイッチに差し込まれているとき

キーレスアクセス装着車

プッシュエンジンスイッチが“ACC”か“ON”のとき、または車内にアクセスキーがあるとき

▼ キー閉じ込み防止機能が作動するとき

以下の操作をするとキー閉じ込み防止機能が作動して、すべてのドアが解錠されます。

- 車内の運転席ドアのドアロックレバーを施錠方向に押し込み、運転席ドアハンドルを引いたままドアを閉めたとき
- すべてのドアが施錠されている状態で、運転席以外のドアロックレバーを車内から解錠し、ドアを開けて閉めたとき（エンジンスイッチが“ON”のときは作動しません）

知識

- 必ずキーを携帯していることを確認してから施錠してください。

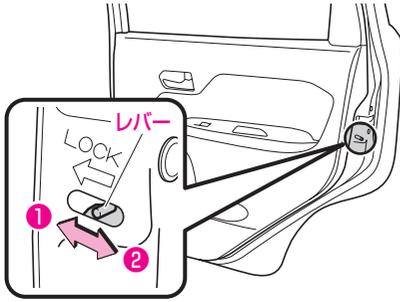
閉じ込み防止機能が作動しないおそれのある状況

キーレスアクセス装着車

- アクセスキーの状態（電池の消耗、車内での位置等）や周囲の電波状況により、施錠されることがあります。

チャイルドブローフ

お子さまの安全のため、チャイルドブローフを左右リヤドアに設けています。



▼ 操作方法

レバーを“施錠”側にしておくと車内のドアハンドルを引いてもドアを開かなくすることができます。

- ① 施錠
- ② 解錠

ドアを開けるときは、車外のドアハンドルで操作します。

⚠ 注意

- お子さまをリヤシートに乗せるときは必ずチャイルドブローフを使用してください。

リヤゲート

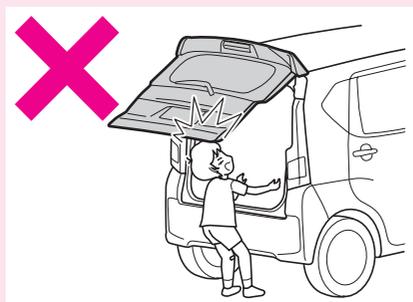
警告

走行するときは

- 走行中はリヤゲートを閉じてください。開けたまま走行すると、リヤゲートが車外のものに当たったり、荷物が道路に落下したりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。
- 走行前はリヤゲートを軽くゆすり、リヤゲートが確実に閉まっていることを確認してください。走行中に突然ドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 荷室には絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

お子さまを乗せているときは

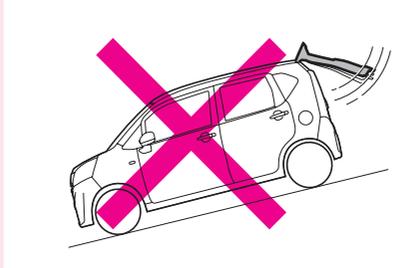
- お子さまにはリヤゲートの開閉をさせないでください。不意にリヤゲートが動いたり、閉めるときに頭をぶついたり、首や手を挟んだりするおそれがあります。



- 荷室でお子さまを遊ばせないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病などになるおそれがあります。

警告**リヤゲートを開閉するときは**

- リヤゲートの開閉や荷物の出し入れをするときは、下記のことをお守りください。リヤゲートで頭をぶついたり、首や手を挟むなど、思わぬけがをするおそれがあり危険です。
 - リヤゲート周辺の安全を十分確認してください。
 - 周りに人がいるときは、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
 - リヤゲートのふちやその周辺に手をかけずに開閉してください。
 - リヤゲートは必ず全開で静止させてください。開け方が不十分だと、リヤゲートが不意に閉まるおそれがあります。
 - リヤゲートを閉めるときは自分や周りの人の指などを挟まないよう、十分に注意してください。
- 強風時の開閉には注意してください。風にあおられて、リヤゲートが勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 傾斜地での開閉には注意してください。平坦な場所よりもリヤゲートが開閉しにくかったり、急にリヤゲートが閉じたり開いたりするおそれがあります。リヤゲートを開けたときは必ず全開で静止していることを確認してください。

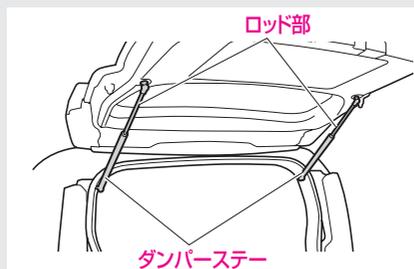


- リヤゲートを開ける前に、リヤゲートに貼りついた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでリヤゲートが閉まるおそれがあります。
- エンジンかけたまま荷物の出し入れをするときは、排気管の後方に立たないでください。排気熱でやけどをするおそれがあります。
- リヤゲートを支えているダンパーステーを持ってリヤゲートを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。手を挟んだり、ステーが破損したりするおそれがあります。
- リヤゲートにスバル指定用品以外のアクセサリを取り付けしないでください。リヤゲートの重量が極端に重くなると、開けた時にステーが支えきれなくなり、不意にリヤゲートが閉まるおそれがあります。

⚠ 注意

ダンパーステーについて

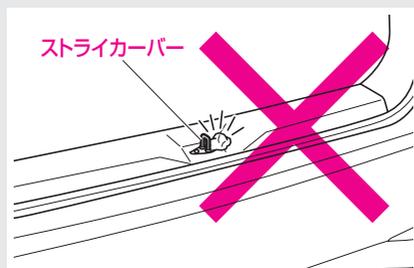
- リヤゲートには、リヤゲートを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ステーの破損や作動不良を防ぐため、下記のことをお守りください。
- ステーに手をかけたり、横方向の力を加えたりしないでください。
- ビニール片、ステッカー、粘着材などの異物をロッド部（メッキの棒部）に付着させないでください。



- 繊維などの付着を防ぐため、ロッド部を軍手などで触らないでください。

ストライカーバーについて

- リヤゲートを閉めるときはストライカーバーに異物が卡み込まないようにしてください。バーが破損し、リヤゲートが閉まらなくなるおそれがあります。



リヤゲートの施錠／解錠

●電波式リモコンドアロック

(電波式リモコンドアロックによる施錠・解錠→89ページ)

●キーレスアクセス

(キーレスアクセスによる施錠・解錠→90ページ)

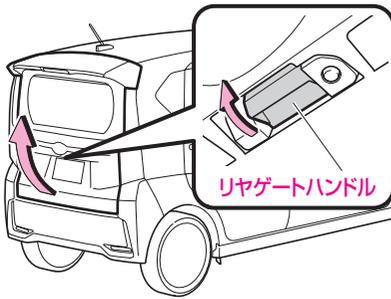
●キー

(車外からキーを使用した施錠・解錠→102ページ)

●集中ドアロック

(集中ドアロック→107ページ)

リヤゲートを開けるときは



リヤゲートハンドルを引いて、リヤゲートをゆっくりといっぱいまで持ち上げる

リヤゲートを閉めるときは



- 1 リヤゲートインナーハンドルを持ってリヤゲートを途中までゆっくりと下げる
- 2 ハンドルから手を離して、リヤゲートを上から手で押さえつけるように閉める
- 3 半ドアでないことを確認する

⚠ 注意

- リヤゲートインナーハンドルで直接リヤゲートを閉めないでください。手や腕を挟み、けがをされるおそれがあります。リヤゲートは、必ず外から押して閉めてください。

パワーウィンドウ

警告

けがや事故を防ぐために

- パワーウィンドウは大変強い力で開閉しますので、開閉するときは、ほかの人の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないよう注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- お子さまにパワーウィンドウの操作をさせないでください。開閉するとき、手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。お子さまを乗せているときは、ロックスイッチを“OFF”にしてください。

注意

故障を防ぐために

- 以下のことをお守りください。お守りいただかないと、故障の原因となります。
 - 運転席スイッチとほかのスイッチを同時に逆方向へ動かさない
 - ドアガラスを完全に開閉した状態でスイッチを押し続けない
 - ガラスが凍りついて固着したような状態でスイッチの“開”または“閉”を連続操作しない

知識

- エンジンスイッチを“ON”にすると、スイッチのマークが点灯します。

バッテリーあがりを防ぐために

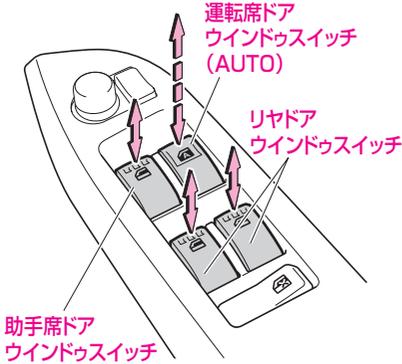
- パワーウィンドウの開閉はなるべくエンジン回転中に行ってください。

パワーウィンドウモーターの過熱保護機能について

- パワーウィンドウモーターには、過熱保護機能を内蔵しています。パワーウィンドウモーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、過熱保護機能が作動し一時的にパワーウィンドウが停止することがあります。数十秒経過すると、通常どおり使用できるようになります。

運転席ドアスイッチ

エンジンスイッチが“ON”のとき、スイッチでドアガラスを開閉できます。



▼ 開きかた

- スイッチを軽く押し下げる

▼ 閉じかた

- スイッチを軽く引き上げる

運転席ドアウィンドウスイッチ (AUTO) 操作

▼ 自動全開

- スイッチを「カチッ」と音がするまで押し下げる

▼ 自動全閉

- スイッチを「カチッ」と音がするまで引き上げる

▼ 途中で止めるときは

- スイッチを軽く逆方向に操作する

ウインドウ反転機構 (運転席)

運転席ドアガラスを (AUTO) 操作で閉めるときに、窓枠とドアガラスの間に異物の挟み込みを感知すると、ドアガラスの上昇を停止し、自動的に下降します。

知識

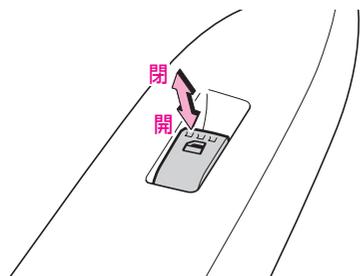
- 特に小さな物を挟み込んだとき、ウインドウ反転機構が作動しないことがあります。
- 環境や走行条件により、異物を挟み込んだときと同じ衝撃がドアガラスに加わると、ウインドウ反転機構が作動することがあります。

エンジンスイッチ“OFF”後作動機能

エンジンスイッチを“OFF”または“ACC”にしたあとでも、約 40 秒間は運転席ドアガラスを開閉できます。

助手席ドア、リヤドアスイッチ

エンジンスイッチが“ON” のとき、スイッチで助手席ドアガラス・リヤドアガラスを開閉できます。



▼ 開きかた

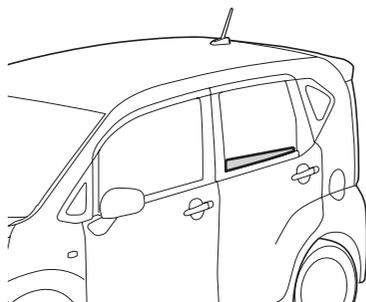
- スイッチを軽く押し下げる

▼ 閉じかた

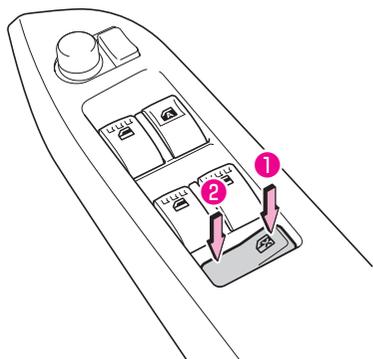
- スイッチを軽く引き上げる

知識

- 左右のリヤドアガラスは全開になりません。



ロックスイッチ



スイッチの右側(①)を押すと“OFF”になり、運転席ウィンドウガラス以外は操作できなくなります。

スイッチの左側(②)を押すと解除されます。

知識

- スイッチを押して“OFF”にすると、助手席ドアスイッチ・リヤドアスイッチのマークも消灯します。

パワーウィンドウの取扱い

運転席ドアガラスが全閉しないとき

ウィンドウ反転機構が異常に作動してしまい、運転席ドアガラスを全閉できないときは、運転席ドアウィンドウスイッチで、下記の操作を行ってください。

- 1 車を停止し、エンジンスイッチを“ON”にする
 - 2 運転席ドアウィンドウスイッチを「カチッ」と音がするまで上に引き（自動全閉位置）、引き続けたままドアガラスを全閉にする
 - 3 全閉後スイッチから手を離さず、さらに約6秒間スイッチを上を引き続ける
- 上記の操作を行っても運転席ドアガラスが全閉しない場合は、スバル販売店で点検を受けてください。

パワーウィンドウの初期設定

バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断たれたときは、パワーウィンドウの初期設定をしてください。

- 1 エンジンスイッチを“ON”にする
 - 2 運転席ドアウィンドウスイッチを下に押し続け、全開にする
 - 3 スイッチを「カチッ」と音がするまで上に引き（自動全閉位置）、引き続けたままドアガラスを全閉にする
 - 4 全閉後スイッチから手を離さず、さらに約2秒間スイッチを上を引き続ける
- 操作中、スイッチから手を離れたときは、もう一度はじめからやり直してください。

知識

- 初期設定しないと、下記の運転席ドアガラスの機能が作動しません。
 - 自動開閉機能
 - ウィンドウ反転機構
 - エンジンスイッチ“OFF”後作動機能

給油のしかた

▼ 給油をする前に

⚠ 警告

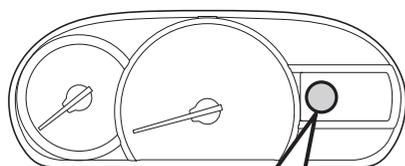
- 燃料は引火しやすいため、下記のことを守らないと火災につながり、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - エンジンは必ず止めてください。
 - 車のドア、窓は閉めてください。
 - タバコを吸うなど、火気を近付けないでください。
 - フューエルキャップを開ける前に、必ず車体または給油機などの金属部分に触れて、身体の静電気除去を行ってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花が引火するなどして、やけどのおそれがあります。
 - フューエルキャップを開けるなどの給油操作は、必ず静電気除去を行った方お一人で行ってください。
 - 給油中に再び車内のシートに触れたり、座ったり、また人や物に触れると再帯電する場合があります。このようなときは再び給油機などの金属部分に触れて静電気除去を行ってください。
 - フューエルキャップを開ける際は、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。気温が高いときなどは燃料タンク内の圧力が高くなり、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。
 - フューエルキャップを少しゆるめた時に「シュー」という音がする場合は、それ以上開けずに、その音が止まるのを確認してからゆっくりと開けてください。
 - 給油中に燃料がこぼれた場合はただちに給油を止め、こぼれた燃料を布きれなどでふき取ってください。
 - こぼれた燃料が車の塗装面に付着した場合は水洗いをおすすめします。付着したままで放置すると、塗装面が劣化するおそれがあります。
 - 給油口にほかの人を近付けないでください。
 - 給油するときは、給油口にノズルを確実に挿入してください。また、オートストップ作動後の継ぎ足し給油は行わないでください。給油口から燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
 - 給油機によっては、早期にオートストップが作動して正常に給油できない場合があります。ガソリンスタンドの係員を呼んで指示に従ってください。
 - 給油終了後、フューエルキャップを閉めるときは「カチッ」という音が一度するまで右に回し、確実に閉まっていることを確認してください。
 - スバル指定フューエルキャップ以外は使用しないでください。燃料漏れなどを起こすおそれがあり危険です。
 - その他ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。
- 燃料には、人体に有害な発ガン性物質を含んでいる物もありますので、燃料の気化ガスを吸わないようにご注意ください。

⚠ 注意

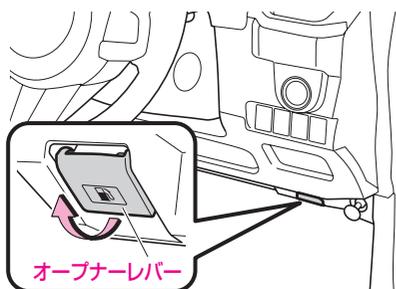
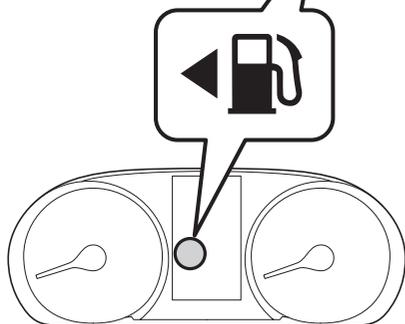
- 指定燃料は無鉛レギュラーガソリンです。
- 給油時に、指定されている燃料であることを確認してください。
- 指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール系燃料*、軽油、灯油など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングや出力の低下などが発生する場合があります。また、そのまま利用していると、エンジンや燃料系部品を損傷するおそれがあります。

フューエルリッドの開閉

▼ フューエルリッドの位置



メーター内にフューエルリッドの車両取り付け方向を示しています。



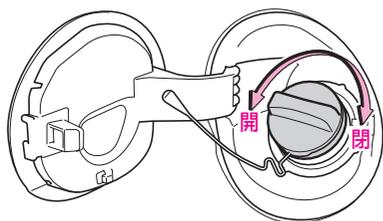
▼ 開けかた

インストルメントパネルの右下にあるオープナーレバーを引き上げる

▼ 閉めかた

リッドを押して閉める

フューエルキャップの開閉



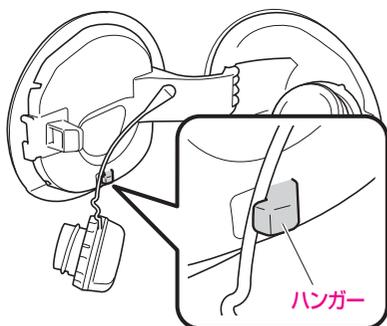
▼ 開けかた

左に回す

▼ 閉めかた

「カチッ」という音が一度するまで、右に回す

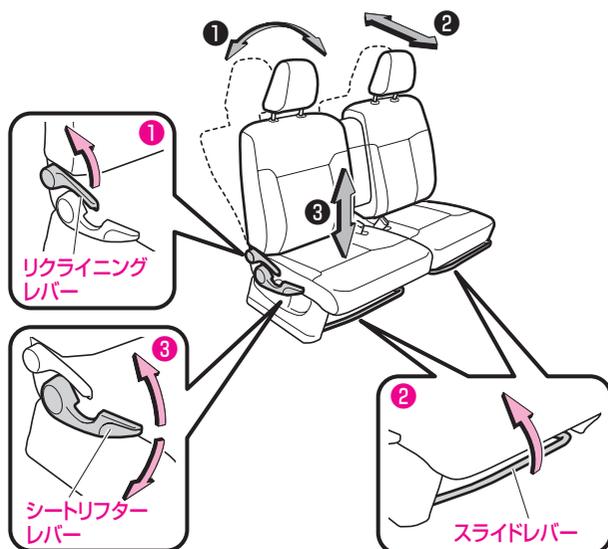
▼ 給油するときは



外したフューエルキャップをフューエルリッド裏面のハンガーにかけることができます。

車体各部の調整

フロントシート



① リクライニング操作

- レバーを引き上げながら背当て角度を調整します。

② スライド操作

- レバーを引き上げながら、前後にシートをスライドします。

③ 運転席シートリフター操作

- レバーを引き上げるごとにシート全体が上昇します。
- レバーを押し下げるごとにシート全体が下降します。

警告

- シートの調整は必ず走行前に行い、調整後はシートを前後に軽くゆすり、確実に固定されたことを確認してください。シートが固定されていないとシートが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

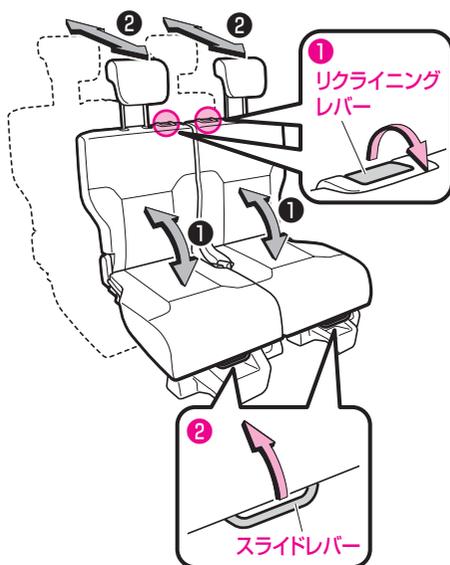
注意**シートを調整するときは**

- 次のことを守ってください。
守らないと、けがをしたり、シートが破損したりするおそれがあります。
 - 手足を挟んだり、体にあたらないように十分注意する
 - シートの下や動いている部分に手足を近付けない
 - 同乗者や物に当てない

背当てを調整するときは

- リクライニングレバーを引き上げるときは背当てにあまり力をかけないでください。背当てに強い力がかかっていると急に背当てが倒れ、けがをするおそれがあります。
- 背当てが急に戻るおそれがありますので、必ず背当てを手で押さえながら操作してください。

リヤシート



① リクライニング操作

- レバーを引き上げながら背当て角度を調整します。

② スライド操作

- レバーを引き上げながら、前後にシートをスライドします。

⚠ 注意

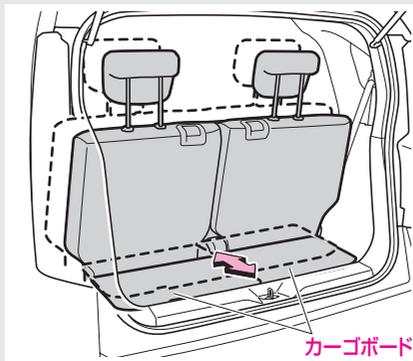
- 荷室には人を乗せないでください。人が乗る構造になっていないため、急ブレーキ時などに思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 荷物はフロントシートの背当てより高く積まないでください。後方視界のさまたげになるだけでなく、急ブレーキ時などに前方に荷物が投げ出されるおそれがあります。
- シートの調整は必ず走行前に行い、調整後はシートを前後に軽くゆすり、確実に固定されたことを確認してください。シートが固定されていないとシートが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

背当てを調整するときは

- 背当てにあまり力をかけないでください。背当てに強い力がかかっていると急に背当てが倒れ、けがをするおそれがあります。

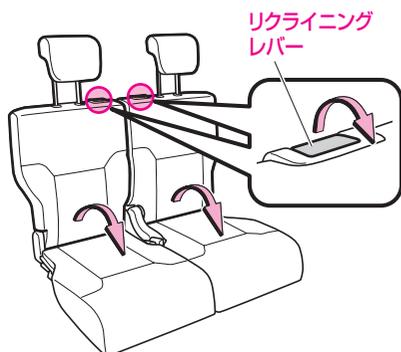
⚠ 注意**シートをスライドするときは**

- カーゴボードはリヤシートと連動して動きます。リヤシートのスライド調整をするときは、下記のことにご注意してください。
- 荷室で作業している人が、手を挟むおそれがあるので注意してください。
- カーゴボードに置いた荷物が倒れるおそれがあるので注意してください。



前倒しのしかた

リヤシートを前倒しすることで荷室を広くすることができます。



▼ 操作方法

リクライニングレバーを引きながら、背当てを前方に倒す

▼ 元に戻すときは

背当てを起こす

⚠ 警告

背当てを前倒しするとき

- 走行中はシートの操作を行わないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

- シートを操作するとき、または元に戻すときは、手や足などを挟まないように注意してください。
- 倒した背当ての上、または荷室に人を乗せて走行しないでください。急ブレーキ時など体が固定されず危険です。
- 倒した背当ての上に荷物などを長時間載せるときは、ヘッドレストを上げた状態にしてください。シートクッションが型くずれする場合があります。

背当てをもとの位置に戻したあとは

- 背当てが確実に固定されたことを確認してください。背当てが固定されていないと、走行中に背当てが動き思わぬけがをするおそれがあります。

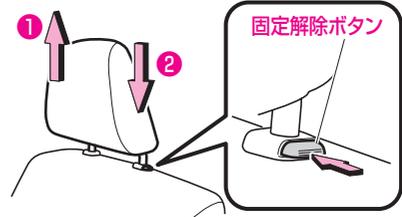
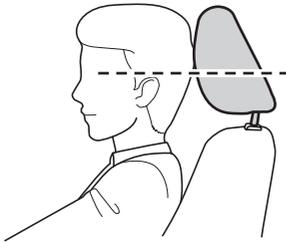
📖 知識

- 倒した背当ての上に荷物などを載せたとき、ロック機構が作動して背当てが固定される場合があります。ロックを解除するときは、背当てを下方向に押しながら、リクライニングレバーを引いてください。

ヘッドレスト

フロントヘッドレスト

ヘッドレスト中央の高さが耳の後方になるようにヘッドレストの高さを調整します。



▼ 上下調整

① 上げる

② 下げる

- 下げるときは、固定解除ボタンを押しながら操作します。

▼ 取り外すときは

固定解除ボタンを押しながらヘッドレストを引き抜きます。

⚠ 警告

- ヘッドレストを外した状態で走行しないでください。衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。走行前に必ず取り付け、ヘッドレスト中央の高さが耳の後方になるように高さを調整してください。
- ヘッドレストを前後逆に取り付けしないでください。衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

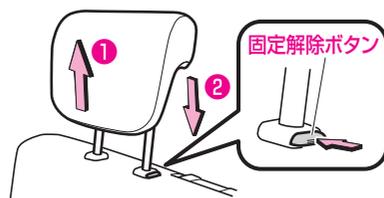
📖 知識

ヘッドレストを調整したあとは

- ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認してください。

リヤヘッドレスト

使用するときには、常に上げた位置にしてください。



▼ 上下調整

① 上げる

② 下げる

- 下げるときは、固定解除ボタンを押しながら操作します。

▼ 取り外すときは

固定解除ボタンを押しながらヘッドレストを引き抜きます。

⚠ 警告

- リヤシートに人を乗せるときは、ヘッドレストを外したまま、または下げた状態のまま走行しないでください。衝突時などに、首に大きな衝撃が加わり、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッドレストは必ず上げた状態で使用してください。
- ヘッドレストを前後逆に取り付けしないでください。衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

📖 知識

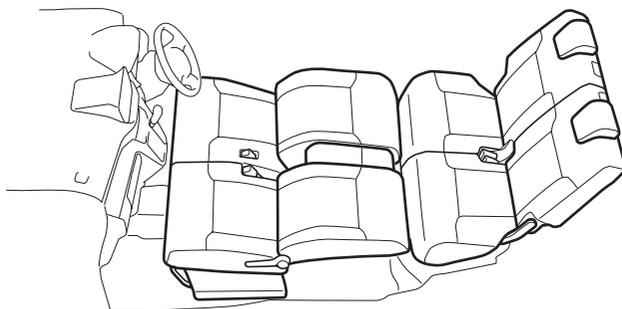
ヘッドレストを調整したあとは

- ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認してください。

シートアレンジ

福祉車以外

ソフトフラットシート



▼ 操作方法

- 1 リヤシートを後方いっぱいまでスライドさせる
- 2 リヤシートの背当てを倒す
- 3 フロントシートのヘッドレストを外す
- 4 フロントシートを前方いっぱいまでスライドさせる
- 5 フロントシートの背当てを後方いっぱいまで倒す

▼ 元に戻すときは

逆の手順で操作します。

⚠ 警告

- 走行中はシートの操作を行わないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

ソフトフラットシートのはきは

- 人を乗せたまま走行しないでください。急ブレーキ時など体が固定されず危険です。
- シートの上を動き回ったりしないでください。
- シートの上を移動するときは、足を踏み外すおそれがあり危険です。シートの中央を踏んでゆっくり移動してください。
- 安全な場所に車を止めて休息するときに使用してください。

ルームミラー

角度調整のしかた



ルームミラー全体を持って、角度を調整する

⚠ 注意

- 調整は必ず走行前に行ってください。

ドアミラー

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときにミラーの角度調整と格納することができます。

⚠ 注意

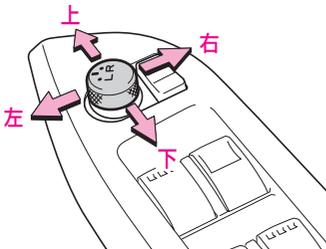
- 調整は必ず走行前に行ってください。
- ミラーを格納したまま走行しないでください。
- ミラーの操作を行う際は、ドアとミラーの間に手を挟まないように注意してください。

鏡面の角度調整のしかた

1 ノブを調整したい側にまわす



2 ノブを動かして、ミラーの角度を調整する

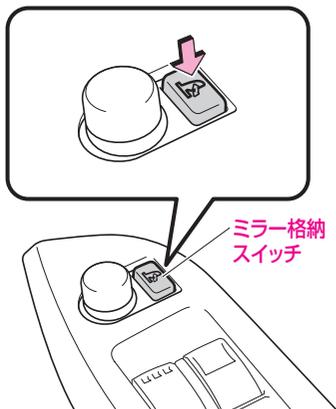


📖 知識

- 調整するとき以外は、調整ノブを中立（中央）の位置に合わせておいてください。
- 中立（中央）の位置にすると調整操作ができません。

格納のしかた

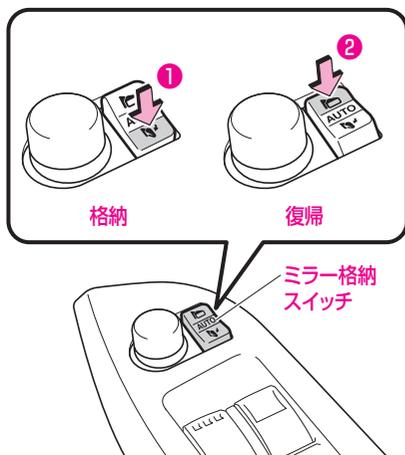
電波式リモコンドアロック装着車



ミラー格納スイッチを押して格納する

- スイッチをもう一度押すと復帰します。

キーレスアクセス装着車



ミラー格納スイッチの (1) を押して格納する

- (2) を押すと復帰します。

オート格納式ドアミラー（キーレスアクセス連動）

キーレスアクセス装着車

キーレスアクセスによるドアの施錠に連動して、ドアミラーが自動的に格納します。



▼ 格納のしかた

- 1 ミラー格納スイッチを“AUTO”（中立）の位置にする
- 2 リクエストスイッチ操作、またはアクセスキーのリモコン操作でドアを施錠する

▼ 復帰のしかた

プッシュエンジンスイッチを“ACC”または“ON”にする

⚠ 注意

- ミラーを復帰するときは、ドアミラー周辺に障害物がないことを確認してください。ドアミラーが当たり、破損するおそれがあります。

📖 知識

- ドアミラーを自動で格納（または復帰）させたくないときは、ミラー格納スイッチを復帰側（または格納側）の位置にしてください。
- プッシュエンジンスイッチを“ON”にしたときのみ、ドアミラーを復帰するようにすることができます。（ミラー格納スイッチの操作も、プッシュエンジンスイッチを“ON”にしたときのみ可能になります）スバル販売店にご相談ください。

ヒータードアミラー

オプション/グレード別装備

雨天時など、ドアミラーが曇ったときに使用します。

リヤウインドウデフォグスイッチを押すことで、ドアミラーが暖められ曇りが取れます。

（リヤウインドウデフォグスイッチ→335ページ）

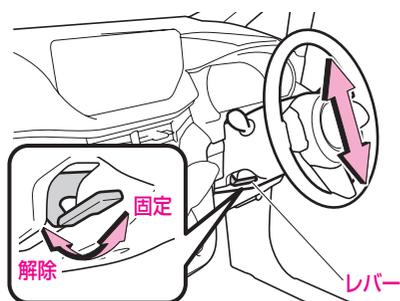
チルトステアリング

ハンドルの位置を運転しやすいように調整できます。

警告

- 走行中はハンドル位置の調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。
- ハンドル位置の調整をしたあとは、確実に固定されていることを確認してください。固定が不十分だとハンドル位置が突然変わり、思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

調整のしかた



- 1 レバーを押し下げる
- 2 ハンドルを上下に動かし適切な位置に調整する
- 3 レバーを引き上げ固定する

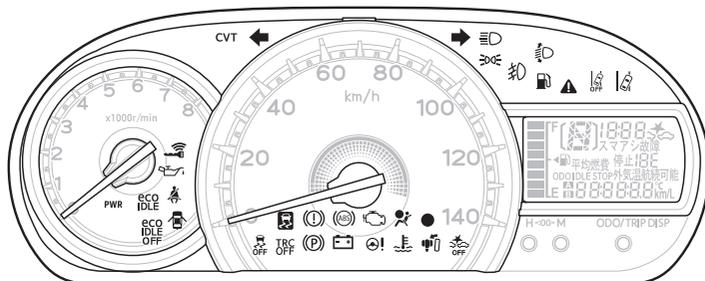
計器類とスイッチ

警告灯、表示灯	
警告灯	136
表示灯	149
メーターのはたらき	
メーター	156
TFT カラーマルチ インフォメーション ディスプレイ	168
スイッチの使いかた	
ライティングスイッチ	218
光軸調整ダイヤル	222
フォグランプスイッチ	223
ワイパー・ウォッシャー スイッチ	223
ホーンスイッチ	226
方向指示レバー	226
非常点滅表示灯スイッチ	227

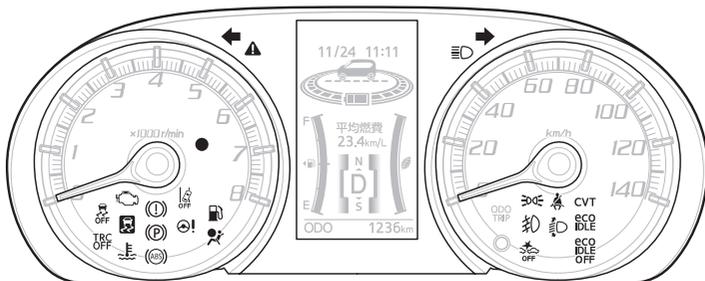
警告灯、表示灯

警告灯、表示灯の有無やメーターのデザインは、グレードやオプション装備により一部異なることがあります。

標準車



カスタム仕様車



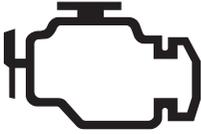
警告灯

さまざまなシステムの異常や、安全運転に関わる項目をメーター内に警告します。

⚠ 注意

- 警告灯が点灯（または点滅）したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、車両が損傷するおそれがあります。
この場合、それぞれの警告灯の項目にしたがい、処置を行ってください。
- エンジンスイッチを“ON”にしても警告灯が点灯（または点滅）しないときは、スバル販売店で点検を受けてください。

エンジン警告灯



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、エンジン電子制御システムに異常があると点灯、または点滅します。

⚠ 注意

点灯・点滅した場合

- ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

オイルプレッシャー警告灯

標準車



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、エンジン内部を潤滑しているエンジンオイルの圧力が低下すると点灯します。

⚠ 注意

点灯した場合

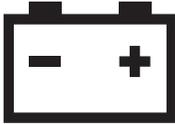
- そのまま走行すると、エンジンが故障するおそれがあります。
ただちに安全な場所に停車し、エンジンを停止して、スバル販売店にご連絡ください。

📖 知識

- オイルプレッシャー警告灯は、オイル量を示すものではありません。オイル量の点検は、オイルレベルゲージで行ってください。
(オイル量の点検方法は、別冊の「メンテナンスノート」参照)

チャージ警告灯

標準車



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、充電系統に異常（ベルトののび、損傷など）があると点灯します。

⚠ 注意

点灯した場合

- ただちに安全な場所に停車して、スバル販売店にご連絡ください。

📖 知識

- エンジン始動後に警告灯がしばらく点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。

駐車ブレーキ未解除警告灯



エンジンスイッチが“ON”で、駐車ブレーキがかかっていると点灯し、駐車ブレーキを完全に解除すると消灯します。

警告ブザー

駐車ブレーキが完全に解除されていない状態（警告灯が点灯している状態）で、約5km/h以上で走行すると、ブザーが鳴ります。

駐車ブレーキを解除すると、ブザーが鳴りやみます。

ブレーキ警告灯



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、下記の場合に点灯します。
 - ブレーキ液の液量が不足しているとき
 - EBD 制御に異常があるとき
(ABS (EBD 機能付) → 252 ページ)

警告ブザー

ブレーキ液の不足により警告灯が点灯した状態で、約 5km/h 以上で走行すると、ブザーが鳴ります。

⚠ 注意

- 制動時、常に異音(キーキー音など)が発生するときは、ブレーキパッドの摩耗が考えられます。ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

警告ブザーが鳴ったときは

- ブレーキ液の液量が不足しています。
この場合、ブレーキの効が悪くなっているおそれがあります。
効が悪いときは、ブレーキペダルを強く踏み、ただちに安全な場所に停車して、スバル販売店にご連絡ください。

ABS 警告灯と同時に点灯した場合

- 強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。
ただちに安全な場所に停車して、スバル販売店にご連絡ください。

水温警告灯 (赤色)



- エンジンスイッチを“ON”にすると赤色に点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、エンジン冷却水温が異常に高くなると赤色に点滅し、その後、さらに水温が高くなると点灯に変わります。

⚠ 注意

赤色に点滅・点灯した場合

- エンジン冷却水温の異常な上昇によるオーバーヒートが考えられます。ただちに安全な場所に停車して、処置を行ってください。

(オーバーヒートの処置→ 436 ページ)

📖 知識

エンジン冷却水温が低いときは

- 水温表示灯としてはたらき、緑色に点灯します。

(水温表示灯 (緑色) → 150 ページ)

警告ブザー

エンジン冷却水温の異常な上昇により、警告灯が赤色点滅、または赤色点灯しているときは、ブザーが鳴ります。

📖 知識

- ブザーは警告灯が赤色点滅時は断続的に鳴り、警告灯が赤色点灯になると同時に連続音に変わります。

CVT 警告灯

CVT

(点滅)

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、CVT システムに異常があると点滅します。

⚠ 注意

点滅した場合

- ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

シートベルト警告灯（運転席・助手席）



運転席

- エンジンスイッチが“ON”で、運転席シートベルトを装着していないと点滅します。

助手席（福祉車以外）

- エンジンスイッチが“ON”で、助手席に乗車時、助手席シートベルトを装着していないと点滅します。
- シートベルトを着用すると消灯します。

知識

助手席の乗員検知センサーについて

- 助手席シート座面に、ある一定の重量がかかったときに検知します。このため、荷物などを置いた場合にも検知し、警告灯が点滅することがあります。
- 助手席シート座面上に座布団などを敷くと、重量が分散され、センサーが乗員を検知しない場合があります。

運転席・助手席警告ブザー

運転席および助手席のシートベルトを着用していない状態（警告灯が点滅状態）で、約20km/h以上で走行すると、ブザーが約2分間鳴ります。

知識

- 一度警告ブザーが鳴ると、たとえ約20km/h以下で走行しても、約2分間鳴り続けますので、走行するときは必ずシートベルトを着用してください。
- ブザーが鳴り始めてから、約30秒後に断続音の速さが変わります。

半ドア警告灯

標準車



エンジンスイッチに関係なく、いずれかのドアを開けると点灯し、すべてのドアを完全に閉めると消灯します。

⚠ 注意

点灯した場合

- 警告灯が点灯したまま走行しないでください。ドアが確実に閉まっていないため、走行中にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 警告灯が点灯した場合は、もう一度ドアを閉めなおして、警告灯が消灯したことを確認してください。
消灯しないときや、再び点灯するときは、ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

燃料残量警告灯



エンジンスイッチが“ON”のとき、燃料残量が2WD車は約4.5ℓ以下、AWD車は約5.5ℓ以下になると、燃料残量警告灯が点滅した後、点灯します。

(燃料計(標準車) → 158 ページ)

(燃料計(カスタム仕様車) → 174 ページ)

⚠ 注意

点灯した場合

- ただちに燃料を給油してください。
燃料切れを起こすと、突然走行不能となり危険です。

📖 知識

- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点灯することがあります。

警告ブザー

燃料残量警告灯が点滅すると、ブザーが鳴ります。

ABS 警告灯



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、ABSに異常があると点灯します。

⚠ 注意

点灯した場合

- 通常のブレーキとしての性能は確保されていますが（ABSとしての作動はしません）、スバル販売店で点検を受けてください。

ブレーキ警告灯と同時に点灯した場合

- ABSに異常があるだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。ただちに安全な場所に停車して、スバル販売店にご連絡ください。

📖 知識

- エンジン始動後に警告灯が数秒間点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、スバル販売店で点検を受けてください。

SRS エアバッグ警告灯



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、下記のシステムに異常があると点灯します。
 - ▼ 異常があると点灯するシステム
 - SRS エアバッグ
(SRS エアバッグ→ 64 ページ)
 - プリテンショナー機構
(プリテンショナー機構→ 38 ページ)

⚠ 注意

点灯した場合

- ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

オートレベライザー警告灯

LED ヘッドランプ装着車



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、ロービームのオートレベリング機能に異常があると点灯します。

(ロービーム・オートレベリング機能
→ 221 ページ)

⚠ 注意

走行中に点灯した場合

- ただちに安全な場所に停車し、いったんエンジンを止めてください。再度エンジンスイッチを“ON”にしたとき、警告灯が数秒間点灯したあとに消灯すれば、そのまま走行することができます。消灯しないときや、再び点灯するときは、ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

ステアリング制御警告灯



- エンジンスイッチを“ON”にすると赤色に点灯し、エンジンを始動すると数秒後に消灯します。
- エンジンが回転中で、電動パワーステアリングシステムに異常があると赤色に点灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、電圧不足、電動パワーステアリングシステム過熱によりパワーステアリング制御が制限されると、オレンジ色に点灯します。

⚠ 注意

赤色に点灯した場合

- ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

オレンジ色に点灯した場合

- パワーステアリング制御が制限され、ハンドル操作が重くなります。しばらくハンドル操作を控えてください。ハンドル操作をしないまま約 10 分が経過すると、通常の重さに戻ります。消灯しない場合、繰り返し点灯する場合はスバル販売店で点検を受けてください。

📖 知識

- ハンドル操作を行ったとき、モーター音（「ウィーン」という音）が聞こえることがあります。これは、パワーステアリングモーターが作動しているときの音で、異常ではありません。
- #### オレンジ色に点灯する場合
- 停車中や微低速走行中にハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけたまま保持すると、モーターやコンピューターの過熱を防止するためオレンジ色に点灯します。

警告ブザー

警告灯が点灯し、ハンドル操作が重くなった場合は、ブザーが鳴ります。

VDC* & TRC 警告灯



(VDC & TRC 警告灯→ 257 ページ)

(VDC → 254 ページ)

(TRC → 255 ページ)

キーレスアクセス警告灯

オプション/グレード別装備



(キーレスアクセス警告灯

→ 99 ページ)

*本書では、VSCを「VDC」と表記しています。

VDCは、Vehicle Dynamics Control（ビークル ダイナミクス コントロール）の略です。

マスターウォーニング

オプション/グレード別装備



標準車のスマートアシストII装着車

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で下記の場合に点灯します。
 - スマートアシストIIに異常があるとき
 - スマートアシストIIが作動したとき*

カスタム仕様車

- プッシュエンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- プッシュエンジンスイッチが“ON”で、下記の場合に点灯します。
 - エンジンが回転中で、エンジン内部を潤滑しているエンジンオイルの圧力が低下したとき
 - エンジンが回転中で、充電系統に異常（ベルトののび、損傷）があるとき
 - スマートアシストIIに異常があるとき
 - スマートアシストIIが作動したとき*
 - 車両通信システムに異常があるとき
(スマートアシストII→262 ページ)
- プッシュエンジンスイッチに関係なく、キーレスアクセスに異常があるときに点灯します。
(キーレスアクセス→90 ページ)

⚠ 注意

点灯した場合

標準車のスマートアシストII装着車

- スマートアシスト OFF 表示灯と車線逸脱警報 OFF 表示灯が同時に点灯したときは、スマートアシストIIは作動しません。通常走行に支障ありませんが、スバル販売店で点検を受けてください。

カスタム仕様車

- 同時に、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されます。警告メッセージの表示に従って処置してください。

(警告メッセージ→189 ページ)

表示灯

車両のさまざまな状態をメーター内に表示します。

⚠ 注意

- 表示灯によっては、点灯（または点滅）したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、車両が損傷するおそれがあります。
この場合、それぞれの表示灯の項目にしたがい、処置を行ってください。
- 点灯操作を行っても、表示灯が点灯しないときは、スバル販売店で点検を受けてください。

方向指示器表示灯



方向指示器表示灯

エンジンスイッチが“ON”で、方向指示灯を点滅させると、同時に表示灯が点滅します。

非常点滅表示灯

- エンジンスイッチに関係なく、非常点滅表示灯を点滅させると、同時に左右の表示灯が点滅します。
- 約 60km/h 以上で走行中に急ブレーキをかけると、自動で非常点滅表示灯が高速点滅し、同時に左右の表示灯が高速点滅します。

(エマージェンシーストップシグナル
→ 301 ページ)

📖 知識

点滅する間隔が異常に速くなった場合

- 方向指示灯（非常点滅表示灯）の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。

ハイビーム / パッシング表示灯



エンジンスイッチに関係なく、ヘッドランプを上向きの状態にすると点灯します。

ライティングスイッチ表示灯



エンジンスイッチに関係なく、車幅灯を点灯させると点灯します。

フォグランプ表示灯

オプション / グレード別装備



エンジンスイッチに関係なく、フォグランプを点灯させると点灯します。

(フォグランプスイッチ → 223 ページ)

水温表示灯 (緑色)



エンジンスイッチが“ON”で、エンジン冷却水温が低いとき、緑色に点灯します。

⚠ 注意

- エンジン冷却水温が低い間は、急激な空ぶかし、急加速、高速走行はしないでください。
暖機を十分続けていても緑色に点灯したままの場合
- ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

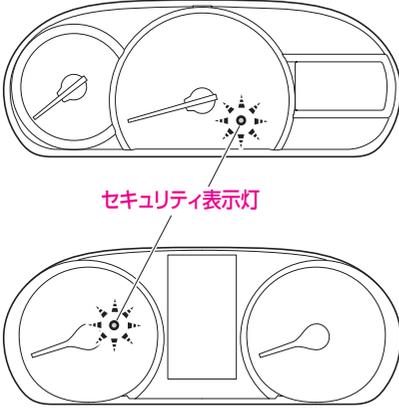
📖 知識

エンジン冷却水温が異常に高いときは

- 水温警告灯としてはたらき、赤色に点滅・点灯します。

(水温警告灯 (赤色) → 140 ページ)

セキュリティ表示灯



電波式リモコンドアロック装着車

(盗難警報装置→76 ページ)

キーレスアクセス装着車

- プッシュエンジンスイッチを“ACC”から“OFF”にして、イモビライザー機能を作動させると点滅します。
- プッシュエンジンスイッチを“OFF”から“ACC”にして、イモビライザー機能を解除すると消灯します。

(イモビライザー機能→75 ページ)

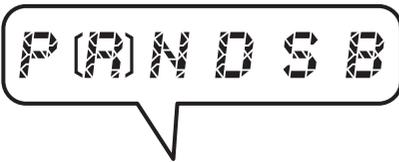
知識

- リクエストスイッチ操作またはキーのリモコン操作でドアを施錠して盗難警報装置がセットされると、約 30 秒間点灯に変わります。

(盗難警報装置→76 ページ)

シフトセレクトインジケータ

標準車



カスタム仕様車

- エンジンスイッチが“ON”のとき、使用中のセレクトレバーの位置が点灯します。
- ㊦レンジにすると、“[]”が点滅します。

TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに表示します。

(TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ→168 ページ)

POWER モードインジケーター

標準車

PWR

(POWER モード切り替えスイッチ
→ 250 ページ)

「アイドリングストップ」* 表示灯

eco IDLE

(「アイドリングストップ」表示灯
→ 310 ページ)

「アイドリングストップ」OFF 表示灯

eco IDLE OFF

(「アイドリングストップ」OFF 表示灯
→ 311 ページ)

VDC*¹ 作動表示灯



(点滅)

(VDC 作動表示灯→ 257 ページ)
(VDC → 254 ページ)
(TRC → 255 ページ)

VDC OFF 表示灯



(VDC OFF 表示灯→ 258 ページ)
(VDC → 254 ページ)

TRC OFF 表示灯

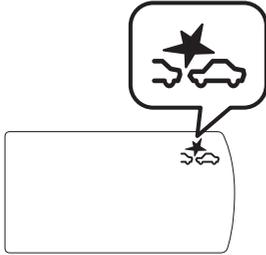
TRC OFF

(TRC OFF 表示灯→ 258 ページ)
(TRC → 255 ページ)

* 本書では eco IDLE を「アイドリングストップ」と表記しています。

スマートアシスト作動灯

標準車のスマートアシストII装着車



(スマートアシスト“作動”表示
→ 293 ページ)
(スマートアシストII → 262 ページ)

スマートアシスト OFF 表示灯

スマートアシストII装着車



(スマートアシスト OFF 表示灯
→ 293 ページ)
(スマートアシストII → 262 ページ)

車線逸脱警報作動灯

標準車のスマートアシストⅡ装着車



(車線逸脱警報作動灯
→ 294 ページ)
(スマートアシストⅡ→ 262 ページ)

車線逸脱警報 OFF 表示灯

スマートアシストⅡ装着車



(車線逸脱警報 OFF 表示灯
→ 294 ページ)
(スマートアシストⅡ→ 262 ページ)

ブレーキオーバーライドシステム表示灯

標準車



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれ、ブレーキオーバーライドシステムが作動したときに点灯します。

(ブレーキオーバーライドシステム
→ 230 ページ)

知識

点灯した場合

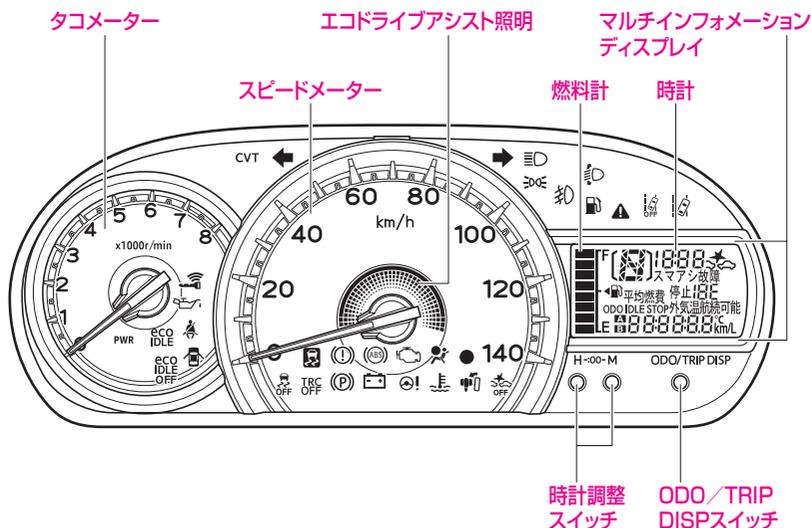
- アクセルペダル、またはブレーキペダルから足を離してください。

メーターのはたらき

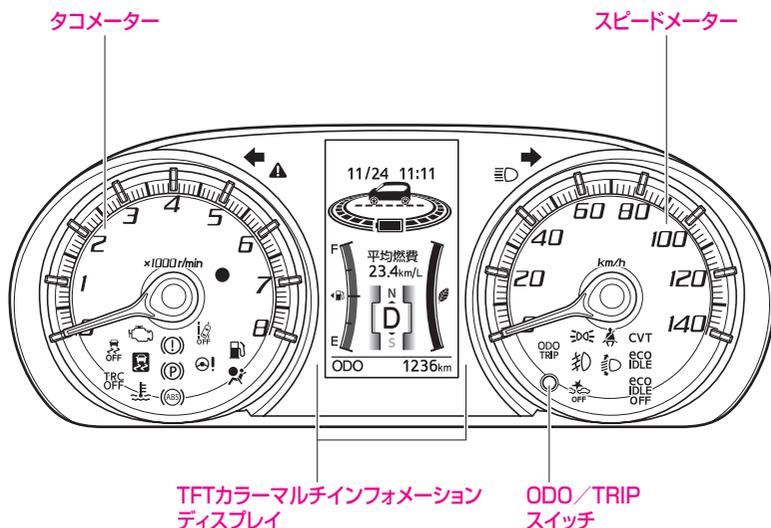
メーター

表示灯、警告灯の有無やメーターのデザインは、グレードやオプション装備により一部異なることがあります。

標準車



カスタム仕様車



 知識**エンジンスイッチ“ON”時のメーター演出**

- メーターの全ての指針が一度最大値を指し、すみやかに戻ります。

メーター照明

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、“ACC”または“OFF”にすると、消灯します。
- メーター照明が点灯しているときに車幅灯を点灯させると、メーター照明が減光します。

 知識

- ランプの点灯・消灯の確認は、ライティングスイッチ表示灯で行ってください。
(ライティングスイッチ表示灯→150ページ)
- メーター照明の照度は調整することができます。また、車幅灯を点灯させたときに、減光しないようにすることもできます。
(照度調整(標準車)→165ページ)
(明るさ調整(カスタム仕様車)→206ページ)

スピードメーター

走行速度を km/h で表示します。

タコメーター

1分間当たりのエンジン回転数を示します。

 注意

- 指針が赤色表示域(エンジンが許容回転数を超える範囲)に入らないよう運転してください。赤色表示域に入ると、エンジンが損傷するおそれがあります。

燃料計

標準車

エンジンスイッチが“ON”のとき、燃料残量を表示します。

燃料が少なくなると、燃料残量警告灯が点滅・点灯します。



(燃料残量警告灯→143 ページ)

エンジンスイッチが“ON”のとき、燃料が残り少なくなると、警告灯が点灯すると同時に、燃料計の一番下の目盛りが点滅し、さらに燃料が少なくなると点滅が速くなります。

⚠ 注意

燃料残量警告灯が点灯した場合

- ただちに燃料を給油してください。
燃料切れを起こすと、突然走行不能となり危険です。

カスタム仕様車

TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに表示します。

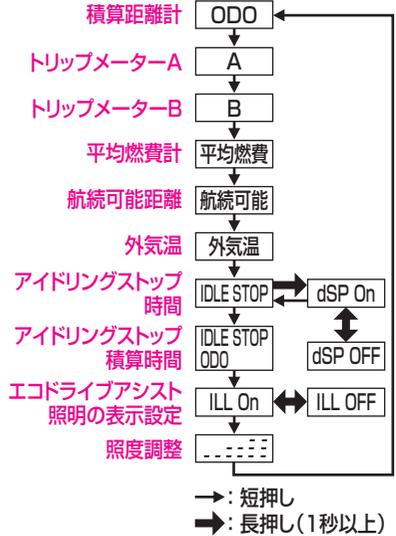
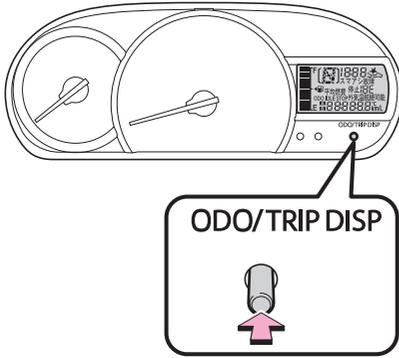
(TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ→168 ページ)

マルチインフォメーションディスプレイ

標準車

エンジンスイッチが“ON”のとき表示します。

- ODO/TRIP DISP スイッチを押すごとに、表示が切り替わります。
- ▼ ODO/TRIP DISP スイッチによる切り替わりかた



オドメーター (積算距離計)

走行した総距離を表示します。

トリップメーター (区間距離計)

リセットした地点からの走行距離を表示します。

- トリップメーターは、同時に2つの区間の走行距離を表示することができます。
- ▼ トリップメーター表示をリセットするには
- リセットするトリップメーター(AまたはB)を表示させ、ODO/TRIP スイッチを押し続けると、表示が“0.0”になります。

平均燃費

表示をリセットしてからの平均燃費を約 10 秒ごとに更新して表示します。



▼ 平均燃費表示をリセットするには

平均燃費表示をリセットするには平均燃費を表示させ、ODO/TRIP DISP スイッチを約 1 秒以上押し続けると、表示が“0.0km/L”になります。

知識

- エンジンスイッチを“ON”にした直後は、前回エンジンを停止したときの値を表示します。
- 最大表示は、「99.9km/L」です。
- 表示を更新するときにデータが受信できない、または無効なデータを受信した場合は、平均燃費が表示されません。

航続可能距離

現在の燃料残量と過去の燃費から航続可能距離を算出します。



⚠ 注意

- 航続可能距離がまだ十分走行できる数値であっても、燃料計が“E”に近付くか、燃料残量警告灯が点灯したら、ただちに燃料を給油してください。燃料切れを起こすと、突然走行不能となり危険です。

📖 知識

- 表示の更新時間は、運転状況（走行中・停車中）によって異なります。
- 新車を受け取った際に、航続可能距離として表示される数値は正しい数値を表示しないことがあります。
- 表示される航続可能距離は、過去の燃費をもとに計算しているため、運転方法・道路状況により増減することがあります。
- 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。
- 最大表示は、「999km」です。
- 異常検出したときは、航続可能距離がしばらく表示されないことがあります。
- バッテリーとの接続が断られたときは、学習した燃費はリセットされます。

外気温

外気温を表示します。



▼ 路面凍結警告表示

外気温が3°C以下になると、温度表示が点滅し、路面凍結の可能性があることをお知らせします。

3°C
(点滅)

知識

- ほかの計測装置により計測した外気温とは、異なることがあります。
- エンジンスイッチを“ON”にした直後の表示は、外気温が表示されません。
- 表示範囲は、「-30 ~ 50°C」です。
- 異常検出したときの表示は、「-1°C」です。
- 下記の場合は、正しい外気温が表示されないことがあります。
 - 停車しているときや低速走行しているとき
 - 外気温が急激に変化したとき（トンネルの出入り口付近など）
- 実際の外気温が変化していなくても、車両の状態（車速・風向きなど）により、外気温表示が変動することがあります。

路面凍結警告表示

- 路面凍結警告表示は目安です。必ず路面状況を確認してください。
- エンジンスイッチを“ON”にしたとき、外気温がすでに3°C以下の場合、警告表示されません。
- 路面凍結警告がいったん表示されると、外気温が4°C以上に上がってから、3°C以下に下がらないと再び警告表示されません。

■ アイドリングストップ時間

エンジンスイッチを“ON”にしてからの「アイドリングストップ」によるアイドリングストップ時間を表示します。



▼ アイドリングストップ時間表示のリセットについて

- エンジンスイッチを“OFF”にすると、表示がリセットされます。
- リセット後、エンジンスイッチを“ON”にすると、表示が“00:00:00”になります。

▼ アイドリングストップ時間の自動表示について

アイドリングストップ時間自動表示の設定が“dSP On”のとき、「アイドリングストップ」によるアイドリングストップ中に、自動でアイドリングストップ時間を表示します。

📖 知識

アイドリングストップ時間自動表示を解除するには

- アイドリングストップ時間を表示させ、ODO/TRIP スイッチを約 1 秒以上押すと自動表示設定画面になります。さらに約 1 秒以上押すごとに“dSP On”、“dSP OFF”が切り替わります。

表示	アイドリングストップ中の自動表示
dSP On	する
dSP OFF	しない

■ アイドリングストップ積算時間

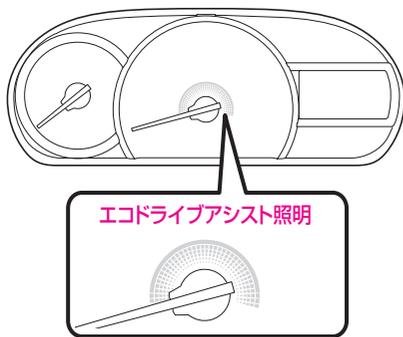
表示をリセットしてからのアイドリングストップ積算時間を表示します。



▼ アイドリングストップ積算時間表示をリセットするには

- アイドリングストップ積算時間を表示させ、ODO/TRIP スイッチを押し続けると、表示が“00:00:00”になります。

■ エコドライブ*アシスト照明の表示設定



ILL On (または ILL OFF) を表示させて、ODO/TRIP スイッチを約 1 秒以上押し続けることに、“ILL On”、“ILL OFF” が切り替わります。

(エコドライブアシスト照明
→ 167 ページ)

照度調整

メーター照度を調整します。

▼ 操作方法

明るさ	表示	照度レベル
明るい  暗い		レベル1
		レベル2
		レベル3
		レベル4
		レベル5

照度調整表示中、ODO/TRIP スイッチを約 1 秒以上押し続けている間、メーター照明の明るさが左表のように変わります。

▼ 照度調整

メーター照明は、昼間用、および夜間用としてそれぞれ設定することができます。

昼間用

車幅灯を消灯して調整します。

夜間用

車幅灯を点灯して調整します。

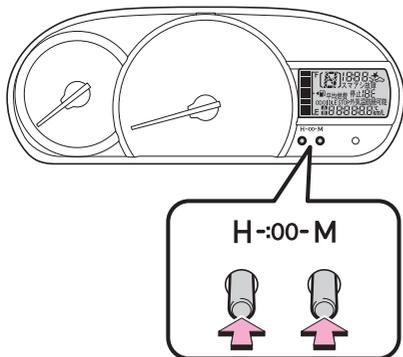
📖 知識

- 夜間用の設定を“レベル 1”にすると、車幅灯を点灯させたときに、メーター照明が減光しません。

時計

エンジンスイッチが“ON”のとき、時計を表示します。

- 時計調整スイッチを押して、時計を調整します。



▼ “時” を調整する

時計調整“H”スイッチを押します。

- スイッチを押すごとに、数字が1つずつ大きくなります。
(押し続けると、早送りします)

▼ “分” を調整する

時計調整“M”スイッチを押します。

- スイッチを押すごとに、数字が1つずつ大きくなります。
(押し続けると、早送りします)

▼ 時報“:00”に合わせる

時計調整“H”スイッチと“M”スイッチを同時に約1秒以上押します。

(例) 1:00 ~ 1:29 → 1:00

(例) 1:30 ~ 1:59 → 2:00

- 時報合わせが完了すると、“時”“分”が2回点滅します。

100

(点滅)

知識

- バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断れたときは、時計表示がリセットされ、“1:00”が表示されます。
- 時刻の表示は、12時間表示です。

TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ

カスタム仕様車

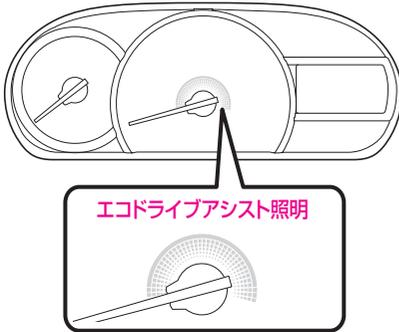
プッシュエンジンスイッチが“ON” のとき、車両や走行の状態に関するさまざまな情報を表示します。

(TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ→ 168 ページ)

エコドライブアシスト照明

標準車

エコドライブアシスト照明の設定が“ILL On” のときに、走行状態に応じてエコドライブ（二酸化炭素排出量の少ない環境にやさしい運転）の度合いを判定し、メーター照明の一部が変化します。



- “ILL OFF” のときは、白色のまま照明色は変化しません。

(エコドライブアシスト照明の表示設定 → 164 ページ)

- エンジンスイッチを“ON” にすると数秒間、グリーン色に点灯します。
- セレクトレバーが R レンジのとき、走行速度にあったアクセルペダルの操作でエコ運転をしていると、エコドライブアシスト照明が白色からグリーン色に変化していきます。

知識

- アイドリングストップ中はグリーン色になります。

(「アイドリングストップ」 → 302 ページ)

カスタム仕様車

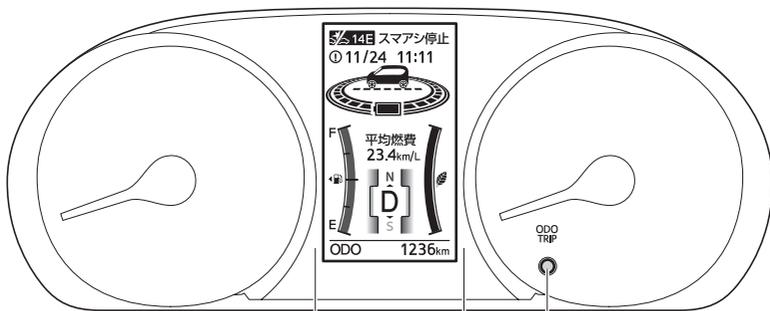
TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに表示します。

(TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ→ 168 ページ)

TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ

カスタム仕様車

プッシュエンジンスイッチが“ON”のとき、車両や走行の状態に関するさまざまな情報をメーターのディスプレイ部に表示します。

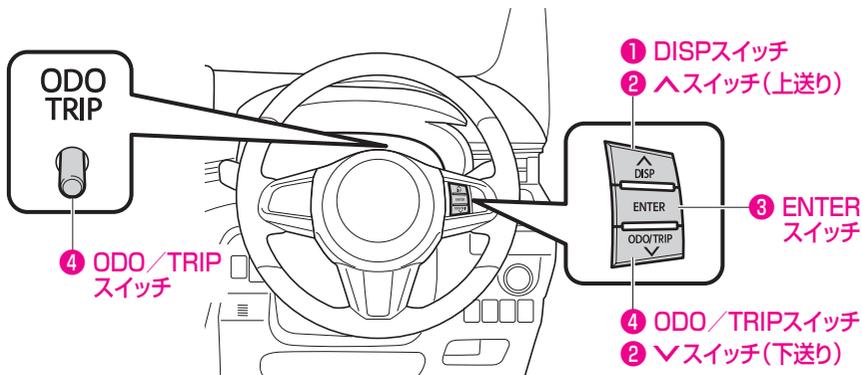


TFTカラーマルチインフォメーションディスプレイ

ODO/TRIPスイッチ

操作スイッチ

ハンドル、メーターにあるスイッチで、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの表示の切り替え、画面の表示設定を行うことができます。



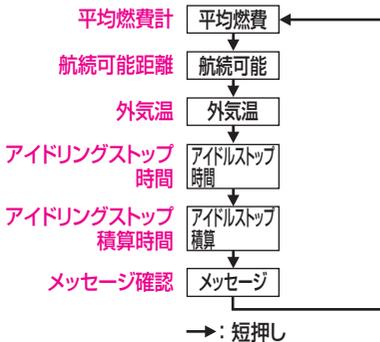
① DISP スイッチ

基本画面を表示しているときに使用します。

DISP スイッチを押すごとに、ドライブインフォメーションの表示が切り替わります。

(ドライブインフォメーション
→ 175 ページ)

▼ DISP スイッチによる切り替わりかた



② ▲スイッチ(上送り)／▼スイッチ(下送り)

以下の場合に使用します。

- メッセージの表示を切り替えるとき
(メッセージ確認→ 180 ページ)
- 表示画面の設定で項目の上送り、下送りするとき
(表示画面の設定→ 200 ページ)

③ ENTER スイッチ

以下の場合に使用します。

- 自動表示したアイドルストップ時間の表示をやめるとき

(アイドルストップ時間
→ 178 ページ)

- メッセージを表示するとき

(メッセージ確認→ 180 ページ)

- 表示画面の設定で項目の決定、選択をするとき

(表示画面の設定→ 200 ページ)

④ ODO/TRIP スイッチ

基本画面を表示しているときに使用します。

ODO/TRIP スイッチを押すごとに、ODO/TRIP メーターの表示が切り替わります。

(ODO/TRIP メーター→ 172 ページ)

▼ ODO/TRIP スイッチによる切り替わりかた



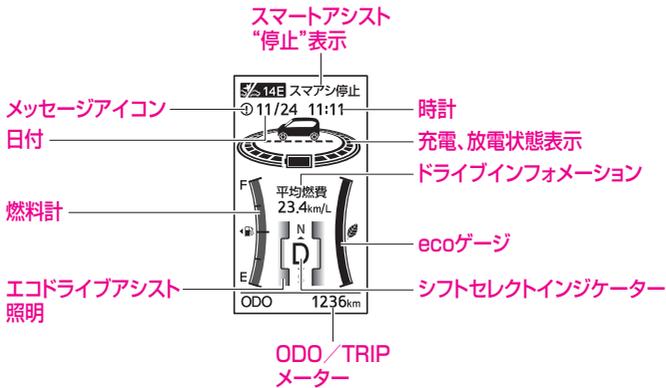
基本画面

TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイには、“エコモード”、“シンプルモード”、“時計モード” の3つの基本画面があります。

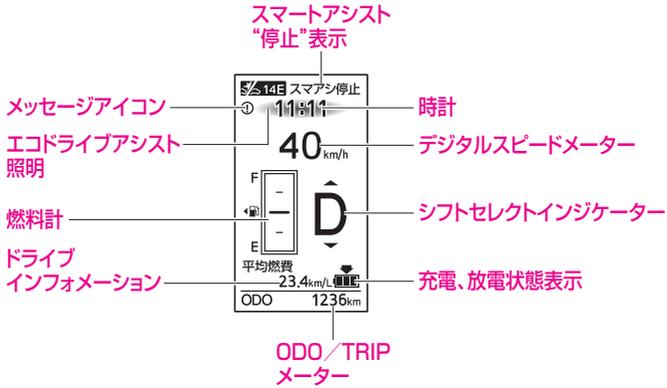
操作スイッチを押して、表示する基本画面を選択してください。

(表示画面の設定→200 ページ)

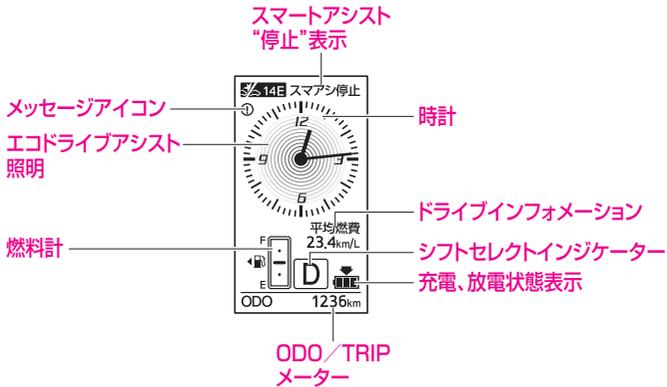
エコモード



シンプルモード



時計モード



ODO/TRIP メーター

プッシュエンジンスイッチが“ON” のとき表示します。

ODO/TRIP スイッチを押すごとに表示が切り替わります。

(操作スイッチ→168 ページ)

オドメーター (積算距離計)

走行した総距離を表示します。



トリップメーター (区間距離計)

トリップメーター A

リセットした地点からの走行距離を表示します。

- トリップメーターは、同時に2つの区間の走行距離を表示することができます。



トリップメーター B



▼ トリップメーター表示をリセットするには

リセットするトリップメーター (A または B) を表示させ、ODO/TRIP スイッチを押し続けると、表示が“0.0” になります。

デジタルスピードメーター

シンプルモード

ブッシュエンジンスイッチが“ON”のとき、走行速度を km/h で表示します。

日付

エコモード

ブッシュエンジンスイッチが“ON”のとき、日付を表示します。

(表示画面の設定→200 ページ)

時計

ブッシュエンジンスイッチが“ON”のとき、時計を表示します。

エコモード、シンプルモードで表示しているときは、12 時間表示と 24 時間表示を切り替えることができます。

(表示画面の設定→200 ページ)

知識

- バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断たれたときは、時計表示がリセットされ、“1:00”が表示されます。

メッセージアイコン

ブッシュエンジンスイッチが“ON”のとき、システムの異常や作動、スマートアシストIIの機能が低下しているときなどに表示します。

表示している場合はメッセージの内容を確認し、ただちに適切な処置を行ってください。

(メッセージ確認→180 ページ)

燃料計

プッシュエンジンスイッチが“ON”のとき、燃料残量を表示します。

燃料が少なくなると、燃料残量警告灯が点滅・点灯します。

(燃料残量警告灯→143 ページ)

- 燃料残量警告灯が点灯したと同時に、燃料計の目盛りの色が黄色に変わります。さらに燃料が減り続けると、色が赤色に変わった後、目盛りが非表示になります。

⚠ 注意

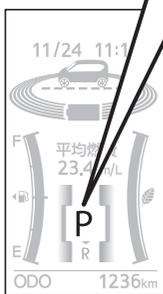
燃料残量警告灯が点灯した場合

- ただちに燃料を給油してください。
燃料切れを起こすと、突然走行不能となり危険です。

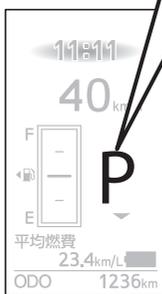
シフトセレクトインジケーター

プッシュエンジンスイッチが“ON”のとき、使用中のセレクトレバーの位置を表示します。

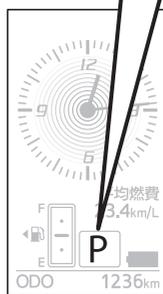
P R N D S B



〈エコモード〉



〈シンプルモード〉



〈時計モード〉

ドライブインフォメーション

プッシュエンジンスイッチが“ON” のとき表示します。

DISP スイッチを押すごとに表示が切り替わります。

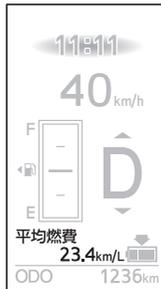
(操作スイッチ→168 ページ)

平均燃費

表示をリセットしてからの平均燃費を約 10 秒ごとに更新して表示します。



〈エコモード〉



〈シンプルモード〉



〈時計モード〉

▼ 平均燃費表示をリセットするには

平均燃費を表示させ、DISP スイッチを約 1 秒以上押し続けると、表示が“0.0km/L”になります。

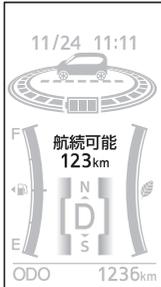
知識

- プッシュエンジンスイッチを“ON”にした直後は、前回エンジンを停止したときの値を表示します。
- 最大表示は、「99.9km/L」です。
- 表示を更新するときにデータが受信できない、または無効なデータを受信した場合は、平均燃費が表示されません。
- 給油後に走行すると、自動でリセットするように設定することができます。

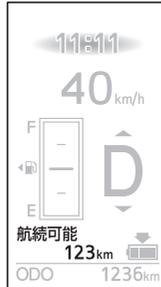
(表示画面の設定→200 ページ)

航続可能距離

現在の燃料残量と過去の燃費から航続可能距離を算出します。



〈エコモード〉



〈シンプルモード〉



〈時計モード〉

⚠ 注意

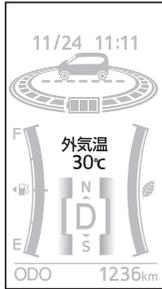
- 航続可能距離がまだ十分走行できる数値であっても、燃料計が“E”に近付くか、燃料残量警告灯が点灯したら、ただちに燃料を給油してください。燃料切れを起こすと、突然走行不能となり危険です。

📖 知識

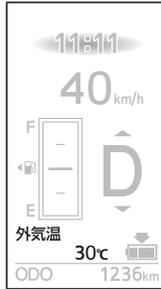
- 表示の更新時間は、運転状況（走行中・停車中）によって異なります。
- 新車を受け取った際に、航続可能距離として表示される数値は正しい数値を表示しないことがあります。
- 表示される航続可能距離は、過去の燃費をもとに計算しているため、運転方法・道路状況により増減することがあります。
- 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。
- 最大表示は、「999km」です。
- 異常検出したときは、航続可能距離がしばらく表示されないことがあります。
- バッテリーとの接続が断られたときは、学習した燃費はリセットされます。

■ 外気温

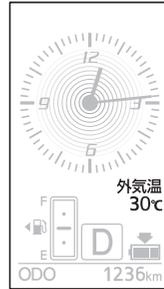
外気温度を表示します。



〈エコモード〉



〈シンプルモード〉



〈時計モード〉

3°C
(点滅)

▼ 路面凍結警告表示

外気温度が 3°C 以下になると、温度表示が点滅し、路面凍結の可能性のあることをお知らせします。

📖 知識

- ほかの計測装置により計測した外気温とは、異なることがあります。
- プッシュエンジンスイッチを“ON”にした直後の表示は、外気温が表示されません。
- 表示範囲は、「-30 ~ 50°C」です。
- 異常検出したときの表示は、「-1°C」です。
- 下記の場合は、正しい外気温が表示されないことがあります。
 - 停車しているときや低速走行しているとき
 - 外気温が急激に変化したとき（トンネルの入り口付近など）
- 実際の外気温が変化していても、車両の状態（車速・風向きなど）により、外気温表示が変動することがあります。

路面凍結警告表示

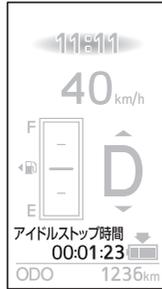
- 路面凍結警告表示は目安です。必ず路面状況を確認してください。
- プッシュエンジンスイッチを“ON”にしたとき、外気温度がすでに 3°C 以下の場合、警告表示されません。
- 路面凍結警告がいったん表示されると、外気温度が 4°C 以上に上がってから、3°C 以下に下がらないと再び警告表示されません。

■ アイドリングストップ時間

プッシュエンジンスイッチを“ON”にしてからのアイドリングストップ時間を表示します。



〈エコモード〉



〈シンプルモード〉



〈時計モード〉

▼ アイドリングストップ時間表示のリセットについて

- プッシュエンジンスイッチを“OFF”にすると、表示がリセットされます。
- リセット後、プッシュエンジンスイッチを“ON”にすると、表示が“00:00:00”になります。

▼ アイドリングストップ時間の自動表示について

アイドリングストップ時間の表示自動切り替えの設定が“ON”のとき、アイドリングストップ中に、自動でアイドリングストップ時間を表示します。

知識

- 自動表示中に ENTER スイッチを押すと、ドライブインフォメーションは自動表示する前の表示に戻ります。
- 表示自動切り替えの設定を“OFF”にすると、アイドリングストップ中のアイドリングストップ時間の自動表示はしません。

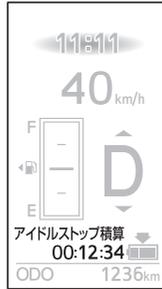
(表示画面の設定→200 ページ)

■ アイドリングストップ積算時間

表示をリセットしてからのアイドルストップ積算時間を表示します。



〈エコモード〉



〈シンプルモード〉



〈時計モード〉

▼ アイドリングストップ積算時間表示をリセットするには

- アイドリングストップ積算時間を表示させ、DISP スイッチを押し続けると、表示が“00:00:00”になります。

メッセージ確認

ENTER スイッチを押して、警告メッセージ、スマートアシストⅡの機能低下のメッセージを表示します。

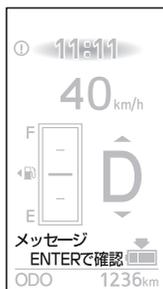
(スマートアシスト“停止”表示→188 ページ)

(警告メッセージ→189 ページ)

- “ENTER で確認” と表示しているときに、ENTER スイッチを押してメッセージ表示します。



〈エコモード〉



〈シンプルモード〉

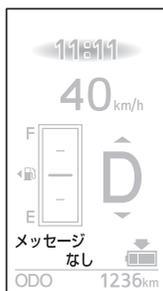


〈時計モード〉

- “なし” と表示しているときは、メッセージは表示しません。



〈エコモード〉



〈シンプルモード〉



〈時計モード〉

知識

- メッセージを記憶しているときは、メッセージアイコンが表示されます。
(メッセージアイコン→173 ページ)
- ハ スイッチを押すと、他のメッセージを表示することができます。(メッセージが1つの場合は表示が切り替わりません。)

充電、放電状態表示

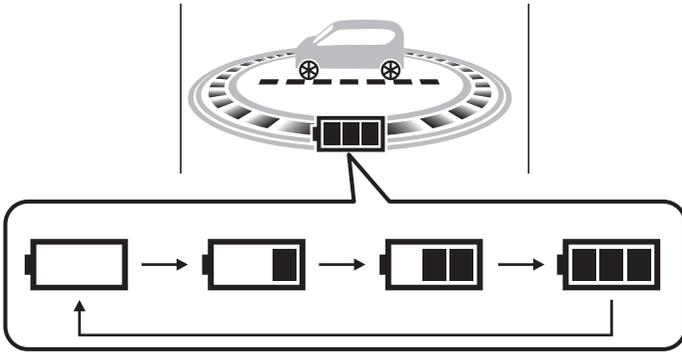
バッテリーの充電、放電の状態を表示します。

充電時

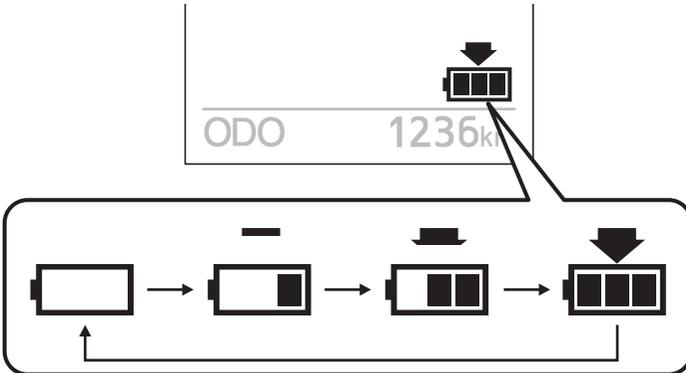
発電制御によりバッテリーが充電されているときは、表示が図のように変化します。

(発電制御→315 ページ)

エコモード



シンプルモード、時計モード



知識

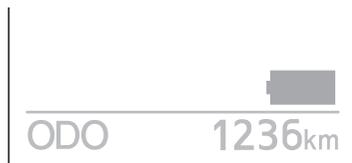
- 発電制御の発電量に応じて、速度が2段階で変化します。発電量が大いほど速くなります。

充電停止時

エコモード



シンプルモード、時計モード

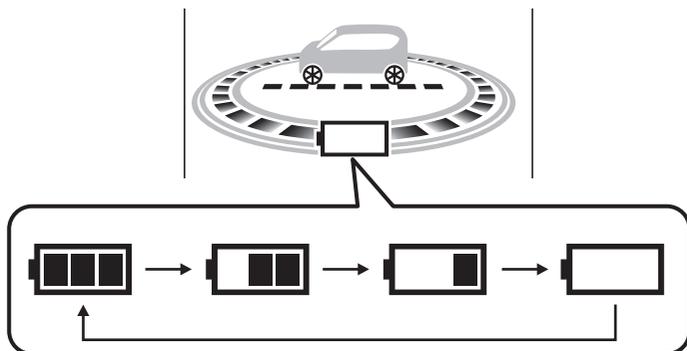


放電時

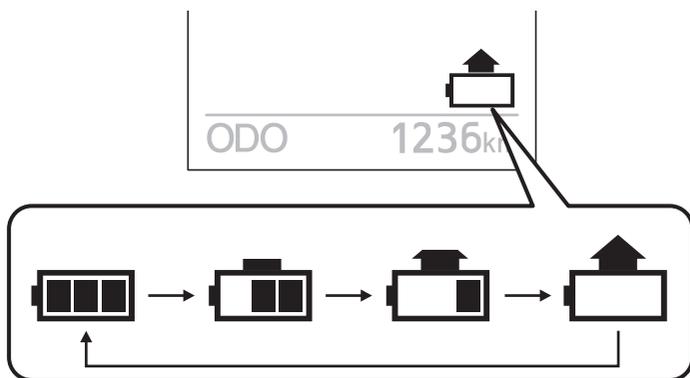
アイドリングストップ中によりバッテリーが放電しているときは、表示が図のように変化します。

(「アイドリングストップ」 → 302 ページ)

エコモード



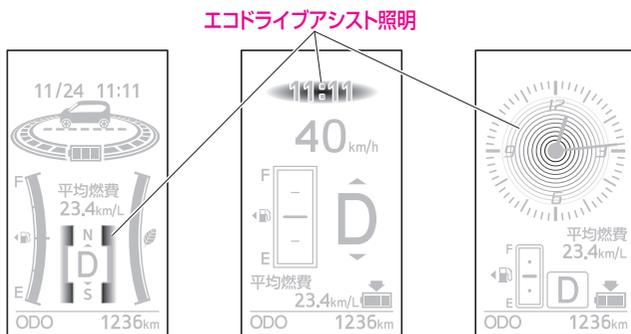
シンプルモード、時計モード



エコドライブアシスト照明

走行状態に応じてエコドライブ（二酸化炭素排出量の少ない環境にやさしい運転）の度合いを判定し、エコドライブアシスト照明が変化します。

- セレクトレバーがDレンジのとき、走行速度にあったアクセルペダルの操作でエコ運転をしていると、エコドライブアシスト照明色がグレーからグリーン色に変化していきます。



知識

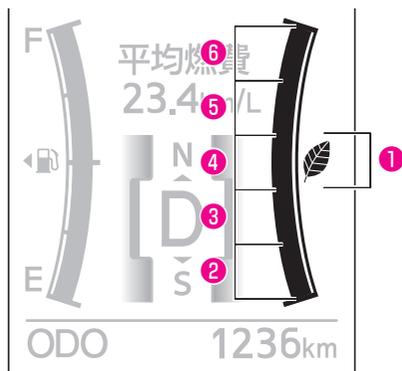
- アイドリングストップ中はグリーン色になります。
- POWER モード切り替えスイッチが“ON”のときは、エコドライブアシスト照明はオレンジ色になります。
(POWER モード切り替えスイッチ→ 250 ページ)
- エコドライブアシスト照明は、“ON”（表示）、“OFF”（非表示）の設定することができます。
(表示画面の設定→ 200 ページ)

eco ゲージ

エコモード

走行状態に応じてエコドライブ（二酸化炭素排出量の少ない環境にやさしい運転）の度合いを判定し、eco ゲージの目盛りが6段階で増減します。

- セレクトレバーが R レンジのとき、走行速度にあったアクセルペダルの操作でエコ運転をしていると、目盛りが増えます。

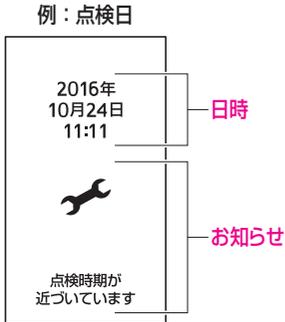


知識

- アイドリングストップ中は、目盛りが全て表示されます。
- eco ゲージは、“ON”（表示）、“OFF”（非表示）の設定することができます。
(表示画面の設定→200 ページ)

オープニング画面

プッシュエンジンスイッチを“ON”にしたとき、演出画面を表示したあとに日時とお知らせを数秒間表示します。



● 以下のお知らせを表示することができます。

- 新年のごあいさつ
- 誕生日
- 記念日
- 車検日
- 点検日
- エンジンオイル交換
- オイルフィルター交換
- タイヤローテーション

知識

- お知らせは、プッシュエンジンスイッチを“ON”にしたときに一度だけ表示されます。
- オープニング画面は、“ON”（表示）、“OFF”（非表示）の設定をすることができます。
(表示画面の設定→200ページ)

新年のごあいさつ

1月1日に表示されます。

誕生日、記念日

設定した日付に表示されます。

(表示画面の設定→200ページ)

知識

- 誕生日、記念日は、設定日を2月29日にしている場合、うるう年以外の年は3月1日に表示します。
- 設定した日付を過ぎると一度も表示されません。

■ 車検日、点検日

設定日まで残り 1 カ月を切ったときと、設定日以降に一度ずつ表示されます。

(表示画面の設定→200 ページ)

例：点検日



〈設定日まで残り1か月を切ったとき〉



〈設定日以降〉

知識

- 車検、点検を受けた後は、再度日付の設定を行ってください。

■ エンジンオイル交換、オイルフィルター交換、タイヤローテーション

メンテナンスの設定距離まで残り 500km以下を切ったときと、設定距離に到達したときに一度ずつ表示されます。

(表示画面の設定→200 ページ)

例：オイル交換



〈設定距離まで残り500kmを切ったとき〉



〈設定距離に到達したとき〉

知識

- 交換、タイヤローテーションした後は、再度メンテナンスの設定を行ってください。

エンディング画面

プッシュエンジンスイッチを“ON”から“OFF”にすると、エンディング画面が数秒間表示されます。

- プッシュエンジンスイッチを“ON”から“OFF”にするまでの間の“走行距離”、“走行時間”、“平均速度”、“燃費”、“節約燃料”を表示します。

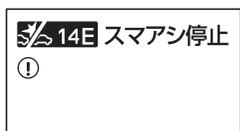
今回の走行記録	
 走行距離	24.4km
 走行時間	0h 34m
AVG 平均速度	44km/h
 今回燃費	20.4km/L
 節約燃料	60mL

知識

- エンディング画面は、“ON”（表示）、“OFF”（非表示）の設定をすることができます。
(表示画面の設定→200ページ)

スマートアシスト“停止”表示

ブッシュエンジンスイッチが“ON”で、スマートアシストIIの機能が低下したときに、“スマアシ停止”と機能低下コードが表示されます。



- 表示されたときは、スマートアシストIIは作動しません。機能低下コードごとに適切な処置を行ってください。

(機能低下コード→297ページ)

知識

- 同時にメッセージアイコンが表示されます。

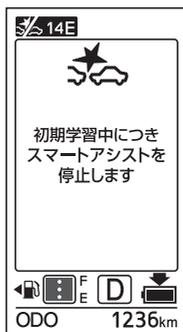
(メッセージアイコン→173ページ)

機能低下のメッセージの表示

メッセージを表示して、機能低下コードの内容（原因）を表示することができます。

(メッセージ確認→180ページ)

例：機能低下コード14E

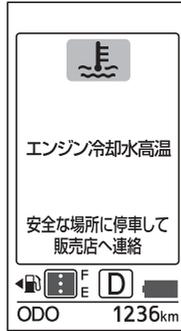


警告メッセージ

システムの作動や異常などが発生すると警告メッセージが表示されます。

警告メッセージが表示されたときは表示内容を確認し、ただちに適切な処置を行ってください。

例：エンジン冷却水高温



- 複数のシステムの作動や異常が発生している場合は、数秒ごとに警告メッセージの表示が切り替わります。
- プッシュエンジンスイッチが“ON”のときは、ENTER スイッチを押して警告メッセージを非表示にすることができます。（基本画面に戻り、メッセージアイコンが表示されます。）
(メッセージアイコン→173 ページ)

知識

- ENTER スイッチを押しても、以下の警告メッセージは数秒後に再度表示されます。
 - ブレーキ液量低下
 - ブレーキシステム故障
 - エンジン油圧低下
 - エンジン冷却水高温
 - 充電システム故障
- 非表示にした警告メッセージを再度表示することができます。
(メッセージ確認→180 ページ)

警告メッセージ	表示される状況	処置
 <p>ブレーキ液量低下</p>  <p>安全な場所に停車して 販売店へ連絡</p> 	<p>ブレーキ液が不足しているときに表示</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 約 5km/h 以上で走行しているときは警告ブザーが鳴りません。 	<p>ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。</p> <p>ただちに安全な場所に停車して、スバル販売店にご連絡ください。</p>
 <p>ブレーキシステム故障</p>  <p>安全な場所に停車して 販売店へ連絡</p> 	<p>ブレーキシステム (EBD 制御) に異常があるときに表示</p>	<p>強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。ただちに安全な場所に停車して、スバル販売店にご連絡ください。</p>
 <p>エンジン油圧低下</p> <p>安全な場所に停車して 販売店へ連絡</p> 	<p>エンジンオイルの圧力が低下しているときに表示</p>	<p>そのまま走行すると、エンジンが故障するおそれがあります。ただちに安全な場所に停車し、エンジンを停止して、スバル販売店にご連絡ください。</p>
 <p>エンジン冷却水高温</p> <p>安全な場所に停車して 販売店へ連絡</p> 	<p>エンジン冷却水温が異常に高くなっているときに表示</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 表示すると同時に警告ブザーが鳴ります。 	<p>ただちに安全な場所に停車し、スバル販売店にご連絡ください。</p>

警告メッセージ	表示される状況	処置
 <p>充電システム故障</p> <p>安全な場所に停車して 販売店へ連絡</p> 	<p>充電システムに異常があるときに表示</p>	<p>ただちに安全な場所に停車し、スバル販売店にご連絡ください。</p>
 <p>パワーステアリング故障</p> <p>販売店で点検を受けてください</p>  (赤色)	<p>パワーステアリングシステムに異常があるときに表示</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ハンドル操作が重くなったときは警告ブザーが鳴ります。 	<p>ただちにスバル販売店で点検を受けてください。</p>
 <p>パワーステアリング機能低下</p> <p>ハンドルが重くなります</p>  (オレンジ色)	<p>電圧不足、パワーステアリングシステム過熱により、制御が制限されているときに表示</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 表示すると同時に警告ブザーが鳴ります。 	<p>しばらくハンドル操作を控えてください。ハンドル操作が通常の重さに戻ります。再度表示する場合、繰り返し表示する場合はスバル販売店で点検を受けてください。</p>
 <p>SRSエアバッグ故障</p> <p>販売店で点検を受けてください</p> 	<p>SRS エアバッグシステムに異常があるときに表示</p>	<p>ただちにスバル販売店で点検を受けてください。</p>

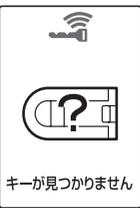
警告メッセージ	表示される状況	処置
 <p>エンジンシステム異常</p> <p>販売店で点検を受けてください</p> 	<p>エンジンシステムに異常があるときに表示</p>	<p>ただちにスバル販売店で点検を受けてください。</p>
<p>CVT</p>  <p>CVTシステム異常</p> <p>販売店で点検を受けてください</p> <p>CVT (点滅)</p>	<p>CVT システムに異常があるときに表示</p>	<p>ただちにスバル販売店で点検を受けてください。</p>
 <p>ABS故障</p> <p>販売店で点検を受けてください</p> 	<p>ABS に異常があるときに表示</p>	<p>通常のブレーキとしての性能は確保されませんが、(ABSとして作動はしません) スバル販売店で点検を受けてください。</p> <p>ブレーキシステム故障も表示している場合は、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。ただちに安全な場所に停車し、スバル販売店にご連絡ください。</p>
 <p>VSC故障</p> <p>販売店で点検を受けてください</p> 	<p>VDC システム、または TRC システムに異常があるときに表示</p>	<p>通常走行に支障はありませんが、スバル販売店で点検を受けてください。</p>

警告メッセージ	表示される状況	処置
 ヘッドランプ光軸異常 販売店で点検を受けてください 	ロービーム・オートレベリング機能に異常があるときに表示	走行中に表示した場合は、ただちに安全な場所に停車し、いったんエンジンを停止してください。プッシュエンジンスイッチを“ON”にしたとき、メッセージが表示されなければそのまま走行することができます。再び表示する場合は、ただちにスバル販売店で点検を受けてください。
 スマートアシスト故障 販売店で点検を受けてください  	スマートアシストIIに異常があるときに表示	通常走行に支障はありませんが、スバル販売店で点検を受けてください。
 エコアイドル故障 販売店で点検を受けてください  (点滅)	アイドリングストップシステムに異常があるときに表示	ただちにスバル販売店で点検を受けてください。
 キーフリー故障 販売店で点検を受けてください 	キーレスアクセスに異常があるときに表示	ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

* 本書では eco IDLE を「アイドリングストップ」と表記しています。

*1 本書では、キーフリーを「キーレスアクセス」と表記しています。
「キーフリーシステム」はダイハツ工業株式会社の登録商標です。

警告メッセージ	表示される状況	処置
 <p>車両通信システム異常</p> <p>販売店で点検を受けてください</p> 	<p>車両通信システムに異常があるときに表示</p>	<p>ただちにスバル販売店で点検を受けてください。</p>
 <p>シートベルトを装着してください</p>  (点滅)	<p>運転席、助手席の乗員がシートベルトを着用していない状態で、約 20km/h 以上で走行したときに表示</p> <p>●表示すると同時に警報ブザーが鳴ります。</p>	<p>シートベルトを着用してください。</p>
  <p>パーキングブレーキを解除してください</p> 	<p>駐車ブレーキが解除されていない状態で、約 5km/h 以上で走行したときに表示</p> <p>●表示すると同時に警報ブザーが鳴ります。</p>	<p>駐車ブレーキを解除してください。</p>
<p>eco IDLE *</p>  <p>シートベルトが外れたためエンジンを再始動しました</p>  (点滅)  (点滅)	<p>アイドリングストップ中、運転席シートベルトを外したときに表示</p> <p>●表示すると同時に警告ブザーが鳴ります。</p>	<p>運転席シートベルトを着用してください。</p>

警告メッセージ	表示される状況	処置
 <p>eco IDLE * ドアが開いたため エンジンを再始動しました</p> 	<p>アイドリングストップ中、運転席 ドアを開けたときに表示</p> <ul style="list-style-type: none"> ●表示すると同時に警告ブ ザーが鳴ります。 	<p>運転席ドアを閉めてください。</p>
 <p>キーが見つかりません</p>	<p>プッシュエンジンスイッチが “ACC” または “ON” で、い ずれかのドアを開けてアクセス キーを車外に持ち出しドアを閉 めたときに表示</p> <ul style="list-style-type: none"> ●表示すると同時に警告ブ ザーが鳴ります。 	<p>アクセスキーを携帯して乗車して ください。</p>
 <p>ドアが開いています</p>	<p>いずれかのドアが開いていると きに表示</p> <ul style="list-style-type: none"> ●開いているドアが表示されま す。 	<p>ドアを確実に閉めてください。</p>
 <p>VSCが作動しました</p> 	<p>VDC が作動しているときに表示</p>	<p>特に慎重な運転をしてください。</p>

* 本書では eco IDLE を「アイドリングストップ」と表記しています。

*1 本書では、VSC を「VDC」と表記しています。

VDCは、Vehicle Dynamics Control(ビークル ダイナミクス コントロール)の略です。

警告メッセージ	表示される状況	処置
 <p>スマートアシスト作動</p>  <p>前方注意!!</p>  *	<p>衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能または誤発進抑制制御機能が作動しているときに表示</p> <ul style="list-style-type: none"> ●表示すると同時に警告ブザーが鳴ります。 	<p>周囲を確認の上、ブレーキペダルを踏むなどの適切な操作をしてください。</p>
 <p>スマートアシスト作動</p>  <p>後方注意!!</p>  *	<p>後方誤発進抑制制御機能が作動しているときに表示</p> <ul style="list-style-type: none"> ●表示すると同時に警告ブザーが鳴ります。 	<p>周囲を確認の上、ブレーキペダルを踏むなどの適切な操作をしてください。</p>
 <p>スマートアシスト作動</p>  <p>先行車が 発進しました</p>	<p>先行車が発進しても停車しているときに表示</p> <ul style="list-style-type: none"> ●表示すると同時に警告ブザーが鳴ります。 	<p>周囲を確認の上、発進してください。</p>
 <p>スマートアシスト作動</p> <p>車線逸脱警報が 作動しました</p>	<p>走行車線から逸脱する可能性があるときに表示</p> <ul style="list-style-type: none"> ●表示すると同時に警告ブザーが鳴ります。 	<p>ハンドルを操作して、走行車線からの逸脱を回避してください。</p>

警告メッセージ	表示される状況	処置
 <p>ブレーキとアクセルが 両方踏まれています</p>	<p>アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれているときに表示</p>	<p>アクセルペダル、またはブレーキペダルから足を離してください。</p>
 <p>ライトを 消してください</p>	<p>プッシュエンジンスイッチが“ACC”または“OFF”で、ヘッドランプ、または車幅灯を点灯して運転席ドアを開けたときに表示</p> <p>●表示すると同時に警告ブザーが鳴ります。</p>	<p>ヘッドランプ、または車幅灯を消灯してください。</p>
 <p>キーが見つかりません</p>	<p>アクセスキーを認識していない状態でプッシュエンジンスイッチを押したときに表示</p>	<p>アクセスキーを携帯して、車内の作動範囲でプッシュエンジンスイッチを押してください。</p>
 <p>ブレーキを踏みながら キーでエンジンスイッチに 触れてください</p>	<p>アクセスキーを認識していない状態で、プッシュエンジンスイッチを2回以上連続で押したときに表示</p>	<p>アクセスキーの電池が消耗しているおそれがあります。ブレーキペダルを踏みながらアクセスキーをプッシュエンジンスイッチに接触させてエンジンを始動させてください。</p> <p>(アクセスキーが使用できないとき→438ページ)</p>
 <p>車内にキーがあります</p>	<p>車内にアクセスキーがある状態で、リクエストスイッチで施錠しようとしたときに表示</p> <p>●表示すると同時に警告ブザーが鳴ります。</p>	<p>アクセスキーを携帯してリクエストスイッチを押してください。</p>

警告メッセージ	表示される状況	処置
 <p>車内にキーがあります</p>	<p>車内にアクセスキーがある状態で、車内の運転席ドアのロックレバーを施錠方向に押し込み、運転席ドアハンドルを引いたままドアを閉めたときに表示</p> <p>●表示すると同時に警告ブザーが鳴ります。</p>	<p>アクセスキーを携帯して、ドアを施錠してください。</p>
 <p>キーの電池残量が残りわずかです</p>	<p>アクセスキーの電池切れが近い状態で、プッシュエンジンスイッチを“OFF”にしたときに表示*</p> <p>●表示すると同時に警告ブザーが鳴ります。</p>	<p>アクセスキーの電池を交換してください。 (キーの電池交換→401ページ)</p>
 <p>電源をOFFにしてください</p>	<p>プッシュエンジンスイッチが“ACC”または“ON”で、リクエストスイッチで施錠しようとしたときに表示</p> <p>●表示すると同時に警告ブザーが鳴ります。</p>	<p>プッシュエンジンスイッチを“OFF”にしてリクエストスイッチを押してください。</p>
 <p>ハンドルを左右に回しながらエンジンスイッチを押してください</p>	<p>ハンドルロックが解除されていない状態でプッシュエンジンスイッチを押したときに表示</p> <p>●表示すると同時に警告ブザーが鳴ります。</p>	<p>ハンドルを左右に動かしながら、プッシュエンジンスイッチを押してください。</p>
 <p>Pレンジに入れて電源をOFFにしてください</p>	<p>セレクトレバーがPレンジ以外の状態で、プッシュエンジンスイッチを“OFF”にしようとしたときに表示</p>	<p>セレクトレバーをPレンジにして、プッシュエンジンスイッチを“OFF”にしてください。</p>

警告メッセージ	表示される状況	処置
 <p>バッテリー保護のため 自動で電源を OFFにしました</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●セレクトレバーがPレンジで、プッシュエンジンスイッチが“ACC”のまま約1時間放置したときに表示 ●セレクトレバーがPレンジで、プッシュエンジンスイッチが“ON”のまま約20分放置したときに表示 	<p>プッシュエンジンスイッチを“OFF”にしてください。</p>
 <p>給油してください</p> 	<p>燃料残量が少なくなるときに、燃料残量警告灯が点滅・点灯と同時に表示</p> <ul style="list-style-type: none"> ●表示すると同時に警告ブザーが鳴ります。 	<p>ただちに燃料を給油してください。</p>
 <p>タイヤが左を向いています</p>  <p>タイヤが右を向いています</p>	<p>停車時、ハンドルが左、または右に操作されているときに表示</p>	<p>タイヤの位置を確認し、安全に進んでください。</p>

知識

- ハンドルポジションモニターの設定を“OFF”に設定しているときは、ハンドルが右、または左に操作されていても警告メッセージは表示されません。

(表示画面の設定→200ページ)

表示画面の設定

停車中に、“設定画面”に表示して、表示の設定や調整、機能の“ON”、“OFF”を変更することができます。

表示画面の設定をするときは

操作スイッチを押して、表示項目の選択、決定をします。

“設定画面”を表示してそれぞれの項目を選択し、設定を行ってください。

(操作スイッチ→168ページ)

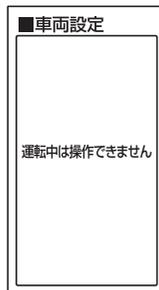
▼ “設定画面”を表示するときは



基本画面を表示しているときにENTERスイッチを押してください。“設定画面”が表示されます。

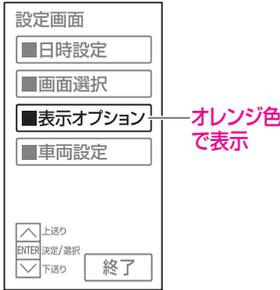
知識

- 走行中は“設定画面”に表示が切り替わりません。



- 基本画面に“メッセージ確認”が表示されているときは、表示は切り替わりません。
(メッセージ確認→180ページ)

▼ 項目を選択、決定するときは



△スイッチ、または▽スイッチを押して項目を選択した後、ENTER スイッチを押します。

- 選択した項目がオレンジ色で表示されます。

▼ カテゴリ、日時、距離を決定するときは

カテゴリ、日時、距離の項目を選択して ENTER スイッチを押すと、▲と▼が表示されます。△スイッチ、または▽スイッチを押して設定した後、ENTER スイッチを押して決定します。

例：日時設定の“時”



例：お知らせ通知の“カテゴリ”



▼ 一つ前の画面に戻る、または設定画面を終了するときは



- “戻る”の項目を選択して ENTER スイッチを押すと、一つ前の画面に戻ります。
- “終了”の項目を選択して ENTER スイッチを押すと、基本画面に戻ります。

■ 設定項目

以下の項目の設定や調整、機能の“ON”、“OFF”を変更することができます。

- 日時の設定
(日時設定→203 ページ)
- 基本画面の選択
(画面選択→204 ページ)
- 表示オプションの“ON”、“OFF”設定
 - オープニング画面、エンディング画面の表示
 - エコドライブ照明、eco ゲージの表示
 - 平均燃費の給油時リセット
 - アイドリングストップ表示の自動切替
 - ハンドルポジションモニター
(表示オプション設定→205 ページ)
- メーターの照度調整
(明るさ調整→206 ページ)
- 誕生日、記念日、車検日、点検日の通知日設定
(お知らせ通知日設定→208 ページ)
- エンジンオイル交換、オイルフィルター交換、タイヤローテーションの設定
(メンテナンス設定→211 ページ)
- 先行車発進お知らせ機能、車線逸脱警報機能のブザー音量調整
(先行車発進、車線逸脱警報ブザー音量設定→215 ページ)
- 表示設定の初期化
(表示設定初期化→216 ページ)

日時設定

年、月、日、時計、時計表示（12 時間表示、24 時間表示）の設定をします。

- 1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して、“設定画面”を表示する
(表示画面の設定をするときは
→200 ページ)



- 2 “設定画面”の“日時設定”を選択する



- 3 年、月、日、時計、時計表示（12 時間表示、24 時間表示）を設定する
 - “12H/24H”（時計表示）は、ENTER スイッチを押すたびに“12H”（12 時間表示）と“24H”（24 時間表示）が切り替わります。

画面選択

表示する基本画面を選択します。

- 1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して、“設定画面”を表示する
(表示画面の設定をするときは
→200 ページ)



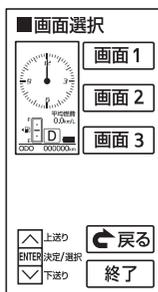
- 2 “設定画面”の“画面選択”を選択する

- 3 表示する基本画面を選択する

画面 1：エコモード

画面 2：シンプルモード

画面 3：時計モード



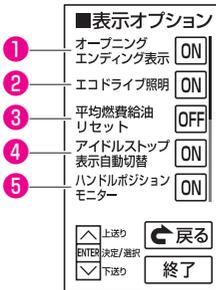
表示オプション設定

表示、および機能の“ON”、“OFF”を設定します。

- 1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して、“設定画面”を表示する
(表示画面の設定をするときは → 200 ページ)



- 2 “設定画面”の“表示オプション”を選択する



- 3 各機能の“ON”、“OFF”の設定をする

- ENTER スイッチを押すたびに“ON”、“OFF”が切り替わります。

- 1 オープニング画面、エンディング画面の表示
- 2 エコドライブ照明、eco ゲージの表示
- 3 平均燃費の給油時リセット
- 4 アイドリングストップ表示の自動切替
- 5 ハンドルポジションモニター
(“OFF” のときは、ハンドル位置の警告メッセージは表示されません。)

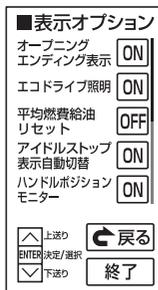
明るさ調整

メーターの照度調整をします。

- 1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して、“設定画面”を表示する
(表示画面の設定をするときは
→200 ページ)



- 2 “設定画面”の“表示オプション”を選択する

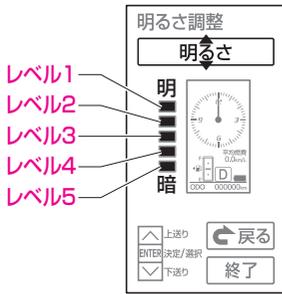


- 3 “表示オプション”の画面で、△スイッチ、または▽スイッチを長押しして、表示画面を切り替える

- △スイッチ、または▽スイッチを押して、上送り、または下送りの操作を続けても表示画面は切り替わりません。

- 4 “明るさ調整”を選択する





5 ENTER スイッチを押して“明るさ”を選択した後、ハスイッチ、またはVスイッチを押して照度を調整する

- “明るさ”を選択すると▲と▼が表示され、照度の表示がオレンジ色に変わります。

- 昼間用、および夜間用としてそれぞれ設定することができます。

昼間用

車幅灯を消灯して調整します。

夜間用

車幅灯を点灯して調整します。

知識

- 夜間用を“レベル 1”に設定すると、車幅灯を点灯させたときにメーター照明が減光しません。

お知らせ通知日設定

オープニング画面で表示される誕生日、記念日、車検日、点検日の通知日を設定します。

知識

- 最大 10 までの通知日を設定することができます。

- 1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して、“設定画面”を表示する

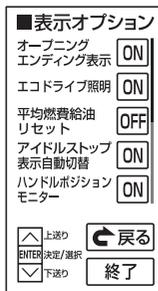
(表示画面の設定をするときは
→ 200 ページ)

- 2 “設定画面”の“表示オプション”を選択する



- 3 “表示オプション”の画面で、∧ スイッチ、または ∨ スイッチを長押しして、表示画面を切り替える

- ∧ スイッチ、または ∨ スイッチを押して、上送り、または下送りの操作を続けても表示画面は切り替わりません。



■表示オプション

明るさ調整

お知らせ設定

上送り
ENTER 決定/選択
下送り

戻る

終了

4 “お知らせ設定” を選択する

お知らせ設定

お知らせ通知日設定

メンテナンス設定

上送り
ENTER 決定/選択
下送り

戻る

終了

5 “お知らせ通知日設定” を選択する

お知らせ通知日設定

設定日 1 (未設定)

設定日 2 (未設定)

設定日 3 (未設定)

設定日 4 (未設定)

設定日 5 (未設定)

上送り
ENTER 決定/選択
下送り

戻る

終了

6 1～10のいずれかの設定日を選択する

お知らせ通知日設定

設定日 6 (未設定)

設定日 7 (未設定)

設定日 8 (未設定)

設定日 9 (未設定)

設定日 10 (未設定)

上送り
 ENTER 決定/選択
 下送り

例：点検日

設定日 1

カテゴリ

点検日

日付

2016年

11月

24日

上送り
 ENTER 決定/選択
 下送り

例：点検日

お知らせ通知日設定

設定日 1 点検日設定済

設定日 2 (未設定)

設定日 3 (未設定)

設定日 4 (未設定)

設定日 5 (未設定)

上送り
 ENTER 決定/選択
 下送り

7 6～10の設定日に設定する場合は、
 ▲スイッチ、または▼スイッチを長押しする

- 6～10の設定日が表示されます。
- ▲スイッチ、または▼スイッチを押して、上送り、または下送りの操作を続けても表示画面は切り替わります。

8 カテゴリ（誕生日、記念日、車検日、点検日）を設定する

9 年、月、日を設定する

- 誕生日、記念日は、年の設定はありません。

10 設定が完了すると、“設定済”と表示される

知識

- 誕生日、記念日は2月29日に設定すると、うるう年以外の年は3月1日に表示します。

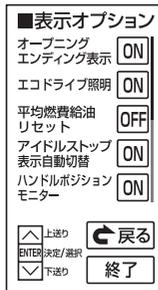
メンテナンス設定

オープニング画面で表示されるエンジンオイル交換、オイルフィルター交換、タイヤローテーション時期の“ON”（表示）、“OFF”（非表示）、およびお知らせする距離の設定、リセットをします。

- 1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して、“設定画面” を表示する
(表示画面の設定をするときは
→ 200 ページ)



- 2 “設定画面” の “表示オプション” を選択する



- 3 “表示オプション” の画面で、∧ スイッチ、または ∨ スイッチを長押しして、表示画面を切り替える
 - ∧ スイッチ、または ∨ スイッチを押して、上送り、または下送りの操作を続けても表示画面は切り替わりません。

- 4 “お知らせ設定” を選択する





5 “メンテナンス設定” を選択する

▼ “ON”、“OFF” を設定する場合は

6 メンテナンスの各項目の “ON”、または “OFF” を選択して、ENTER スイッチを押す

- ENTER スイッチを押すたびに “ON”、“OFF” が切り替わります。

7 タイヤローテーションの設定する場合は、△ スイッチ、または▽ スイッチを長押しする

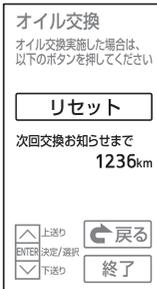
- タイヤローテーションの項目が表示されます。
- △ スイッチ、または▽ スイッチを押して、上送り、または下送りの操作を続けても表示画面は切り替わります。

知識

- 表示が “OFF” で距離が設定されていない場合は、リセットの設定画面に表示が変わります。



例：オイル交換



▼ 距離を設定、リセットする場合は

8 メンテナンスの各項目の“設定”を選択する

9 タイヤローテーションを設定する場合は、△スイッチ、または▽スイッチを長押しする

- タイヤローテーションの項目が表示されます。
- △スイッチ、または▽スイッチを押して、上送り、または下送りの操作を続けても表示画面は切り替わりません。

10 “リセット”を選択する

知識

- すでに距離が設定されている場合は、次回お知らせするまでの距離が表示されます。

例：オイル交換

オイル交換

次回交換お知らせまで

10000 km

決定

11 距離を選択した後、“決定”を選択する

 **知識**

- 距離は、500km 単位で、最大 20,000km まで設定できます。
- それぞれの項目のメンテナンス時期を確認して、距離を設定してください。
(サービスデータ→ 444 ページ)

例：オイル交換

オイル交換

オイル交換実施した場合は、
以下のボタンを押してください

リセット

次回交換お知らせまで
10000km

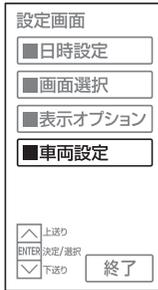
↑ 上送り ← 戻る
ENTER 決定/選択
↓ 下送り 終了

12 設定した距離が表示される

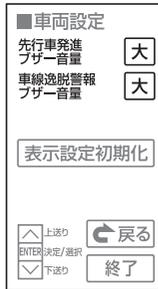
■ 先行車発進、車線逸脱警報ブザー音量設定

スマートアシストIIの先行車発進お知らせ機能、車線逸脱警報機能のブザー音量を調整します。

- 1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して、“設定画面”を表示する
(表示画面の設定をするときは
→ 200 ページ)



- 2 “設定画面”の“車両設定”を選択する



- 3 先行車発進ブザー音量、車線逸脱警報ブザー音量の“大”、“小”の設定をする
● ENTER スイッチを押すたびに“大”、“小”が切り替わります。

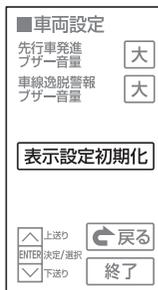
表示設定初期化

表示設定を初期化（出荷時の状態）します。

- 1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して、“設定画面”を表示する
(表示画面の設定をするときは
→200 ページ)



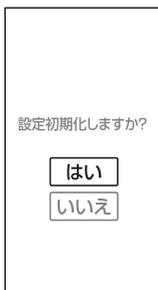
- 2 “設定画面”の“車両設定”を選択する



- 3 “表示設定初期化”を選択する

- 4 “はい”を選択する

- 表示設定が初期化されます。



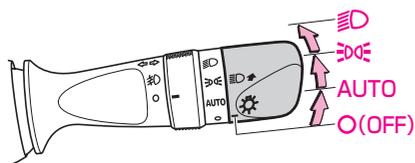
▼ 初期設定一覧

項 目		初期設定
基本画面		エコモード
オープニング画面、エンディング画面の表示		ON
エコドライブ照明、ecoゲージの表示		ON
平均燃費の給油時リセット		OFF
アイドリングストップ表示の自動切替		ON
ハンドルポジションモニター		ON
メーターの照度	昼間用	レベル1
	夜間用	レベル2
誕生日、記念日、車検日、点検日の通知日設定		未設定
エンジンオイル交換、オイルフィルター交換、タイヤローテーションの設定		OFF
エンジンオイル交換、オイルフィルター交換、タイヤローテーションの距離		未設定
先行車発進お知らせ機能のブザー音量		大
車線逸脱警報機能のブザー音量		大

スイッチの使いかた

ライティングスイッチ

ランプの点灯



▼ 操作方法

- スイッチを回すと、下表のランプ類が点灯します。

ランプ	前照灯	車幅灯 番号灯 尾灯
スイッチ位置 ☰⊙	点灯	点灯
☰⊙	—	点灯
AUTO※	自動点灯・消灯	
O(OFF)	—	—

※：オプション/グレード別装備

⚠ 注意

バッテリーあがりを防ぐために

- エンジン停止中は、ランプ類を長時間点灯しないでください。また、車から離れるときは、必ずライティングスイッチを“OFF”にしてください。

ランプの消灯

▼ 操作方法

スイッチを“OFF”の位置にします。

オートライト機能

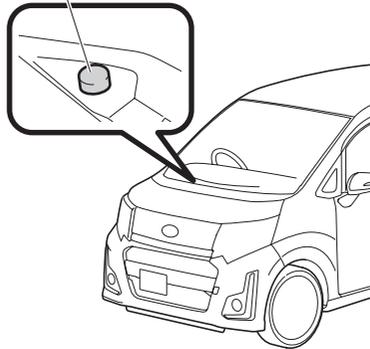
オプション/グレード別装備

- エンジンスイッチが“ON”でライティングスイッチが“AUTO”の位置のとき周囲の明るさに応じてヘッドランプ、車幅灯などが自動で点灯・消灯します。
- エンジンを停止し、運転席ドアを開くと、自動的に消灯します。

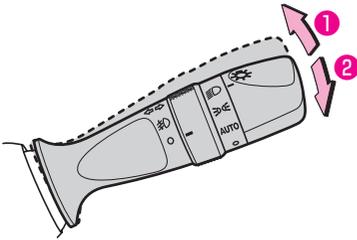
知識

- オートライトセンサーの上に物を置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけると、センサーが正常に作動しなくなることがあります。

オートライトセンサー
(日射センサー兼用)



ヘッドランプの切り替え



▼ ランプ点灯時ハイビームに切りかえる

- ライティングスイッチが“”または“”の位置のときレバーを押します。
(1)
(戻すと下向き (ロービーム) になります)

▼ 一時的に使用する

- ランプが消灯していても、レバーを手前に引いている間 (2)、前照灯が上向きに点灯します。
(レバーを離すと下向き (ロービーム) または消灯します)

⚠ 注意

- 対向車のあるときや市街地走行のときは、対向車や歩行者の迷惑となり危険ですので前照灯を下向きにして走行してください。

ランプ自動消灯機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、ランプ類を点灯したまま、エンジンスイッチを“OFF”または“ACC”にして、運転席のドアを開けると、ランプ類が自動で消灯します。

再びランプを点灯させる場合は、以下の操作をします。

- エンジンスイッチを“ON”にする
または
- ライティングスイッチを“OFF”に戻し、再度“”、または“”の位置にする (ただし、節電機能が働き、約 10 分後に自動で消灯します)

節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチが“OFF”または“ACC”の状態でもランプ類が点灯している場合、節電機能が働き約 10 分後に自動消灯します。

自動消灯した後、次のいずれかの操作を行うと、節電状態は解除され、ランプ類が点灯します。

- エンジンスイッチを“ON”にする
または
- ライティングスイッチを操作する、またはいずれかのドアを開閉する (ただし、約 10 分後に再び自動で消灯します)

ランプ消し忘れ警告ブザー

エンジンスイッチが“OFF”または“ACC”の状態、ランプを点灯して、運転席のドアを開けると、ブザー（連続音）が鳴りランプの消し忘れを知らせます。

知識

- 運転席ドアを開けたときに、ランプ類が自動消灯機能により消灯した場合、警告ブザーは鳴りません。

ロービーム・オートレベリング機能

オプション/グレード別装備

乗員数や積載量などの車両姿勢の変化に対して、ヘッドランプの光軸（光の照らす方向）の上下方向を自動的に調整する機能です。

知識

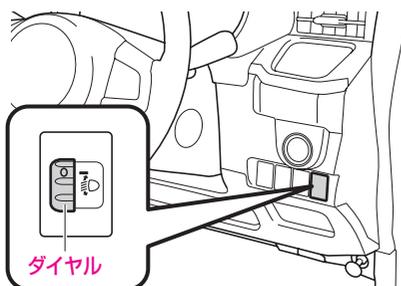
- エンジンを始動して、初めてヘッドランプを点灯したとき、システムの正常な作動をチェックしているため、ヘッドランプの光軸が動くことがあります、異常ではありません。
- ヘッドランプの光軸に異常を感じたときは、スバル販売店で点検を受けてください。

光軸調整ダイヤル

ハロゲンヘッドランプ装着車

ヘッドランプが点灯しているときに使用できます。

- ヘッドランプの光軸（光の照らす方向）が上に向いた場合、ダイヤルを回すことで光軸を下向きに調整することができます。
- 通常はダイヤルを“0”（光軸が一番上向きの位置）で使用します。



▼ 調整方法

ダイヤルを回すと、ヘッドランプの光軸が上下に変わります。

- ダイヤルの数字が大きいほど下向きになります。
- 乗員数や積載量に応じて、下表を目安にダイヤルを調整してください。

乗車や荷室の積載状況	ダイヤル位置	
	2WD	AWD
運転席のみ乗車時	0	0
運転席と助手席に乗車時	0.5	0
4名乗車時	2	1
4名乗車で荷室満載時	2.5	2
運転席のみ乗車で荷室満載時	3.5	3

知識

- 乗員や荷物を降ろしたあとは、ダイヤルを“0”に戻してください。
- 車検などで光軸の調整をするときは、ダイヤルを“0”にしてから行ってください。

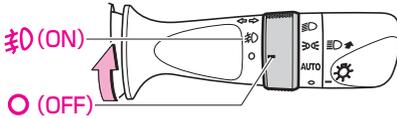
LEDヘッドランプ装着車

- ヘッドランプの光軸は自動的に調整されるため、光軸調整ダイヤルは装着されていません。

フォグランブスイッチ

オプション/グレード別装備

夜間の雨、霧のような天候のときにご利用ください。



▼ 点灯のしかた

- 車幅灯が点灯しているとき、スイッチを“ON”にします。
(メーター内の表示灯が点灯します)

▼ 消灯のしかた

- スイッチを“OFF”にします。
(メーター内の表示灯が消灯します)

ワイパー・ウォッシャースイッチ

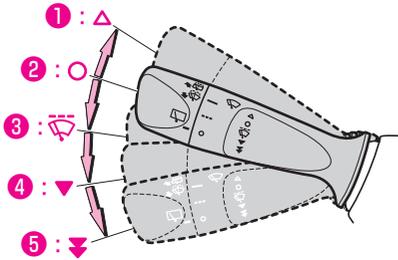
⚠ 注意

- 空ぶきはガラス面に傷を付けますので、ウォッシャー液を噴射させてからワイパーを作動させてください。
- 寒冷時、または長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパーゴムがガラスに張り付いていないことを確認してください。張り付いたまま作動させるとワイパーモーターが損傷し、故障の原因になります。
- 積雪などの障害物によりワイパーが途中で止まってしまうときは、障害物を取り除いてからワイパーを作動させてください。無理に作動させるとワイパーモーターに負担がかかり故障の原因となります。
- ウォッシャー液を連続して 20 秒以上噴射させないでください。またウォッシャー液が出ないときはウォッシャースイッチを作動させないでください。モーターに負担がかかり故障の原因となります。
- 寒冷時は、ガラスが暖まるまで、ウォッシャー液を吹き付けしないでください。吹き付けられた液が凍結し、視界をさまたげることがありますので、先にガラス面を暖めてください。
- フロントワイパーアームを起こすときは、以下のことをお守りください。
 - 必ずワイパーアームの部分を持って起こしてください。ワイパーブレードの部分だけを持って起こすと、ブレードが変形するおそれがあります。
 - 必ず運転席側のワイパーアームから起こしてください。また、もとに戻すときは助手席側のワイパーアームから戻してください。

フロント

エンジンスイッチが“ON” のとき使用できます。

ワイパーの使いかた



レバーを上下に操作すると、ワイパーが作動します。

- ①：一時作動
- ②：停止
- ③：間欠作動
- ④：低速作動
- ⑤：高速作動

▼ 一時作動の使いかた

レバーを(②) から(①) の位置に押し上げている間、ワイパーが低速作動します。手を離すと(②) の位置に戻ります。

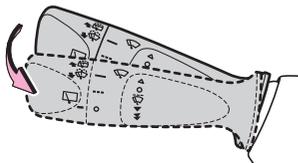
▼ 車速感应式ワイパー

レバーを(③) の位置(間欠作動)にしたとき、車速に応じてワイパーが作動します。

知識

- 間欠作動中は、車速が速くなると車速に応じて間隔が短くなります。
- 車速感应作動の機能を停止することができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

ウォッシャー液の噴射



レバーを手前に引くとウォッシャー液が噴射します。

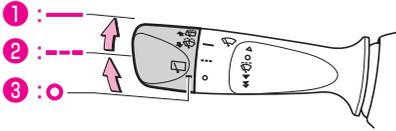
知識

- フロントウォッシャーを作動させると連動してフロントワイパーが低速作動します。

リヤ

エンジンスイッチが“ON” のとき使用できます。

ワイパーの使いかた



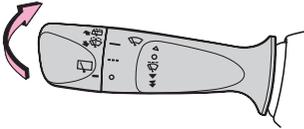
スイッチを回すと、リヤワイパーが作動します。

- ①：低速作動
- ②：約 4 秒間低速作動した後、間欠作動
- ③：停止

知識

- 下記のように、(②)の間欠作動の機能を変更することができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。
 - 間欠作動の間隔を変更する
 - 約 4 秒間の低速作動を停止する

ウォッシャー液の噴射



レバーを押すとウォッシャー液が噴射します。

知識

- リヤワイパーが停止しているときにリヤウォッシャーを作動させると、リヤワイパーが作動するように機能を変更することができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

リバース連動リヤワイパー

- フロントワイパーが作動中に、セレクトレバーを  レンジにすると、リヤワイパーが数回作動します。

知識

- フロントワイパーが停止後、約 10 秒間はセレクトレバーを  に入れると、リヤワイパーが数回作動します。
- 機能を停止することができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

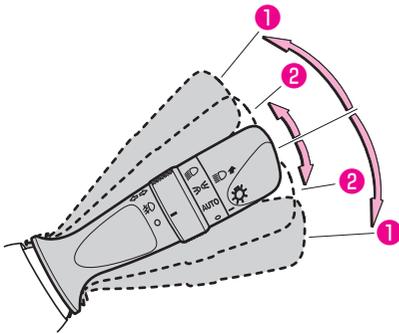
ホーンスイッチ

ハンドルの  マーク周辺部を押すとホーンが鳴ります。

知識

- 緊急時、非常時以外は、むやみに使用しないでください。

方向指示レバー



操作方法

レバーを(1)の位置まで上下に操作すると、方向指示灯およびメーター内の方向指示器表示灯が点滅します。

- レバーは操作したあと、すぐに元の位置に戻ります。
- 右左折後、ハンドルを戻すと消灯します。消灯しないときは、レバーを(2)の位置まで軽く操作してください。

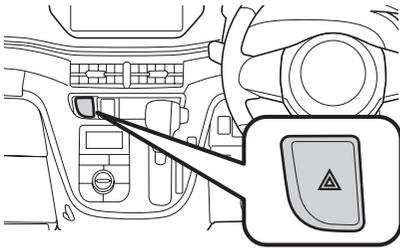
車線変更などのときは、レバーを(2)の位置まで軽く上下に操作します。

- レバーを上下に操作している間点滅し、手を離すと消灯します。
- (2)の位置まで操作したあと、すぐに手を離れたときは、3回点滅します。

知識

- 点滅が異常に速くなったときは、方向指示灯の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。
- 下記のように機能を変更することができます。詳しくは、スバル販売店にご相談ください。
 - (2)の位置まで操作したときの3回点滅を停止する
 - 3回点滅するときのレバー操作の時間を変更する
 - 右左折後に消灯するハンドルの角度を変更する

非常点滅表示灯スイッチ



▼ 操作方法

スイッチを押すと左右の方向指示灯が点滅します。もう一度押すと元に戻ります。

⚠ 注意

- 故障などの非常時に、やむを得ず路上駐車するとき以外はむやみに使用しないでください。
- 使用後はスイッチを確実に戻してください。スイッチを戻さないと方向指示灯がはたらきません。

📖 知識

バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを止めた状態で長時間使用しないでください。

車を運転するにあたって

運転するときは

運転をする前に	230
運転のしかた	232
運転するときの注意事項	235

運転装置の使いかた

エンジンスイッチ	
（電波式リモコンドアロック装着車）	239
プッシュエンジンスイッチ	
（キーレスアクセス装着車）	241
駐車ブレーキ	246
セレクトレバー	247
POWER モード切り替え	
スイッチ	250

ABS

ABS (EBD 機能付)	252
---------------	-----

VDC&TRC

VDC (ビークル ダイナミクス	
コントロール)	254
TRC	255
メーター表示	257
VDC&TRC OFF	
スイッチ	259

ヒルホールドシステム

ヒルホールドシステム	260
------------	-----

スマートアシストⅡ

スマートアシストⅡ	262
レーザーレーダー	264
単眼カメラ	266
ソナー	267
衝突警報機能	
（対車両・対歩行者）、	
衝突回避支援ブレーキ機能	268
誤発進抑制制御機能、	
後方誤発進抑制制御機能	276
先行車発進お知らせ機能	285
車線逸脱警報機能	288
メーター表示	292
スマートアシスト OFF	
スイッチ	299

エマージェンシーストップ

シグナル

エマージェンシーストップ	
シグナル	301

アイドリングストップシステム

「アイドリングストップ」	302
--------------	-----

発電制御

発電制御	315
------	-----

運転するときは

運転をする前に

知っておいていただきたい、操作上の注意や特性があります。よく理解し、正しい取り扱いをしてください。

ターボ車

オプション/グレード別装備

高速走行、登坂走行直後にエンジンを停止するときは、必ず約 1 分程度アイドリング運転をしてからエンジンを止めてください。

(「アイドリングストップ」が作動したときは、アイドリング運転は不要です)

⚠ 注意

- エンジン始動直後（エンジンが冷えているときは、エンジンの急激な空ぶかし、または急加速をしないでください。
- エンジン回転数がタコメーターの赤色表示域（エンジン許容回転数以上）に入らないように運転してください。
- 定期的なオイル交換、オイルフィルターの交換を必ず行ってください。

CVT 車の特性

クリープ現象

CVT 車は、エンジンがかかっているとき、セレクトレバーが 、 レンジ以外の位置で動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと動き出す現象のことをいいます。

⚠ 注意

- エンジン始動直後やエアコン作動時など、自動的にエンジンの回転が上がリ（アイドルアップ）、クリープ現象が強くなります。その際、ブレーキペダルの踏みごたえに変化がでることがありますので、ブレーキペダルはしっかりと踏んでください。

📖 知識

- 停車中は、平坦路であっても車が動かないように、ブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。

ブレーキオーバーライドシステム

アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、駆動力を抑制する場合があります。

- ブレーキオーバーライドシステムの作動をメーター表示でお知らせします。

(ブレーキオーバーライドシステム表示灯
→ 155 ページ)

(警告メッセージ → 189 ページ)

⚠ 警告

- ブレーキオーバーライド機能に頼った運転は絶対に行わないでください。あらゆる状況で衝突を回避するものではありません。
- ブレーキオーバーライド機能の性能には限界があります。誤った使用をすると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

AWD 車

オプション/グレード別装備

⚠ 注意

- AWD 車はどのような所でも走れる万能車ではありません。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行い、常に安全運転に心がけてください。また、オフロード走行や、ラリー走行を目的とした車ではありません。タイヤがはまり込むような深い砂地、海水、水たまりなどに入り入れないでください。やむを得ず走行したときは、走行後各部を念入りに洗ってください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。渡河などの水中走行をすると、エンストするだけでなく、電装品のショート、エンジンの破損などの重大な車両故障につながるおそれがあります。万一、水中に浸かってしまったときは、必ずスバル販売店で点検を受けてください。
- AWD 車は雪道や水たまりなどの滑りやすい路面ですぐれた走行性能を発揮しますが、極端な急ブレーキ、急ハンドルはさけて、十分に余裕を持って走行してください。

万一脱輪したときは

- いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

フルタイム AWD システム

📖 知識

- ステラは、フルタイム AWD システムを採用しています。フルタイム AWD システムは、2WD と AWD を切り替えるモード切り替えスイッチはありません。また AWD 表示灯もありません。

AWD 車のタイヤについて

AWD 車は 4 つのタイヤに駆動力がかかるため、タイヤの状態が車の性能に大きく影響します。

タイヤの状態には細心の注意をしてタイヤの点検は忘れずに行ってください。

(タイヤの点検 → 370 ページ)

(タイヤの交換 → 372 ページ)

(タイヤチェーンの装着 → 410 ページ)

運転のしかた

安全運転を心がけ、次の手順で走行してください。

- 運転手順のそれぞれに、注意していただきたいことがあります。

「運転するときの注意事項」も、必ずお読みください。

(運転するときの注意事項→235 ページ)

- 各運転装置の使いかたは以下を参照ください。

(エンジンスイッチ→239 ページ)

(プッシュエンジンスイッチ→241 ページ)

(セレクトレバー→247 ページ)

(駐車ブレーキ→246 ページ)

エンジンをかける

▼ 準備

- キーレスアクセス装着車は、アクセスキーを携帯し、運転席に座ります。

- 正しい運転姿勢がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認します。

(正しい運転姿勢→34 ページ)

(車体各部の調整→122 ページ)

▼ 操作手順

電波式リモコンドアロック装着車

- 1 セレクトレバーが  レンジの位置にあることを確認する
- 2 ブレーキペダルをしっかり踏む
- 3 エンジンスイッチを“START”まで回す

キーレスアクセス装着車

- 1 セレクトレバーが  レンジの位置にあることを確認する
- 2 ブレーキペダルをしっかり踏む
 - プッシュエンジンスイッチの表示灯が緑色に点灯します。
- 3 プッシュエンジンスイッチを押す

■ エンジンスタートサポート

エンジンスタートサポートはエンジン始動操作を補助するシステムです。

エンジンが始動するまでの間、自動的にスターターを回す時間を延長します。エンジンスイッチを“START”の位置で保持する（プッシュスタート装着車はスイッチを押し続ける）必要はありません。

- エンジンスタートサポート作動中にエンジン始動を中止したいときは、エンジンスイッチを“ACC”または“OFF”にしてください。
- バッテリーあがりを防ぐため、エンジンスタートサポート作動中に始動操作が中断されることがあります。

■ 発進する

- 1 ブレーキペダルを右足で踏んだままセレクトレバーを  レンジに入れる
 - 状況に応じて 、 レンジに、後退のときは  レンジに入れます。
- 2 駐車ブレーキを解除する
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくりと踏み、発進する

■ 坂道発進するときは

- 1 駐車ブレーキをしっかりとかけ、セレクトレバーを  レンジに入れる
- 2 右足でアクセルペダルをゆっくり踏み
- 3 車が動き出す感触を確認してから、駐車ブレーキを解除し、発進する

■ 走行するときは

▼ 通常走行するときは

-  レンジで走行します。

▼ 強い加速が必要なときは

- アクセルペダルを踏み込みます。
 - 自動的に変速比が切りかわり、力強い加速が得られます。（キックダウン）

▼ 強いエンジンブレーキを必要とするときは

- 長い下り坂や急な下り坂など、路面状態やスピードに応じて  レンジまたは  レンジに切り替えます。

停車する

- 1 セレクトレバーは走行位置のまま、ブレーキペダルをしっかりと踏む
- 2 ブレーキペダルを踏んだまま、必要に応じて駐車ブレーキをかける
 - 長時間停車する場合は、セレクトレバーを **Ⓔ** または **Ⓗ** レンジに入れます。

後退する

車が完全に止まってからも、ブレーキペダルをしっかりと踏み続け、セレクトレバーを **Ⓔ** レンジに入れます。

リバース警告ブザー

セレクトレバーを **Ⓔ** レンジに入れると車内で警告ブザーが鳴り、運転者にセレクトレバーが **Ⓔ** レンジにあることを知らせます。（警告ブザーは車外には聞こえません）

駐車する

電波式リモコンドアロック装着車

- 1 セレクトレバーを **Ⓔ** レンジのまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 車が完全に止まってから、セレクトレバーを **Ⓔ** レンジにする
- 3 駐車ブレーキをかける
- 4 エンジンスイッチを“LOCK”まで回してキーを抜く
- 5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

▼ 坂道で駐車するときは

- 必要に応じて、輪止めを使用してください。

キーレスアクセス装着車

- 1 セレクトレバーを **Ⓔ** レンジのまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 車が完全に止まってから、セレクトレバーを **Ⓔ** レンジにする
- 3 駐車ブレーキをかける
- 4 プッシュエンジンスイッチを押して、エンジンを停止する
- 5 アクセスキーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

▼ 坂道で駐車するときは

- 必要に応じて、輪止めを使用してください。

運転するときの注意事項

⚠ 警告

発進するときは

- ㊦レンジから㊨レンジの間でセレクトレバーを動かすときは、突然車が動き出し思わぬ事故につながるおそれがありますので、必ずブレーキペダルを踏みながら、セレクトレバーを動かしてください。
- アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーの操作をしないでください。急発進して思わぬ事故の原因になります。

走行中は

- エンジンスイッチにさわらないでください。誤って操作し、エンジンが停止すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 坂道などでは、セレクトレバーを㊨、㊩、㊪レンジに入れたまま惰性で後退したり、㊨レンジに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。エンストを起こし、ブレーキの効が悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車が完全に止まらないうちに㊦レンジに入れしないでください。また、前進走行中に㊨レンジ、および後退中は㊨、㊩、㊪レンジに入れしないでください。トランスミッションに重大な損害をあたえると共に、車がコントロールを失い思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

エンジンをかけるときは

- エンジン冷却水温が低い間は、急激な空ぶかし、急加速、高速走行はしないでください。
- 電波式リモコンドアロック装着車のエンジン始動後は、すぐにキーから手を離してください。“START”にしたままですと、エンジンを損傷するおそれがあります。
- 必ず運転席に座ってエンジンをかけてください。窓越しからエンジンをかけると車が急に動き出すおそれがあり危険です。

発進するときは

- 踏み誤りを防ぐため、ブレーキペダルは右足で踏む習慣を身に付けてください。左足でのブレーキ操作は思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 始動直後およびエアコン使用時は、自動的にエンジン回転が高くなり（アイドルアップ）、動こうとする力が強くなります。発進時にセレクトレバー操作をするときはしっかりとブレーキペダルを踏んでください。
- 坂道発進時など、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んで発進しないでください。故障の原因となります。

⚠ 注意

発進するときは

- セレクトレバーがどの位置にあるかをセレクトレバー部またはメーター内のインジケーターで確認してください。
- セレクトレバーが **P**、**N** レンジ以外の位置にあると、アクセルペダルを踏まなくても動こうとする特性を持っています。(クリーブ現象)
- マニュアル車は発進のスピードを半クラッチ操作とアクセル操作を併用して調整しますが、CVT 車ではアクセル操作のみで行いますので、アクセル操作は特に慎重に行ってください。
- 切り返しなどで **D** から **R**、**R** から **D** レンジと何度もセレクトレバー操作をするときは、そのつどブレーキペダルをしっかりと踏み、完全に車を止めてから行ってください。
完全に止まらない状態でシフトの切り替えを行うとトランスミッションに負担がかかり故障の原因となります。また必ずシフト位置も確認してください。
- 急発進を防ぐために **P** から **R**、**N** から **D**、**N** から **R** レンジにセレクトレバー操作をするときもブレーキペダルをしっかりと踏んでから行ってください。

走行中は

- ブレーキペダルに足をのせたまま走行しないでください。ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し、効きが悪くなるおそれがあります。
- 滑りやすい路面やカーブでは、急激なアクセルペダルの操作はやめてください。急加速をするため、スリップしたり、カーブを曲がりきれず思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。走行中、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。
- 長い下り坂や急な下り坂を **D** レンジのまま走行するとスピードが出すぎてしまうことがあります。このようなときに、フットブレーキを使いすぎるとブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。エンジンブレーキを併用してください。

停車するときは

- 平坦路であっても、停車が長びくときは、必ず駐車ブレーキをかけてください。
- 上り坂での停車は、クリーブ現象で前へ進もうとする力よりも車が後退しようとする力の方が大きくなり、車が後退することがあります。ブレーキペダルを踏み、駐車ブレーキをかけてください。
- エアコン作動中は自動的にエンジン回転が高くなり、急にクリーブ現象が強くなりますので、特にしっかりとブレーキペダルを踏んでください。

⚠ 注意**後退するとき**

- 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ブレーキ操作が確実にできるように注意してください。
- 少し後退したあとなどは **R** レンジに入れたことを忘れてしまうことがあります。後退したあととはすぐ **N** レンジに戻すよう習慣付けましょう。

駐車するとき

- 必ず駐車ブレーキをかけてください。
- エンジンをかけたままで車から離れないでください。
- 車から離れるときはエンジンスイッチを“LOCK”の位置にしてキーを抜いてください。（プッシュスタート装着車は、プッシュエンジンスイッチを“OFF”にします）
“ON”や“ACC”のままにしていると、バッテリーあがりの原因となります。
- ターボ車は、高速および登坂走行の直後にエンジンを止めるときは、必ずアイドリング運転を約1分程度行ってください。（「アイドリングストップ」が作動したときは、アイドリング運転は不要です）
- **P** レンジでは車輪が固定されます。駐車するときは必ず **P** レンジにあることを確認してください。

 **知識**

エンジンをかけるときは

- エンジンの始動性を良くするためにランプ、リヤウインドウデフォグー、ヒーターファンなどのスイッチは“OFF”にしてください。
- エンジン始動後は、各警告灯が消灯するのを確認してください。（ただし駐車ブレーキ未解除警告灯は除きます）
- エンジン始動後は、自動制御装置のはたらきによりエンジン回転が高くなりますが、暖機完了後、自動的にアイドリング回転に下がります。

エンジンをかけるときは（プッシュスタート装着車では）

- キーレスアクセスの通信エラーなどでエンジンの始動ができないことがあります。このときは、一度プッシュエンジンスイッチを“OFF”にしたあと、再度、エンジンをかけなおしてください。

走行中は

- 渋滞や狭い場所での移動は、クリーブ現象を利用し、アクセルペダルを踏まずに、ブレーキ操作のみで速度を調整するとスムーズに行えます。
-  レンジの走行中に急加速を行うと、車速の上昇よりもエンジン回転数の上昇が早く感じられますが、CVTの変速制御によるもので問題ありません。

燃費向上のために

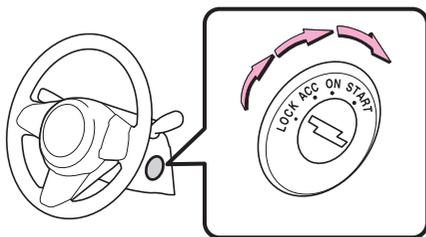
- 発進、加速はスムーズに行ってください。

バッテリーを再接続したときは

- バッテリーとの接続が断たれ、接続を復帰させた直後は車両の動きがぎこちないことがありますが故障ではありません。

運転装置の使いかた

■ エンジンスイッチ(電波式リモコンドアロック装着車)



位置	はたらき
LOCK (OFF)	ハンドルロックがかかる位置 セレクトレバーが④レンジのとき、 キーを抜き挿しできません
ACC	アクセサリソケットなどの電装品 が使用できる位置
ON	すべての電装品が使用できる位置
START	エンジンを始動するときの位置

■ エンジンのかけかた

▼ 準備

- 正しい運転姿勢がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認します。

(正しい運転姿勢 → 34 ページ)
(車体各部の調整 → 122 ページ)

▼ 操作手順

- 1 セレクトレバーが④レンジの位置にあることを確認する
- 2 ブレーキペダルをしっかりと踏む
- 3 エンジンスイッチを“START”まで回す

■ エンジンの停止方法

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 セレクトレバーを④レンジにする
- 3 駐車ブレーキをかける
- 4 エンジンスイッチを“LOCK”まで回す
- 5 キーを抜く

キーインターロック

誤操作防止のため、セレクトレバーが  レンジ以外有的时候に、エンジンスイッチが“LOCK”まで回らないようにする装置です。

注意

- セレクトレバーが  レンジ以外では、エンジンスイッチを“LOCK”まで回すことができないため、キーを抜くことができません。

ハンドルロック

エンジンスイッチからキーを抜いて、ハンドルを左右どちらかに動かすとステアリングロックによりハンドルがロックされます。

▼ ハンドルロック解除のしかた

ステアリングロックによりキーが“LOCK”から“ACC”に軽く回らないときは、ハンドルを左右に動かしながらキーを回してください。

キー抜き忘れ警告ブザー

エンジンスイッチにキーが差し込まれているとき“LOCK”または“ACC”の位置で運転席のドアを開けるとブザー（断続音）が鳴り、キーの抜き忘れを警告します。

エンジンスイッチの取扱い

知識

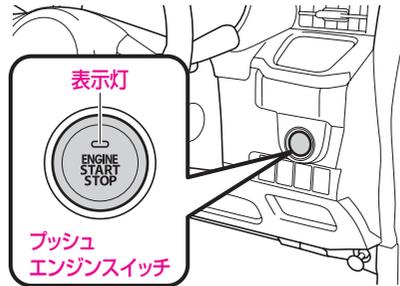
エンジンスイッチの操作について

- キーは確実にエンジンスイッチに差し込んで操作してください。

バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを止めた状態で、エンジンスイッチを“ON”または“ACC”にしたまま長時間放置しないでください。
- セレクトレバーが  レンジ以外的时候、エンジンを停止させないでください。セレクトレバーが  レンジ以外でエンジンを停止した場合、エンジンスイッチを“LOCK”にできないため、そのまま放置すると、車両のバッテリーがあがる原因となります。

プッシュエンジンスイッチ (キーレスアクセス装着車)



プッシュスタート

エンジンのかけかた

▼ 準備

- アクセスキーを携帯し、運転席に座ります。
- 正しい運転姿勢がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認します。
(正しい運転姿勢 → 34 ページ)
(車体各部の調整 → 122 ページ)

▼ 操作手順

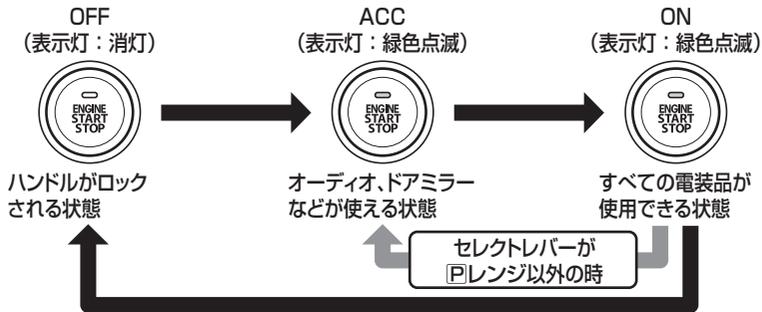
- 1 セレクトレバーが P レンジの位置にあることを確認する
- 2 ブレーキペダルをしっかりと踏む
 - プッシュエンジンスイッチの表示灯が緑色に点灯します。
- 3 プッシュエンジンスイッチを押す

エンジンの停止方法

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 セレクトレバーを P レンジにする
- 3 駐車ブレーキをかける
- 4 プッシュエンジンスイッチを押す
- 5 ブレーキペダルから足を離れた状態で、プッシュエンジンスイッチの表示灯が消灯していることを確認する

エンジンスイッチモードの切り替え

ブレーキペダルを踏まずに、プッシュエンジンスイッチを押すと、モードを切り替えることができます。



- スイッチを押すごとにモードが切り替わります。
- セレクトレバーがPレンジ以外のときは“OFF”になりません。

ハンドルロック

プッシュエンジンスイッチを“OFF”にしたあとにリヤゲートを除くいずれかのドアを開閉すると、ステアリングロックによりハンドルがロックされます。プッシュエンジンスイッチを操作すると、ハンドルロックは自動で解除されます。

警告

- 走行中、エンストなどで車両が滑走状態になったときは、安全な状態で車両が停止するまで、ドアを開けないでください。ドアを開けるとハンドルロックが作動する可能性があり危険です。安全な場所に停車させたあと、ただちに、スバル販売店にご連絡ください。

知識

- プッシュエンジンスイッチを“OFF”にしたときに運転席ドアが開いていると、ハンドルがロックされず、警告ブザーが鳴ります。

(ハンドルロック未完了警告→ 97 ページ)

- 車両のバッテリーがあがっている場合ハンドルロックが作動しません。

緑色高速点滅



▼ ハンドルロックが解除できないときは
エンジンの始動操作をしたときに、ハンドルロックが解除できないと、プッシュエンジンスイッチの表示灯が緑色に高速点滅します。

▼ ハンドルロック解除のしかた
ハンドルを左右に動かしながら、もう一度エンジンの始動操作をしてください。

プッシュエンジンスイッチの取扱い

⚠ 警告

緊急時のエンジン停止方法

- 下記の操作を行うと、走行中でもエンジンが止まります。ただし、緊急時以外は走行中にプッシュエンジンスイッチの操作をしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- プッシュエンジンスイッチを3秒以上押し続ける
- プッシュエンジンスイッチを3回以上連打する

(車両を緊急停止するには→ 441 ページ)

⚠ 注意

プッシュエンジンスイッチ表示灯が橙色に点滅したときは

- システムの異常が考えられます。プッシュエンジンスイッチを“OFF”にせず、ただちにスバル販売店にご連絡ください。(いったん“OFF”にすると、エンジンを再始動できなくなることがあります)

プッシュエンジンスイッチがいつもと違うときは

- スイッチに引っ掛かりがあるときは、スイッチを操作せず、ただちに、スバル販売店にご連絡ください。
- スイッチに飲み物などをこぼさないでください。万一、こぼした場合は、ただちにスバル販売店にご連絡ください。
- 車幅灯を点灯させても、スイッチの照明が点灯しないときは、スバル販売店にご連絡ください。

知識

エンジンが始動しないときは

- いったんプッシュエンジンスイッチを“OFF”にして、もう一度エンジンの始動操作をしてください。

電池の消耗などにより、アクセスキーが使用できないとき

- プッシュエンジンスイッチにアクセスキーを接触させてスイッチを押すことで、プッシュエンジンスイッチを“ON”にすることができます。

(アクセスキーが使用できないとき→ 438 ページ)

プッシュエンジンスイッチの操作について

- エンジンの始動と停止を短い間隔で繰り返した直後は、エンジンが始動できない場合があります。この場合は約 10 秒以上待ってから、再びエンジンの始動操作を行ってください。
- スwitchを早押しした場合、エンジンの始動・停止、モードの切り替えができないことがあります。1 回ずつ確実に押してください。

バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを止めた状態で、プッシュエンジンスイッチを“ON”または“ACC”にしたまま長時間放置しないでください。
- セレクトレバーが  レンジ以外のとき、エンジンを停止させないでください。セレクトレバーが  レンジ以外でエンジンを停止した場合、プッシュエンジンスイッチが“ACC”になるため、そのまま放置すると、車両のバッテリーがあがる原因となります。

プッシュエンジンスイッチ作動が正常に作動しないおそれのある状況

- アクセスキーが作動範囲内にあっても、周囲の状況やアクセスキーの場所により、作動しないことがあります。

(作動範囲→ 92 ページ)

キーレスアクセスの警告ブザーについて

- キーレスアクセスは、アクセスキーの持ち出しや、プッシュエンジンスイッチの切り忘れなどの誤操作を検知すると、ブザーを鳴らして警告を行います。

(警告ブザー、メーター表示による警告→ 94 ページ)

アクセスキーについて

- エンジン始動後にアクセスキーを車外に持ち出さないでください。持ち出したままエンジンを停止すると、アクセスキーが車内に無いためにエンジンの再始動ができなくなります。特にドアを閉めたまま窓からアクセスキーを持ち出した場合は、持ち出しの警告ブザーが鳴らないので注意してください。

 知識**車両のバッテリーを脱着したあとは**

- すぐにはエンジンが始動しないことがあります。その場合は、バッテリー接続から約 10 秒以上待ってからエンジンを始動してください。

エンジンスイッチモードの記憶について

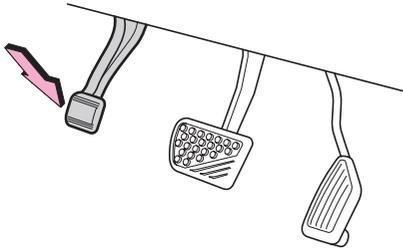
- 車両は常にエンジンスイッチモード (“ACC” または “ON”) を記憶しています。車両のバッテリーを再接続したときは、プッシュエンジンスイッチが絶たれる前の状態に復帰します。修理などで車両のバッテリーを外すときは、必ずプッシュエンジンスイッチを “OFF” にしてから行ってください。

車両のバッテリーあがり時に、バッテリーがあがる前のエンジンスイッチモードがわからないときは、一度プッシュエンジンスイッチを “OFF” にしてください。

エンジンスイッチ自動 OFF 機能

- セレクトレバーが  レンジのとき、プッシュエンジンスイッチが “ACC”、または “ON” のまま放置すると、バッテリーあがり防止のため、自動的にプッシュエンジンスイッチが “OFF” になります。
 - “ACC” のときは約 1 時間放置すると “OFF” になります。
 - “ON” のときは約 20 分放置すると “OFF” になります。

駐車ブレーキ



▼ かけるとき

右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングペダルをいっぱいまで踏み込みます。

- エンジンスイッチが“ON”のときは、駐車ブレーキ未解除警告灯が点灯します。

▼ 解除するとき

右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングペダルを踏み込みます。「カチッ」という音がしたらパーキングペダルをゆっくり戻します。

- エンジンスイッチが“ON”のときは、駐車ブレーキ未解除警告灯が消灯します。

⚠ 注意

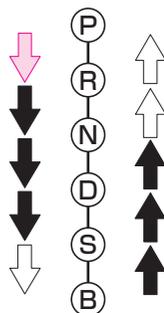
- 走行するときは、駐車ブレーキを完全に解除してください。また、駐車ブレーキ未解除警告灯が消灯していることを必ず確認してください。
駐車ブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキが熱を持ち、ブレーキの効きが悪くなったり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 駐車ブレーキをさらに強くかける必要がある場合はブレーキペダルをしっかり踏み、一度駐車ブレーキを解除させ、完全にパーキングペダルを戻してからもう一度駐車ブレーキをかけ直してください。
- 駐車ブレーキをかけるとき、解除するときは必ずペダルの位置を目で確認してから操作してください。

📖 知識

- 駐車ブレーキが完全に解除されていない状態（警告灯が点灯している状態）で、約5km/h以上で走行すると、警告ブザーが鳴ります。
(駐車ブレーキ未解除警告灯→138ページ)

セレクトレバー

セレクトレバーの使いかた



セレクトレバーの操作は確実に行ってください。

	ブレーキペダルを踏みながらセレクトレバーボタンを押して動かします
	セレクトレバーボタンを押して動かします
	セレクトレバーボタンを押さずにそのまま動かします

警告

- ➡の操作は誤作動を防ぐため、セレクトレバーボタンを押さずに動かしてください。常にセレクトレバーボタンを押して操作していると、P、R、Bレンジに思いがけず入ることがあり、その場合、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- PからDレンジの間でセレクトレバーを動かすときは、突然車が動き出し思わぬ事故につながるおそれがありますので、必ずブレーキペダルを踏みながら動かしてください。
- 走行中にNレンジに入れしないでください。エンジンブレーキが全く効かず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が完全に止まらないうちにPレンジに入れしないでください。また、前進走行中にRレンジ、および後退走行中にD、S、Bレンジに入れしないでください。トランスミッションに重大な損害をあたえると共に、車がコントロールを失い思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

各位置のはたらき

シフトポジション	目的
P(パーキング)	駐車またはエンジン始動
R(リバース)	後退
N(ニュートラル)	動力が伝わらない状態
D(ドライブ)	通常走行 (速度に応じて無段階で自動的に変速されます)
S(スポーツ)	スポーティな走行 坂道や山間地などの走行
B(ブレーキ)	強いエンジンブレーキが必要なとき 急な上り坂や下り坂などの走行

シフトロック機構

誤操作防止のため、シフトロック機構が付いています。

▼ シフトロック解除方法

エンジンスイッチを“ON”にし、ブレーキペダルを踏むと、セレクトレバーの操作ができます。

- 必ずブレーキペダルをしっかり踏み込み、セレクトレバーを操作します。

📖 知識

- エンジンスイッチが“ON”以外では、ブレーキペダルを踏んでもセレクトレバーを **P** レンジからほかのレンジへは動かさせません。
- 先にセレクトレバーボタンを押した状態で、ブレーキペダルを踏むと、シフトロックが解除されない場合があります。
- 万一、エンジンスイッチを“ON”にして、ブレーキペダルを踏んでもセレクトレバーを **P** レンジから他の位置へ動かせない場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

■ シフトロック解除ボタン

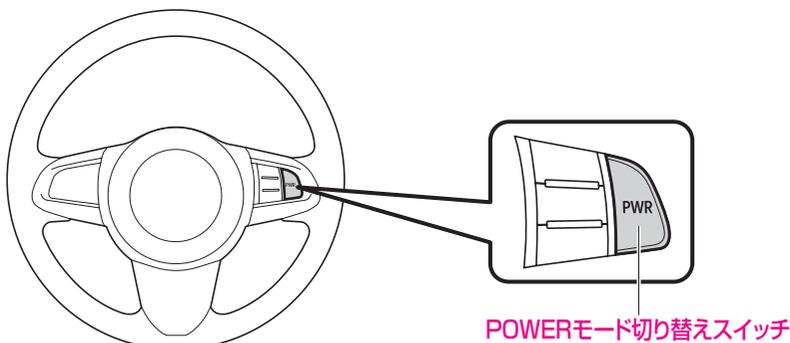
バッテリー上がりなどで、セレクトレバーが④レンジからほかのレンジへ動かないときは、シフトロック解除ボタンを使用します。



- 必ずブレーキペダルをしっかりと踏み込み、シフトロック解除ボタンを押しながら、セレクトレバーを操作します。

POWER モード切り替えスイッチ

POWER モード切り替えスイッチを“ON”にすると、エンジンと CVT の制御が切り替わりパワーモードになります。セレクトレバーが R、S レンジのときに軽快な走行をすることができます。



- POWER モード切り替えスイッチが“ON”になると、メーター内の POWER モード表示灯が点灯します。

⚠ 注意

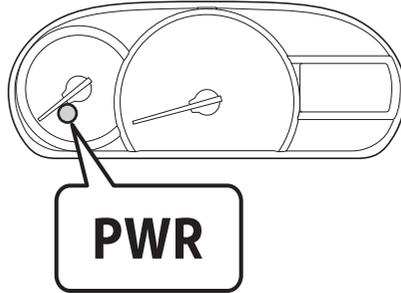
- エンジン警告灯、CVT 警告灯が点灯しているときは、パワーモードの制御に切り替わりません。

📖 知識

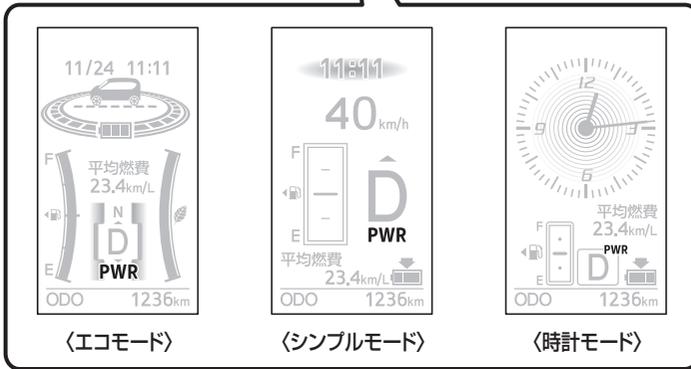
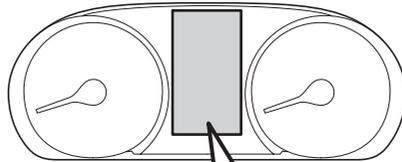
- R、S レンジでの走行時は、パワーモードの制御は行われません。
- POWER モード切り替えスイッチを“ON”にしても、エンジンスイッチを“ON”にするたびに、POWER モード切り替えスイッチは“OFF”になります。

POWER モード表示灯

標準車



カスタム仕様車



知識

標準車

● POWER モード表示灯が点灯しているときに車幅灯を点灯すると、表示灯が減光します。

カスタム仕様車

● POWER モード切り替えスイッチを“ON”にすると、エコドライブアシスト照明がオレンジ色に点灯します。

(エコドライブアシスト照明→ 183 ページ)

ABS

ABS*(EBD 機能付)

急制動時や滑りやすい路面における制動時には、車輪がロックして方向安定性と操舵能力が低下することがあります。ABS は、このような状況下に発生する車輪ロックを防止して操舵能力を確保しようとする装置です。

▼ EBD

Electronic Brake force Distribution（電子制動力配分制御）の略で、車両の走行状態や積載状態に応じて最適な制動力配分を行う機能です。積載時のブレーキの効きを確保することができます。

⚠ 注意

- ABS を過信しないでください。ABS が作動した状態でも車両の方向安定性や操舵性の確保には限界があり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 下記の場合などには ABS の付いていない車両に比べ、制動距離が長くなることもあり、事故につながるおそれがあります。速度を控えて十分に車間距離を取ってください。
 - 砂利道、新雪路を走行しているとき
 - タイヤチェーンを装着しているとき
 - 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき
 - 凹凸道などの悪路を走行しているとき
 - タイヤ空気圧が適正空気圧より高いときに荒れた路面を走行したとき

📖 知識

- 低速（約 10km/h 以下）では、ABS は作動せず、普通のブレーキと同じ作動になります。
- エンジンスイッチを“ON”にすると、メーター内の ABS 警告灯が点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジン始動後に ABS 警告灯が数秒間点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、スバル販売店で点検を受けてください。
- エンジン始動時や始動後の発進直後にエンジンルームからモーターなどの音が聞こえることがあります。これは、システムの作動をチェックしているときの音で、異常ではありません。

 知識

- 走行中に ABS 警告灯が点灯した場合、通常のブレーキ性能は確保されていますが、ABS は作動しません。スバル販売店で点検を受けてください。
- ABS の作動中および作動後は、ブレーキペダルが奥に入り込むことがあります。また、ABS が正常に作動しているときは、ブレーキペダルを踏むとペダルがこきざみに動き「カタカタ」と作動音がすることがありますが、システムの異常ではありません。
- 雨の日にマンホールのふた、橋の継ぎ目などの滑りやすい場所でブレーキペダルを踏むと ABS が作動しやすくなります。
- 急ブレーキ時は、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。ブレーキペダルをゆるめると ABS が効果を発揮できません。
- 急ブレーキ時にポンピングブレーキ* はしないでください。ポンピングブレーキをすると制動距離が長くなります。

VDC&TRC

VDC*(ビークル ダイナミクス コントロール)

VDCは、急激なハンドル操作や、滑りやすい路面での旋回時の横滑りなどを抑制するために、自動的にブレーキを制御して、車両の安定性を確保しようとするシステムです。

また緊急制動時など、ブレーキペダルが強く踏めずブレーキ性能を十分に発揮できない場合に、ブレーキ力を増強するブレーキアシストを備えています。

- VDC が作動すると、VDC 作動表示灯が点滅します。

(VDC 作動表示灯→257ページ)

- VDC&TRC OFF スイッチを3秒以上押して、メーター内のVDC OFF 表示灯とTRC OFF 表示灯が点灯しているときは、VDC (TRCを含む) は作動しません。

(VDC&TRC OFF スイッチ→259ページ)

- タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。

(タイヤの点検→370ページ)

⚠ 警告

- VDC を過信しないでください。VDC が作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 常に安全運転を心がけ、VDC 作動表示灯が点滅したときは、特に慎重に運転してください。

⚠ 注意

- タイヤは4輪とも指定サイズで同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターン(溝模様)および摩耗差のないタイヤを装着してください。指定以外の物を装着するとVDCが正確に機能しないおそれがあります。
- タイヤチェーンを装着したときなどにはVDCが正確に機能しないおそれがあります。
- 雪道や凍結路を走行するときには冬用タイヤを装着し、控えめな車速で走行してください。

📖 知識

- VDCは、車速が約15km/hを超えると作動するようになります。
- VDC (TRCを含む)は、作動停止した場合でも、エンジンを始動するたびに作動可能状態に戻ります。
- エンジン始動時や始動後の発進直後に、エンジンルームから「カチカチ、トン」という音が聞こえることがあります。これは、システムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

知識

ブレーキアシストについて

- VDC の “ON” ・ “OFF” に関わらず、緊急制動時などに作動します。
- ブレーキペダルを急速度で踏んだときに、ブレーキアシストが作動してブレーキが強くなり、作動音とともにブレーキペダルが小刻みに動くことがありますが、異常ではありません。

TRC*

TRC のはたらき

滑りやすい路面での発進時や加速時に、過剰な駆動力により生じる駆動輪のホイールスピンを抑え、車両の方向安定性と駆動力を確保しようとする装置です。

- 車輪がスリップし始めると、車輪速センサーからの情報で、コンピューターがスリップを感知し、必要に応じてブレーキをかけます。これにより、過剰な駆動力を抑え、スリップを抑制します。
- TRC が作動すると、VDC 作動表示灯が点滅します。このとき、車両の振動を感じる場合がありますが、これはブレーキ制御によるもので、異常ではありません。

(VDC 作動表示灯→257 ページ)

- VDC&TRC OFF スイッチを押して、メーター内の TRC OFF 表示灯が点灯しているときは、TRC は作動しません。

(VDC&TRC OFF スイッチ→259 ページ)

- むかみや新雪路でのスタックからの脱出時などは、TRC が作動していると脱出しにくい場合があります。この場合、VDC&TRC OFF スイッチを操作することで、TRC を停止することができます。

(スタック(立ち往生)したとき→426 ページ)

TRC のしくみ

タイヤのスリップは4輪に取り付けられたセンサーからの信号を比較し、駆動輪のいずれかの信号が他の車輪より多い場合、スリップしているとコンピューターが判断します。それによって、スリップしているタイヤの駆動力を抑えようとブレーキをかけ、スリップを抑制します。

TRC とタイヤの関係

TRC は、車輪に付いているセンサーからの信号を基準に作動させるため、4 輪の中で 1 輪でもタイヤの種類が異なると、信号の出方が変わり、コンピューターがスリップと判断します。

- タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。

(タイヤの点検→ 370 ページ)

警告

- TRC を過信しないでください。TRC が作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 常に安全運転を心がけ、VDC 作動表示灯が点滅したときは、特に慎重に運転してください。(VDC 作動表示灯→ 257 ページ)

注意

- タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターン（溝模様）および摩耗差のないタイヤを装着してください。指定以外の物を装着すると TRC が正確に機能しないおそれがあります。
- タイヤチェーンを装着したときなどには TRC が正確に機能しないおそれがあります。
- 雪道や凍結路を走行するときには冬用タイヤを装着し、控えめな車速で走行してください。

知識

- TRC は、作動停止した場合でも、エンジンを始動するたびに作動可能状態に戻ります。
- エンジン始動時や始動後の発進直後に、エンジンルームから「カチカチ、トン」という音が聞こえることがあります。これは、システムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

メーター表示

VDC* & TRC 警告灯



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、下記のシステムに異常があると点灯します。
 - VDC
 - TRC
 - ヒルホールドシステム
(ヒルホールドシステム→260ページ)

⚠ 注意

点灯した場合

- 通常走行に支障はありませんが、スバル販売店で点検を受けてください。

📖 知識

点滅した場合

- VDC、または TRC が作動しています。

(VDC 作動表示灯→257ページ)

VDC 作動表示灯



(点滅)

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、下記のシステムが作動した場合に点滅します。
 - VDC
 - TRC

⚠ 注意

- エンジンスイッチを“ON”にしても点灯しないとき、または点灯したままの場合は、システムの異常が考えられますので、スバル販売店で点検を受けてください。
- VDC 作動表示灯が点滅した場合は、VDC、または TRC が作動していますので特に慎重に運転してください。

*本書では、VSCを「VDC」と表記しています。
VDCは、Vehicle Dynamics Control (ビークル ダイナミクス コントロール) の略です。

VDC*OFF 表示灯



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- VDC&TRC OFF スイッチを 3 秒以上押すと、VDC (TRC を含む) が作動停止状態となり点灯します。

(VDC&TRC OFF スイッチ
→ 259 ページ)

TRC OFF 表示灯

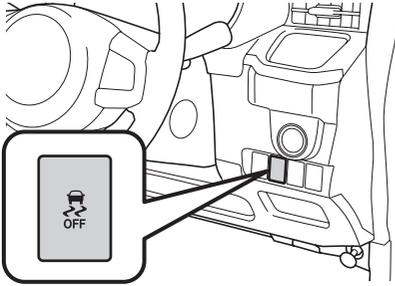


- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- VDC&TRC OFF スイッチを押すと、TRC が作動停止状態となり点灯します。

(VDC&TRC OFF スイッチ
→ 259 ページ)

VDC* & TRC OFF スイッチ

VDC や TRC は新雪路、深雪路、砂地等からの脱出には適さない場合があります。このようなときは VDC&TRC OFF スイッチを押して VDC と TRC を“OFF” にします。



▼ TRC を“OFF” にするとき

- エンジンスイッチが“ON” のとき、VDC&TRC OFF スイッチを押します。(メーター内の TRC OFF 表示灯が点灯します)

▼ VDC と TRC を“OFF” にするとき

- エンジンスイッチが“ON” で車両が停止しているとき、VDC&TRC OFF スイッチを 3 秒以上押し続けます。(メーター内の TRC OFF 表示灯と VDC OFF 表示灯が点灯します)

▼ 作動可能状態に戻すとき

VDC&TRC OFF スイッチをもう 1 度押します。
(TRC OFF 表示灯と VDC OFF 表示灯が消灯します)

⚠ 警告

- VDC や TRC は自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は VDC や TRC を作動停止状態にしないでください。VDC や TRC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

📖 知識

- VDC や TRC を作動停止にした場合でも、エンジンを始動するたびに自動的に VDC と TRC は作動可能状態に戻ります。
- TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC は作動を再開します。ただし、VDC と TRC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

*本書では、VSC を「VDC」と表記しています。
VDC は、Vehicle Dynamics Control (ビークル ダイナミクス コントロール) の略です。

ヒルホールドシステム

ヒルホールドシステム

ヒルホールドシステムは、急な上り坂で発進するときにかかる車両の後退を軽減し、坂道発進を容易にするシステムです。

ブレーキペダルからアクセルペダルに踏み替えるとき、ブレーキをかけた状態を最長約2秒間保持します。

作動条件

以下の状態のとき、ヒルホールドシステムは作動します。

- 前進、または後退での上り坂発進時
- ブレーキペダルをしっかりと踏んで停車しているとき
- 駐車ブレーキを解除しているとき

⚠ 警告

- ヒルホールドシステムは、坂道で停車させるシステムではありません。システムが正常に作動していても、坂道で停車中にブレーキペダルをゆるめると車両が動き出すおそれがありますので、停車中はブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。
- ヒルホールドシステムを過信しないでください。発進時に車両が不意に動き出すなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。
常に周囲の状況を確認して、適切にセレクトレバー、ブレーキペダル、アクセルペダル、駐車ブレーキを操作して発進してください。
- ブレーキペダルから足を離したら、すみやかに発進操作を行ってください。坂道などで惰性で後退した場合、エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- VDC & TRC 警告灯が点灯すると、ヒルホールドシステムが作動しない場合があります。特に慎重に発進してください。
- 極端に急な上り坂、凍結した上り坂、ぬかるんだ上り坂など、路面の状態や乗員の人数、荷物の重さなどによっては車両が後退することがあります。
- 停車するときのブレーキペダルの踏みかたが不十分であったり、乗員の人数、荷物の重さによっては、ヒルホールドシステムが作動しない場合があります。
- ヒルホールドシステムは、2 秒以上車両の後退を軽減することができません。

📖 知識

- ヒルホールドシステムの作動により、下記の状態になることがありますが、異常ではありません。
 - ブレーキペダルの踏みごたえが変わる
 - ブレーキペダルが振動する
 - ブレーキから音が発生する

スマートアシストⅡ

オプション/グレード別装備

スマートアシストⅡ*

スマートアシストⅡは以下の機能によって、運転者の判断を補助し、事故被害を軽減することを目的としたシステムです。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能
- 誤発進抑制制御機能
- 後方誤発進抑制制御機能
- 先行車発進お知らせ機能
- 車線逸脱警報機能

スマートアシストⅡは、レーザーレーダーや単眼カメラで前方の車両や障害物などを認識し、ソナーで後方の壁などの障害物を認識します。

警告

- 運転者には通常の安全運転の責任、義務があります。運転時は常に先行車との車間距離や、周囲の状況、運転環境に注意して必要に応じてブレーキペダルを踏むなど、安全運転に努めてください。
- スマートアシストⅡに頼った運転は、絶対に行わないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあります。
- スマートアシストⅡは、運転者の判断を補助し、事故被害の軽減を目的としています。衝突警報が作動した場合は前方や周囲を確認の上、運転者の判断でブレーキペダルを踏むなどの適切な操作をしてください。
- わき見運転やぼんやり運転など運転者の前方、および後方の不注意を防止したり、悪天候時の視界不良下での運転を支援する装置ではありません。
- スマートアシストⅡは、あらゆる状況で衝突を軽減したり、作動したりするものではありません。
- スマートアシストⅡの認識性能・制御性能には限界があります。衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能、誤発進抑制制御機能、後方誤発進抑制制御機能、車線逸脱警報機能の警告を必ず参照の上、正しくご使用ください。誤った使用をすると、適切に制御が行われず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

- 以下の状況ではシステムは正しく動作しません。スマートアシストIIを“OFF”にしてください。
(スマートアシスト OFF スイッチ→ 299 ページ)
 - タイヤの空気圧が適正でないとき
 - スペアタイヤやタイヤチェーンを装着しているとき
 - 磨耗したタイヤ、磨耗差の激しいタイヤを装着しているとき
 - 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき
 - サスペンションを改造したとき
 - 事故にあったときや故障したとき
 - ブレーキ警告灯が点灯しているとき
 - 重い荷物を積んで車が傾いているとき

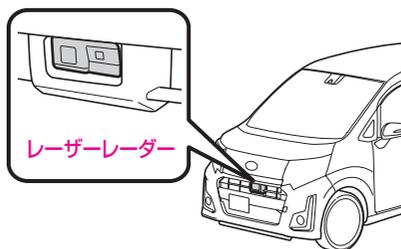
注意

- 以下のようなときは、状況によってはスマートアシストIIの認識性能が下がる場合や一時停止（機能低下）状態になる場合があります。
 - 悪天候時（強い雨、吹雪、濃霧など）や、フロントワイパーが“低速作動”または“高速作動”のとき
 - 西日などの前方からの強い光をうけたとき
 - レーザーレーダー、単眼カメラ、ソナー部に雪や汚れ、霜などが付着して覆っているとき
 - レーザーレーダーや単眼カメラの温度が極端に高いとき
 - エンジン始動直後
 - 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
 - 水、雪などの巻き上げ
 - 水蒸気、砂、煙など視界が十分でないとき
- 機能によって認識状態の低下する条件が異なります。詳しくは各機能の説明をお読みください。

レーザーレーダー

レーザーレーダーは、以下の機能で使します。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能
- 誤発進抑制制御機能
- 先行車発進お知らせ機能



警告

- レーザーレーダーは、前方車の検出にレーザー光を使用しており、IEC 60825-1 規格におけるレーザー等級 1M に相当します。通常の使用においてレーザー光が目には障害をおよぼす危険はありませんが、下記のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な視覚障害におよぶか、最悪の場合失明につながるおそれがあります。
- 有害なレーザー照射を避けるため、レーザーレーダーは絶対に分解や取り外しをしないでください。また、分解したレーザーレーダーは IEC 60825-1 規格におけるレーザー等級 1M を満たさず、目に対する安全を保障できません。
- 光学機器（拡大鏡、顕微鏡、虫眼鏡など）を使用して、100mm以内の距離からレーザーレーダーをのぞきこまないでください。

レーザー等級ラベル

INVISIBLE LASER RADIATION
DO NOT VIEW DIRECTLY WITH
OPTICAL INSTRUMENTS
(MAGNIFIERS)
CLASS 1M LASER PRODUCT

レーザー放射仕様

- 最大出力（平均）：6mW
- パルス持続時間：25ns
- 波長：860nm
- 発散角（水平×垂直）：14°×6°

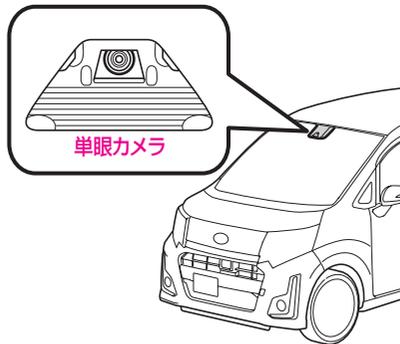
⚠ 注意

- 汚れ検知機能を備えていますが、万全ではありません。
- 汚れを検知した場合は、すべての機能が自動的に停止します。
- レーザーレーダーは精密部品です。正しい作動のために、次のことをお守りください。
 - レーザーレーダーを清掃する際は、やわらかい布などを使用して傷付けないようにしてください。
 - レーザーレーダーにウォッシャー液やオイルが付着した場合は、すみやかに拭き取ってください。
 - レーザーレーダーに撥水剤などを塗らないでください。
 - レーザーレーダー周辺には高圧洗車機で水をかけないでください。
 - レーザーレーダー、およびその周辺部分に強い衝撃や力を加えないでください。
 - レーザーレーダーの取付位置を変更したり、周辺構造物を改造したりしないでください。
 - レーザーレーダーにステッカーを貼ったりしないでください。
 - バンパーを交換・修理する場合は、スバル販売店にご相談ください。
 - フロントバンパー部分に腰掛けたり、寄りかかったりしないでください。
 - 事故などで万一、バンパーが外れるようなことがあった場合には、スバル販売店にご連絡ください。
 - レーザーレーダーにある調整ネジを回さないでください。

単眼カメラ

単眼カメラは、以下の機能で使用します。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 車線逸脱警報機能

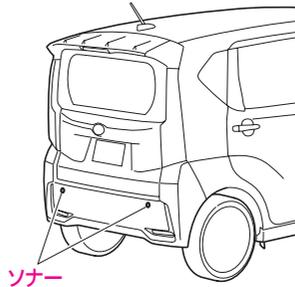


⚠ 注意

- 汚れ検知機能を備えていますが、万全ではありません。
- 汚れを検知した場合は、すべての機能が自動的に停止します。
- 単眼カメラは精密部品です。正しい作動のために、次のことをお守りください。
 - 単眼カメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。
 - 単眼カメラ前方のフロントガラスにステッカーや検査標章、フィルム（透明なものを含む）を貼ったり、単眼カメラの視界をさえぎるものを取り付けしないでください。
 - 単眼カメラ、およびその周辺部分に強い衝撃や力を加えないでください。
 - 単眼カメラを取り外したり、分解したりしないでください。
 - 事故などで単眼カメラ周辺が変形した場合は、スバル販売店にご相談ください。
 - 単眼カメラの視野内のフロントガラスにキズ、打痕、損傷があるとシステムが正しく動作しなくなることがあります。この問題が発生した場合、フロントガラスの交換をお勧めします。スバル指定部品以外のフロントガラスを使用すると、システムが正しく動作しなくなる場合があります。フロントガラスの修理や交換をする場合は、スバル販売店にご相談ください。
 - 単眼カメラのレンズを汚したり傷つけたりしないでください。
 - フロントガラスが曇った場合は曇りをとってください。
 - インstrumentパネル上部に物を置かないでください。フロントガラスに反射してシステムが正しく動作しなくなる場合があります。
 - ボンネットやフロントグリルの上に単眼カメラの視野をさまたげるものを装着しないでください。
 - フロントワイパーを交換する場合は、各車指定のスバル純正部品を装着してください。

ソナー

ソナーは、後方誤発進抑制制御機能で使⽤します。



⚠ 注意

- 汚れ検知機能を備えていますが、万全ではありません。
- 汚れを検知した場合は、後方誤発進抑制制御機能が自動的に停止します。
- ソナーは精密部品です。正しい作動のために、次のことをお守りください。
 - ソナーを清掃する際は、やわらかい布などを使用して傷付けないようにしてください。
 - ソナーにウォッシャー液やオイルが付着した場合は、すみやかに拭き取ってください。
 - ソナーにワックスや撥水剤などを塗らないでください。
 - ソナー周辺には高圧洗車機で水をかけないでください。
 - スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをソナー部に近付けすぎないようにしてください。
 - ソナー、およびその周辺部分に強い衝撃や力を加えないでください。
 - ソナーを取り外したり、分解したりしないでください。
 - ソナーの取付位置を変更したり、周辺構造物を改造したりしないでください。また、ソナーを塗装したりしないでください。
 - ソナーやその周辺部分にステッカーを貼ったり、アクセサリなどを取り付けしないでください。
 - リヤバンパー部分に腰掛けたり、寄りかかったりしないでください。
 - リヤバンパーを交換・修理する場合や、事故などでソナー周辺が変形した場合は、スバル販売店にご相談ください。

衝突警報機能(対車両・対歩行者)、衝突回避支援ブレーキ機能

衝突警報機能

衝突警報機能は、前方障害物をレーザーレーダーと単眼カメラで認識して、前方障害物と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、運転者への注意喚起を行います。

以下の場合に、ブザー音とメーター表示で運転者に注意を促します。

- 車速約 4km/h ～約 100km/h で走行中、自車との速度差が約 60km/h 以下の前方車に対して衝突のおそれがあるとき
- 車速約 4km/h ～約 50km/h で走行中、前方の歩行者に対して衝突のおそれがあるとき

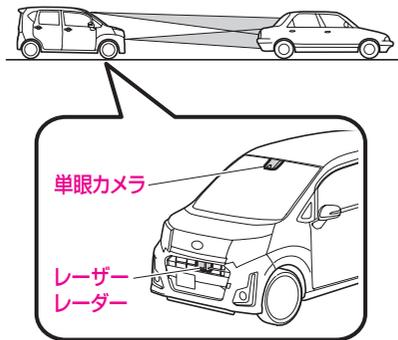
衝突回避支援ブレーキ機能

衝突回避支援ブレーキ機能は、前方車をレーザーレーダーで認識して、前方車と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、衝突の直前で緊急ブレーキが作動して、衝突の被害を軽減します。

以下の場合に、ブザー音とメーター表示で運転者に注意を促し、緊急ブレーキが作動します。

- 車速約 4km/h ～約 50km/h で走行中、自車との速度差が約 30km/h 以下の前方車に対して衝突のおそれがあるとき

自車と前方車との速度差が約 20km/h より低いときは、衝突を回避できる場合があります。



警告

- 衝突回避支援ブレーキ機能を、日常の車両停止のためには絶対に使用しないでください。衝突回避支援ブレーキ機能はあらゆる状況で衝突を回避するものではありません。ブレーキの作動を衝突回避支援ブレーキ機能に頼っていると、衝突事故を起こす場合があります。
- 衝突警報機能が作動した場合は前方や周囲を確認の上、運転者の判断でブレーキペダルを踏むなどの適切な操作をしてください。
- 安全のため、お客様ご自身で衝突回避支援ブレーキ機能の作動テストを行わないでください。止まりきれないことや作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 衝突回避支援ブレーキ機能は、レーザーレーダーが認識した前方車に作動します。二輪車や歩行者、電柱、壁などに対しても作動することがありますが、これらへの衝突を回避することを目的とはしていません。
- 衝突回避支援ブレーキ機能は、衝突が避けられないと判断した段階で作動し、衝突直前で強いブレーキをかけるように設定していますので、その効果は様々な条件により変わります。そのため、常に同じ性能が発揮できるものではありません。
- 緊急ブレーキが作動したとき、アクセル操作をしても、緊急ブレーキを継続します。ただし、アクセルを全開に踏みこむと緊急ブレーキを解除します。
- 運転者がブレーキペダルを踏んでいたり、ハンドルを操作していたりすると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、衝突警報や緊急ブレーキが作動しない場合があります。
- 衝突回避支援ブレーキ機能は、車速が約 50km/h 以内であっても、前方車との速度差が約 20km/h を超える場合、スマートアシストIIの性能限界から衝突を回避することはできません。また、前方車との速度差が約 30km/h を超える場合は、緊急ブレーキは作動しません。
- シートベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シートベルトを正しく着用しないと、緊急ブレーキが作動したときに危険な場合があります。

(シートベルト→ 35 ページ)

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能の作動条件について

この機能は、自車が以下の条件を全て満たしたときに作動可能となります。

衝突警報機能

- エンジンスイッチが“ON”
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯
- スマートアシスト “停止” 表示、スマートアシスト “故障” 表示がされていない
- セレクトレバーが [P]、[R] レンジ以外
- 車速約 4km/h ～約 50km/h（対車両は約 4km/h ～約 100km/h）
- 前方車との速度差が約 60km/h 以下
（ただし、車速が約 50km/h 以上のときは、速度差が約 10km/h 未満では作動しません）
- フロントワイパーが “低速作動”、“高速作動” の位置以外

衝突回避支援ブレーキ機能

- エンジンスイッチが“ON”
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯
- スマートアシスト “停止” 表示、スマートアシスト “故障” 表示がされていない
- セレクトレバーが [P]、[R] レンジ以外
- 車速約 4km/h ～約 50km/h
- 前方車との速度差が約 30km/h 以下
- フロントワイパーが “低速作動”、“高速作動” の位置以外

⚠ 警告

次のような場合は、衝突警報機能が作動しなかったり、衝突回避支援ブレーキ機能が作動せず、止まりきれないことがあります。

- 前方車との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合（オフセット量）
- 車両の状態（積載量、乗員など）
- 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凸凹など）
- 前方の視界が悪いとき（雨、雪、霧、煙など）

警告

- 運転者の操作状態（アクセル、ブレーキ、ハンドルなど）
- 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの磨耗、空気圧、スペアタイヤなど）
- エンジン始動直後
- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水溜り走行後や洗車後などブレーキが濡れてブレーキの効きが悪くなっているとき
- レーザーレーダーの認識状態（特に以下のような場合）
 - 悪天候時（強い雨、吹雪、濃霧など）
 - 西日などの前方からの強い光を受けたとき
 - レーザーレーダー部に雪や汚れ、霜などが付着して覆っているとき
 - レーザーレーダーの温度が極端に高いとき
 - 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
 - 前方車などの水、雪などの巻上げや水蒸気、砂、煙など視界が十分でないとき
 - キャリアカーやゴミ収集車などの特殊車両や、形状が壁状でない車両や黒い車両
 - 対象物が網目の大きいフェンス、ガラスなど、光をすり抜けるもの
 - 汚れなどで、両方のリフレクタが十分見えていない前方車
 - 大型車など地上高が高く、リフレクタの取り付け位置が高い前方車
 - でこぼこ道やオフロードなどの悪路を走行しているとき
 - 対象物が道路標識やポールなどの細い棒状のもの
 - 車両や二輪車などの急な割込み、歩行者の飛び出し
 - 対向車が自転車に向かって接近したとき
 - 車両に非常に近い位置で車両中央からずれた位置に障害物が存在するとき
 - 前方車が急ハンドル、急加速、急減速したとき
 - 自車が車線変更して前方車のすぐ後ろに接近したとき
 - 急なカーブ、急な上り坂、急な下り坂の場合
 - レーザーレーダーの認識エリア外に障害物が存在するとき
 - 前方車両に非常に小さい速度差で接近するとき
 - 前方車両や二輪車などが横や斜めを向いているとき
 - 前方車が非常に大きなリフレクタのついた、停止している大型車両
 - 非常に大きなリフレクタの隣に車両が停止しているとき

⚠ 注意

特に次のような場合は、単眼カメラが前方車や歩行者を正しく認識できず、衝突警報機能が適切に作動しないことがあります。

- フロントガラスの曇りや汚れ、雨粒、シールなどで単眼カメラ前方が覆われているとき
- 単眼カメラの視界をさまたげるようなものが取りつけられたとき
- 悪天候時（強い雨、吹雪、濃霧など）
- 夜間やトンネル内などの暗いところ、夕方、朝方の薄暗いとき
- トンネルの出入り口や木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 単眼カメラ前方から強い光（太陽光や対向車のハイビームなど）を受けているとき
- 強い光が車両や歩行者、路面に反射しているとき
- カーブ、うねった道路、坂道のとき
- 路面に水たまりや水膜があるとき
- 雪道や未舗装路など、凸凹やわだちのある道路のとき
- 前方の車両や歩行者との距離が極端に短いとき
- 自転車の前方に車両や歩行者が急に割り込んだり、飛び出したりしたとき
- 急加速やハンドル操作をしながら、前方の車両や対向車、歩行者に接近したとき
- 前方車や対向車、歩行者が自転車の正面にいないとき
- 前方の車両や歩行者との速度差が大きいとき
- 前方車や対向車による水しぶきや雪の巻き上げがあるとき
- 自転車が車線変更を行い、前方車のすぐ後ろに接近したとき
- 暗がりや前方の車両が無灯火のとき
- 前方の車両が急減速したとき
- 自転車や二輪車、車いす、特殊な形状の車両などのとき
- 車両が斜めに停まっているとき
- 車内に重い荷物を積む等で、車が傾いているとき
- 歩行者の一部（頭や手足など）が荷物、傘、帽子、車両、建物等に隠れているとき
- 歩行者が背景にまぎれて、単眼カメラが歩行者を認識できないとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者が大きな荷物を背負ったり、抱えたり、自転車やカート等を押しているとき
- 歩行者が長いスカートや和服等を着用していて、足元が見えないとき
- 歩行者が集団になっているとき、歩行者の形として単眼カメラが正しく認識できないとき

⚠ 注意

- 次のような場合は、システムが予期しない作動をする可能性がありますので、必ずスマートアシストIIを“OFF”にしてください。
(スマートアシスト OFF スイッチ→ 299 ページ)
 - けん引されるとき
 - キャリアカーに積載するとき
 - シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
 - リフトアップし、エンジンをかけタイヤを空転させたいとき
 - 草むらや茂みなどに触れながら通過するとき
 - サーキットなどでスポーツ走行するとき
- 次のような場合は、システムが作動することがありますので、安全運転に努めてください。
 - ETC ゲートなどを通過するとき
 - 前方車に接近して走行するときや、前方車ぎりぎりに接近して停止するとき
 - 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
 - 水蒸気や霧、煙のかたまりを通過するとき
 - ビニールカーテン、旗などをもぐって通過するとき
 - 前方車などの水、雪などの巻上げ
 - 停止車両などの横すれすれを通過するときや対向車が自車に向かって接近するとき
 - 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
 - 路面上に大きな反射物や、反射しやすい路面ペイント等がある場合
 - カーブの入口に路側物があるとき
 - カーブですれ違う対向車両があるとき

📖 知識

- 次のような場合は、システムが作動しません。
 - エンジン始動直後
 - スマートアシスト OFF スイッチでシステムを“OFF”にしているとき
 - スマートアシスト OFF 表示灯が点灯しているとき
 - スマートアシスト“故障”表示がされているとき(システム異常)
 - スマートアシスト“停止”表示がされているとき(機能低下)
- 緊急ブレーキ中に音が聞こえることがありますが、制御によるものであり異常ではありません。
- 緊急ブレーキ中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがありますが、異常ではありません。

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能の作動について

衝突警報機能はレーザーレーダーと単眼カメラ、衝突回避支援ブレーキ機能はレーザーレーダーで前方障害物を認識して、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、

①～③の順にシステムが作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行います。

- システム作動中は、ブザー音とメーター表示で運転者に注意喚起します。
- ブレーキ制御中は制動灯、ハイマウントストップランプが点灯します。

① 衝突警報

前方障害物に対し、衝突の危険性があると判断したときに、ブザー音とメーター表示で運転者に注意喚起して衝突回避操作を促します。

- 前方障害物を車両と認識していない場合、またはブレーキペダルを踏んで減速し、適切な車間距離をとった場合は、ブレーキ制御を行いません。

② 1次ブレーキ

前方車両に対し、衝突の危険性が高いと判断したときに、ブザー音を変化させブレーキ制御を行います。

- 運転者の衝突回避操作（ブレーキペダル、ハンドルなど）の操作量により、衝突する可能性が低くなったと判断した場合、作動を解除します。

③ 2次ブレーキ

前方車両に対し、衝突の危険性が非常に高いと判断したときに、1次ブレーキより強くブレーキ制御を行います。

- 停止後にブザーが鳴り、ブレーキ制御を最長約 1.5 秒間継続した後、ブレーキ制御を解除します。（停止保持）

⚠ 注意

- 停止保持後にブレーキ制御が解除されると、クリーブ現象により車両がゆっくりと動き出します。停車状態を継続するには、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。

	①衝突警報	②1次ブレーキ	③2次ブレーキ	（停止保持）
衝突の危険性	危険性がある	危険性が高い	危険性が非常に高い	—
緊急ブレーキの強さ	ブレーキ制御なし	弱い	強い	停止後、最長約1.5秒後に解除
ブザー音	ピピピッ	ピピピピピ...		ピピピッ...*
スマートアシスト作動表示 	表示			表示*
マスターウォーニング 	消灯	点灯		消灯

*：運転者操作で終了

知識

- 状況によっては、1次ブレーキや2次ブレーキから作動することがあります。

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能を“OFF”にするとき

スマートアシスト OFF スイッチを約2秒以上押し続けることで、衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能を“OFF”にすることができます。同時に以下の機能も“OFF”になります。

- 誤発進抑制制御機能
- 後方誤発進抑制制御機能
- 先行車発進お知らせ機能

（スマートアシスト OFF スイッチ→299ページ）

知識

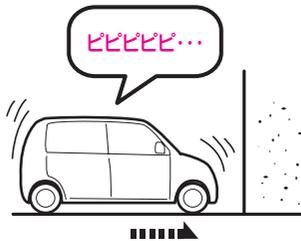
- スマートアシスト OFF スイッチでシステムを“OFF”にしても、エンジンスイッチを“ON”にするたびに、システムは“ON”に戻ります。

車を運転するにあたって

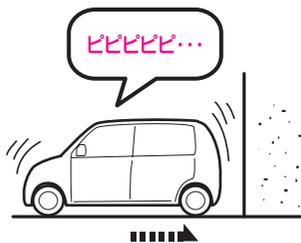
誤発進抑制制御機能、後方誤発進抑制制御機能

誤発進抑制制御機能、および後方誤発進抑制制御機能は、前方、または後方に障害物を認識している場合、停車または徐行（車速約 10km/h 以下）状態で、ペダルの踏み間違いなどにより必要以上にアクセルペダルが踏み込まれたとシステムが判断したときに、運転者への警報とエンジン出力の抑制制御を行い、発進をゆるやかにすることで、衝突時の被害を軽減します。

- 誤発進抑制制御機能は、レーザーレーダーが前方約 4m 以内に障害物を認識している場合に作動します。



- 後方誤発進抑制制御機能は、ソナーが後方約 2 ~ 3m 先までの壁などの障害物を認識している場合に作動します。



車速が約 4km/h 以下で、アクセルペダルが必要以上に踏み込まれたと判断したときに、ブザー音とメーター表示で警報し、運転者に衝突回避操作を促します。

車速が約 10km/h 以下で、アクセルペダルをすばやく、かつ必要以上に踏み込まれたと判断したときに、ブザー音とメーター表示で運転者に警報するとともに、エンジン出力の抑制制御を行います。

- エンジン出力の抑制制御はアクセルペダルを踏み続けている間、最長約 8 秒間続きます。
- 後方誤発進抑制制御機能が作動したとき、ブザーはリバース音よりも早い間隔で鳴ります。

(ブザー音 → 298 ページ)

 **警告**

- 誤発進抑制制御機能、および後方誤発進抑制制御機能を過信しないでください。誤発進抑制制御機能、および後方誤発進抑制制御機能は衝突を回避するものではありません。発進時はセレクトレバーやペダルの位置および周囲の安全を十分に確認して操作してください。機能に頼っていると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 誤発進抑制制御機能、および後方誤発進抑制制御機能は停止状態を保つものではありません。
- 誤発進抑制制御機能、および後方誤発進抑制制御機能はあらゆる状況で発進を緩やかにするものではありません。
- 誤発進抑制制御機能、および後方誤発進抑制制御機能は前方、または後方に障害物を認識している場合に作動するものであり、崖など対象物が見えない状況で発進を緩やかにするものではありません。
- 故意に対象物の近くでアクセルペダルを過剰に踏み込まないでください。アクセルの調節を誤発進抑制制御機能、および後方誤発進抑制制御機能に頼っていると衝突事故を起こす場合があります。
- 誤発進抑制制御機能と後方誤発進抑制制御機能では、認識できる障害が異なります。
- 万一、自車が踏切内で閉じ込められた場合、レーザーレーダー、またはソナーが遮断機を対象物と認識し、誤発進抑制制御機能、または後方誤発進抑制制御機能が作動することがあります。遮断機を押し続けて進む場合は、慌てずにアクセルペダルを踏み続けるか、スマートアシストIIを“OFF”にしてください。
(スマートアシスト OFF スイッチ→ 299 ページ)
- 運転者がハンドル操作をしていると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、誤発進抑制制御機能、および後方誤発進抑制制御機能が作動しない場合があります。
- TRCを“OFF”またはVDC&TRCを“OFF”にした場合、誤発進抑制制御機能、および後方誤発進抑制制御機能は作動しません。
- エンジン出力の抑制制御をしたときに、アクセルペダルを約8秒以上踏み続けると、作動を解除します。また、すばやく3回以上、全開まで踏みなおすと、誤発進抑制制御機能、および後方誤発進抑制制御機能は作動しません。

誤発進抑制制御機能、後方誤発進抑制制御機能の作動条件について

この機能は、自車が以下の条件を全て満たしたときに作動可能となります。

誤発進抑制制御機能

- エンジン回転中
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯
- スマートアシスト “停止” 表示、スマートアシスト “故障” 表示がされていない
- セレクトレバーが 、、 レンジ
- ブレーキペダルを踏んでいない
- 車速が 0 ~ 約 10km/h
- フロントワイパーが “低速作動”、“高速作動” の位置以外
- 方向指示器表示灯が消灯
- TRC OFF 表示灯、VDC OFF 表示灯が消灯

後方誤発進抑制制御機能

- エンジン回転中
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯
- スマートアシスト “停止” 表示、スマートアシスト “故障” 表示がされていない
- セレクトレバーが  レンジ
- ブレーキペダルを踏んでいない
- 車速が 0 ~ 約 10km/h
- フロントワイパーが “高速作動” の位置以外
- 方向指示器表示灯が消灯
- TRC OFF 表示灯、VDC OFF 表示灯が消灯

 **警告**

以下の条件の違いにより、誤発進抑制制御機能が作動しないことがあります。

- 前方車との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合（オフセット量）
- 車両の状態（積載量、乗員など）
- 路面の状態（勾配、凸凹など）
- 運転者の操作状態（アクセル、ブレーキ、ハンドルなど）
- 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの磨耗、空気圧、スペアタイヤなど）
- 車両や二輪車などの急な割込み、歩行者の飛び出し
- レーザーレーダーの認識状態（特に以下のような場合）
 - 悪天候時（強い雨、吹雪、濃霧など）
 - 西日などの前方からの強い光を受けたとき
 - レーザーレーダー部に雪や汚れ、霜などが付着して覆っているとき
 - レーザーレーダーの温度が極端に高いとき
 - エンジン始動直後
 - 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
 - 前方車などの水、雪などの巻き上げ
 - 水蒸気、砂、煙など視界が十分でないとき
 - 対象物が網目の大きいフェンス、ガラスなど、光をすり抜けるもの
 - でこぼこ道やオフロードなどの悪路を走行しているとき
 - 対象物が道路標識やポールなどの細い棒状のもの
 - 車両に非常に近い位置で車両中央からずれた位置に障害物が存在するとき
 - 自車が進路変更して障害物のすぐ後ろに接近したとき
 - 急なカーブ、急な上り坂、急な下り坂の場合
 - レーザーレーダーの認識エリア外に障害物が存在するとき
 - 障害物の高さが低いとき（縁石など）
 - 障害物が小さいとき（小動物、幼児など）
 - 障害物に接近しすぎたとき

 警告

次のような障害物に対しては、後方誤発進抑制制御機能は作動しません。

- 背の低い障害物
- 小さい障害物（小動物、幼児など）、幅の狭い障害物
- 針金、金網、ロープ、道路標識やポールなどの細い障害物
- 急に後方に現れたもの
- 車両後方を横切るもの
- 人や綿、雪など音波を反射しにくいもの
- 地面に対して垂直でない壁、車両後面に対して斜めの壁
- 凸凹な壁、波打っている壁など、平面でない壁
- ソナーの認識エリア外に存在する障害物

警告

次のような場合は、後方誤発進抑制制御機能が作動しないことがあります。

- 運転者の操作状態（アクセル、ブレーキ、ハンドルなど）
- 路面の状態（勾配、凸凹など）
- 車両の状態（積載、乗員など）
- 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧、スペアタイヤなど）
- 悪天候時（強い雨、雪、霧など）
- エンジン始動直後
- 荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化した場合
- 後方障害物との距離や向き、横位置（オフセット量）
- 勾配が急な坂道を走行しているとき
- ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に以下のような場合）
 - バンパーに非常に近い障害物や、地面から高い位置に存在する障害物
 - 動いているもの
 - スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物
 - 障害物の面が車両の後面に対して斜めのときや、障害物に対して斜めに接近しているとき
 - 障害物が車両の中央から横にずれた位置にあるとき
 - 壁から柱や配管などが突き出しているとき
 - 認識できる障害物と車両とのあいだに、認識できない障害物がある場合
 - 炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温の場合
 - 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき
 - どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
 - 周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど）
 - ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
 - 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

⚠ 注意

- 次のような場合は、誤発進抑制制御機能、および後方誤発進抑制制御機能が予期しない作動をする可能性があるため、スマートアシストIIを“OFF”にしてください。
(スマートアシスト OFF スイッチ→ 299 ページ)
 - けん引されるとき
 - キャリアカーに積載するとき
 - シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
 - リフトアップし、エンジンをかけタイヤを空転させたいとき
 - 草むらや茂みなどに触れながら通過するとき
 - サーキットなどでスポーツ走行するとき
 - 脱輪したときやぬかるみから脱出するとき
 - 冠水した道を走行するとき
- 次のような場合は、誤発進抑制制御機能が作動することがありますので、安全運転に努めてください。
 - 前方車に接近して走行するときや、前方車や壁ぎりぎりに接近して停止するとき
 - 路面の勾配が急に变化する場所を走行するとき
 - 水蒸気や霧、煙のかたまりを通過するとき
 - ビニールカーテン、旗などもぐって通過するとき
 - 前方車などの水、雪などの巻上げ
 - 停止車両などの横すれすれを通過するときや対向車が自車に向かって接近するとき
 - 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
 - 路面上に大きな反射物や、反射しやすい路面ペイント等がある場合
 - カーブの入口に路側物があるとき
 - カーブですれ違う対向車両があるとき
 - カーブや交差点に障害物があるとき
 - 縦列駐車から本線に合流するとき

⚠ 注意

- 次のような場合は、後方誤発進抑制制御機能が作動することがありますので、安全運転に努めてください。
 - 障害物ぎりぎりに接近して停止するとき
 - 路面の勾配が急に变化する場所を走行するとき
 - ビニールカーテン、旗などもぐって通過するとき
 - 水、雪などの巻上げ
 - 障害物の横すれすれを通過するとき
 - 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
 - 縦列駐車をするとき
 - 後方に障害物がある状態で、段差などを乗り越えるとき
 - 車両側面の近くに障害物があるとき
 - 路面上に段差や縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき
 - 狭いスペースに進入するとき
 - どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
 - 霧、雪、砂嵐など悪天候の状況
 - 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
 - ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
 - 車両姿勢が大きく傾いたとき
 - 積載状況などにより車高が著しく変化した場合
 - 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
 - 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき
 - 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）の上や砂利道を走行するとき
- 後方誤発進抑制制御機能には、車両後方やコーナーの障害物を認識し、ブザー音等でお知らせする機能はありません。

知識

- 次のような場合は、システムが作動しません。
 - エンジン始動直後
 - スマートアシスト OFF スイッチでシステムを“OFF”にしているとき
 - スマートアシスト OFF 表示灯が点灯しているとき
 - スマートアシスト“故障”表示がされているとき（システム異常）
 - スマートアシスト“停止”表示がされているとき（機能低下）

誤発進抑制制御機能、後方誤発進抑制制御機能を“OFF”にするとき

スマートアシスト OFF スイッチを約 2 秒以上押し続けることで、誤発進抑制制御機能、および後方誤発進抑制制御機能を“OFF”にすることができます。

同時に以下の機能も“OFF”になります。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能
- 先行車発進お知らせ機能

（スマートアシスト OFF スイッチ→ 299 ページ）

知識

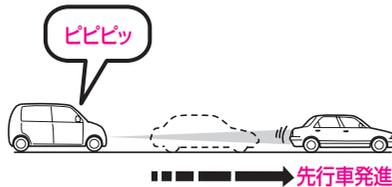
- スマートアシスト OFF スイッチでシステムを“OFF”にしても、エンジンスイッチを“ON”にするたびに、システムは“ON”に戻ります。

先行車発進お知らせ機能

先行車発進お知らせ機能は、先行車の発進後に自車が停止し続けた場合に、ブザー音とメーター表示で運転者にお知らせします。

先行車に続いて停車中（車間距離が約 10 m 以内、かつ自車がしばらく停車中）、先行車が発進して約 3m 以上進んでも自車が発進しないときに作動します。

（ブザー音→298 ページ）



⚠ 注意

- 先行車発進お知らせ機能は、安全に発進できる状態を知らせたり、あらゆる状況での先行車の発進を知らせたりするものではありません。先行車発進お知らせ機能に頼らず、十分に安全を確認して運転してください。

📖 知識

ブザー音について

- ブザーが鳴るタイミングを変更することができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。
- カスタム仕様車は、ブザーの音量を変更することができます。

（表示画面の設定→200 ページ）

先行車発進お知らせ機能の作動条件について

この機能は、自車が以下の条件を全て満たしたときに作動可能となります。

- エンジンスイッチが“ON”
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯
- スマートアシスト “停止” 表示、スマートアシスト “故障” 表示がされていない
- セレクトレバーが 、、 レンジでブレーキペダルを踏んでいる、または  レンジ
- 停止してから数秒経過
- フロントワイパーが “低速作動”、“高速作動” の位置以外

知識

- 次のような場合は、先行車が発進していても機能が働いてしまう場合や、発進していても作動が遅れたり、機能が働かない場合があります。
 - 停止した先行車との間にオートバイなどが割り込んできたとき
 - 天候や道路形状などにより先行車を認識出来ないとき
 - 先行車を見失ったとき
 - セレクトレバーが 、、 レンジで、ブレーキペダルを踏んでいないとき
 - 先行車との横位置がずれていた場合（オフセット量）
 - 自車が停止した時に先行車が動いている場合
 - 先行車が急発進や急旋回した場合
 - 先行車がキャリアカーやゴミ収集車などの特殊車両や、形状が壁状でない車両や黒い車両
 - 汚れなどで、両方のリフレクタが十分見えていない先行車
 - 大型車など地上高が高く、リフレクタの取り付け位置が高い先行車
 - でこぼこ道やオフロードなどの悪路を走行しているとき

先行車発進お知らせ機能を“OFF”にするとき

スマートアシスト OFF スイッチを約 2 秒以上押し続けることで、先行車発進お知らせ機能を“OFF”にすることができます。同時に以下の機能も“OFF”になります。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能
- 誤発進抑制制御機能
- 後方誤発進抑制制御機能

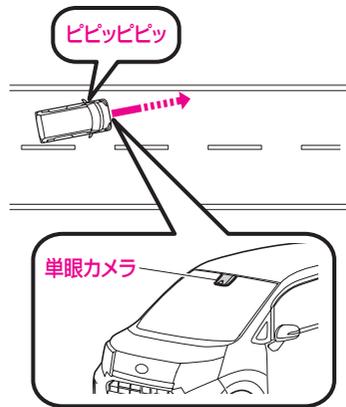
（スマートアシスト OFF スイッチ→299 ページ）

知識

- スマートアシスト OFF スイッチでシステムを“OFF”にしても、エンジンスイッチを“ON”にするたびに、システムは“ON”に戻ります。

車線逸脱警報機能

車線逸脱警報機能は、フロントガラス上部に設置された単眼カメラによって左右の白線または黄線を認識し、車速が約 60km/h 以上で運転者が意図せず走行車線から逸脱する可能性があるシステムが判断したときに、ブザー音とメーター表示で運転者に注意を促します。



警告

- 車線逸脱警報機能は、車線逸脱を防止するものではありません。また、脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意、および雨、霧などの視界不良を補助するものではありません。車線の維持を車線逸脱警報機能に頼っていると、車線逸脱による事故につながるおそれがあります。
- 車線逸脱警報機能が作動した場合は、周囲の状況に応じてハンドル操作を行うなどの適切な操作をしてください。
- 車線逸脱警報は路肩や側溝などの道路の端を認識して警報する機能ではありません。

知識

ブザー音について

- カスタム仕様車は、ブザーの音量を変更することができます。

(表示画面の設定→ 200 ページ)

車線逸脱警報機能の作動条件について

この機能は、自車が以下の条件を全て満たしたときに作動可能となります。

- エンジンスイッチが“ON”
- 車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯
- スマートアシスト“停止”表示、スマートアシスト“故障”表示がされていない
- 車速が約 60km/h 以上
- フロントワイパーが“低速作動”、“高速作動”の位置以外
- 方向指示器表示灯が消灯（方向指示器表示灯が消灯してから約 7 秒間は作動しません）
- 直線または緩やかなカーブの道路を走行している

警告

- 次のような条件では、車線逸脱警報機能を抑制しています。
 - 車線内を走行していないとき
 - カーブ内側にはみ出して走行してしまっているとき
 - 車線幅が狭いとき
 - 方向指示器を使用しているとき
 - 急な操舵などにより、運転者に回避の意思があるとシステムが判断したとき
 - 車線逸脱警報が作動してから約 7 秒間

⚠ 注意

以下の条件では白線（黄線）を正確に認識できず、車線逸脱警報機能が適切に作動しないことがあります。

- 白線（黄線）と道路表面の区別ができないときや、かすれたり汚れたりして見えにくいとき
- 天候（雨、霧、雪など）により白線（黄線）が見えにくいとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 前方から強い光（太陽光など）を受けているときや、強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや、水たまりがあるとき
- 木々や建物の影を走行するとき、ガードレールなどの影が道路上に映っているとき
- 夜間で街灯のついていない道路を走行しているとき
- 道路の状態（特に以下のような場合）
 - 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
 - 道路の修復や古い白線（黄線）のため、アスファルトの継ぎ目や線状の補修痕、白線（黄線）のかすれや重複、タイヤ痕などがあるとき
 - 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
 - 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
 - 車両などが白線（黄線）の一部を隠しているとき
 - 坂道や丘の頂上に近付いているとき
 - 段差などにより車両が大きく揺れたとき
 - 路上のもの（縁石、ガードレール、パイロンなど）を白線（黄線）と認識したとき
 - 道路がうねって車線がゆがんで見えるときや先が見通せないとき
 - 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
 - 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
 - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
 - 濡れた路面や積雪路でのタイヤの跡などがあるとき
 - 分岐・合流路などを走行するとき
 - 急なカーブのある道路を走行するとき

⚠ 注意

- 自車の状態により単眼カメラが正しく認識できないとき（特に以下のような場合）
 - ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
 - フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪に覆われているとき
 - フロントガラス内側が曇っているとき
 - ワイパーの拭き残しがあるとき
 - タイヤの空気圧が適正でないとき
 - スペアタイヤやタイヤチェーンを装着しているとき
 - 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき
 - サスペンションを改造したとき
 - 重い荷物を積んで車が傾いているとき
 - 先行車との車間距離が短いとき
 - 自車が白線（黄線）に対してまっすぐに走行していないとき
 - 単眼カメラが高温になったとき

車線逸脱警報機能を“OFF”にするとき

スマートアシスト OFF スイッチを押すことで、車線逸脱警報機能を“OFF”にすることができます。

（スマートアシスト OFF スイッチ→ 299 ページ）

📖 知識

- “ON” または “OFF” の状態は、エンジンを再始動しても維持されます。

メーター表示

マスターウォーニング



- エンジンスイッチが“ON”で、下記の場合に点灯します。
 - スマートアシストIIに異常があるとき
 - 衝突回避支援ブレーキ機能の1次ブレーキ、2次ブレーキが作動したとき
 - 誤発進抑制制御機能が作動したとき
 - 後方誤発進抑制制御機能が作動したとき

⚠ 注意

点灯した場合

標準車

- 同時に、スマートアシストOFF表示灯と車線逸脱警報OFF表示灯が点灯したときは、スマートアシストIIは作動しません。通常走行に支障ありませんが、スバル販売店で点検を受けてください。

カスタム仕様車

- 同時に TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されます。警告メッセージの表示に従って処置してください。

(警告メッセージ→189ページ)

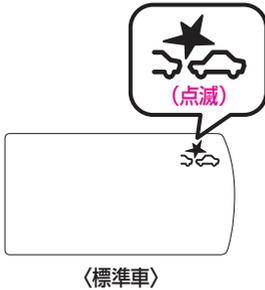
📖 知識

カスタム仕様車

- 下記の場合にも点灯します。
 - エンジンオイルの圧力が低下したとき
 - 充電系統に異常があるとき
 - キーレスアクセスに異常があるとき
 - 車両通信システムに異常があるとき

(警告灯(マスターウォーニング)→148ページ)

スマートアシスト“作動”表示



〈カスタム仕様車〉

- エンジンスイッチが“ON”で、下記の機能が作動したときに表示します。
 - 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
 - 衝突回避支援ブレーキ機能
 - 誤発進抑制制御機能
 - 後方誤発進抑制制御機能
 - 先行車発進お知らせ機能

標準車

- エンジンスイッチを“ON”にするとスマートアシスト作動灯が点灯し、数秒後に消灯します。
- システム作動時、スマートアシスト作動灯が点滅します。

カスタム仕様車

- システム作動時、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されます。
(警告メッセージ→189ページ)

スマートアシスト OFF 表示灯



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、下記の場合に点灯します。
 - スマートアシスト OFF スイッチで下記の機能を“OFF”にしたとき
 - 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
 - 衝突回避支援ブレーキ機能
 - 誤発進抑制制御機能
 - 後方誤発進抑制制御機能
 - 先行車発進お知らせ機能
 - スマートアシストIIに異常があるとき
(スマートアシスト OFF スイッチ
→299ページ)

車線逸脱警報“作動”表示



〈カスタム仕様車〉

- エンジンスイッチが“ON”で、車線逸脱警報機能が作動したときに表示します。

標準車

- エンジンスイッチを“ON”にすると車線逸脱警報作動灯が点灯し、数秒後に消灯します。
- システム作動時、車線逸脱警報作動灯が点滅します。

カスタム仕様車

- システム作動時、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されます。

(警告メッセージ→189ページ)

車線逸脱警報 OFF 表示灯



- エンジンスイッチが“ON”で、下記の場合に点灯します。

- スマートアシスト OFF スイッチで車線逸脱警報機能を“OFF”にしたとき
- スマートアシストIIに異常があるとき

(スマートアシスト OFF スイッチ
→299ページ)

知識

- 車線逸脱警報機能は、エンジンを再始動しても“ON”または“OFF”の状態を維持します。“ON”の状態を維持しているときは、エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

(スマートアシスト OFF スイッチ→299ページ)

スマートアシスト“故障”表示



〈標準車〉



〈カスタム仕様車〉

- エンジンスイッチが“ON”で、スマートアシストIIに異常があると表示します。

標準車

- マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

カスタム仕様車

- TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されます。
(警告メッセージ→189ページ)

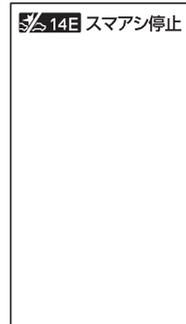
⚠ 注意

- 表示されたときは、スマートアシストIIは作動しません。
通常走行に支障ありませんが、スバル販売店で点検を受けてください。

スマートアシスト“停止”表示



〈標準車〉



〈カスタム仕様車〉

- エンジンスイッチが“ON”で、スマートアシストIIの機能が低下したときに“スマアシ停止”と機能低下コードが表示します。

知識

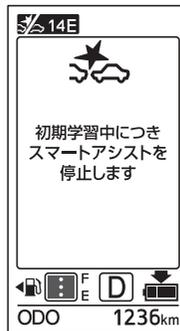
- “スマアシ停止”が表示したときは、スマートアシストIIは作動しません。
機能低下コードごとに適切な処置を行ってください。

(機能低下コード→ 297 ページ)

カスタム仕様車

- TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示することができます。

(メッセージ確認→ 180 ページ)



〈カスタム仕様車〉

機能低下コード

機能低下コード	原因	処置
10E	レーザーレーダー(車両前側)の窓部が汚れている	センサー窓部を清掃し、原因状態が解消されると、復帰します。
11E	フロントワイパーを“低速”または“高速”で作動している	原因状態が解消されると、復帰します。
	西日などの前方からの強い光を受けている 悪天候(強い雨、吹雪、濃霧など)のとき	
12E	レーザーレーダー(車両前側)内が高温になった	原因状態が解消されると、復帰します。
	エンジン始動後、2次ブレーキが3回作動した	安全な場所に停車し、エンジンスイッチを“OFF”にした後、再度エンジンスイッチを“ON”にしてください。
14E	スマートアシスト初期学習中	しばらく走行すると、復帰します。
15E	ソナー部(車両後側)に雪氷や泥が付着している	ソナー部を清掃し、原因状態が解消されると、復帰します。
16E	フロントワイパーを“高速”で作動している	原因状態が解消されると、復帰します。
18E	フロントガラスの汚れなどで単眼カメラが前方を認識できない	フロントガラスを清掃し、原因が解消されると、復帰します。
19E	単眼カメラ内が高温になった	原因状態が解消されると、復帰します。

⚠ 注意

- 処置をしても、機能低下コードが表示されたままのときは、システムの異常が考えられます。通常走行に支障ありませんが、スバル販売店で点検を受けてください。

📖 知識

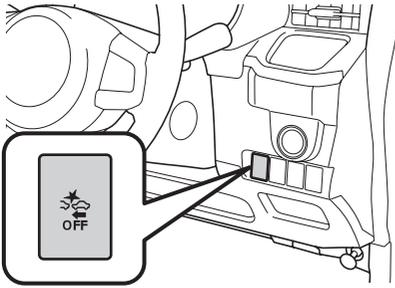
- 機能低下コード「15E」「16E」は、車速が上がると消灯します。
- 「10E」「11E」「18E」「19E」は[R]レンジ以外、「15E」「16E」は[R]レンジのときに表示されます。

ブザー音

スマートアシストIIの状態に応じて、メーター表示とともにブザーが鳴ります。

	インジケーター	液晶部	ブザー音
スマートアシストOFFスイッチで、以下の機能を停止したとき ・衝突警報機能(対車両・対歩行者) ・衝突回避支援ブレーキ機能 ・誤発進抑制制御機能 ・後方誤発進抑制制御機能 ・先行車発進お知らせ機能	 が点灯	—	ピピッ
スマートアシストOFFスイッチで、車線逸脱警報機能を停止したとき	 が点灯	—	ピピッ
システム異常時	   が点灯	〈標準車〉 以下のシステムに異常がある場合、“スマアシ故障”を表示 ・レーザーレーダー ・ソナー ・単眼カメラ 〈カスタム仕様車〉 スマートアシスト故障の警告メッセージを表示	—
機能低下時	—	“スマアシ停止”と機能低下コードを表示	—
衝突警報機能	—	〈標準車〉  が点滅	ピピピピッ…
衝突回避支援機能	1次ブレーキ	 が点灯	ピピピピッ…
	2次ブレーキ		ピピピピッ…
停止保持	—	〈カスタム仕様車〉 スマートアシスト作動の警告メッセージを表示	ピピピッ…
誤発進抑制制御機能	警報	—	ピピピッ
	制御	 が点灯	ピピピピッ…
後方誤発進抑制制御機能	警報	—	ピピピピピッ
	制御	 が点灯	ピピピピッ…
先行車発進お知らせ機能	—	—	ピピピッ
車線逸脱警報機能	〈標準車〉  が点滅	〈カスタム仕様車〉 スマートアシスト作動の警告メッセージを表示	ピピピピッ

スマートアシスト OFF スイッチ



エンジンスイッチが“ON”のとき、スマートアシスト OFF スイッチを操作することで、スマートアシストIIの以下の機能を停止することができます。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能
- 誤発進抑制制御機能
- 後方誤発進抑制制御機能
- 先行車発進お知らせ機能
- 車線逸脱警報機能

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能、誤発進抑制制御機能、後方誤発進抑制制御機能、先行車発進お知らせ機能を“OFF”にするとき

スマートアシスト OFF スイッチを約 2 秒以上押し続けると、“OFF”になります。

- メーター内のスマートアシスト OFF 表示灯が点灯し、ブザーが鳴ります。

“ON（作動可能状態）”に戻すときは、再度スイッチを約 2 秒以上押し続けます。

- メーター内のスマートアシスト OFF 表示灯が消灯し、ブザーが鳴ります。

知識

- スマートアシスト OFF スイッチでシステムを“OFF”にしても、エンジンスイッチを“ON”にするたびに、システムは“ON”に戻ります。

■ 車線逸脱警報機能を“OFF”するとき

スマートアシスト OFF スイッチを押すと、“OFF” になります。

- メーター内の車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯し、ブザーが鳴ります。

“ON（作動可能状態）”に戻すときは、再度スイッチを押します。

- メーター内の車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯し、ブザーが鳴ります。

📖 知識

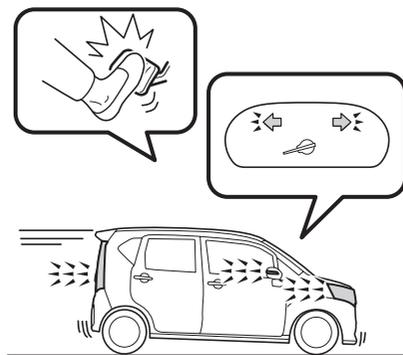
- “ON” または “OFF” の状態は、エンジンを再始動しても維持されます。

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、自車が急ブレーキをかけたことを、非常点滅表示灯が自動で高速点滅し、後続車に注意をうながすことで、追突される可能性を低減させるシステムです。

- 約 60km/h 以上で走行しているときに、急ブレーキをかけると作動します。



■ 作動条件について

エマージェンシーストップシグナルは、自車が下記の条件を全て満たしたときに作動します。

- 非常点滅表示灯スイッチが“OFF”
- 約 60km/h 以上で走行中
- ブレーキペダルを踏み、急減速した、または ABS が作動した

■ 作動停止について

エマージェンシーストップシグナルは、下記のいずれかのときに作動が停止します。

- 非常点滅表示灯スイッチを“ON”にした
- ブレーキペダルから足を離れた
- 急減速でなくなった
- ABS が作動停止した

⚠ 注意

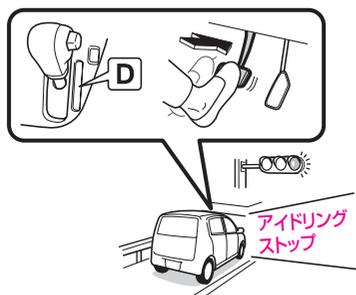
- エマージェンシーストップシグナルは、追突される可能性を低減させるシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。
- 運転するときは不必要な急ブレーキを避け、安全運転を心がけてください。
- ABS 警告灯、または VDC&TRC 警告灯が点灯しているときは、エマージェンシーストップシグナルが作動しないことがあります。

アイドリングストップシステム

「アイドリングストップ」*

「アイドリングストップ」は、エンジン暖機後に信号待ちや渋滞などで減速した際、停車前（約 11km/h^* 以下）もしくは停車後に、燃費向上や排気ガス低減、アイドリング騒音低減のため、自動でエンジンを停止（アイドリングストップ）、再始動させるシステムです。

アイドリングストップ、エンジン再始動のしかた



- 1 走行中にアイドリングストップが作動する条件を満たすと、「アイドリングストップ」表示灯が緑色に点灯します。

<スタンバイ状態>

（スタンバイ条件→305 ページ）

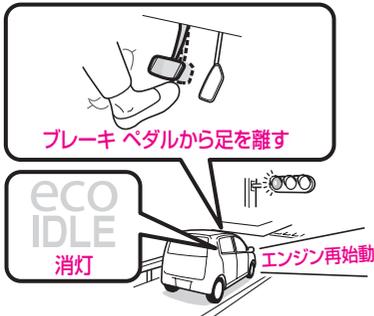
- 2 ④レンジのままブレーキペダルを踏み減速すると、停車前（約 11km/h^* 以下）もしくは停車後に、アイドリングストップします。

<アイドリングストップ状態>

- 「アイドリングストップ」表示灯はアイドリングストップ中も緑色に点灯し続けます。

（停車前のアイドリングストップ条件
→306 ページ）

（停車後のアイドリングストップ条件
→307 ページ）



3 ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動します。

<エンジン再始動>

●「アイドリングストップ」表示灯は消灯します。

(エンジン再始動条件→307ページ)

4 しばらく走行して、再びアイドリングストップが作動する条件を満たすと、「アイドリングストップ」表示灯が緑色に点灯します。

「アイドリングストップ」の注意事項

⚠ 警告

- アイドリングストップ中は車外へ出ないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 運転席シートベルトを外したり運転席ドアを開けたりすると、ブレーキペダルを踏んでいても、エンジンが再始動しますので、あわてずにブレーキペダルを踏み続けてください。
- シートベルトとドアを元に戻すまで、警告ブザーが鳴り続けます。

(警告ブザー→309ページ)



⚠ 注意

- ブレーキペダルとアクセルペダルは右足で操作してください。慣れない左足でのブレーキペダル操作は緊急時の反応が遅れることがあり危険です。

⚠ 注意

- アイドリングストップ中は、ブレーキペダルを踏んだまま、アクセルペダルを踏むとエンジンが再始動しますので、車両の発進には十分ご注意ください。
- 長時間停車するときや車両から離れるときは、駐車ブレーキをかけ、エンジンスイッチを操作してエンジンを停止させてください。

「アイドリングストップ」を正常に作動させるために

- 下記の場合、「アイドリングストップ」が正常に作動しないおそれがあります。スバル販売店で点検を受けてください。
 - 運転席シートベルトを着用していても、シートベルト警告灯（運転席）が点滅するとき
 - 運転席シートベルトを外していても、シートベルト警告灯（運転席）が点滅しないとき
 - 運転席ドアを閉めても半ドア警告灯が点灯する、または室内照明のスイッチが“DOOR”のときに室内照明が点灯するとき
 - 運転席ドアを開けても半ドア警告灯が点灯しない、または室内照明のスイッチが“DOOR”のときに室内照明が点灯しないとき

📖 知識

アイドリングストップ中の操作について

- アイドリングストップ中に、セレクトレバーを **D** から **N** レンジ（または **S** レンジ）に操作してもアイドリングストップは継続します。
ただし、セレクトレバーを **N** レンジに操作したあと他のレンジに操作すると、エンジンが再始動します。
- 右左折や合流時など、アイドリングストップ中に事前に発進準備をしたいときは、下記の操作で事前にエンジンを再始動することができます。
 - ブレーキペダルをすばやく増し踏みする
 - ハンドル操作をする
 - 「アイドリングストップ」 OFF スイッチを押す
（「アイドリングストップ」 OFF スイッチ→ 312 ページ）

アイドリングストップ中のエアコンの作動について

- アイドリングストップ中はエアコンの冷房、除湿機能が停止し、送風のみになります。通常作動に戻すには、下記の操作でエンジンを再始動させてください。
 - ブレーキペダルをすばやく増し踏みする
 - 「アイドリングストップ」 OFF スイッチを押す

システムの作動条件について

スタンバイ条件

下記の条件をすべて満たすと、「アイドリングストップ」表示灯が緑色に点灯し、アイドリングストップが作動可能な状態になります。

- 「アイドリングストップ」OFFスイッチを押して、アイドリングストップの作動を停止していないとき
(アイドリングストップ作動停止中は、「アイドリングストップ」OFF表示灯がオレンジ色に点灯します)
- エンジンが十分に暖まっているとき
- トランスミッションオイルが十分に暖まっているとき
- エンジン冷却水温が高すぎないとき
- バッテリーが十分に充電されているとき
- エンジン始動後に約10km/h以上でしばらく走行したあと
(走行せずにアイドリング状態を続けていても、アイドリングストップが作動しません)
- セレクトレバーがDレンジのとき
- ボンネットが閉まっているとき
- 運転席ドアが閉まっているとき
- 運転席シートベルトを着用しているとき
- 外気温が約0°C以上のとき
(走行状態によって、実際の外気温とメーター表示の外気温は、異なる場合があります)
- フロントデフロスタースイッチが“OFF”のとき(オートエアコン装着車)
- 車内温度が快適なとき(オートエアコン装着車の冷房時)
- システム(「アイドリングストップ」、エンジン電子制御、CVT、ABS、VDC、エアコン、電動パワーステアリング、車両通信)が正常なとき

知識

- 下記の場合、スタンバイ状態になるまでに時間がかかる場合があります。
 - 車両を長期間使用しなかったときなど、バッテリーが放電しているとき
 - バッテリー交換などで、バッテリーの⊖端子をはずしたあと
 - 冷房初期(オートエアコン装着車)

■ 停車前のアイドリングストップ条件

スタンバイ条件と下記の条件をすべて満たすと、「アイドリングストップ」表示灯が緑色に点灯したまま、停車前にアイドリングストップします。

- 車速が約 25km/h 以上で走行したあと、約 11km/h 以下になったとき（ターボ車以外）
- 車速が約 9km/h 以下になったとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき
- アクセルペダルを踏んでいないとき
- ライティングスイッチが“OFF” のとき
- フロントワイパー・ウォッシャースイッチが“OFF” のとき
- ハンドルの切れ角が小さいとき
- 急減速していないとき
- ABS、VDC が作動していないとき
- 衝突回避支援ブレーキ機能が作動していないとき（スマートアシストII装着車）

📖 知識

- 下記の場合、停車前アイドリングストップしない場合があります。
 - ブレーキブースター（ブレーキ倍力装置）の負圧が低下しているとき
 - ブレーキペダルを踏む力が弱いとき
 - 勾配のある坂道を走行しているとき
 - ゆるやかに減速しているとき

■ 停車後のアイドリングストップ条件

スタンバイ条件と下記の条件をすべて満たすと、「アイドリングストップ」表示灯が緑色に点灯したまま、停車後にアイドリングストップします。

- 車両が停車しているとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき
- アクセルペダルを踏んでいないとき
- ハンドル操作をしていないとき
- ABS、VDC が作動していないとき
- 衝突回避支援ブレーキ機能が作動していないとき（スマートアシストII装着車）

📖 知識

- 下記の場合、アイドリングストップしない場合があります。
 - ブレーキブースター（ブレーキ倍力装置）の負圧が低下しているとき
 - ブレーキペダルを踏む力が弱いとき
 - 急勾配の坂道で停車したとき

■ エンジン再始動条件

アイドリングストップ中に、下記のいずれかの操作を行うとエンジンが再始動します。

- ブレーキペダルから足を離す
- ブレーキペダルをすばやく増し踏みする
- アクセルペダルを踏む
- ハンドル操作をする
- セレクトレバーを  ・  レンジに操作する
- セレクトレバーを  レンジに操作したあと、他のレンジに操作する
- 「アイドリングストップ」OFF スイッチを押して、システム作動を停止する
- フロントデフロスタースイッチを“ON”にする（オートエアコン装着車）
- 運転席ドアを開ける
- 運転席シートベルトを外す

知識

エンジンの再始動について

- 下記の場合でも、アイドリングストップ中にエンジンが再始動し、クリープ現象*が発生しますので、ブレーキペダルはしっかりと踏み続けてください。
 - アイドリングストップ中に、アイドリングストップが作動可能な条件を満たさなくなった場合（「アイドリングストップ」表示灯は緑色に点滅後消灯）
 - ・ブレーキブースター（ブレーキ倍力装置）の負圧が低下したとき
 - ・坂道などで停止状態から車両が動き出したとき
 - ・バッテリーの放電量が多いとき
 - ・警告灯（エンジン、CVT、ABS、VDC&TRC、電動パワーステアリング、マスターウォーニング）が点灯するなど、各システムに異常が発生したとき
 - ・エアコンの制御システムに異常が発生したとき（オートエアコン装着車）
 - ・冷房時はエアコン吹き出し口の風の温度が上昇したとき（オートエアコン装着車）
 - ・アイドリングストップしてから約3分経過したとき
 - アイドリングストップ中に、「アイドリングストップ」システムに異常が発生した場合、またはエンジン部品（スターター）やバッテリーが交換時期になった場合（「アイドリングストップ」OFF表示灯はオレンジ色に点滅）

アイドリングストップ時間が短くなる場合

- 下記の場合、アイドリングストップ時間が短くなる場合があります。
 - 外気温が高く、エアコンを使用している状態で頻繁にアイドリングストップしたとき
 - 電装品などの消費電力が大きいとき

エンジンが再始動しない場合

- 下記の場合、警告ブザーが鳴って「アイドリングストップ」表示灯が点滅し、安全確保のためブレーキペダルから足を離しても、エンジンは再始動しません。
 - アイドリングストップ中にボンネットを開けたとき
(警告ブザー→309ページ)

エンジン再始動時の電装品の動作について

- オーディオの音量が大きいなど、アイドリングストップ中の消費電力が大きい場合、エンジン再始動時に下記の電源が一時的に“OFF”になることがあります。
 - オーディオ
 - カーナビゲーション（別売）
- アイドリングストップからエンジンが再始動すると、アクセサリソケットの電源電圧が低下するので、使用している電化製品によっては電源が一時的に“OFF”になることがあります。

警告ブザー

アイドリングストップ中に、運転席シートベルトを外したり、運転席ドアやボンネットを開いたりすると、警告ブザーが鳴ります。

運転席シートベルトを外したとき

警告ブザー（断続音）が鳴り、「アイドリングストップ」表示灯が緑色に高速で点滅します。

- エンジンが再始動します。

▼ 対処方法

- 運転席シートベルトを確実に着用してください。警告ブザーが止まります。

運転席ドアを開けたとき

警告ブザー（断続音）が鳴り、「アイドリングストップ」表示灯が緑色に高速で点滅します。

- エンジンが再始動します。

▼ 対処方法

- 運転席ドアが開いていないかを確認し、確実に閉めてください。
警告ブザーが止まります。

ボンネットを開けたとき

警告ブザー（断続音）が数秒間鳴り、「アイドリングストップ」表示灯が緑色に高速で点滅します。

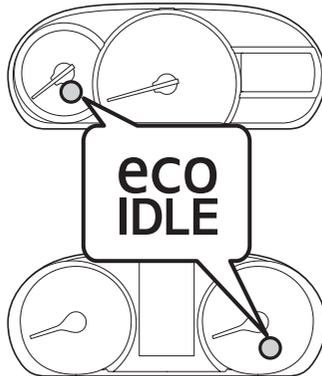
- 安全確保のため、通常のエンジン停止状態になります。（エンジン警告灯・チャージ警告灯・オイルプレッシャー警告灯も同時に点灯します）

▼ 対処方法

- ボンネットが開いていないか確認し、確実に閉めてください。
- セレクトレバーをPレンジに操作してから、エンジンスイッチを操作して、エンジンを始動してください。

「アイドリングストップ」表示灯（緑色）

「アイドリングストップ」に関する操作状況、車両の状態をお知らせします。



点灯

- エンジンスイッチを“ON”にしたとき
（数秒後消灯）
- アイドリングストップが作動可能な条件を満たしたとき
＜スタンバイ条件成立＞
- アイドリングストップ中

低速点滅後、消灯

アイドリングストップ中に、アイドリングストップが作動可能な条件を満たさなくなり、エンジンが再始動したとき

消灯

- アイドリングストップからエンジンが再始動したとき
- アイドリングストップが作動可能な条件を満たしていないとき
＜スタンバイ条件不成立＞

高速点滅

アイドリングストップ中に下記の状態になると、高速点滅すると同時に警告ブザーが鳴ります。

- 運転席シートベルトを外したとき
- 運転席ドアを開けたとき
- ボンネットを開けたとき

（警告ブザー→ 309 ページ）

知識

- 表示灯が点灯・点滅しているときに車幅灯を点灯すると、表示灯が減光します。

「アイドリングストップ」OFF 表示灯 (オレンジ色)



点灯

- 「アイドリングストップ」OFF スイッチを押して、アイドリングストップ作動を停止すると点灯します。

(「アイドリングストップ」OFF スイッチ
→ 312 ページ)

点滅

- 下記の状態になると、エンジンスイッチが“ON”のときに点滅します。
 - 「アイドリングストップ」システムに異常があるとき
 - エンジン部品(スターター)やバッテリーが交換時期のとき

⚠ 注意

オレンジ色に点滅した場合

- スバル販売店で点検を受けてください。

📖 知識

- 表示灯が点灯・点滅しているときに車幅灯を点灯すると、表示灯が減光します。

アイドリングストップ時間表示

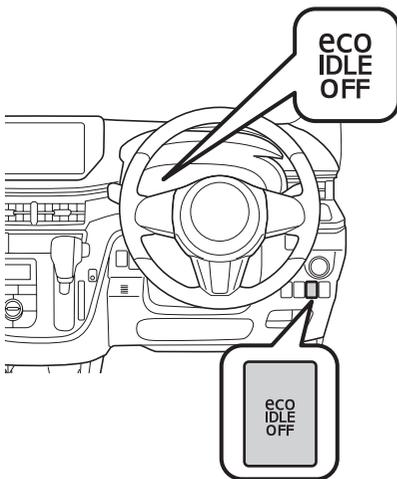
アイドリングストップ時間を、メーター内に表示できます。

(マルチインフォメーションディスプレイ→ 159 ページ)

(ドライブインフォメーション→ 175 ページ)

「アイドリングストップ」OFF スイッチ

「アイドリングストップ」の作動を停止したいときにスイッチを押します。



▼ 操作方法

- スイッチを押すと、アイドリングストップの作動停止状態になります。
 - メーター内の「アイドリングストップ」OFF 表示灯がオレンジ色に点灯します。
- もう一度スイッチを押すと、アイドリングストップ作動停止状態が解除されます。
 - 「アイドリングストップ」OFF 表示灯が消灯します。

(「アイドリングストップ」表示灯
→ 310 ページ)

(「アイドリングストップ」OFF 表示灯
→ 311 ページ)

📖 知識

- アイドリングストップ中に、スイッチを押すとエンジンが再始動し、アイドリングストップ作動停止状態になります。(「アイドリングストップ」OFF 表示灯はオレンジ色に点灯します)
- 「アイドリングストップ」はエンジンスイッチ操作によるエンジン始動をするたびに、作動可能状態に戻ります。

スマートクール* (蓄冷エバポレーター)

オートエアコン装着車

エアコンを使用しているとき、エアコンユニット内の蓄冷材を冷やして、アイドリングストップ中に車内に送風し、エアコンの冷房機能が停止している状態でも車内温度の上昇を抑えます。

- 車内温度の上昇が抑えられることで、アイドリングストップ時間が長くなり、燃費の向上につながります。

📖 知識

- エアコンを使用していないときや渋滞中は、蓄冷材が十分に冷やされない場合があります。また、外気温やエアコンの作動状態によっては効果に差があります。

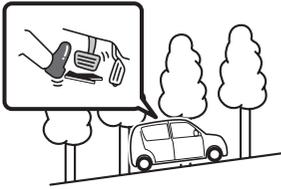
ヒルスタートアシスト

アイドリングストップからブレーキペダルをゆるめてエンジンが再始動する際、最長約 2 秒間ブレーキ力を保持するシステムです。

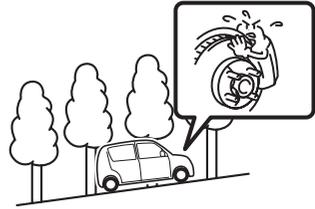
- 坂道発進時の後退を軽減します。

▼ 作動の流れ

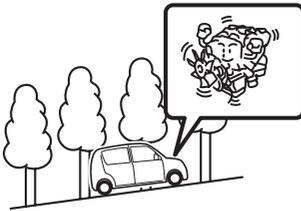
1 ブレーキペダルを踏む力をゆるめる



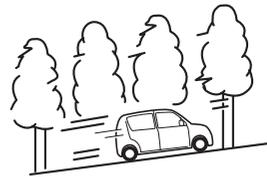
2 ブレーキ力保持



3 エンジン再始動



4 発進



⚠ 警告

- ヒルスタートアシストは、坂道で停車させるシステムではありません。システムが正常に作動していても、坂道で停車中にブレーキペダルをゆるめると車両が動き出すおそれがありますので、停車中はブレーキペダルをしっかり踏み続けてください。
- ヒルスタートアシストを過信しないでください。発進時に車両が不意に動き出すなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。常に周囲の状況を確認して、適切にセレクトレバー、ブレーキペダル、アクセルペダル、駐車ブレーキを操作して発進してください。
- ブレーキペダルから足を離したら、すみやかに発進操作を行ってください。坂道などで惰性で後退した場合、エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあり危険です。

警告

- ゆるやかな上り坂で停車前アイドリングストップしたあと、車両が停止する前にアクセルペダルを踏んで再加速しようとした場合、車両が後退することがあります。車両が惰性で後退したときは、周囲の状況に応じてブレーキペダル、アクセルペダルを操作し、安全に発進してください。
- 重い荷物を車内に積んでいるとき、または急な上り坂では、ヒルスタートアシストが作動していても、車両が後退することがあります。駐車ブレーキをかけたりするなどして発進してください。

知識

- ヒルスタートアシストの作動により、下記の状態になることがありますが、異常ではありません。
 - ブレーキペダルの踏みごたえが変わる
 - ブレーキペダルが振動する
 - ブレーキから音が発生する
- ヒルスタートアシストは、坂道だけではなく、平坦な道路でも作動します。

「アイドリングストップ」専用バッテリー

「アイドリングストップ」装着車は、高性能な専用バッテリーを搭載しています。バッテリーを交換するときは、この車専用のスバル指定バッテリーに交換してください。

注意

- 専用バッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やアイドリングストップが正常に作動しなくなる原因となります。
- バッテリーの端子から直接電装品の電源をとらないでください。アイドリングストップが正常に作動しなくなります。

知識

- バッテリーは定期的に充電することで、長持ちさせることができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

発電制御

発電制御

減速時の発電によってバッテリーを集中充電することにより、走行中（加速やクルージングなど）の発電を抑制、燃料消費量を低減させ、燃費を向上させる効果があります。

充電、放電状態表示

カスタム仕様車

TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに、バッテリーの充電、放電の状態を表示します。

（充電、放電状態表示→181 ページ）

装備品の使いかた

空調

マニュアルエアコン	318
オートエアコン	326
リヤウインドウデフォグガー	
スイッチ	335
ワイパーディアイサー	
スイッチ	336

オーディオ

ルーフアンテナ	337
---------	-----

室内装備品

室内照明	338
アクセサリーソケット	341
アームレスト	342
運転席シートヒーター	343
サンバイザー	344
アシストグリップ	345
収納装備	346
ドリンクホルダー	352
ショッピングフック	355

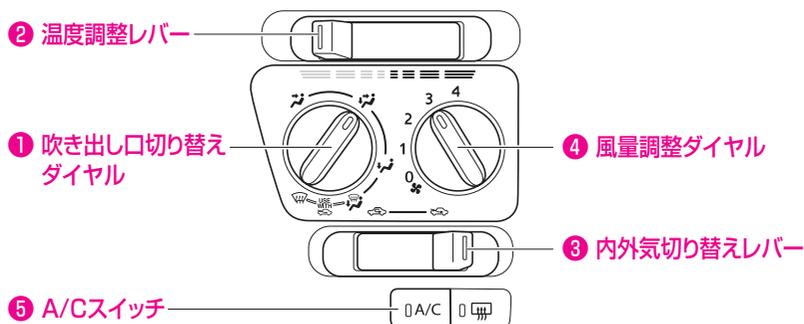
空調

マニュアルエアコン

オプション/グレード別装備

室内の冷暖房、除湿、曇り取りなどを行うことができます。

コントロールパネル



マニュアルエアコンの使いかた

通常の暖房

▼ 操作方法

- 吹き出し口切り替えダイヤル (①) を にする
- 温度調整レバー (②) を右 (高温側) にスライドする
- 内外気切り替えレバー (③) を にする
- 風量調整ダイヤル (④) を調整する

▼ 急速に暖房したいときは

温度調整レバー (②) を一番右 (高温側) にスライドして、内外気切り替えレバー (③) を にしてください。

知識

- 内外気切り替えレバー (③) を にして長時間使用すると、ガラスが曇りやすくなりますので一時的にご使用ください。
- 暖かくなってきたら温度調整レバー (②) を左 (低温側) にスライドして、お好みの温度に調整してください。

■ 通常の冷房

▼ 操作方法

- 吹き出し口切り替えダイヤル (1) を  にする
- 温度調整レバー (2) を左 (低温側) にスライドする
- 内外気切り替えレバー (3) を  にする
- 風量調整ダイヤル (4) を調整する
- A/C スイッチ (5) を “ON” にする

📖 知識

乗車直後に車内の温度が高いときは

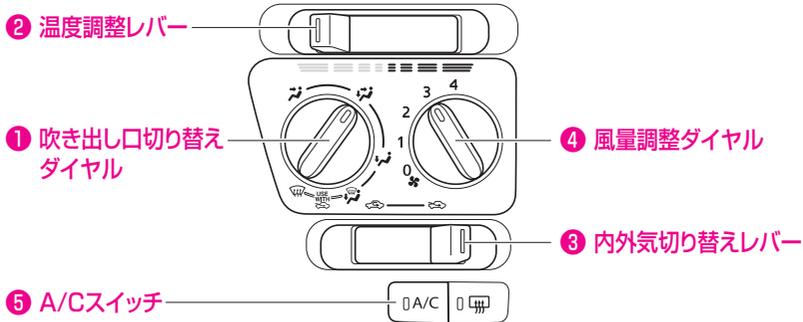
- 窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンを起動させてください。

▼ 急速に冷房したいときは

温度調整レバー (2) を一番左 (最低温) に操作して、内外気切り替えレバー (3) を  にしてください。

📖 知識

- 内外気切り替えレバー (3) を  にして長時間使用すると車内の空気が汚れます。換気のためときどき内外気切り替えレバー (3) を  にしてください。
- 冷えてきたら温度調整レバー (2) を右 (高温側) にスライドして、お好みの温度に調整してください。



■ 除湿暖房するとき (曇り止め)

▼ 操作方法

- 吹き出し口切り替えダイヤル (①) を ❶ にする
- 状況に応じて温度調整レバー (②) を調整する
- 内外気切り替えレバー (③) を ❷ にする
- 状況に応じて風量調整ダイヤル (④) を調整する
- A/C スイッチ (⑤) を “ON” にする

📖 知識

- 外気温が 0°C 近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。

■ 換気するとき

▼ 操作方法

- 吹き出し口切り替えダイヤル (①) を ❷ にする
- 状況に応じて温度調整レバー (②) を調整する
- 内外気切り替えレバー (③) を ❷ にする
- 状況に応じて風量調整ダイヤル (④) を調整する
- A/C スイッチ (⑤) を “OFF” にする

■ ガラスの曇りを取るとき

▼ 操作方法

- 吹き出し口切り替えダイヤル (1) を  にする
- 状況に応じて温度調整レバー (2) を調整する
- 内外気切り替えレバー (3) を  にする
- 状況に応じて風量調整ダイヤル (4) を調整する
- A/C スイッチ (5) を “ON” にする

▼ より早くガラスの曇りを取る場合

ガラスの曇りを取る操作と併せて、下記の操作を行います。

- 風量調整ダイヤル (4) で風量を増す
- 温度調整レバー (2) を右 (高温側) にスライドする

⚠ 警告

ガラスの曇りを防止するために

- 温度調整レバー (2) を一番左 (最低温) に操作しないでください。冷風がガラスに当たるとガラスの外側が曇ることがあります。

📖 知識

- 外気温が 0°C 近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。
- 吹き出し口切り替えダイヤル (1) を  にすると、曇り取りと同時に足元にも送風します。

外気が汚れているときは

- 一時的に内外気切り替えレバー (3) を  にしてください。

マニュアルエアコンの取扱いについて

⚠ 警告

- アイドリングストップ中は、エアコンが作動しないため室内の湿度が上がってガラスが曇ることがあります。エンジンを再始動し、エアコンを作動させてください。

(ガラスの曇りを取るとき→ 321 ページ)

📖 知識

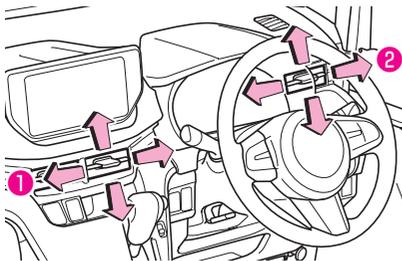
アイドリングストップ中にエアコンを作動させるには

- アイドリングストップ中はエアコンの冷房・除湿機能が停止し、送風のみになります。通常作動に戻すには、下記の操作でエンジンを再始動させてください。
 - ブレーキペダルをすばやく増し踏みする
 - 「アイドリングストップ」 OFF スイッチを押す

(「アイドリングストップ」 → 302 ページ)

風向き調整

吹き出し口



左右および中央の吹き出し口からの風向きの調整を行うことができます。

- ノブを動かして調整します。
- ノブを (1)、(2) の方向にいっぱいまで動かすと、吹き出し口を閉めることができます。

📖 知識

- 冷房時、まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり異常ではありません。

各ダイヤル／レバースイッチの使いかた

① 吹き出し口切り替えダイヤル



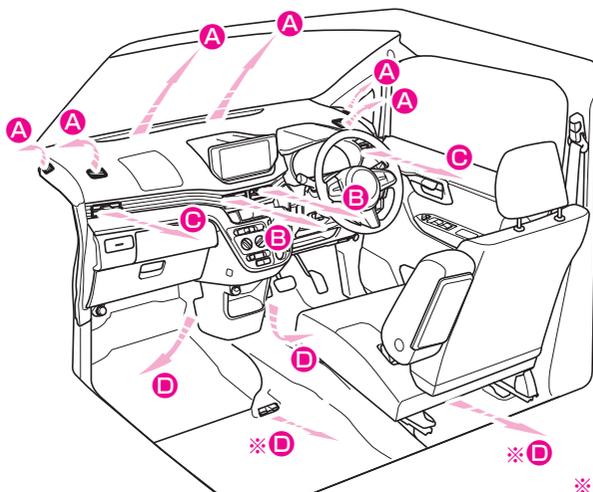
ダイヤルを左右に回して、吹き出し口を切り替えます。

- 風量は吹き出し口によって異なります。

ダイヤル位置					
吹き出し口	B C	B C D	D (A) (C)	A D (C)	A (C)

()は特に風量の少ないものを示します。

▼ 吹き出し口の位置



※はタイプ別装備

⚠ 警告

ガラスの曇りを防止するために

- 湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で作動させている場合は、吹き出し口を  または  に切り替えないでください。

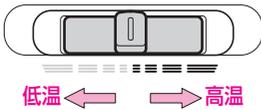
外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげるおそれがあります。

知識



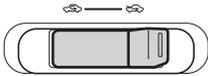
- このマークは、吹き出し口切り替えダイヤル (❶) を ☹ または ☺ に合わせるときに内外気切り替えレバー (❸) を ☹ に合わせて使用することをおすすめするためのものです。☹ に合わせることでガラスが曇りにくくなります。

❷ 温度調整レバー



レバーを左右にスライドして、温度を調整します。

❸ 内外気切り替えレバー



レバーをスライドして内気循環、外気導入を切り替えます。

▼ 内気循環 (☹)

- 外気をシャ断している状態です。トンネルや渋滞など外気が汚れているときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を高めたいときにお使いください。

▼ 外気導入 (☺)

- 外気を導入している状態です。通常はこの位置でお使いください。

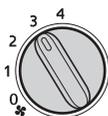
⚠ 注意

- “内気循環”を長時間使用しないでください。ガラスが曇りやすくなります。通常は“外気導入”を使用してください。
- トンネルや渋滞時などは、“内気循環”にして付近の排気ガスが室内に入るのを防いでください。
- 吹き出し口切り替えダイヤル (❶) が ☹、☹ または ☺ のとき“内気循環”にしないでください。ガラスが曇りやすくなります。

知識

- エアコン使用中に、室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風が臭うことがあります。エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

4 風量調整ダイヤル



吹き出し口からの風量を調整します。

- 4段階の切り替えができます。

5 A/C スイッチ

作動表示灯



- ファンが作動中に、スイッチを押すとエアコン（冷房、除湿機能）が作動します。
 - 作動表示灯が点灯します。
- もう一度押すとエアコンが停止します。
 - 作動表示灯が消灯します。

知識

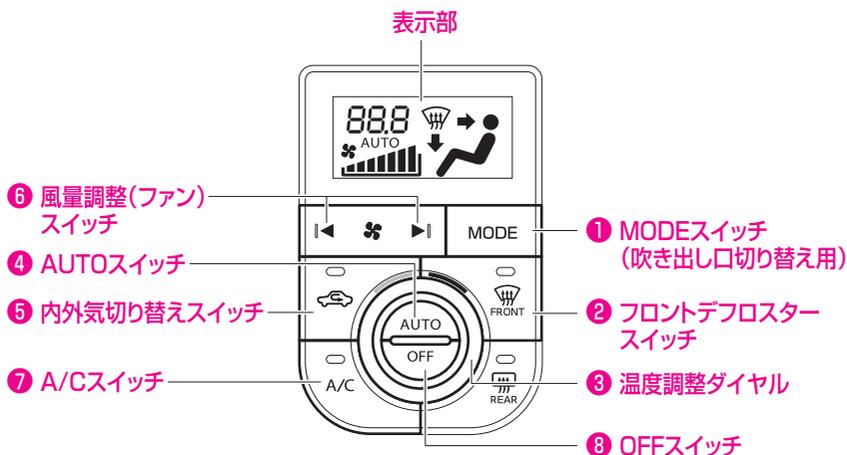
- 外気温が 0℃ 近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。
- 停車時（アイドリングストップ中は除く）の冷房効果を向上させるために、エンジンアイドリング回転を少し高くするアイドルアップ装置が付いています。アイドルアップ装置作動中の発進、停止時の運転操作に注意してください。冷房中、一時停止する場合はブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

■ オートエアコン

オプション/グレード別装備

室内の冷暖房、除湿、曇り取りなどを行うことができます。

■ コントロールパネル



■ オートエアコンの使いかた

■ 通常の使いかた

▼ 操作方法

- 1 エンジンを始動し、AUTO スイッチ (④) を押す
 - スイッチを“ON”にすると、吹き出し口・風量・および内外気切り替えが自動的に調整されます。
- 2 温度調整ダイヤル (③) で温度を調整する
- 3 停止するときには、OFF スイッチ (⑧) を押す

▼ 冷房・除湿をするときは

- A/C スイッチ (⑦) を押す

📖 知識

- 設定温度は 25°Cを目安に、お好みで調整してください。
乗車直後の室内温度が高い(または低い)ときに、設定温度を 25°Cより極端に低く(または高く)調整しても、希望の室内温度になるまでの時間はほとんど変わりません。

■ ガラスの曇りを取るとき

寒冷時や、雨のときなどガラスが曇ったときに使用します。

▼ 操作方法

- 1 フロントデフロスタースイッチ (2) を押すと、吹き出し口が切りかわる
 - 自動的にエアコンが作動して外気導入に切りかわります。
- 2 スイッチをもう一度押すと、曇り止めが停止し、元の状態に戻る

▼ より早くガラスの曇りを取る場合

- ガラスの曇りを取る操作と併せて、下記の操作を行います。
- 風量調整 (ファン) スイッチ (6) を操作して、風量を増す
- 温度調整ダイヤル (3) を操作して、設定温度を上げる

⚠ 警告

ガラスの曇りを防止するために

- 温度調整ダイヤル (3) を最低温に操作しないでください。冷風がガラスに当たるとガラスの外側が曇ることがあります。

📖 知識

- 外気温が 0℃ 近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。
- フロントデフロスタースイッチ (2) が “ON” のときは、アイドリングストップをしません。
- アイドリングストップ中にフロントデフロスタースイッチ (2) を “ON” にすると、エンジンが再始動します。

外気が汚れているときは

- 一時的に “内気循環” にしてください。

■ 換気するとき

導入された外気が中央および左右の吹き出し口から吹き出します。

▼ 操作方法

- 1 内外気切り替えスイッチ (5) を外気導入 (作動表示灯が消灯) にする
- 2 MODE スイッチ (1) を押して、“” に切り替える

アイドリングストップ中のエアコンの作動について

アイドリングストップ中は、エアコンの冷房、除湿機能が停止して送風のみになり、スマートクールで蓄わえた冷気を室内に送ります。

(スマートクール(蓄冷エバポレーター) → 312 ページ)

警告

- アイドリングストップ中は、エアコンが作動しないため室内の湿度が上がってガラスが曇ることがあります。エンジンを再始動し、エアコンを作動させてください。

(ガラスの曇りを取るとき → 327 ページ)

知識

- エアコンの操作や室内温度により、アイドリングストップをしない場合や、アイドリングストップ中にブレーキペダルから足を離さなくてもエンジンが再始動することがあります。

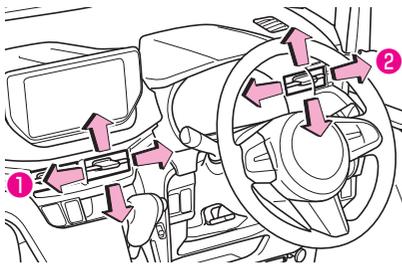
アイドリングストップ中にエアコンを作動させるには

- エアコンを通常作動に戻すには、下記の操作でエンジンを再始動させてください。
 - ブレーキペダルをすばやく増し踏みする
 - 「アイドリングストップ」OFF スイッチを押す

(「アイドリングストップ」 → 302 ページ)

風向き調整

吹き出し口



左右および中央の吹き出し口からの風向きの調整を行うことができます。

- ノブを動かして調整します。
- ノブを(1)、(2)の方向にいっぱいまで動かすと、吹き出し口を閉めることができます。

知識

- 冷房時、まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり異常ではありません。

各ダイヤル/スイッチの使いかた

① MODE（吹き出し口切り替え）スイッチ



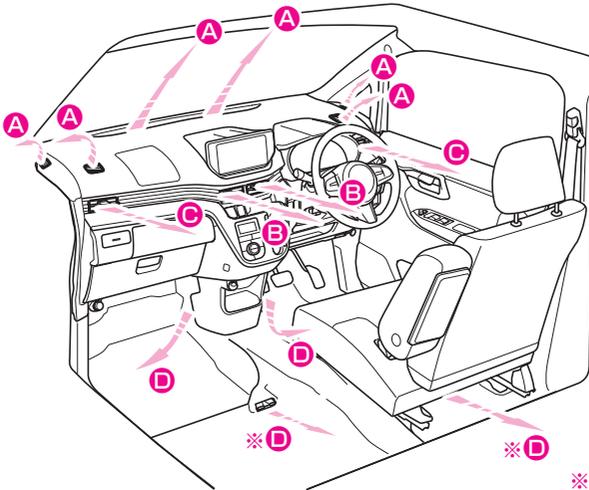
スイッチを押すごとに、吹き出し口が「 →  →  → 」の順に切り替わります。

- 選択された吹き出し口が表示部に表示されます。
- 風量は吹き出し口によって異なります。

表示				
吹き出し口	B C	B C D	D (A) (C)	A D (C)

()は特に風量の少ないものを示します。

▼ 吹き出し口の位置



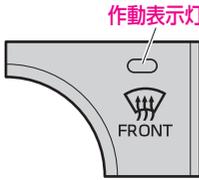
※はタイプ別装備

⚠ 警告

ガラスの曇りを防止するために

- 湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で作動させている場合は、吹き出し口を  に切り替えないでください。
- 外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげるおそれがあります。

② フロントデフロスタースイッチ



- スイッチを押すと、吹き出し口が切り替わり、自動的にエアコンが作動して外気導入に切り替わります。
 - 作動表示灯が点灯します。
- スイッチをもう一度押すと、曇り止めが停止し、元の状態に戻ります。
 - 作動表示灯が消灯します。

警告

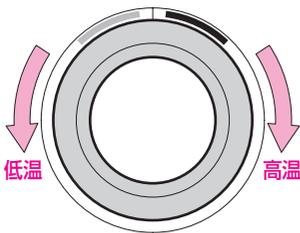
ガラスの曇りを防止するために

- 湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で作動させている場合は、スイッチを“ON”にしないでください。
外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげるおそれがあります。

知識

- スイッチが“ON”のときは、アイドリングストップをしません。
- アイドリングストップ中にスイッチを“ON”にすると、エンジンが再始動します。
(「アイドリングストップ」→ 302 ページ)

③ 温度調整ダイヤル



ダイヤルを左右に回して、設定温度を調整します。

- 設定温度が表示部に表示されます。

知識

- 設定温度を 18℃～ 32℃の間で調整することができます。最大冷房にすると“LO”、最大暖房にすると“HI”の表示になります。

4 AUTO スイッチ



スイッチを押すと、吹き出し口、風量、および内外気の切り替えが自動的に調整されます。

- 表示部に“AUTO”が表示されます。

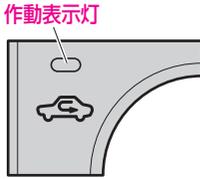
知識

AUTO スイッチが“ON” のときは

- 吹き出し口、または風量を手動で調整すると、表示部の“AUTO”が表示されなくなりますが、調整した機能以外は自動調整のままとなります。すべての機能を自動調整に戻すときは、再度 AUTO スイッチを押してください。
- 吹き出し口が または で、冬場などの寒いときには、温風の準備ができるまで、中央、左右、足元吹き出し口から風は出ません。
- 吹き出し口が または で、夏場などの暑いときには、冷風の準備ができるまで、数秒間ファンが“弱”で作動します。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるため、エアコン始動直後は、しばらく風が出ない場合があります。
- AUTO スイッチが“ON” のときで、アイドリングストップ中は、風量が少なくなるように調整されることがあります。
エンジンを再始動すると、風量は自動調整に戻ります。

(「アイドリングストップ」→ 302 ページ)

5 内外気切り替えスイッチ



スイッチを押して内気循環、外気導入を切り替えます。

▼ 内気循環（作動表示灯が点灯）

- 外気をしゃ断している状態です。
トンネルや渋滞など外気が汚れているときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を高めたいときにお使いください。

▼ 外気導入（作動表示灯が消灯）

- 外気を導入している状態です。
通常はこの位置でお使いください。

⚠ 注意

- “内気循環”を長時間使用しないでください。ガラスが曇りやすくなります。
- トンネルや渋滞時などは、“内気循環”にして付近の排気ガスが室内に入るのを防いでください。

📖 知識

- 設定温度や室内温度などにより、自動的に“内気循環”または“外気導入”へ切り替わることがあります。
- エアコン使用中に、室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風が臭うことがあります。
エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

6 風量調整（ファン）スイッチ



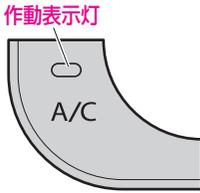
吹き出し口からの風量を調整します。

- 風量が表示部に表示されます。
- ▼ 風量を強くするには
 - スイッチの“▶”側を押します。
- ▼ 風量を弱くするには
 - スイッチの“◀”側を押します。
- ▼ ファンを停止するときは
 - OFF スイッチ (8) を押します。

📖 知識

- 吹き出し口が  または  で、夏場などの暑いときには、冷風の準備ができるまで、数秒間ファンが“弱”で作動する場合があります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるため、エアコン始動直後は、しばらく風が出ない場合があります。

7 A/C スイッチ



- ファンが作動中に、スイッチを押すとエアコン（冷房、除湿機能）が作動します。
 - 作動表示灯が点灯します。
- もう一度押すとエアコンが停止します。
 - 作動表示灯が消灯します。

知識

- 外気温が 0℃ 近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。
- 停車時（アイドリングストップ中は除く）の冷房効果を向上させるために、エンジンアイドリング回転を少し高くするアイドルアップ装置が付いています。アイドルアップ装置作動中の発進、停止時の運転操作に注意してください。冷房中、一時停止する場合はブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

8 OFF スイッチ



スイッチを押すと、空調機能が停止します。

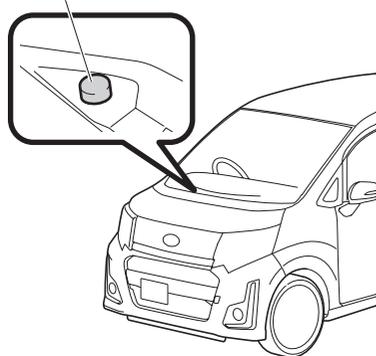
■ 温度調節センサー

オートエアコンには自動的に温度調節を行うために、センサーが取り付けられています。

■ 日射センサー

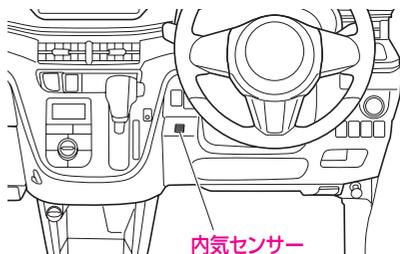
日射量を検知します。

日射センサー
(オートライトセンサー兼用)



■ 内気センサー

室内温度を検知します。

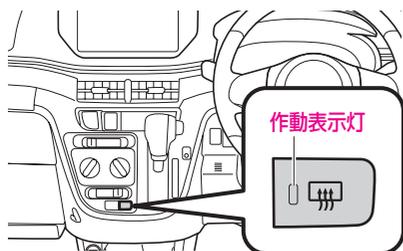


📖 知識

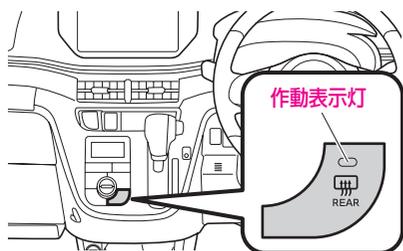
- 日射センサーの上に物を置いたり、内気センサーをシールなどでふさぐなどすると、センサーが正常に作動しなくなることがあります。

リヤウインドゥデフォグガススイッチ

マニュアルエアコン装着車



オートエアコン装着車



- スイッチを押すと、リヤウインドゥガラスが暖められ、曇りを取ることができます。
 - 作動表示灯が点灯します。
- スイッチをもう一度押すと、作動が停止します。
 - 作動表示灯が消灯します。
- ヒーテッドドアミラー装備車では、リヤウインドゥガラスと同時にドアミラーも暖められ、ミラーについての曇りを取ることができます。

知識

バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを止めた状態で長時間使用しないでください。

リヤウインドゥガラス内面を清掃するときは

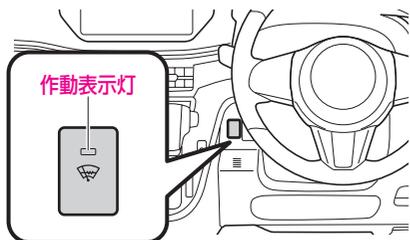
- リヤウインドゥガラス内面の電熱線を傷付けないでください。

オートエアコン装着車

- スイッチを押すと、約 15 分～ 60 分後に自動的に作動が停止します。
(外気温や車両の走行状態によって作動時間が異なります)

ワイパーディアイサースイッチ

オプション/グレード別装備



- スイッチを押すと、フロントウィンドウガラス下部が暖められ、フロントウィンドウガラスとフロントワイパーの凍結を防ぎます。
 - 作動表示灯が点灯します。
- スイッチをもう一度押すと、作動が停止します。
 - 作動表示灯が消灯します。

知識

- スイッチを押すと約 15 分間作動します。

バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを止めた状態で長時間使用しないでください。

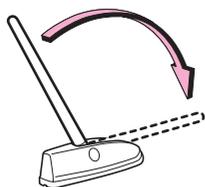
オーディオ

ルーフアンテナ



▼ 使用方法

ラジオを受信するときは、アンテナを図のように立てた状態にしてください。



▼ 倒しかた

前方向に倒すことができます。



▼ 取り外しかた、取り付けかた

アンテナの根元を持ち、矢印の方向に回します。

- 取り付け時はしっかりと締め付けてください。

⚠ 注意

- アンテナは後ろ方向、および横方向への調整はできません。
- 下記のようなときは、アンテナを取り外してください。破損したり、変形したりする場合があります。
 - 自動洗車機使用時
 - ボディカバーをかけるとき
 - 降雪時に長時間駐車するとき
- 立体駐車場など屋根の低いガレージなどに入れるときは、アンテナを倒してください。
- 洗車時などアンテナを取り外したときは、アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずアンテナを元どおりに取り付けてください。

室内装備品

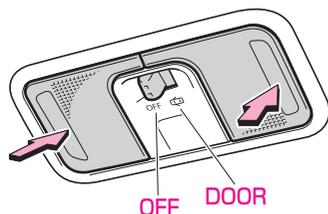
室内照明

知識

バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを止めた状態で長時間点灯させないでください。

フロントマップランプ



フロントマップランプのレンズを押すと、スイッチの位置、ドアの開閉に関係なく点灯します。

もう一度押すと消灯します。

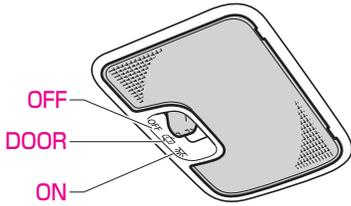
▼ スイッチが“OFF” のとき
ドアの開閉に関係なく消灯します。

- レンズを押して点灯しているときは、消灯しません。

▼ スイッチが“DOOR” のとき
ドア連動機能により、点灯・消灯します。

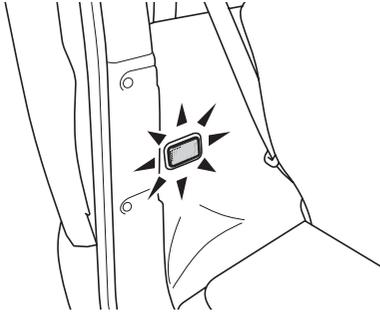
- レンズを押して点灯しているときは、ドア連動機能による消灯はしません。

ルームランプ



- ▼ スイッチが“ON” のとき
ドアの開閉に関係なく点灯します。
- ▼ スイッチが“OFF” のとき
ドアの開閉に関係なく消灯します。
- ▼ スイッチが“DOOR” のとき
ドア連動機能により、点灯・消灯します。

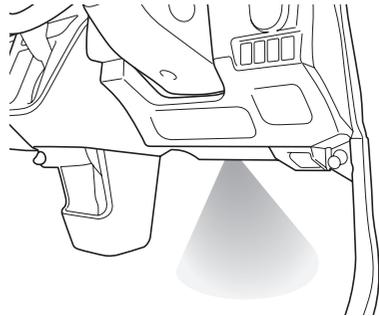
カーゴルームランプ



ドア連動機能により、点灯・消灯します。

フットライト (運転席)

オプション/グレード別装備



ドア連動により、点灯・消灯します。

■ ドア連動機能

ドア操作、エンジンスイッチ操作に連動して、室内照明が点灯・消灯する機能です。

- スイッチ付き室内照明は、スイッチが“DOOR”のときに連動します。

▼ エンジンスイッチの切りかえ

エンジンスイッチ	室内照明
OFFまたはACC → ON	消灯
ON → ACCまたはOFF	約15秒間点灯後に消灯

エンジンスイッチが“OFF”または“ACC”のとき、下記の操作に連動して照明が点灯・消灯します。

▼ 運転席ドアの施錠・解錠

運転席 ドアロック	室内照明
解錠 → 施錠	消灯(点灯中は減光後に)
施錠 → 解錠	約15秒間点灯後に消灯

▼ ドアの開閉

ドア	室内照明
全閉 → いずれか開	点灯
いずれか開 → 全閉	約15秒後に消灯

📖 知識

- 室内照明の点灯時間を変更することができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

■ バッテリーあがり防止機能

バッテリーあがり防止のため、自動的に室内照明を消灯する機能です。

▼ ドア連動機能による点灯時

エンジンスイッチが“OFF”または“ACC”で、ドアをあけたまま約10分経過すると、自動的に消灯します。

- 下記いずれかの操作をすると、再度点灯します。

- すべてのドアを閉めて、再度開ける
- エンジンスイッチを“ON”にする

▼ 室内照明のスイッチが“ON”のとき

フロントマップランプ

ルームランプ

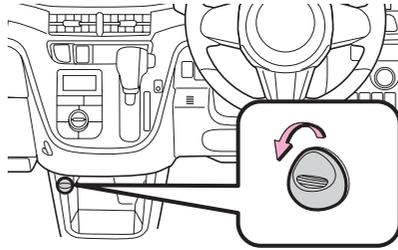
エンジンスイッチが“OFF”で、室内照明のスイッチが“ON”のまま下記の操作をせず、約12分経過すると、自動的に消灯します。

- 電波式リモコンドアロックによる施錠・解錠
- キーレスアクセスによる施錠・解錠
- ドアの開閉
- 下記のいずれかの操作をすると、再度点灯します。
 - 電波式リモコンドアロックによる施錠・解錠
 - キーレスアクセスによる施錠・解錠
 - ドアの開閉
 - エンジンスイッチを“ACC”、または“ON”にする

アクセサリーソケット

電化製品の電源用ソケットとして利用することができます。

- カバーを外し、電化製品の電源プラグを差し込んで使用します。



⚠ 注意

- 電気容量は、DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）です。この容量以上の電化製品を使用しないでください。最大電気容量を超える電化製品を使用すると、ヒューズが切れるおそれがあります。
- アクセサリーソケットを使用しないときは、カバーを閉めておいてください。異物がソケットに入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートするおそれがあります。

バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを停止した状態で使用しないでください。
- エンジンがかかっている場合でも、アイドリング状態で長時間使用しないでください。

📖 知識

- アイドリングストップからエンジンが再始動すると、アクセサリーソケットの電源電圧が低下するので、使用している電化製品によっては電源が一時的に“OFF”になることがあります。
（「アイドリングストップ」→ 302 ページ）
- 故障を防ぐため、電化製品はスバル指定用品をおすすめします。

アームレスト

運転席（福祉車以外）

前に倒して使用します。



⚠ 注意

- アームレストを操作するときは、シートとアームレストの隙間に手などを入れないでください。指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。特に、お子さまが指などを挟まないように十分注意してください。
- アームレストの上に乗ったり、重いものを載せないでください。アームレストが破損したりけがをするおそれがあります。

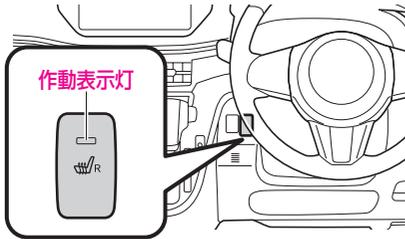
📖 知識

- シートのリクライニング調整やスライド調整を行うと、アームレストも同時に動きます。
- 小物入れとして使用することもできます。

(アームレストボックス→ 349 ページ)

運転席シートヒーター

オプション/グレード別装備



エンジンスイッチが“ON”のとき使用できます。

- スイッチを押すと、運転席シートが暖まります。
 - 作動表示灯が点灯します。
- スイッチをもう一度押すと、作動が停止します。
 - 作動表示灯が消灯します。

⚠ 注意

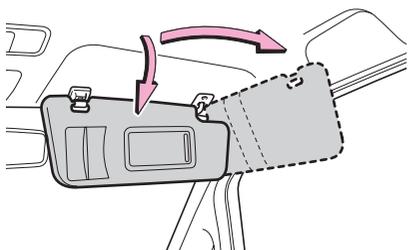
- 下記に相当されるかたがご使用になるときは、熱すぎたり低温やけど（紅斑、水ぶくれ）を起こすおそれがありますので十分注意してください。
 - 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由なかた
 - 皮ふの弱いかた
 - 疲労の激しいかた
 - 深酒やねむけをさそう薬（睡眠薬、かぜ薬など）を使用されたかた
- 毛布や座布団など保温性のよい物をかけた状態で使用しないでください。シートが異常加熱し、低温やけどやシートの故障につながるおそれがあります。
- シートヒーターを必要以上に使用しないでください。低温やけどを負ったり、シートヒーターの異常加熱の原因になるおそれがあります。
- 凸凹のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針など鋭利なものを突きさしたりしないでください。故障の原因になります。
- シートの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。ヒーターやシートの表面を損傷するおそれがあります。
- 液体をこぼしたときは、速やかに乾いた布で拭き取ってください。
- 使用中に異常が発生したときは、ただちにスイッチを“OFF”にし、スバル販売店にご連絡ください。

📖 知識

バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを止めて長時間使用しないでください。

サンバイザー



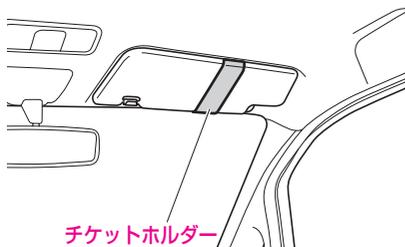
直射日光などでまぶしいときに使用します。
側面に移動させて使用することもできます。

▼ 使用するときは
矢印の方向に動かします。

知識

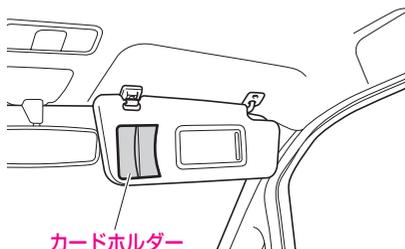
- サンバイザーと天井の間にもものをはさまないでください。発進時などに物が落ちるおそれがあります。

チケットホルダー



チケット類を収納することができます。

カードホルダー

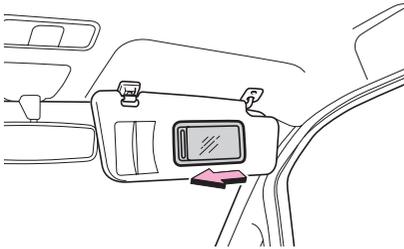


カード類を収納することができます。

知識

- サンバイザーのチケットホルダー、カードホルダーには、使用用途以外の物を入れしないでください。発進時などに物が落ちるおそれがあります。

バニティミラー



▼ 使用方法

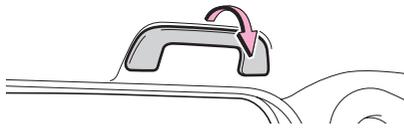
カバーを矢印の方向にスライドさせます。

⚠ 注意

- 走行中は使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

アシストグリップ

引き起こして使用します。



▼ 使用方法

- 矢印の方向に引き起こします。
- 使用後は、自動的に元に戻ります。

⚠ 注意

- 特に重たい物や、大きな物をアシストグリップにかけないでください。アシストグリップが折れたり、走行中に外れたりするおそれがあります。

収納装備

収納装備はグレードやオプション装備により、一部異なることがあります。

⚠ 警告

- ライターやスプレー缶などを収納したままにしないでください。炎天下で車内が高温になったときに爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして、火災につながるおそれがあります。

フタが無い収納装備について

- 走行中に転がり落ちるようなものを置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルにものがはさまると、ブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルが戻らなくなったりするおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- プラスチック素材のメガネなどを収納したままにしないでください。炎天下で車内が高温になったときの熱や他の収納物との接触により、変形やひび割れを起こすことがあります。
- 炭酸飲料を収納したままにしないでください。炎天下で車内が高温になったときなどに破裂することがあります。
- 走行中に物を出し入れしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

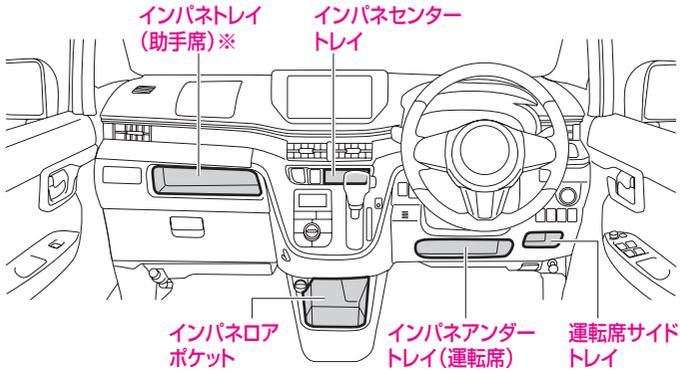
フタ付き収納装備について

- 走行中は必ずフタを閉めておいてください。急ブレーキなどの激しい運転の際に開いたフタに体が当たったり、中のものが飛び出したりするおそれがあります。
- フタを開けた状態から、さらに開く方向に力を加えないでください。変形や破損のおそれがあります。

助手席シートバックポケットについて

- シート表皮を損傷するような鋭利なものや重たいものを収納しないでください。

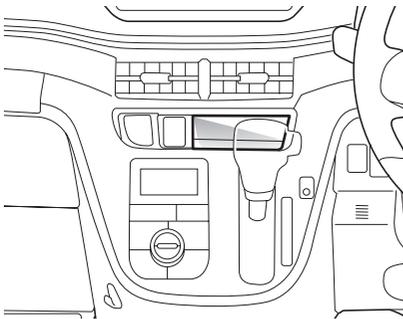
インパネトレイ、インパネポケット



※：オプション/グレード別装備

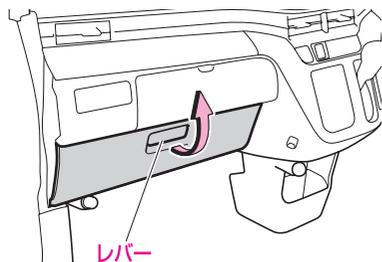
イルミネーション付きインパネセンタートレイ

オプション/グレード別装備



車幅灯が点灯しているときに、トレイ内のイルミネーションが点灯します。

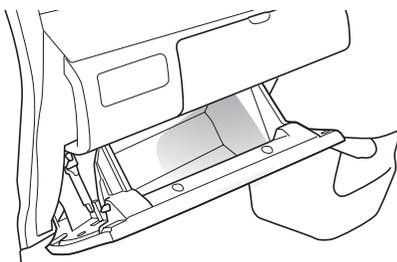
■ グローブボックス



- レバーを引いて開けます。
- 閉めるときはそのまま閉めます。

■ グローブボックスランプ

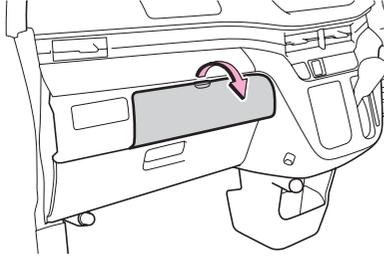
オプション / グレード別装備



車幅灯が点灯しているときに、グローブボックス内の照明が点灯します。

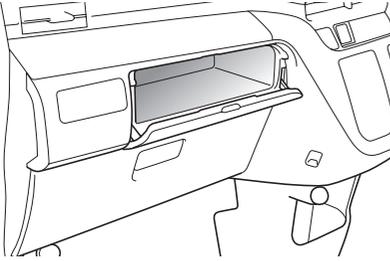
イルミネーション付きインパネボックス (助手席)

オプション/グレード別装備



- フタを引いて開けます。
- 閉めるときはそのまま閉めます。

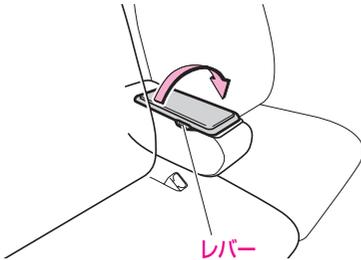
イルミネーション



車幅灯が点灯しているときに、ボックス内のイルミネーションが点灯します。

アームレストボックス

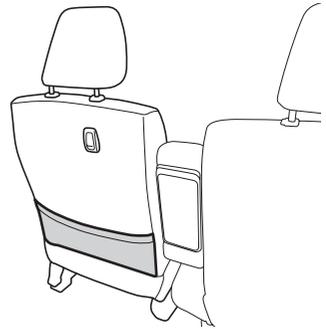
福祉車以外



- アームレストを倒して、レバーを押して開けます。
- 閉めるときはそのまま閉めます。

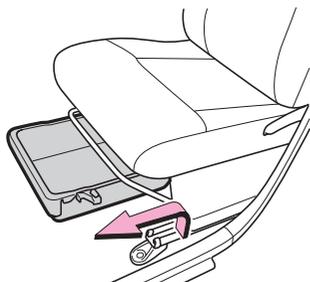
助手席シートバックポケット

福祉車以外



助手席アンダートレイ

オプション/グレード別装備

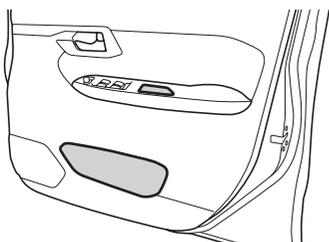


トレイを少し上に上げてから引き出して使用します。

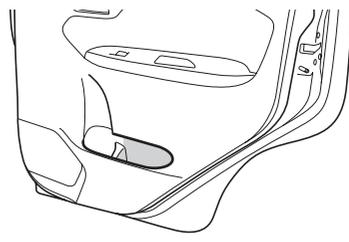
⚠ 注意

- 走行中に引き出し、戻し操作をしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行時はトレイを一番奥まで確実に戻してください。
- 重さが約 2kg 以上ある物を入れると急ブレーキをかけたときなどに飛び出すおそれがあります。

ドアポケット



〈フロントドア〉

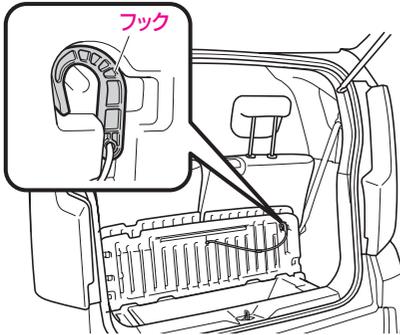
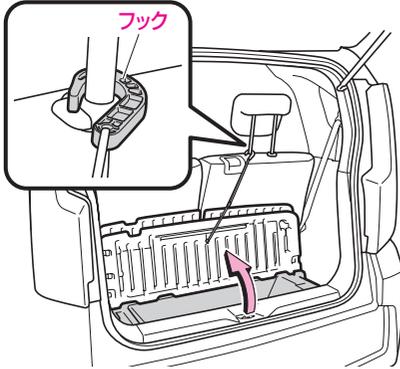


〈リヤドア〉

サブトランク

収納スペースとして利用できます。

- ジャッキ工具などが収納されています。



▼ 使用方法

- 1 カーゴボードを持ち上げる
- 2 フックをリヤシートのヘッドレストの支柱にかける

⚠ 注意

- フックをかけた状態で、リヤシートをスライドさせたり、リクライニング調整しないでください。カーゴボードを破損するおそれがあります。

▼ 元に戻すときは

図のようにフックをカーゴボードに収納します。

ドリンクホルダー

⚠ 注意

- 飲み物は振動で中身がこぼれるおそれがありますので、フタをしてこぼれないようにしてください。特に温かい飲み物は、やけどを防ぐために必ずフタをしてください。
- 飲み物がこぼれたときはただちにふき取ってください。スイッチ類や電気部品にかかる、故障や車両火災の原因となるおそれがあります。
- 炭酸飲料を収納したままにしないでください。炎天下で車内が高温になったときなどに破裂することがあります。
- ドリンクホルダーには、使用用途以外の物を置かないでください。急ブレーキをかけたときや、衝突したときなどに置いていた物が飛び出し、けがをするおそれがあります。
- ペットボトルは、形状によってはしっかり固定されない場合があります。しっかり固定されないまま走行すると、振動でペットボトルが落下し、運転のさまたげになるおそれがありますので、確実に固定されることを確認してから使用してください。

助手席のカップホルダーについて

- 下記のような異物が入ると、カップホルダーの開閉機構が損傷するおそれがあります。
 - 爪楊枝・ヘアピン等の小さいもの、細かいもの
 - タバコの灰
 - 芳香剤の液体
- 使用しないときは、カップホルダーを必ず格納してください。急ブレーキなどの激しい運転の際に、カップホルダーに体が当たるなど、思わぬけがをするおそれがあります。

📖 知識

- ペットボトルの大きさや形状によっては収納できないことがあります。

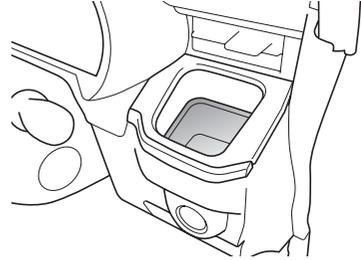
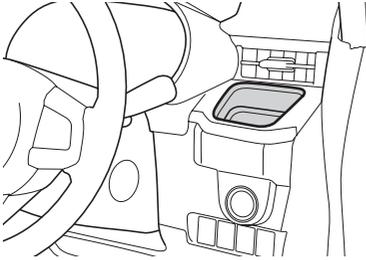
■ カップホルダー

ペットボトルや缶ジュース、カップなどを置くときに便利です。

■ 運転席

▼ イルミネーション

オプション/グレード別装備

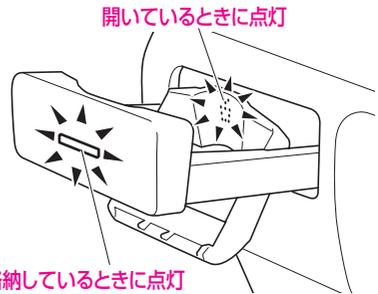
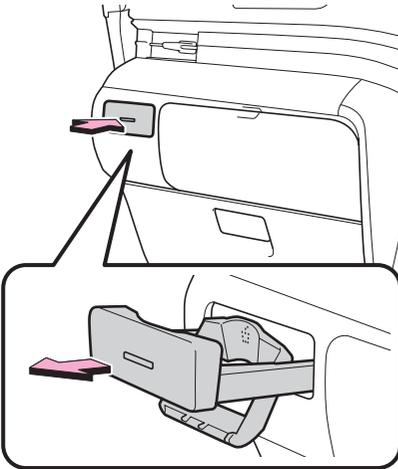


車幅灯が点灯しているときに、イルミネーションが点灯します。

■ 助手席 (プッシュオープン式)

▼ シンボル照明

オプション/グレード別装備



車幅灯が点灯しているときに、シンボル照明が点灯します。

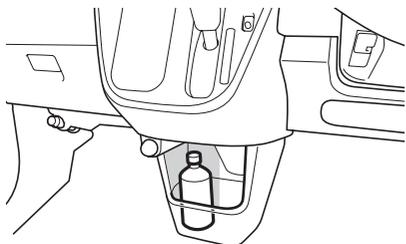
▼ 使用方法

- トレイを押す
- 格納するときは、そのままトレイを押し込む

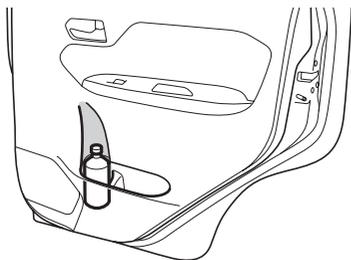
■ ボトルホルダー

ペットボトルなどを置くときに便利です。

■ インパネロアポケット (助手席側)



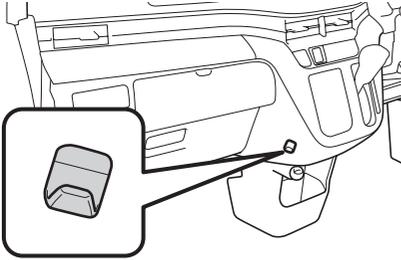
■ リヤドア



ショッピングフック

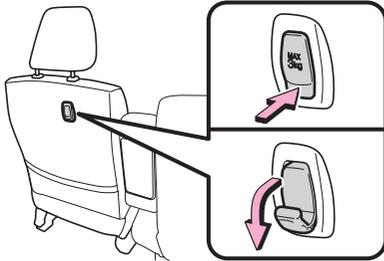
軽量の荷物や、袋をかけておくのに便利です。
インストルメントパネル（助手席側）・助手席シートバックにあります。

インストルメントパネル（助手席側）



助手席シートバック

福祉車以外



▼ 使用方法

- フックの下部を押さえ、反転させて使用します。
- 元に戻すときは、そのまま反転させフックを格納してください。

⚠ 注意

助手席シートバック

- 使用しないときは元に戻しておいてください。

最大荷重量について

- 特に重たい物や、大きな物をショッピングフックにかけないでください。
フックが折れたり、走行中に外れたりするおそれがあります。
- インストルメントパネル（助手席側）約 3kg
- 助手席シートバック約 3kg

車のお手入れ

日常のお手入れ

ボディ、塗装面のお手入れ 358

室内のお手入れ …………… 361

簡単な点検・部品の交換

エンジンルーム内の点検 … 362

消耗品の補給、交換 ……… 367

タイヤの点検 …………… 370

ワイパーの交換 …………… 377

エアコンガス、フィルターの
交換 …………… 381

ヒューズの交換 …………… 382

電球（バルブ）交換 ……… 386

キーの電池交換 …………… 401

日常のお手入れ

ボディ、塗装面のお手入れ

塗装面など車体の外観を美しく保つために、洗車、ワックスがけを月1回程度で定期的に行ってください。また、長時間屋外で駐車するときは、ボディカバーを付けるように心がけましょう。

車体にほこりや異物などを付けたままにしておきますと、塗装面の劣化や車体、部品の腐食を早めたり、化学変化による塗装面の変色やはん点の発生などの原因になります。

下記の場合は早めに洗車をしてください。

- 海岸地帯、凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- ばい煙、粉じん、鉄粉などの降下の多い場所に駐車したとき
- コールタール、花粉、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき
- ほこり、泥などで著しく汚れたとき

知識

- 海岸地帯や凍結防止剤を散布した道路を走行したあとは、特に車体の下回り、足回りを念入りに洗車してください。
- 塗装の飛石傷やかき傷は、腐食の原因となります。見つけたら早めにペイント補修してください。
- 保管、駐車は風通しの良い車庫や屋根のある場所をおすすめします。
- お使いになる洗剤やワックスの説明をよく読んで、正しくお手入れを行ってください。

洗車

注意

- 故意に空気取り入れ口やエンジンルーム内の電気部品に水をかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品の故障の原因になります。
- 洗車後や水たまり走行後は低速でブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常にはたらくことを確認してください。効が悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効が回復するまで数回ブレーキペダルを軽く踏んでください。
- 高温の湯で洗車すると樹脂部品などが損傷するおそれがあります。
- 下回り足回りを洗うときは手をけがしないように注意してください。
- ランプのレンズ表面をワックス・ベンジンやガソリンなどの有機溶剤でふいたり、硬いブラシでこすらないでください。レンズが破損したり、劣化を早めるおそれがあります。
- 研磨剤（コンパウンド）入りの洗剤は使用しないでください。

洗車のしかた

- 1 十分に水をかけながらスポンジまたはセーム皮のような柔らかい物で洗う
 - 汚れのひどい箇所はカーシャンプー液または中性洗剤で洗い、水で完全に流します。
- 2 水が乾かないうちにふき取る

自動洗車機を使用するとき

⚠ 注意

- ルーフアンテナは取り外し、前側から洗車してください。また、走行前には必ずアンテナを元通りに取り付けてください。
- ドアミラーは必ず格納し、洗車機の「ドアミラーを洗車しない」モードを選択してください。洗車機によっては、ドアミラーを損傷するおそれがあります。
- エアコンは“内気循環”にしてください。車内に水が入り、故障の原因になります。
- ときによりブラシの傷が付き、塗装の光沢が失われたり劣化を早めることがあります。

高圧洗車機を使用するとき

⚠ 注意

- ドアガラスやドア周りなどの開閉部分は高圧洗車は避けてください。
 - ドアガラスやドア周りなどの開閉部分に洗車ノズルを向けると、車内に水が入ることがあります。

キーレスアクセス装着車

- フロントドアまたはリヤゲートのリクエストスイッチ周辺に洗車ノズルの先端を近づけすぎないようにしてください。水圧によりスイッチが破損するおそれがあります。

ワックスがけ

月に一回程度または水をはじかなくなったときに行ってください。

▼ ワックスをかける前に

塗装面の汚れを水洗いし、水分を十分にふき取ってから日陰または車体表面が体温以下になっているときに行ってください。

⚠ 注意

- 研磨剤（コンパウンド）入りのワックスは使用しないでください。

キーレスアクセス装着車

- フロントドアまたはリヤゲートのリクエストスイッチ周辺にワックスが付着したときは、鋭利なもので清掃しないでください。スイッチが変形して操作のさまたげになるおそれがあります。

📖 知識

- 塗装されていない樹脂部品にワックスを使用しないでください。ワックスが付着すると、白くなったりムラになることがあります。

塗装部品のお手入れ

塗装部品にガソリン、オイル、冷却水、バッテリー液などが付着すると、しみの発生や塗膜がはがれる原因となります。十分に水洗いをしたあとただちに柔らかい布でふき取ってください。

📖 知識

- 塗装部品の傷の補修をする場合は、スバル販売店にご相談ください。不適當な塗料を使用すると塗膜をいためます。

アルミホイールのお手入れ

オプション / グレード別装備

アルミホイールはボディの洗車と同じ要領で行い、ボディと同じワックスでワックスがけをしてください。

⚠ 注意

- アルミホイールにワックスがけをする際は、ホイールナットの座面にワックスを付着させないように注意してください。必要以上に締め付けられ、ボルトが破損するおそれがあります。

室内のお手入れ

ビニール、レザー、プラスチック、布材などの汚れ落としには、中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませてお使いください。洗浄後、残った洗剤分は真水を含ませた柔らかい布でよく落としてください。

室内側のウインドウガラスも、こまめにふいておきましょう。汚れたままにしておくと、取れにくくなる場合があります。

⚠ 注意

- シートの下など見えにくい場所や狭い場所に手を入れるときは、けがをしないように十分注意してください。
- ベンジン、ガソリン、シンナーなどの有機溶剤は変色、しみなどの原因となるので使わないでください。
- シートベルトを清掃するときは、必ず中性洗剤を溶かしたぬるま湯を使用してください。中性洗剤以外を使用すると、ベルトが弱くなり万一のときに正常なはたらきをしないことがあります。
- 各スイッチの周辺にシリコン系のスプレーを使用しないでください。シリコンが内部の電気部品に付着し、故障の原因となります。
- 乾燥は直射日光をさけ、風通しが良く、ほこりの立たない日陰で行ってください。素材のいたみを早める原因となります。

車内に水などをかけないでください

- インstrumentパネルやドア、フロア下などにあるスイッチや電気部品、配線類の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
万一、水、飲み物などがかかった場合は、可能な限り水分を取り除き、すみやかにスバル販売店にご相談ください。

スーパー UV & IR カットガラスを清掃するときは

オプション/グレード別装備

- 研磨剤（コンパウンド）入りの洗剤は使用しないでください。室内側のコーティングを損傷させるおそれがあります。汚れたら早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- ドアガラスの汚れがひどいときは、開閉を繰り返さないでください。

📖 知識

- リヤウインドウガラス内面を清掃するときは、電熱線を傷付けないでください。

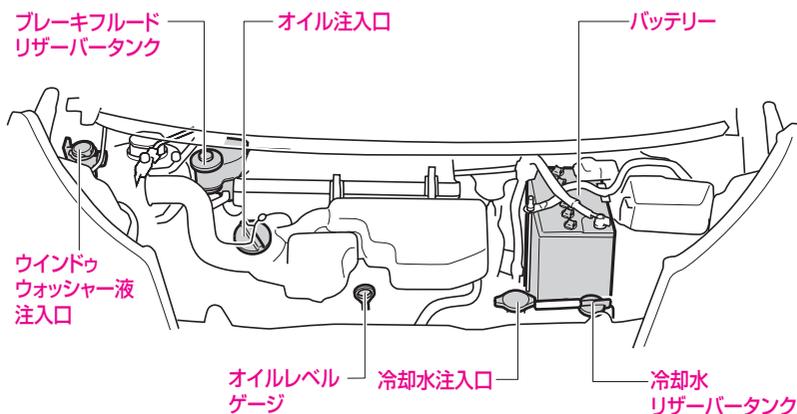
簡単な点検・部品の交換

車を安全、快適にご使用いただくには、日頃のお手入れが大切です。点検方法などは、別冊の「メンテナンスノート」に記載していますので、参照してください。

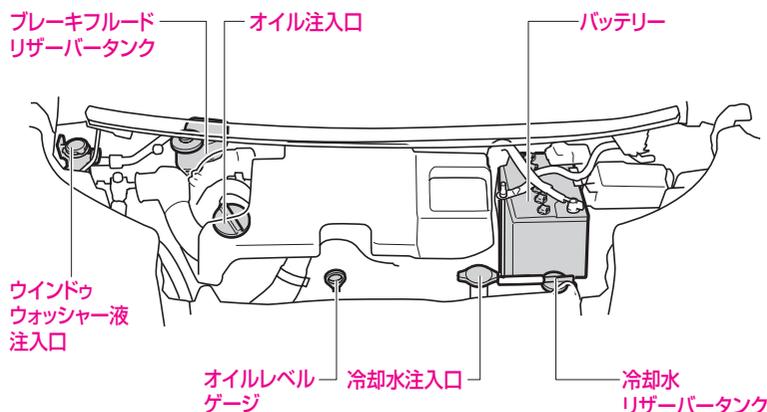
エンジンルーム内の点検

グレードの違い、メーカーオプションも記載しています。

ターボ車以外

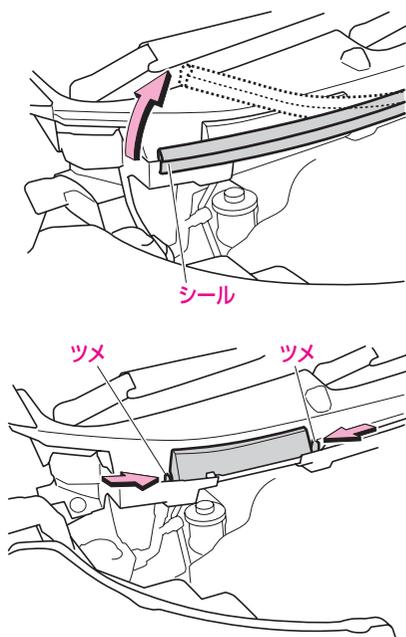


ターボ車



エンジンルームサービスカバー

ブレーキフルードの点検・交換をするときは、エンジンルームサービスカバーを取り外します。



▼ カバーの外しかた

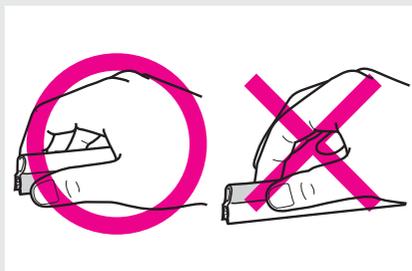
- 1 車両の中央部あたりまで、シールをめくる
- 2 ツメを矢印の方向に押しながら、カバーを取り外す

▼ カバーの取り付けかた

逆の手順で行います。

⚠ 注意

- シールをめくるときは、下側の取り付け部を持ってください。上側を持ってめくると、シールが破れるなど破損するおそれがあります。



- シールを元に戻すときは、中央側から取り付けてください。端側から取り付けるとシールがたわみ、ボンネットが確実に閉まらない場合があります。

ボンネットの開閉

⚠ 警告

けがや事故を防ぐために

- エンジン回転中や停止後は、エンジンルームが大変高温になっていることがあります。やけどをするおそれがありますので、ボンネットを開ける前に十分冷めていることを確認してください。
- 以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害や思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - ボンネットを閉めたあとは、ボンネットが確実にロックしたことを確認してください。ボンネットが確実に閉まっていないと、走行中に開くおそれがあります。
 - ボンネットを開けているとき風にあおられるとステーが外れボンネットが不意に閉まるおそれがあります。特に風の強い日はご注意ください。
 - ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - お子さまにボンネットの開閉はさせないでください。ボンネットは大変重く、開閉中うっかり手を離すと思わぬけがにつながるおそれがあります。

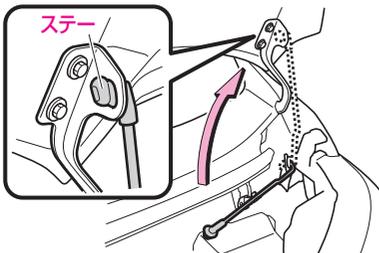
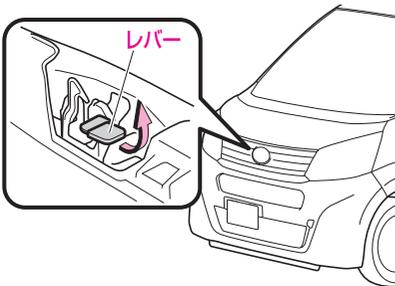
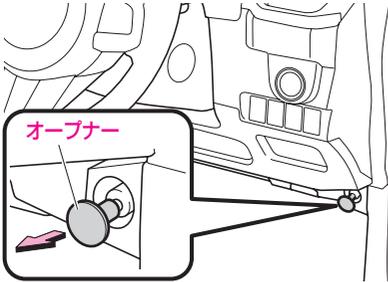
点検作業をしたあとは

- エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。

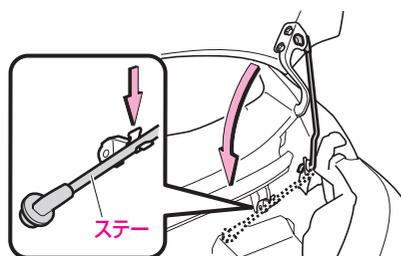
ボンネットの開けかた

⚠ 注意

- ワイパーを起こしたままでボンネットを開けないでください。ワイパーがボンネットに当たり、傷付くことがあります。



- 1 インストルメントパネル右下のオープナーを手前に引く
 - オープナーを引くと、ボンネット前部が少し浮き上がります。
- 2 ボンネット前部のキャッチフックレバーを矢印の方向に引き上げる
- 3 ボンネットを持ち上げる
- 4 ステーを外し、ボンネットの固定穴に差し込む
- 5 ボンネットが確実に固定されたことを確認する



▼ ボンネットの閉めかた

- 1 ボンネットを片手で支える
- 2 ステアを外して元の位置へ戻す
- 3 ボンネットを静かに下げ、手で押さえるようにして閉める

📖 知識

- ボンネットを閉めるとき、手で強く押さすぎないでください。

消耗品の補給、交換

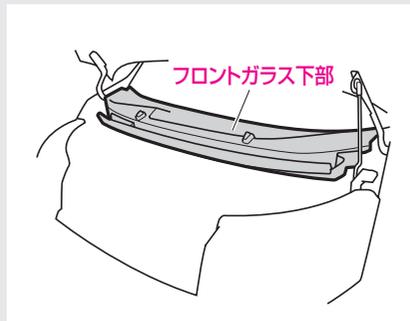
消耗品の補給、交換などは、別冊の「メンテナンスノート」に記載していますので、参照してください。

⚠ 警告

- エンジンルームは大変高温になっていることがあるため、下記のことをお守りください。
 - やけどをするおそれがありますので、点検するときは、十分に冷めてから行ってください。
 - 点検したあとは、エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- オイルを点検・交換するときは、オイルがオルタネーターなどに付着しないように行ってください。オイルが付着したときは、ただちに拭き取ってください。オイルが付着していると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

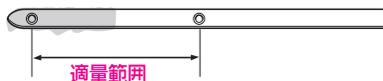
⚠ 注意

- エンジンルームを点検するときは、フロントガラス下部周辺に物を置かないでください。エンジン内部に物が落下し、故障につながるおそれがあります。



エンジンオイル

エンジンオイルの量を定期的に点検してください。なお、高速走行を行う前には、必ず点検してください。



オイルレベルゲージ

知識

- エンジンオイルはエンジン内部の潤滑、冷却などをするはたらきがあります。通常の運転をしていてもピストンおよび吸気、排気バルブを潤滑しているオイルの一部が燃焼室などで燃えるためオイル量は走行とともに減少します。また、減少する量は走行条件などにより異なります。
- 外気温が低いときに、エンジンオイル注入口の裏側や、オイル注入口にエンジンオイルが白いクリーム状になって付着していることがあります。
これは、エンジン内部の水蒸気が冷却されて水滴になり、エンジンオイルと混ざることにより発生するもので、外気温の上昇、エンジンの暖機等で水分が蒸発すると解消します。
この現象によるエンジンオイルの変質はなく、そのまま使用しても、問題はありません。

冷却水

▼ 冷却水の点検について

冷却水リザーバータンクの側面の目盛りで行ってください。

詳しくは別冊の「メンテナンスノート」を参照してください。

警告

- 水温が高いときは、冷却水注入口を外さないでください。冷却水の圧力が冷却水注入口にかかっているため、蒸気や熱湯がふき出し、大変危険です。
- 冷却ファンに絶対に触れないでください。ファンが回転するため、大変危険です。

ウインドウウォッシャー液の補給

ウォッシャー液の量を定期的に点検してください。ウォッシャー液が不足しているときは、スバル指定ウインドウウォッシャー液を補給します。

警告

- エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときはウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液がエンジンなどにかかると、出火するおそれがあり危険です。

注意

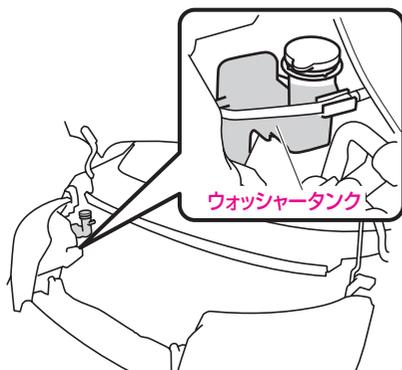
- ウォッシャー液のかわりに石けん水などを入れないでください。塗装のしみや目づまりになるおそれがあります。

知識

- ウインドウウォッシャー液はスバル指定をおすすめします。ウォッシャー液の濃度の使い分けと注意事項はウォッシャー液の容器に記載されています。
- ウォッシャー液をあふれるほど入れないでください。
- ウインドウウォッシャータンクはフロント、リヤ兼用です。

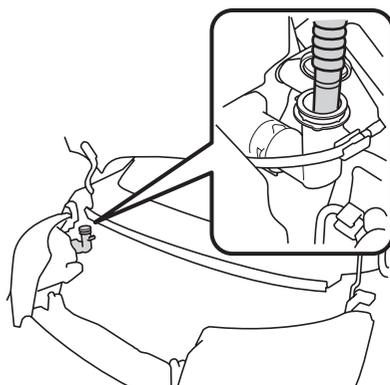
▼ 点検のしかた

ウォッシャータンクの側面から、液面を目視により確認します。



▼ 補給のしかた

ウォッシャータンクのキャップを外し、ウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考に希釈して補給します。



タイヤの点検

タイヤ空気圧の点検

タイヤの空気圧の点検は、法的に義務付けられています。最低でも月に1回行ってください。

タイヤが冷えているときに、タイヤゲージで空気圧が規定値にあるかを点検してください。

空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。

(タイヤの空気圧→447ページ)

(タイヤの指定空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています。)

警告

- 指定空気圧より低いと車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗や早期摩耗します。高速走行時にスタンディングウェーブ現象*によりタイヤがバースト(破裂)するなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知識

- タイヤが冷えているときは、一般道路で走行距離が1km以下の場合、または3時間以上駐車している状態のことをいいます。
- タイヤが暖まっているときは、タイヤの中の空気が膨張しているため、約20～30kPa(0.2～0.3[kgf/cm²])空気圧が高くなっています。この場合、誤って空気圧を下げないようにしてください。

タイヤの亀裂、損傷

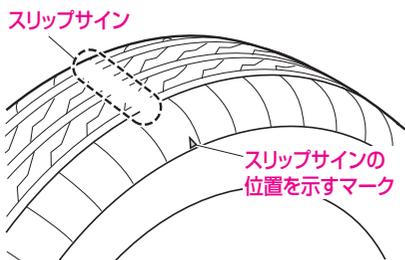
タイヤの側面や接地部全周に亀裂や損傷がないかを点検してください。

また、釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んでいないかを点検してください。

警告

- タイヤの側面などに傷や亀裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。
- 異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルが取られたり、異常な振動を感じる場合があります。また、バースト(破裂)など修理できないような損傷をタイヤにあたえたり、タイヤが横滑りするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。走行中、異常な振動を感じた場合は、スバル販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。
- 異常があるタイヤを装着していると、車の性能(燃費・車両の安定性・制動距離など)が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響をあたえるなど故障の原因となることがあります。

タイヤの溝の深さ、異常な摩耗



タイヤの溝の深さに不足がないかをスリップサイン（摩耗限度表示）により点検してください。

また、タイヤの接地面全周に極端にすり減っている箇所がないかを点検してください。

警告

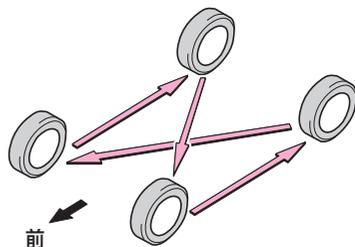
- 摩耗限度を超えたタイヤは使用しないでください。タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象*により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。摩耗限度を超えたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

タイヤのローテーション

タイヤは同じ位置で長く走ると、それぞれ異なった減りかたをします。これを防ぐために、タイヤの位置をローテーションしてください。

ローテーションは 5,000km 走行ごとに行ってください。

▼ ローテーションのしかた



図の順にローテーションしてください。

（タイヤの交換→ 372 ページ）

知識

- タイヤパンク応急修理セット装着車では、応急用スペアタイヤが搭載されていないため応急用スペアタイヤを利用するタイヤのローテーションができません。スバル販売店にご相談ください。

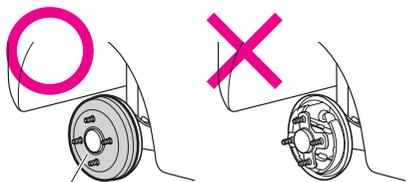
* 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

タイヤの交換

▼ 交換作業を行うにあたって

⚠ 警告

- ジャッキアップした車の下にもぐらないでください。万一、ジャッキが外れると大変危険です。
- 駐車ブレーキは、必ずしっかりとかけてください。駐車ブレーキをかけずに後輪タイヤを取り外すと、まれにブレーキドラムがタイヤと一緒に外れることがあります。タイヤを外したあとは、ブレーキドラムが外れていないことを確認してください。ブレーキドラムが外れたままタイヤを交換すると、ブレーキが効かず大変危険です。



ブレーキドラム

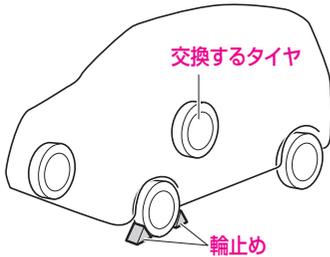
- この車専用以外のホイールを使用しないでください。専用以外のホイールを使用すると、走行装置やブレーキ装置に支障をきたし、安全な走行ができなくなります。
- アルミホイール装着車は、専用品以外のナットは使用しないでください。走行中にナットがゆるみ、タイヤが外れるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- タイヤは必ず指定サイズのタイヤを使用してください。指定サイズ以外のタイヤを使用すると安全性を損ない大変危険です。
- タイヤは4輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）の物を装着してください。
- 摩耗差の著しいタイヤは使用しないでください。
- 傷、変形がある物は再使用しないでください。
- タイヤの空気圧を確認してください。（タイヤの空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています）
- 車を交通のさまたげにならず安全に作業できる平らな場所に移動させて作業を行ってください。
- パンクなどにより路上で作業を行うときは、交通のさまたげにならない場所に寄せ、非常点滅表示灯を点滅させ、停止表示板を使用してください。
- 人は車から降り、重い荷物は車から降ろしてください。

交換の手順

- 1 駐車ブレーキをしっかりとかけ、エンジンは停止し、セレクトレバーをPレンジの位置にする
- 2 交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めを置く



知識

- 輪止めは車載されていませんので、必要に応じて準備してください。なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

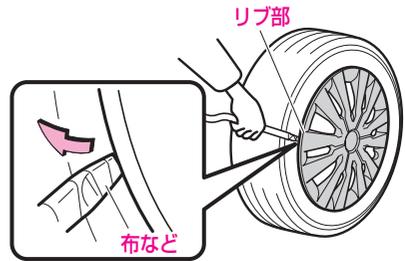
- 3 工具、ジャッキを取り出す

(格納場所→ 414 ページ)

(ジャッキの使いかた→ 415 ページ)

- 4 フルホイールキャップ装着車は、フルホイールキャップを外す

- 傷付き防止のため、先端に布などを巻いたジャッキハンドルを穴の開いていない部分（リップ部）に差し込み、タイヤを支点にしてフルホイールキャップを外す

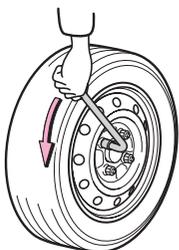


注意

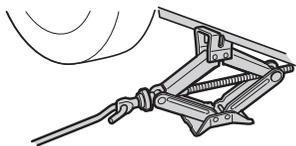
- キャップは手で外さないでください。けがをするおそれがあります。
- ホイールキャップを外すとき力を入れすぎないでください。けがをしたり、ボディなどを傷付けるおそれがあります。
- ジャッキハンドルは必ず穴の開いていない部分（リップ部）に差し込んでください。ホイールキャップが割れるおそれがあります。

▼ タイヤの取り外し

- 1 ホイールナットはホイールナットレンチを使って、手で回るくらいまでゆるめる



- 2 タイヤと路面が少し離れるまでゆっくりジャッキアップし、車体を上げる
(ジャッキの使いかた→ 415 ページ)

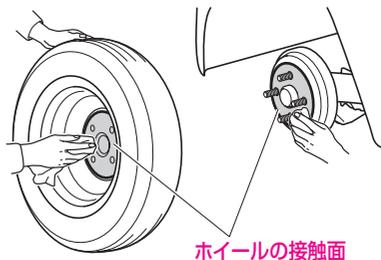


- 3 ホイールナット (4つ) を外し、タイヤを取り外す

- タイヤを地面に置くときは、傷が付かないように、ホイール意匠面を上向きにしてください。

▼ タイヤの取り付け

- 1 取り付けるタイヤのホイール接触面の汚れをふき取る



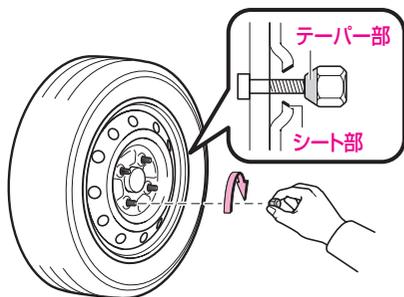
⚠ 警告

- ホイールの取り付け部やホイール裏側の取り付け面がほこりなどで汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤが外れるおそれがあり危険です。

- 2 タイヤを取り付ける

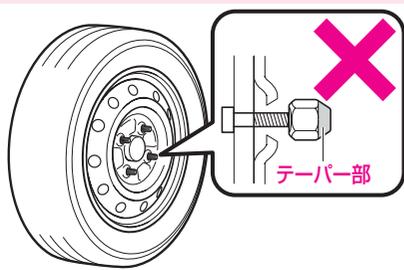
3 ホイールナットを、タイヤががたつかない程度まで仮締めする

- ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽くあたるまで回します。



警告

- 必ずナットのテーパ部を内側にして取り付けてください。テーパ部を外側にして取り付けると、ホイールが破損し外れてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



- ナットやボルトにオイルやグリースをぬらないでください。ナットがゆるんでタイヤが外れ、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、必要以上に締め付けられて、ナットやボルトが破損するおそれがあります。

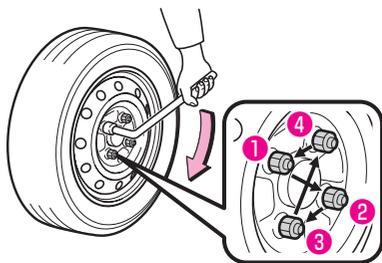
4 車体をおろす

5 ナットを締め付ける

- ナットはホイールナットレンチで、対角線上に2、3度しっかり締め付ける

● 締め力（レンチ先端にて）：
440～590N {45～60kgf}

● 締めトルク：103N・m
{1,050kgf・cm}

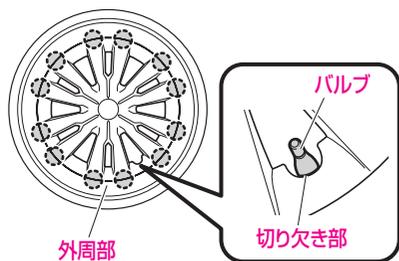


注意

- ホイールナットレンチを足で踏んだり、パイプを継ぎたしたりしないでください。必要以上に締め付けると、ボルトが破損するおそれがあります。

6 フルホイールキャップ装着車は、フルホイールキャップを取り付ける

- タイヤのバルブとフルホイールキャップの切り欠き部を合わせ、フルホイールキャップの外周部を押して取り付けます。



7 工具、ジャッキ、タイヤを片付ける

▼ タイヤを取り付けた後は

- しばらく走行したあと、ホイールナットにゆるみがないことを確認してください。

⚠ 注意

- 走行中、ハンドルや車体に振動が出た場合は、タイヤのバランス点検をスバル販売店で受けてください。

ワイパーの交換

⚠ 注意

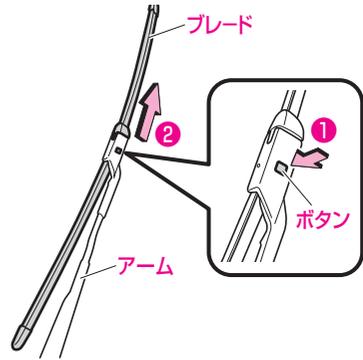
- ワイパーブレード、ラバーはスバル指定をおすすめします。スバル指定以外を使用すると、適切に装着できない場合があります。
- 傷んだワイパーブレードラバーを使用し続けると、ウインドウガラスを傷付けるおそれがあります。拭きむらがある場合は、早めに交換してください。
- フロントワイパーアームを起こすときは、以下のことをお守りください。
 - 必ずワイパーアームの部分を持って起こしてください。ワイパーブレードの部分だけを持って起こすと、ブレードが変形するおそれがあります。
 - 必ず運転席側のワイパーアームから起こしてください。また、もとに戻すときは助手席側のワイパーアームから戻してください。
- ワイパーブレード、ラバーを取り外したときは、ワイパーアームを倒さないでください。ウインドウガラスに傷が付くおそれがあります。
- 起こしたワイパーアームに戻すときは、手を添えながらゆっくりと戻してください。離れた位置から戻すと、ワイパーアームが変形したり、ウインドウガラスに傷が付くおそれがあります。
- 確実に取り付けられていることを確認してからワイパーを作動させてください。ウインドウガラスに傷が付くおそれがあります。

フロントワイパー

ワイパーブレード

▼ 取り外しかた

- 1 アームを起こす
- 2 ボタンを押しながら (1)、ブレードをスライドさせてアームから外す (2)



▼ 取り付けかた

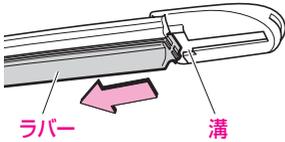
ブレードをアームに取り付ける

- ブレードとアームが確実に固定されていることを確認してください。

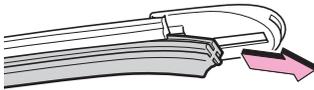
ワイパーブレードラバー

▼ 取り外しかた

- 1 ラバーを溝が見える位置まで引っ張る



- 2 ラバーを溝から引き抜く

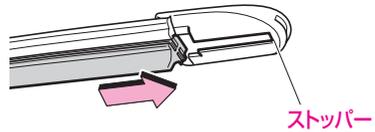


▼ 取り付けかた

- 1 ラバーを溝から挿入する



- 2 ラバーを全て挿入した後、ストッパーに当たるまでラバーを引く



⚠ 注意

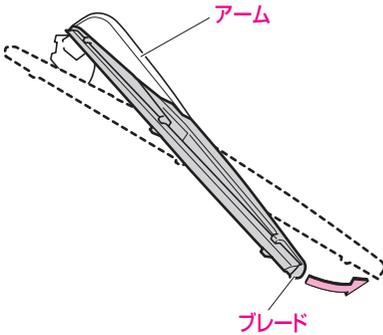
- ラバーを確実に挿入してください。ウインドウガラスに傷が付くおそれがあります。

リヤワイパー

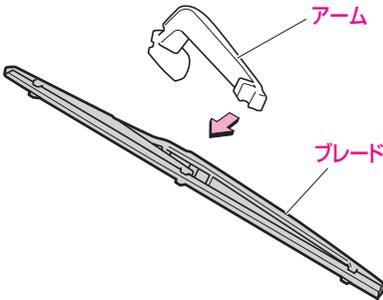
ワイパーブレード

▼ 取り外しかた

- 1 アームを起こす
- 2 ブレードを図の角度まで回す



- 3 ブレードを図の方向に引いて、アームから外す



▼ 取り付けかた

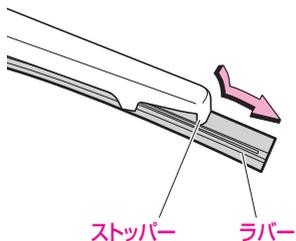
逆の手順で行います。

- ブレードとアームが確実に固定されていることを確認してください。

ワイパーブレードラバー

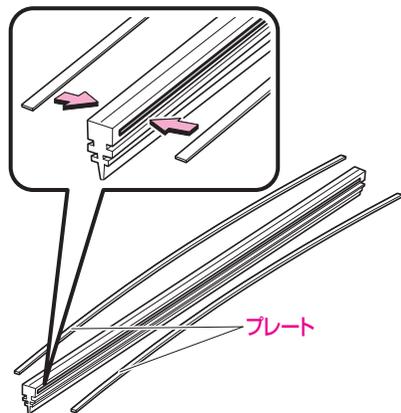
▼ 取り外しかた

- 1 ラバーの先端部を引き、ブレードのストッパーから外す
- 2 ラバーをブレードから引き抜く

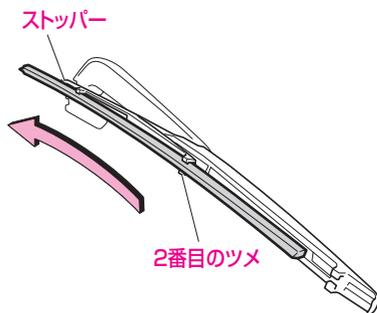


▼ 取り付けかた

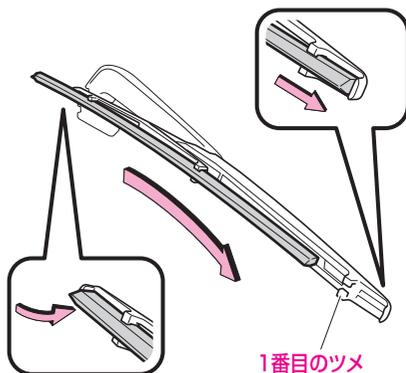
- 1 ラバーからプレートを外す
- 2 ラバーを交換する
- 3 プレートをラバーに差し込む
 - プレートの反りの向きに注意してください。



- 4 ラバーをブレードの2番目のツメからブレードに沿って差し込む
- 5 ラバーをブレードのストッパーから約2cm引き出す



- 6 ブレードの1番目のツメにラバーを通す
- 7 ブレードの先端のストッパーにラバーを戻して確実に固定する



⚠ 注意

- ラバーにブレードのツメを確実に挿入してください。ウインドウガラスに傷が付くおそれがあります。

エアコンガス、フィルターの交換

エアコンガス

エアコンガスは新冷媒 HFC134a (R134a) を使用しています。地球環境保全のため、大気放出しないでください。

知識

- エアコンガスの補充、エアコンの修理をする場合はスバル販売店にご相談ください。

クリーンエアフィルター

エアコンには、車外から侵入する粉じんなどを除去し、車内を快適な空気に保つクリーンエアフィルターが取り付けられています。快適にお使いいただくため定期的な交換をおすすめします。

- フィルターの交換については、スバル販売店にご相談ください。

スーパークリーンエアフィルター

花粉など、より細かい粉じんを除去するフィルターです。

- 交換の目安は 20,000km です。
(大都市、寒冷地など交通量や粉じんが多い場所や山岳地、丘陵地など地域により花粉の多い場所は 10,000km です)

クリーンエアフィルター

- 交換の目安は 20,000km です。
(大都市、寒冷地など交通量や粉じんが多い場所は 10,000km です)

知識

- エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを交換してください。

ヒューズの交換

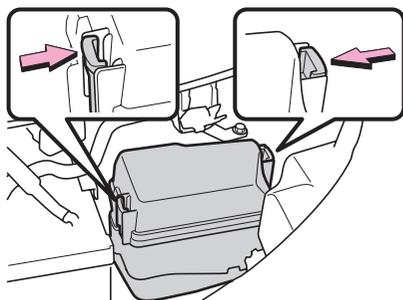
下記のような症状が見られるとヒューズ切れが考えられます。点検、交換を行ってください。

- ランプが点灯しない
- 電気系統の装置がはたらかない

ヒューズについてはスバル販売店にご相談ください。

ヒューズの位置

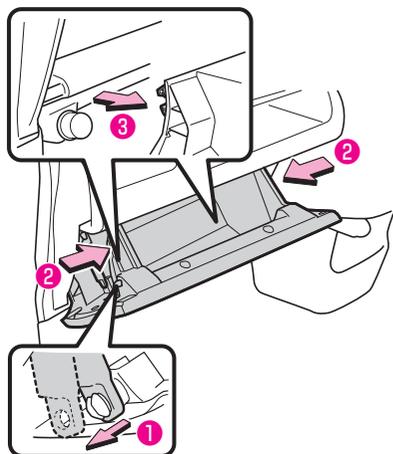
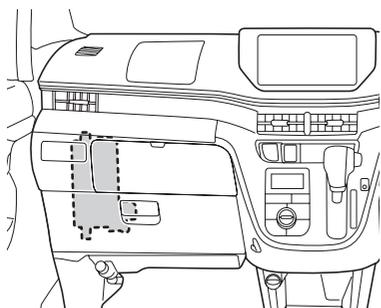
エンジンルーム内



▼ カバーの取り外しかた

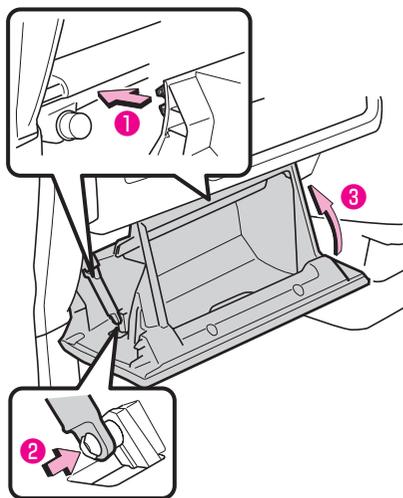
- 1 エンジンスイッチを“OFF”にする
- 2 カバー横のツメを押しながら取り外す

助手席足元



▼ グローブボックスの取り外しかた

- 1 エンジンスイッチを“OFF”にする
- 2 ボックスを開け、ダンパステーを外す (1)
- 3 ボックス上部のツメを外す
 - 側面を左右の順でたわませます (2)。
- 4 下部のツメ (3) を外し、ボックスを取り外す



▼ グローブボックスの取り付けかた

- 1 下部のツメ (①) を取り付ける
- 2 ダンパーステーを取り付ける (②)
- 3 下部のツメがしっかりかん合していることを確認し、ボックスを押し込む (③)

📖 知識

- ツメのかん合が不十分だと、ボックスが開かなくなることがあります。

ヒューズの点検と交換

各ヒューズの配置と容量

▼ エンジンルーム内

ヒューズボックスカバーの裏側に表示しています。

▼ 助手席足元

グローブボックスの裏側に表示しています。

📖 知識

- グレードやオプション装備によって、所定の位置にヒューズが無い場合があります。また、装置がなくてもヒューズだけがついている場合があります。

ヒューズの点検・交換方法

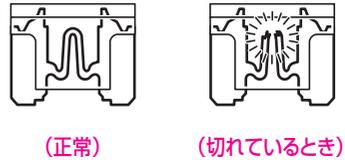
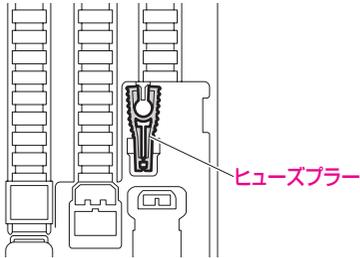
警告

- 規定容量以外のヒューズを使用しないでください。配線が過熱、損傷し、火災につながるおそれがあり危険です。

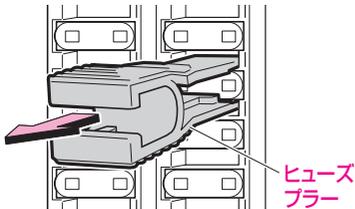
知識

- 交換してもすぐに切れてしまうときは、スバル販売店で点検を受けてください。

- 1 ヒューズプラーを助手席足元のヒューズボックスから取り出す
- 3 取り外したヒューズを点検する



- 2 ヒューズをヒューズプラーで挟んで外す



▼ ヒューズが切れているときは

- 規定容量のヒューズと交換してください。

▼ ヒューズが切れていないときは

- ほかに原因が考えられます。スバル販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）交換

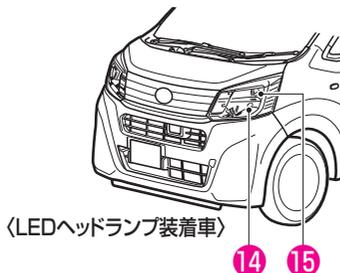
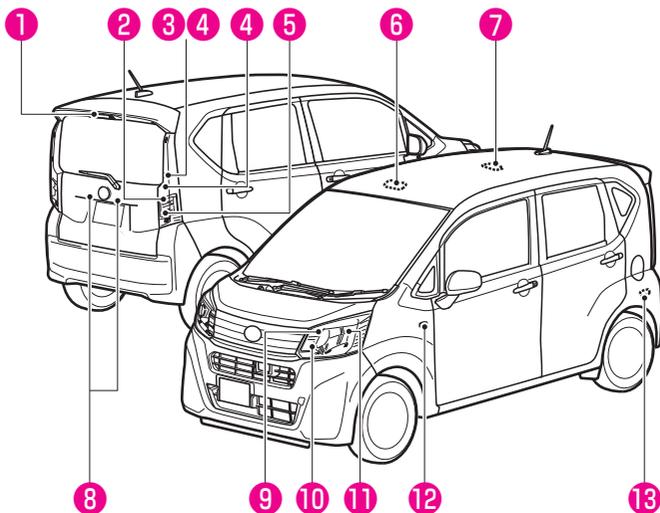
ヒューズが切れていないにも関わらず、ランプが点灯しないときは、電球切れが考えられますので、電球を点検し、切れている場合は電球を交換してください。

- 電球の交換作業に不慣れな方や、部品などの破損が心配な場合は、スバル販売店にご相談ください。
- 電球の交換作業をするときに必要な工具は、カー用品店などでご購入することができます。

バルブの位置

標準車

グレードの違い、メーカーオプションも記載しています。



電球（バルブ）		W(ワット)数
①	ハイマウントストップランプ	LED
②	後面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯	21
③	尾灯	LED
④	制動灯	LED
⑤	後退灯	16
⑥	フロントマップランプ	5
⑦	ルームランプ	8
⑧	番号灯	5
⑨	車幅灯	5
⑩	前面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯	21
⑪	前照灯(Hi/LOW)(バルブタイプ：H4)	60/55
⑫	側面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯	※
⑬	カーゴルームランプ	5
⑭	前照灯(Low)	LED
⑮	前照灯(Hi)(バルブタイプ：HB3)	60

※ バルブのみの交換をすることができません。
点検・交換の際はスバル販売店にご相談ください。

⚠ 注意

- 電球は上記のワット数のものと交換してください。大きなワット数のものに交換すると、過熱による故障や車両火災の原因につながるおそれがあります。

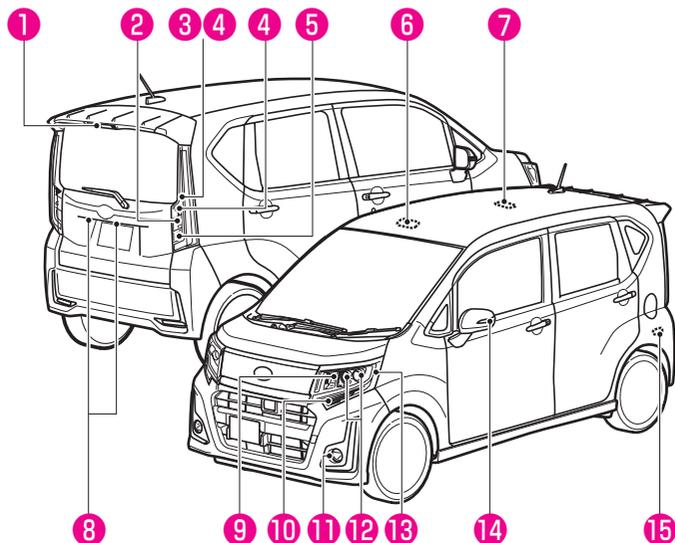
📖 知識

LED ランプについて

- LED を使用しているランプは、LED のみの交換をすることができません。点検・交換の際は、スバル販売店にご相談ください。
- ハイマウントストップランプ、制動灯 兼 尾灯などは複数の LED で構成されています。もし、LED が1つでも点灯しないときは、スバル販売店で交換してください。

カスタム仕様車

グレードの違い、メーカーオプションも記載しています。



電球(バルブ)		W(ワット)数
①	ハイマウントストップランプ	LED
②	後面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯	21
③	尾灯	LED
④	制動灯	LED
⑤	後退灯	16
⑥	フロントマップランプ	LED
⑦	ルームランプ	LED
⑧	番号灯	5
⑨	前照灯(Hi)(バルブタイプ:H9)	65
⑩	前面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯	21
⑪	フォグランプ	LED
⑫	前照灯(Low)	LED
⑬	車幅灯	LED
⑭	側面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯	LED
⑮	カーゴルームランプ	5

⚠ 注意

- 電球は上記のワット数のものと交換してください。大きなワット数のものに交換すると、過熱による故障や車両火災の原因につながるおそれがあります。

📖 知識

LED ランプについて

- LED を使用しているランプ（フロントマップランプ、ルームランプ除く）は、LED のみの交換をすることができません。点検・交換の際は、スバル販売店にご相談ください。
- ハイマウントストップランプ、制動灯 兼 尾灯などは複数の LED で構成されています。もし、LED が1つでも点灯しないときは、スバル販売店で交換してください。

電球の交換

⚠ 警告

- 電球を交換するときは、ランプを消灯させ電球が冷えている状態で行ってください。電球が熱い状態で、電球やその周辺を触ると、やけどをするおそれがあり危険です。
- 電球および電球固定具の取り付けが不完全な場合、発熱や発火、および水入りなどによる故障、レンズ内面の曇りにつながるおそれがあります。
- 電球、ソケット、電気回路、および構成部品を修理、分解しないでください。感電による重大な傷害の原因となります。

⚠ 注意

- 同じバルブ色の電球以外は使用しないでください。道路運送車両の保安基準に適合しない場合があります。
- 前照灯などに使用しているハロゲン電球は、ガラス球内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷を付けたりすると破損して、ガラスが飛び散る場合がありますので、十分注意して取り扱いください。
また、電球のガラス部は、素手で触れずにきれいな手袋を着用してください。油脂が付着すると、発熱による早期電球切れを起こします。
- 電球を交換しても点灯しない場合は、電球切れ以外の理由が考えられます。スバル販売店で点検を受けてください。

📖 知識

レンズ内の水滴と曇りについて

- ヘッドランプやリヤコンビネーションランプなどは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇ると同様の現象であり、機能上の問題はありません。
ただし、レンズ内面に大粒の水滴が付いているときやランプ内に水がたまっているときは、スバル販売店にご相談ください。

交換作業をするときは

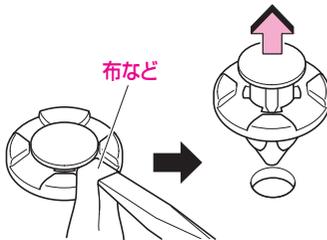
⚠ 注意

- ⓪ドライバーなどを使用するときは、布などを巻いてください。クリップ、レンズなどに傷が付くおそれがあります。
- ランプ本体やレンズを取り外すときは、ボディに傷を付けないように注意してください。
- ネジなどでレンズを取り付けるときは、締めすぎないようにしてください。レンズを破損するおそれがあります。

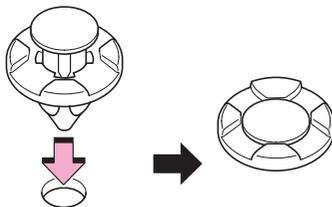
マッドガードを固定しているクリップは、以下の手順で脱着します。

▼ クリップタイプ Ⓐ

- 1 取り外すときは、⓪ドライバーで中央部を浮かしたあと、クリップ全体を引っ張る

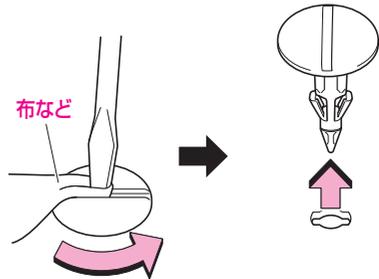


- 2 取り付けるときは、取り外した状態のまま差し込み、中央部を押し込む

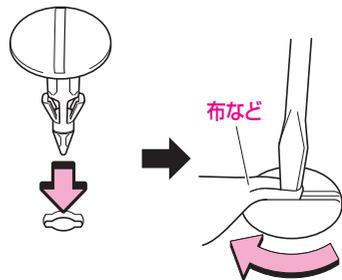


▼ クリップタイプ Ⓑ

- 1 取り外すときは、ドライバーで矢印の方向へ 90°回して取り外す



- 2 取り付けるときは、差し込んでからドライバーで矢印の方向へ 90°回して取り付ける

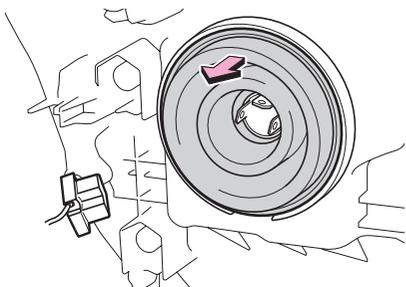


前照灯

ハロゲンヘッドランプ装着車

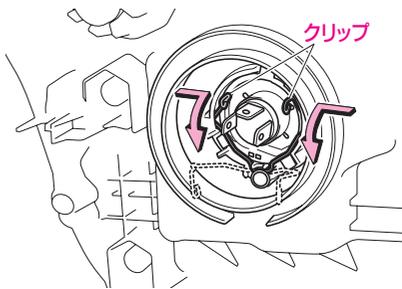
▼ 取り外し手順

- 1 ボンネットを開ける
(ボンネットの開閉→364 ページ)
- 2 コネクターを取り外す
- 3 ゴムカバーを取り外す



4 クリップをフックから外す

- 両側のクリップを矢印の方向に寄せながら手前に倒して外します。



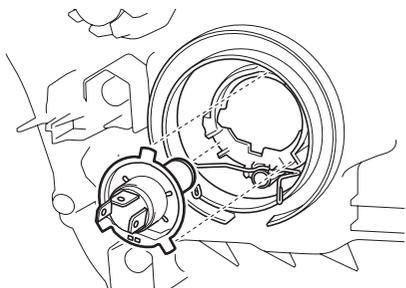
5 バルブを取り外す



▼ 取り付け手順

1 バルブを取り付ける

- ヘッドランプ本体の溝にバルブの突起部が合うように、はめ込みます。



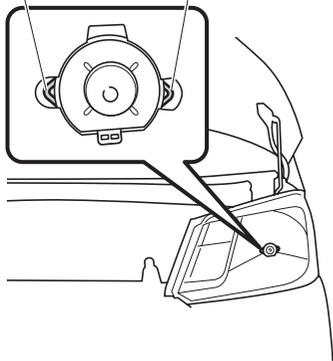
2 バルブを確実に固定する

- 両側のクリップを起こして中央方向にたわませ、フックに取り付けます。

知識

- バルブの固定状態は、車両前側のレンズ面からも確認できます。

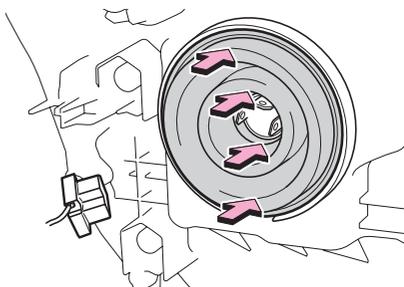
クリップ クリップ



3 ゴムカバーを確実に取り付ける

- ゴムカバーを矢印方向にしっかり押さえます。

4 コネクターを取り付ける



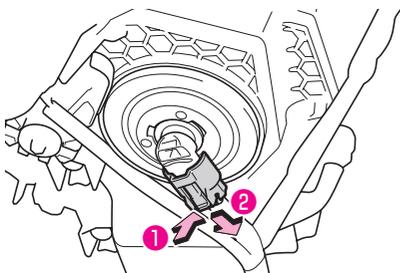
前照灯／ハイビーム

LED ヘッドランプ装着車

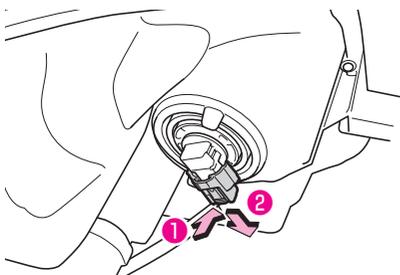
▼ 取り外し手順

- 1 ボンネットを開ける
(ボンネットの開閉→ 364 ページ)
- 2 ツメを押して (1)、コネクターを取り外す (2)

標準車

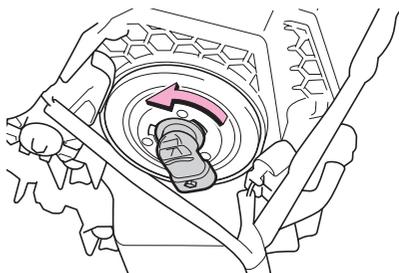


カスタム仕様車

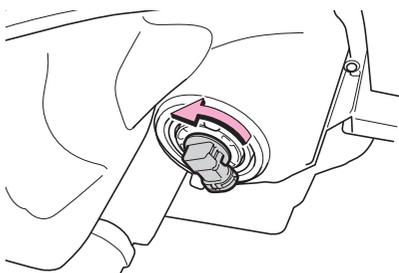


3 バルブを回して外す

標準車



カスタム仕様車



▼ 取り付け手順

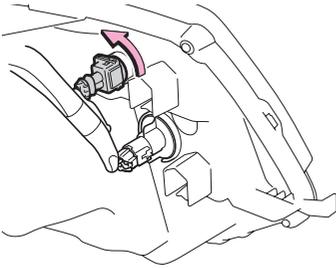
逆の手順で行います。

車幅灯

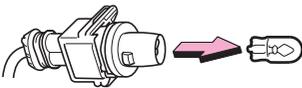
標準車

▼ 取り外し手順

- 1 ボンネットを開ける
(ボンネットの開閉→ 364 ページ)
- 2 ソケットを回して取り外す



- 3 ソケットから電球を引き抜く



▼ 取り付け手順

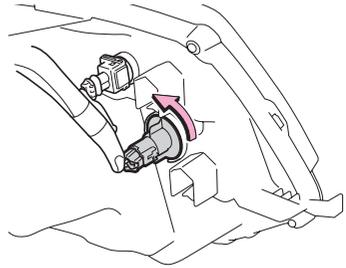
逆の手順で行います。

前面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯

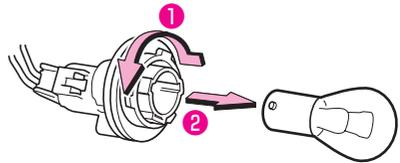
標準車

▼ 取り外し手順

- 1 ボンネットを開ける
(ボンネットの開閉→ 364 ページ)
- 2 ソケットを回して取り外す



- 3 電球を押しながら回して (1)、外す (2)



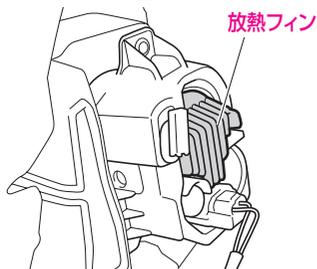
▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

カスタム仕様車

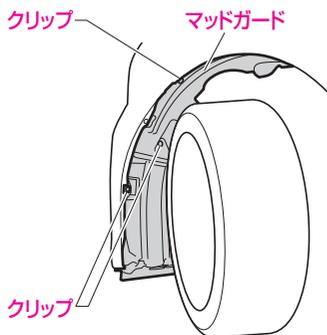
警告

- フォグランプが点灯しているとき、および消灯した直後はランプ裏側の放熱フィンが高温となっているため、触らないでください。やけどをするおそれがあります。



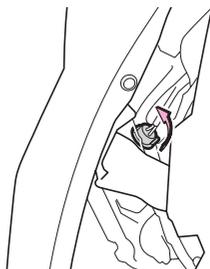
▼ 取り外し手順

- 1 ハンドルを
右側の電球を交換する場合は左に、
左側の電球を交換する場合は右に、
いっぱいまで回す
- 2 交換する側のマッドガードのクリップ
(3個)を取り外す

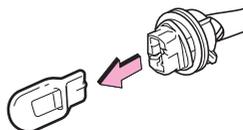


- 3 マッドガードを、手が入る程度にめくる

- 4 ソケットを回して取り外す



- 5 バルブを引き抜く



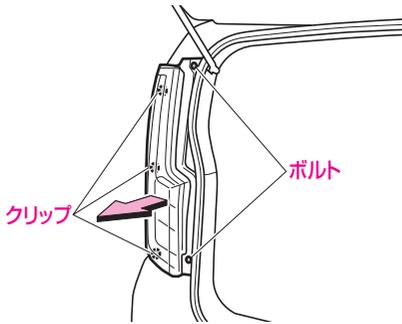
▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

リヤコンビランプ (後面方向指示燈、後退燈)

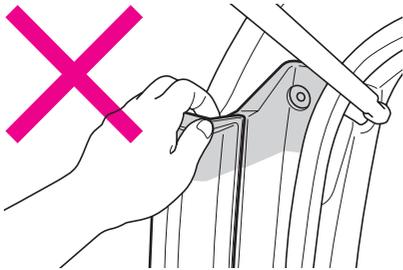
▼ 取り外し手順

- 1 リヤゲートを開ける
(リヤゲート→110ページ)
- 2 ランプ本体のボルトを取り外す
- 3 ランプ本体を車両後方に引いて取り外す
 - 車両後方に引くと、クリップが外れます。



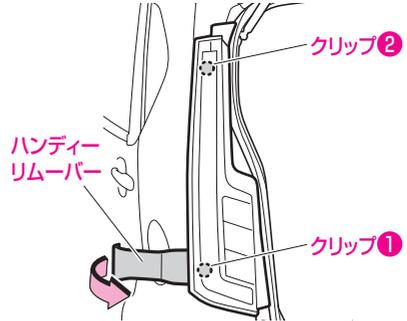
⚠ 注意

- ランプ本体の上部を持って取り外さないでください。ランプを破損するおそれがあります。

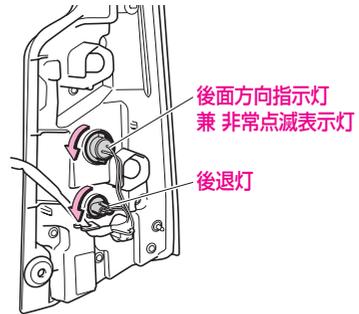


📖 知識

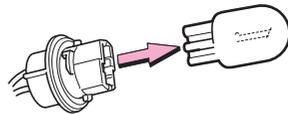
- ランプ本体は、市販のハンディーリムーバー（幅広タイプ）を使用して、クリップのかん合を(1)、(2)の順で外すと、取り外しやすくなります。



- 4 交換する電球のソケットを回して取り外す



- 5 バルブを引き抜く



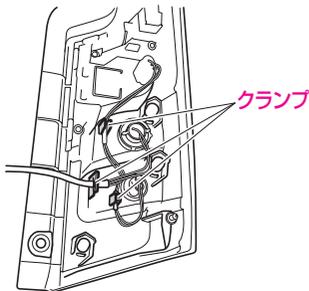
▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

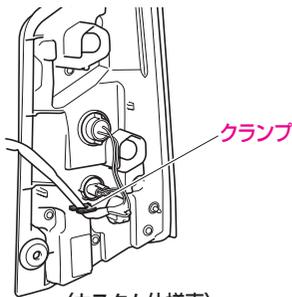
⚠ 注意

- ランプ本体を取り付けるときは、必ず配線のテーピング部の中間をクランプに取り付けてください。

クランプに取り付けていないと配線が車体に挟み込まれ、損傷するおそれがあります。



〈標準車〉

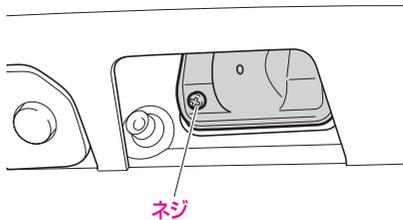


〈カスタム仕様車〉

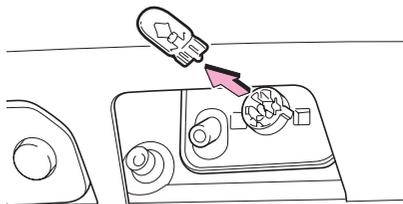
番号灯

▼ 取り外し手順

- 1 ネジ（1本）を取り外し、レンズを取り外す



- 2 バルブを引き抜く



▼ 取り付け手順

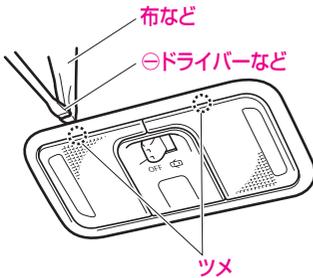
逆の手順で行います。

フロントマップランプ

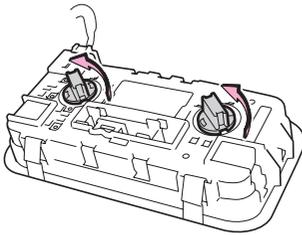
標準車

▼ 取り外し手順

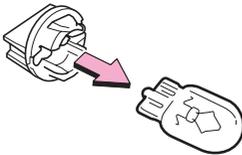
- 1 ㊦ドライバーを差し込み、ツメ (2カ所) を外してランプ本体を取り外す



- 2 交換する電球のソケットを回して取り外す



- 3 ソケットから電球を引き抜く



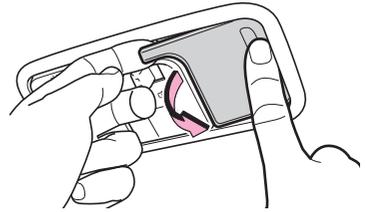
▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

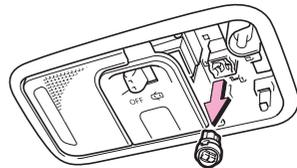
カスタム仕様車

▼ 取り外し手順

- 1 ランプのスイッチを押しながら、カバーを取り外す



- 2 電球を取り外す



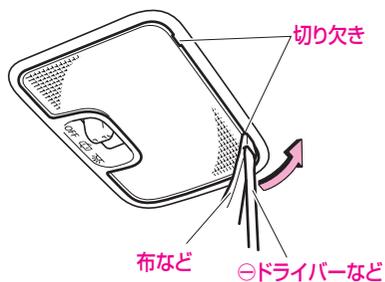
▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

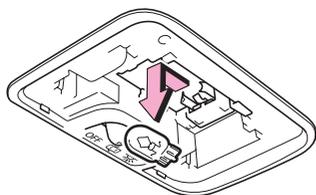
ルームランプ

▼ 取り外し手順

- 1 ㊦ドライバーを切り欠きに差し込んで、カバーを取り外す



- 2 電球を取り外す



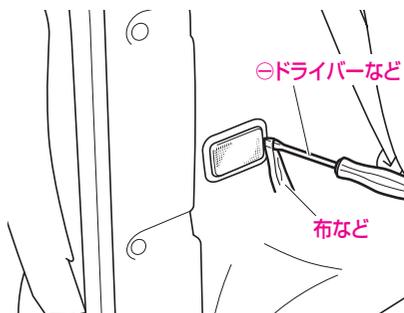
▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

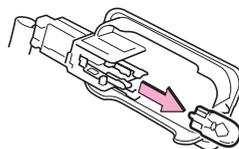
カーゴルームランプ

▼ 取り外し手順

- 1 ㊦ドライバーを差し込み、ランプ本体を取り外す



- 2 バルブを引き抜く



▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

キーの電池交換

次のようなときは、キーの電池消耗が考えられます。早めに電池を交換してください。

- スイッチを押しても作動しない
- 著しく作動距離が短くなった
- インジケーターが点灯しない

電池は、お客様自身で交換できますが、破損などのおそれがあるため、スバル販売店での交換をおすすめします。

交換方法

⚠ 注意

- 電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないようにご注意ください。
- 電池を交換するときは以下のことに注意してください。故障の原因になるおそれがあります。
 - 濡れた手で電池交換をしない
 - 電子部品に触れたり、端子を曲げたりしない
 - 油や異物を入れない
- 電池交換をする場合は、必ず身体や衣類に帯電している静電気を放電してください。静電気により、リモコンが損傷するおそれがあります。静電気を放電する場合は、静電気が除去できる物をあらかじめ用意しておくか、金属部分などに手を触れてください。

📖 知識

- 液漏れなどを防ぐため、電池の⊕極と⊖極は正しく取り付けてください。
- 故障の原因となりますので、下記のことをお守りください。
 - 端子部分などを曲げない
 - 水、油などでぬらさない
 - ゴミなどの異物を入れない

知識

- 電池はスバル販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。
- 電池交換はスバル販売店に依頼することをおすすめします。
- 電池は新品を使用してください。
- 電池交換後はリモコンの機能が正常であることを確認してください。
- ボタン電池を廃棄する場合は、テープなどで端子部を絶縁してください。電池が重なり合ったり、他の金属製品を混ぜたりすると電池がショートして、漏液、発熱、破裂するおそれがあります。また、自治体が条例などを定めている場合は、その条例にしたがってください。

電波式リモコンドアロック装着車

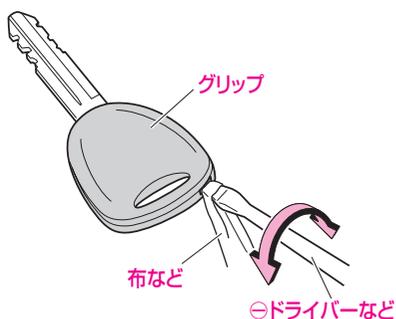
▼ 用意するもの

- 「CR1620 (3V)」の新しい電池
- 薄刃の⊖ドライバーなど（くぼみに入る程度の幅のもの）
 - 傷付き防止のため先端に布などを巻いてください。

▼ 交換手順

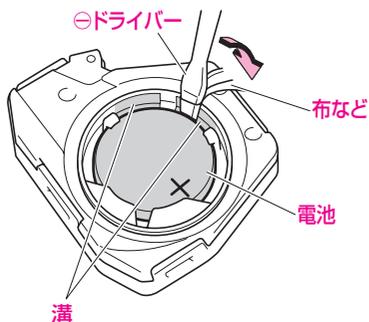
- 1 メインキーのグリップを外す
- 2 モジュール裏側のカバーを外す

- 用意した⊖ドライバーなどをくぼみに差し込み、回します。



3 電池を取り出す

- 用意した⊖ドライバーなどを溝に差し込みます。



4 新しい電池と交換する

- 電池は⊕極を上側にして取り付けます。

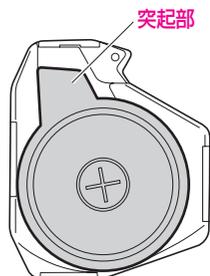
5 カバーとモジュール、およびグリップを取り付ける

- カバーを突起部からはめ込み、全体を均等に押さえてください。

知識

カバーをはめ込むときは

- 確実にはめ込んでください。浮いたりしていると、水、ほこりなどが入り、故障の原因になるおそれがあります。



6 スイッチを押したとき、インジケータが点滅することを確認する



キーレスアクセス装着車

▼ 用意するもの

- 「CR2032 (3V)」の新しい電池
- 薄刃の⊖ドライバーなど
(くぼみに入る程度の幅のもの)
 - 傷付き防止のため先端に布などを巻いてください。

▼ 交換手順

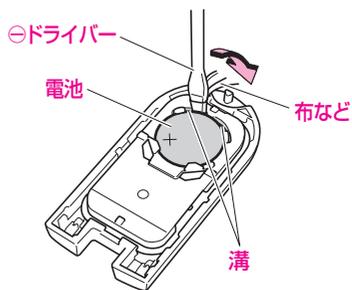
1 アクセスキーのカバーを外す

- スバルマーク側を上にして外します。
- 用意した⊖ドライバーなどをくぼみに差し込み、回します。



2 電池を取り出す

- 用意した⊖ドライバーなどを溝に差し込みます。



⚠ 注意

- スバルマーク側を下にしてカバーを外さないでください。アクセスキーのスイッチや電子部品などが落下して破損するおそれがあります。

3 新しい電池と交換する

- 電池は ⊕ 極を上側にして取り付けます。

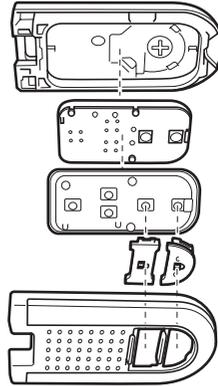
4 カバーを取り付ける

5 スイッチを押したとき、インジケータ が点滅することを確認する



▼ アクセスキーの部品がばらけたときは

図を参考に組み付けてください。



⚠ 注意

- 電子部品の基板に触れないでください。
故障の原因になります。

積雪、寒冷時の取り扱い

積雪、寒冷時の取り扱い

冬に向かってのお手入れ …	408
走行前点検と準備 ……………	409
積雪、寒冷時の走行 ………	410
走行中の点検と注意 ………	411
走行後の取り扱い ……………	412

積雪、寒冷時の取り扱い

冬に向かってのお手入れ

点検方法などは、別冊の「メンテナンスノート」に記載していますので、参照してください。

バッテリー

気温が下がるとバッテリーの性能が低下しエンジン始動やキーレスアクセス（オプション/グレード別装備）に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

エンジンオイル

冬期はオイルの劣化が激しくなります。指定グレードのエンジンオイルを、早めに交換してください。

冷却水

冷却水の凍結を防ぐためにクーラント（不凍液）の濃度の確認をスバル販売店に依頼してください。

ウインドウウォッシャー液

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

寒冷地用ワイパーブレード

降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムでおおってあります。

寒冷地用ワイパーブレードは、お車のサイズに合ったスバル純正部品をご使用ください。

⚠ 注意

- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりウインドウガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合は速度を落として走行してください。

走行前点検と準備

走行前点検の際に下記の点検も行ってください。

足回りなどの着氷

車の下回りをのぞいて、足回りなどに氷塊が付着していないか確認してください。付着している氷塊は、部品を損傷しないように十分注意して取り除いてください。ペダル類やハンドルの動きが円滑かどうかも確認してください。

車体への積雪

屋根に積もった雪は、走行する前に取り除いてください。走行時、ガラス面に落下すると視界のさまたげとなり危険です。

⚠ 注意

- 氷結している部分を無理に取り除くと塗装などをいためる場合がありますので注意してください。

ドアの凍結

ドアが凍結した場合は無理に開けようとするとドア周りのゴムがはがれたり、破損するおそれがあります。ぬるま湯をかけて氷をとかしてください。開けたあとは水分をよくふき取ってください。不十分ですとまた凍結することがあります。

ウインドウガラスの凍結

凍結しているときは、ぬるま湯をかけて氷をとかし、水分をよくふき取ってください。

⚠ 注意

- 氷をとかすときはぬるま湯を使用し、熱湯はかけないでください。ウインドウガラスが割れるおそれがあります。
- フロントウインドウガラスに付いた氷を取り除くために、氷をたたいて割らないでください。フロントウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

ワイパーなどの凍結

ワイパー、ドアミラー、ドアガラスなどが凍ったり、雪が固まって動かないときは、ぬるま湯をかけて氷や雪をとかし、水分をふき取ってください。

⚠ 注意

- 凍結したまま、または雪が固まったままワイパー、ドアミラー、ドアガラスなどを無理に作動させると、ワイパーゴムを損傷したり、モーターなどが故障するおそれがあります。

乗車時の注意

靴にこびりついた雪は、乗車時によく落としてください。ペダル類を操作するときに滑ったり、室内の湿気が多くなりガラスが曇ったりすることがあります。また、床面などが加湿状態となり、腐食の原因となります。

積雪、寒冷時の走行

雪道、凍結路を走るときはタイヤチェーンまたは冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着してください。

⚠ 注意

- 積雪時は、スピードを控えめにしてください。路面が凍結している可能性が高く、大変スリッパしやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。チェーン装着車、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）装着車、またAWD車であっても慎重な運転をしてください。

タイヤチェーンの装着

- タイヤチェーンは2WD車、AWD車とも必ず前輪に装着します。

⚠ 注意

- タイヤチェーンは車のタイヤのサイズに合った、スバル指定品または指定サイズの物を使用してください。サイズの合わないチェーンを使用すると、ブレーキ配管や車体を破損し、危険です。
- 金属チェーンを使用すると車体に干渉して異音発生や傷付きによる錆が発生することがあります。
- タイヤチェーンの取り付けは各タイヤチェーン付属の取扱説明書にしたがって行ってください。

タイヤチェーンは、タイヤサイズに合った物を使用してください。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

▼ 指定タイヤサイズおよびチェーンの種別

タイヤサイズ	タイヤチェーンの種別	
155/65R14	スバル純正チェーン	使用可能
165/55R15	市販JISチェーン(金属)	使用不可

⚠ 注意

- タイヤチェーン装着時は30km/h以上で走行しないでください。タイヤチェーンにかかる負担が大きくなり、チェーンが切れやすくなります。
- 取り付け作業は雪上などをさけ交通のさまたげにならない安全で平らな場所で行ってください。必ず駐車ブレーキをかけ、非常点滅表示灯を点滅させ、人や荷物は降ろし、停止表示板も使用してください。
- 作業をするときは、車体端部などでけがをしないように注意してください。
- チェーン装着時VDCが正確に作動しない場合があります。

📖 知識

- タイヤチェーンを装着するとホイールキャップやアルミホイールに傷が付くおそれがあります。ホイールキャップ装着車はホイールキャップを取り外した状態で、タイヤチェーンを装着してください。

冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）の装着

⚠ 注意

- 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）は必ず標準タイヤと同じ指定サイズのタイヤを使用してください。指定サイズ以外のタイヤを使用すると安全性を損ない大変危険です。
- タイヤは4輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）の物を装着してください。
- タイヤの空気圧を確認してください。（タイヤの空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています）
- 地方により条例の違いがありますので、その地区の条例にしたがってください。

走行中の点検と注意

ブレーキの凍結

積雪、寒冷時ではブレーキ装置に付着した水が凍結し、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。その際には、前後の車に十分注意して、ブレーキペダルを軽く踏みながら低速で走行し、ブレーキパッドのしめりを乾かしてください。

⚠ 注意

- 万一、ブレーキの効きが回復しないときは、ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

雪道、凍結路の注意

⚠ 注意

- 雪道や凍結路では、急加速、急減速、急ブレーキ、急ハンドルをさけてください。スリップして方向性を失い事故につながるおそれがあります。

走行中の雪の付着

雪道走行時、タイヤハウス裏側に付着した雪が氷結し、次第にたい積してハンドルのきれが悪くなる場合があります。ときどき異常のないことを確認してください。ランプ類などは、走行中に雪のために暗くなることがあるので、ときどき異常のないことを確認してください。

パンク時の対応

タイヤパンク応急修理セットで応急修理をしてください。

(タイヤパンク応急修理セット
→ 419 ページ)

走行後の取り扱い

駐車方法

屋外に駐車するときは、車の前部を風下や日の当たる方向に向けて止めてください。

エンジンが冷えすぎると、始動しにくくなる場合があります。

また、ワイパーアームは起こしてください。雪の重みでワイパーアームが変形したり、ブレード部（ゴムの部分）が、ガラスに凍結したりすることがあります。

警告

- 雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。エンジンをかけた状態で車の周りに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入して一酸化炭素中毒事故を起こすおそれがあります。

注意

- フロントワイパーアームを起こすときは、以下のことをお守りください。
 - 必ずワイパーアームの部分を持って起こしてください。ワイパーブレードの部分だけを持って起こすと、ブレードが変形するおそれがあります。
 - 必ず運転席側のワイパーアームから起こしてください。また、もとに戻すときは助手席側のワイパーアームから戻してください。
- 寒冷時は駐車ブレーキをかけるとブレーキ装置が凍結して駐車ブレーキが解除できなくなるおそれがありますので使用しないでください。セレクトレバーをPレンジに入れて輪止めを置いてください。

知識

- 軒下や樹木の下での駐車はさけてください。落雪で車体を損傷するおそれがあります。
- 降雪時に長時間駐車するときは、アンテナを取り外してください。
(ルーフアンテナ→337ページ)

洗車方法

凍結防止剤をまいた道路を走行したときは、早めに下回りと足回りを洗車してください。放置すると腐食の原因となります。洗車後は凍結防止のため水分をよくふき取ってください。

知識

- ドアのキー挿入口やドア周りのゴム部の水分は特によくふき取ってください。

格納方法

長時間使わないで屋外に放置しておくときは、塗装面の保護とドア周りの凍結を防ぐために、ボディカバーを使用してください。

注意

- エンジンの冷えすぎを防ぐために毛布でおおったり、フロントグリルに段ボールや、新聞紙を挟み込まないでください。これがもとで燃え出す危険があります。

いざというときに

工具類

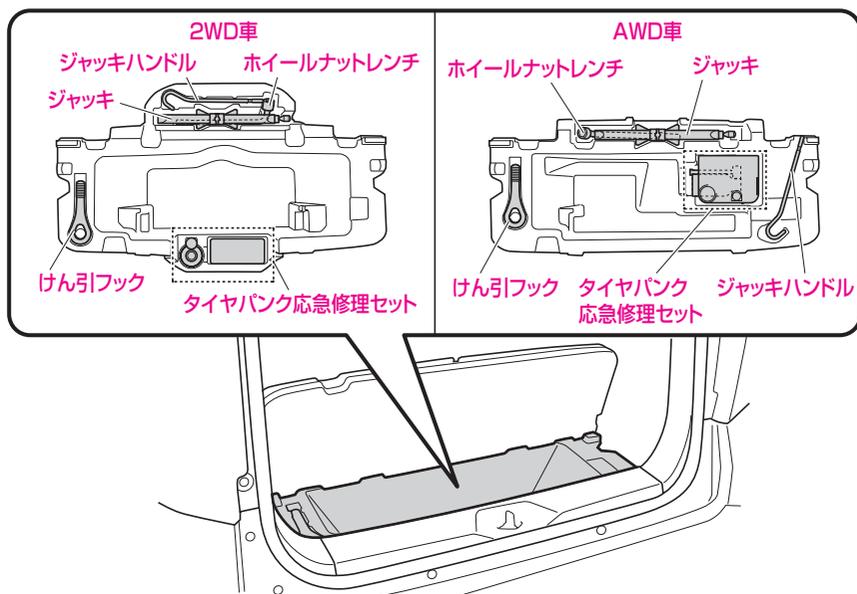
格納場所	414
ジャッキの使いかた	415
タイヤパンク	
応急修理セット	419

いざというときの処置

エンジンが	
かからないとき	426
スタック（立ち往生）	
したとき	426
故障したとき	427
けん引される時	429
パンクしたとき	432
バッテリーあがりの処置	432
オーバーヒートの処置	436
アクセスキーが	
使用できないとき	438
キーを閉じ込めたとき	440
車両を緊急停止するには	441
事故が起きたとき	442

工具類

格納場所

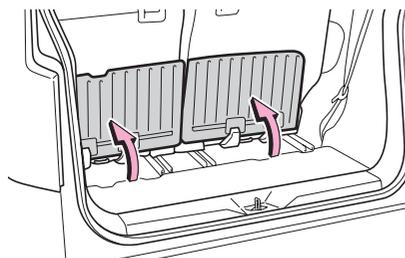


ジャッキ、工具、タイヤパンク応急修理セットは、カーゴルーム内のサブトランクに収納しています。

(ジャッキの使いかた→ 415 ページ)

(けん引されるとき→ 429 ページ)

(タイヤパンク応急修理セット→ 419 ページ)



- 工具を取り出すときは、リヤシートを前方いっぱいまでスライドし、車両前側のカーゴボードを持ち上げます。

⚠ 注意

- ジャッキ、工具、タイヤパンク応急修理セットは所定の位置にしっかり固定してください。室内などに放置すると、急ブレーキ時などに工具が体に当たるなど、大変危険です。

ジャッキの使いかた

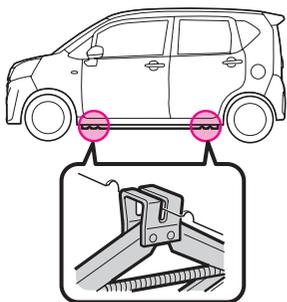
⚠ 警告

- ジャッキアップした車の下には絶対にもぐらないでください。万一ジャッキが外れると大変危険です。
- ジャッキアップするときはジャッキの上や下に物を挟まないでください。
- ジャッキアップするときは、必ず、駐車ブレーキをかけ、セレクトレバーを P レンジに入れて、輪止めをしてください。車が動き出すおそれがあり危険です。
- ジャッキは砂や石ころのない安定した平らなかない場所を選んでセットしてください。ジャッキアップしたとき、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車に備え付けのジャッキは、タイヤの交換、タイヤパンク応急修理およびタイヤチェーンの脱着以外には使用しないでください。
- ジャッキアップするときは、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めをしてください。
- ジャッキは、セット位置以外にかけないでください。外れたり、車を損傷するおそれがあります。
- ジャッキアップするときは、人や荷物を車から降ろしてください。
- ジャッキは、伸ばすほど不安定になります。タイヤが地面から 3cm 以上離れないようにしてください。
- ジャッキアップしているときは、エンジンをかけないでください。
- タイヤのローテーション時などに、車載のジャッキを用いて、両車輪同時に上げるようなことはしないでください。接地しているタイヤが動き、車体がずれるおそれがあります。

⚠ 注意

- 車に備え付けのジャッキは、お客様のお車専用です。ほかの車に使用したり、ほかの車のジャッキをお客様のお車に使用しないでください。車を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

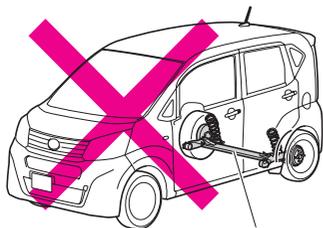
ジャッキをセットする位置



取り替えるタイヤに近いジャッキセット位置（切り欠きと切り欠きの間）にセットします。

⚠ 注意

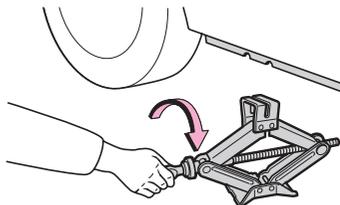
- ジャッキは必ずジャッキセット位置にセットしてください。
- 2WD車はリヤサスペンションビームにジャッキをかけないでください。



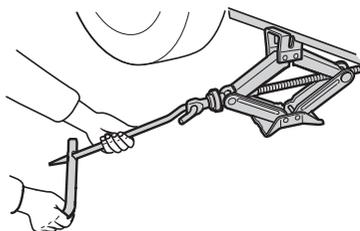
リヤサスペンションビーム

ジャッキのかけかた

▼ 操作手順



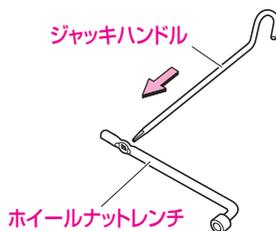
- 1 ジャッキを手で回して、セット位置（切り欠きと切り欠きの間）まで上げる



- 2 ジャッキが確実にセット位置（切り欠きと切り欠きの間）にかかっていることを確認し、ジャッキハンドルを使って、タイヤが地面から少し離れる位置まで車を持ち上げる

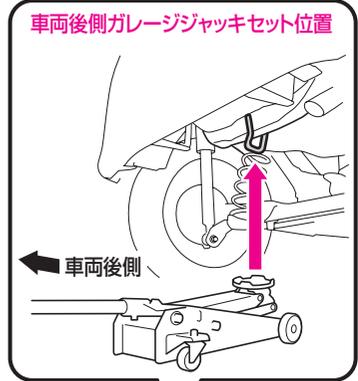
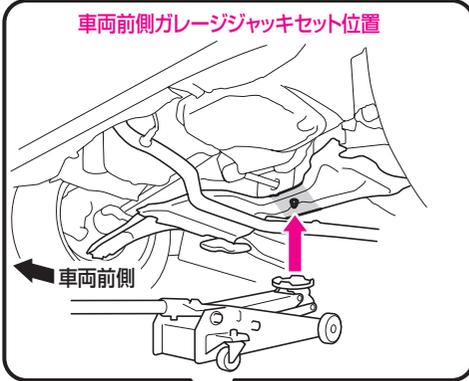
📖 知識

- ジャッキハンドルは図のように組み立てて使用してください。

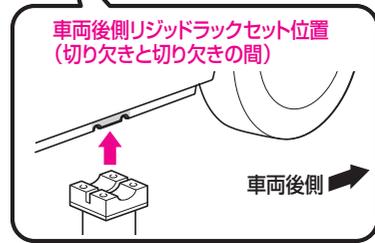
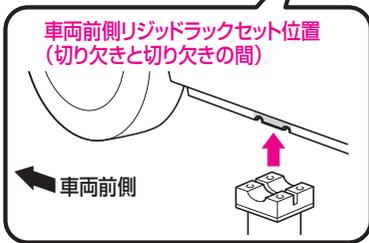
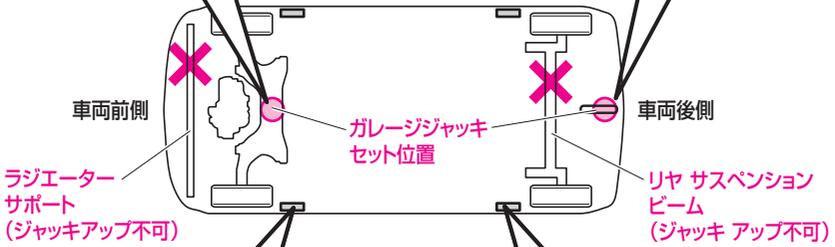


ガレージジャッキ（市販品）を使用する場合

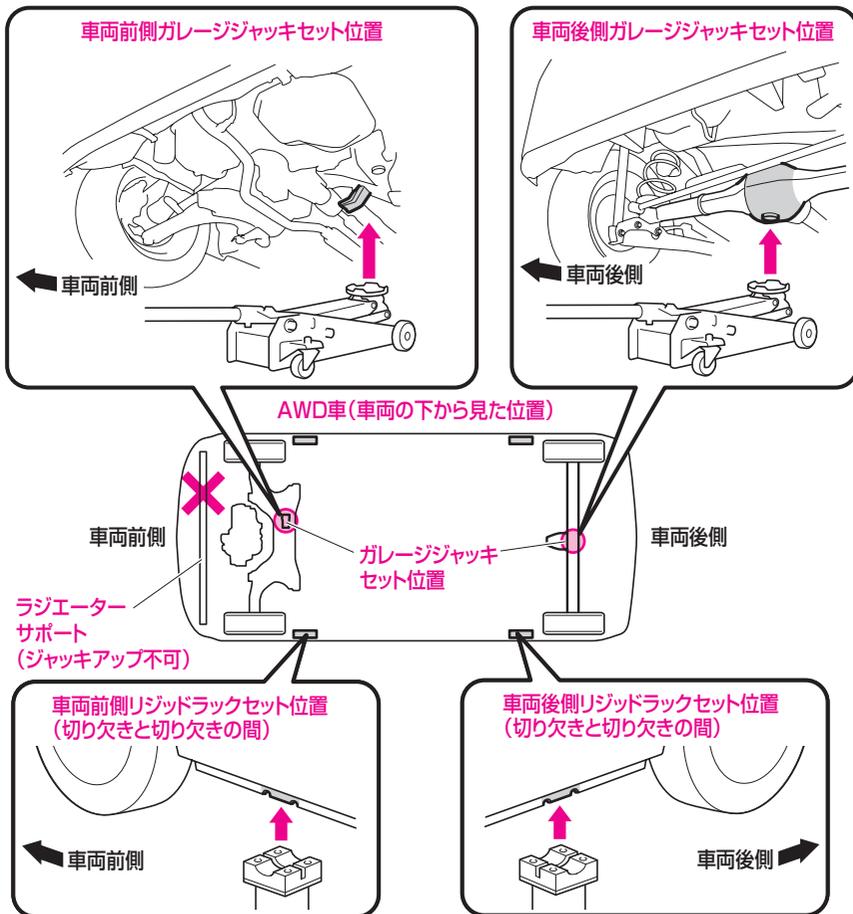
2WD 車



2WD車(車両の下から見た位置)



AWD 車

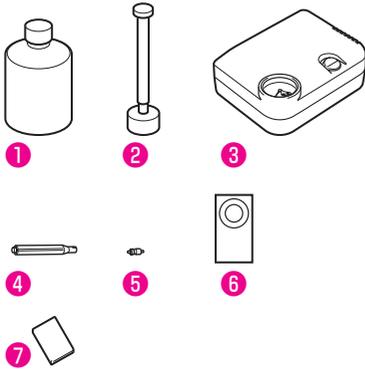


ガレージジャッキを使用する場合は、図のガレージジャッキ位置にセットしてジャッキアップを行ってください。その際は、必ずリジッドラック（市販品）をリジッドラックセット位置（切り欠きと切り欠きの間）にセットしてください。

⚠ 注意

- ガレージジャッキおよびリジッドラックは、必ず正しい位置にセットしてください。正しい位置にセットしていないと、けがをしたり、車が損傷したりするおそれがあります。

タイヤパンク応急修理セット



- ① タイヤパンク応急修理剤
- ② 注入ホース
- ③ タイヤ空気充填用コンプレッサー
- ④ バルブコア回し
- ⑤ 予備バルブコア
- ⑥ 速度制限シール
- ⑦ 取扱説明書

タイヤパンク応急修理セットは、タイヤがパンクしたとき、パンク穴をふさぐタイヤパンク応急修理剤と空気を注入するタイヤ空気充填用コンプレッサーを用いて応急修理を行う際に使用します。

- タイヤパンク応急修理セット装着車には、応急用スペアタイヤは装着されていません。
- タイヤパンク応急修理セットは、応急時のタイヤ修理用です。応急修理後は、すみやかにタイヤの交換、またはスバル販売店で、点検、修理を受けてください。

⚠ 注意

修理剤について

- 飲用すると体に害があります。もし誤って飲用された場合は、できるだけたくさんのお水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- 目に入ったり皮膚に付いたりした場合には、ただちに水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。
- 衣服などに付着すると、取れなくなるおそれがありますので注意してください。

📖 知識

- タイヤパンク応急修理セットは、指定の場所に格納してください。また、お子さまが誤って手を触れないようご注意ください。

(格納場所→ 414 ページ)

タイヤ空気充填用コンプレッサーについて

- タイヤ空気充填専用です。そのほかの目的で使用しないでください。
- DC12V 専用です。ほかの電源での使用はできません。
- コンプレッサーを使用する際、故障の原因となりますので下記のことをお守りください。
 - 10 分以上連続して使用しない
 - 降雨時など、水がかからないようにする
 - 砂ぼこりなどを吸い込ませない
 - 使用中に、動作が鈍くなったり、本体が熱くなったりしたときは、ただちに電源を“OFF”にし、30 分以上放置する
 - 分解、改造などは絶対にしない
 - 強い衝撃や圧力を加えない

タイヤパンク応急修理セットの点検

いざというとき使用できるようにタイヤパンク応急修理セットの日常点検を実施してください。

- 修理剤の有効期限の確認
- アクセサリーソケット電源の確認
(電化製品などを作動させて点検してください)
- タイヤ空気充填用コンプレッサー作動の確認
(コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに差し込み、エンジンスイッチを“ACC”にします)

タイヤパンク応急修理セットが使用できない状況

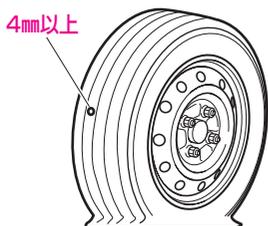
下記のような場合は、タイヤパンク応急修理セットによる応急修理ができません。

スバル販売店または JAF* などにご連絡ください。

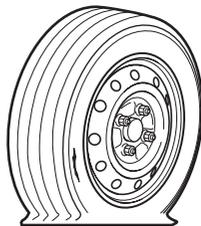
- 修理剤の有効期限が切れている



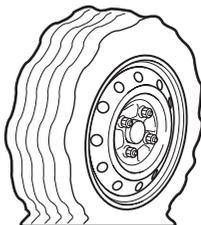
- 約 4mm以上の切り傷や刺し傷がある



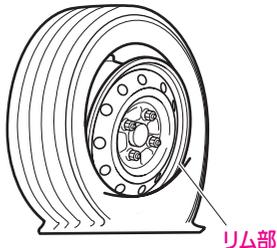
- タイヤサイド部が損傷を受けている



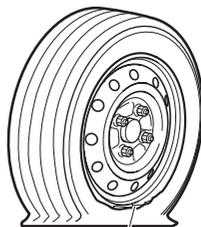
- ほとんど空気の抜けた状態で走行した



- タイヤがリムの外側に完全に外れている



- リム部が破損している



- タイヤが2本以上パンクしている
(修理剤はタイヤ1本分です)

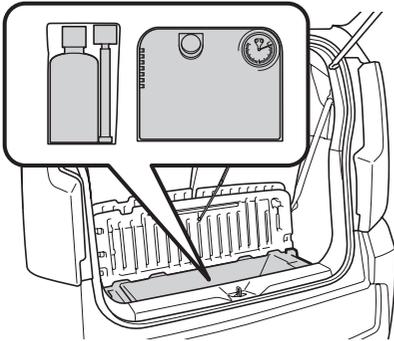
タイヤの応急修理方法

タイヤ接地部に刺さった釘やネジなどによる軽度のパンクは、タイヤパンク応急修理セットで応急修理を行うことができます。

知識

- タイヤに刺さった釘やネジなどは抜かずにそのまま応急修理してください。

▼ タイヤパンク応急修理セットの格納場所



▼ 応急修理のしかた

⚠ 注意

- 路上で作業を行うときは、交通のさまたげにならず、安全に作業ができる地面が硬くて平らな場所に移動してください。その際は非常点滅表示灯を点滅させ、停止表示板を使用してください。

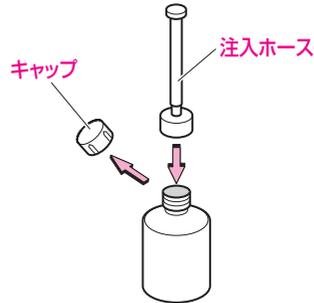
- 1 修理剤ボトルとコンプレッサーを取り出す
- 2 修理剤ボトルをよく振る

知識

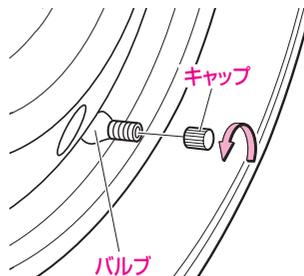
- 修理剤ボトルは注入ホースをねじ込む前に振ってください。

- 3 修理剤ボトルのキャップを外し、中ぶたをつけたまま注入ホースをねじ込む

- 注入ホースをねじ込むと中ぶたが破れます。

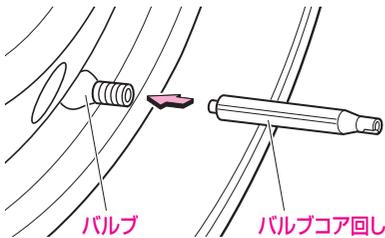


- 4 パンクしたタイヤのバルブキャップを外す



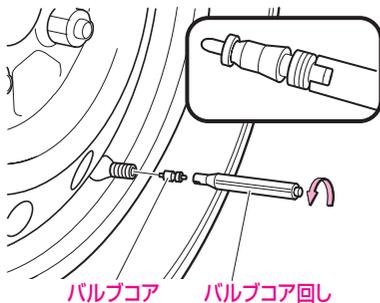
5 タイヤに残った空気を完全に抜く

- バルブにバルブコア回しを図の向きで押し付けると空気が抜けます。



6 バルブコアを外す

- バルブコア回しの溝がある部分を使ってバルブコアを回します。



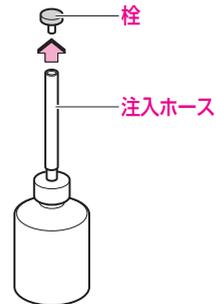
⚠ 注意

- タイヤに空気が残っているとバルブコアが飛び出すことがあります。慎重に外してください。

📖 知識

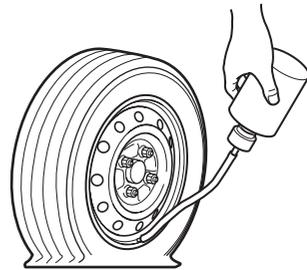
- バルブコアは再度使用しますので汚れないようにきれいなところに保管してください。

7 注入ホースの栓を外し、タイヤのバルブに差し込む



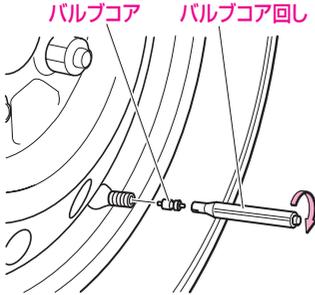
8 修理剤をタイヤ内に全て注入する

- 修理剤ボトルを逆さまに持ち、手で何度も圧迫します。



9 注入し終わったら、注入ホースをタイヤバルブから引き抜く

10 バルブコアをタイヤバルブにしっかりとねじ込む

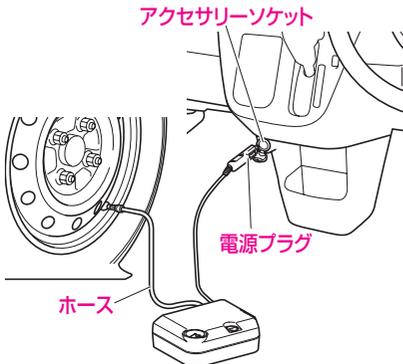


知識

- 空になった修理剤ボトルは、タイヤ交換、または恒久修理のときに修理剤の抜き取りに使用しますので、捨てずにスバル販売店までお持ちください。

11 コンプレッサーからホースと電源プラグを取り出し、車両に接続する

- ホースはタイヤバルブにしっかりとねじ込みます。
- 電源プラグは車両のアクセサリソケットに差し込みます。



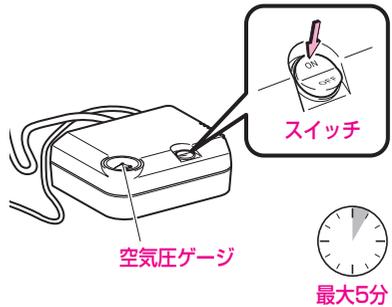
12 エンジンスイッチを“ACC”にする

13 タイヤの指定空気圧を確認する

- 指定空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています。

14 コンプレッサーの電源を“ON”にし、タイヤに空気を入れる

- 空気圧ゲージで確認しながら、指定空気圧まで昇圧してください。
- タイヤを指定の空気圧まで昇圧するには、約5分程度が必要です。



注意

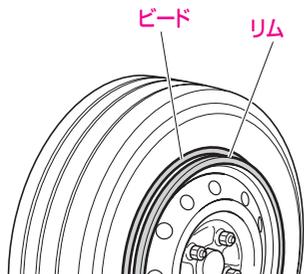
- コンプレッサーは10分以上連続して使用しないでください。モーターが過熱し損傷するおそれがあります。

知識

- 5分以内に十分昇圧しない場合、タイヤをジャッキで浮かせて手で2～3回以上回し、修理剤をタイヤ全体にいきわたらせてから、再度昇圧操作を行ってください。(ジャッキの使いかた→415ページ)

▼ タイヤのビードがリムから外れている場合は

- 空気が漏れないようにリムとタイヤの隙間をなくすようにしてコンプレッサーを作動させてください。
(隙間がなくなれば昇圧します)



⚠ 注意

- タイヤが膨らむとビードがリムにはまり込むので、指などを挟まないようにしてください。

▼ 5分以内に指定の空気圧まで昇圧できない場合は

- タイヤがひどい損傷を受けている可能性があります。この場合は、タイヤパンク応急修理セットで修理することができません。スバル販売店または、JAF などにご連絡ください。

📖 知識

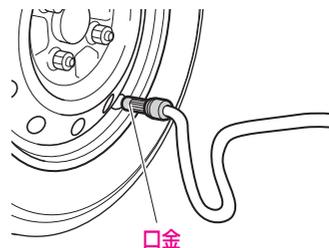
- JAF ロードサービスについては別冊の「メンテナンスノート」を参照してください。

15 指定の空気圧まで昇圧できれば、コンプレッサーの電源を“OFF”し、車両から取り外す

16 すみやかに走行を開始する

- 急加速・急ブレーキ・急ハンドルをさけ、80km/h 以下で慎重に運転してください。

📖 知識



- 空気を入れすぎた場合は、ホースの口金をゆるめて空気を抜いてください。

17 10分間または5km程度走行後、交通のさまたげにならない安全な場所に停車し、エンジンスイッチを“OFF”にする

18 タイヤの空気圧を空気圧ゲージで確認する



- コンプレッサーを車両に接続する
- エンジンスイッチを“ACC”にする
- コンプレッサーの電源を“ON”にして作動させたあと電源を“OFF”にしてから、空気圧ゲージで確認する

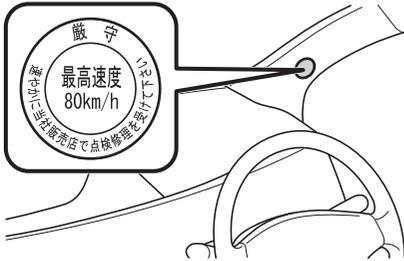
19 空気圧が 130kPa 以上であれば、パンク応急修理を完了する

- 130kPa 以上で指定空気圧に満たない場合は、コンプレッサーの電源を“ON”にし、昇圧する

▼ 空気圧が 130kPa 以下に低下していたら

- タイヤパンク応急修理セットによる修理はできません。走行を中止し、スバル販売店または、JAF などにご連絡ください。

20 付属の速度制限シールを運転者のよく見えるところに貼る



警告

- 速度制限シールは、ハンドルのパッド部などエアバッグ展開面に貼らないでください。SRS エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けるおそれがあります。また、メーターやウインドウガラスなど、運転のさまたげになるようなところに貼らないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

21 異常がなければ、すみやかにスバル販売店まで走行する

- 急加速・急ブレーキ・急ハンドルをさけ、80km/h 以下で慎重に運転してください。

応急修理後の処置

タイヤパンク応急修理剤を使用したタイヤは、すみやかに交換、修理を行ってください。交換、修理についてはスバル販売店にご相談ください。

知識

- 修理業者等にタイヤ交換または修理を依頼する際には、タイヤパンク応急修理セットを使用したことを知らせてください。
- ホイールは、付着した修理剤をふき取り、バルブコアを新しい物と交換すれば再使用できます。
- 修理剤ボトルの空容器は、修理剤の抜き取りに使用しますので、スバル販売店までお持ちください。
- 新しい修理剤は、スバル販売店でご購入ください。

いざというときの処置

エンジンがかからないとき

燃料カットシステム

外部から強い衝撃を受けてエンジンが止まってしまった場合、燃料カットシステムが作動している可能性があります。燃料カットシステムはエンジンへの燃料の供給を停止させることにより火災などの二次災害を防止する装置です。

▼ エンジンを再始動するには

エンジンを再始動する際にはエンジンスイッチを“OFF”または“ACC”に戻してから行ってください。

⚠ 警告

- 燃料漏れのおそれがあるとき、また、燃料のにおいがするときは、エンジンを再始動せずにお近くのスバル販売店にご連絡ください。

スタック（立ち往生）したとき

スタックから脱出するには

ぬかるみや砂地、深雪路などでタイヤが空転したり、埋まり込んで動けなくなったときは、下記の手順にしたがって脱出操作をしてください。

▼ 脱出操作をする前に

⚠ 警告

- 必ず周囲に他の車、物、または人がいないことを十分に確認してください。スタックから脱出する際に、車が前後に飛び出したり、あてがった石や木が飛散したりするおそれがあり危険です。
- セレクトレバーを操作するときは、アクセルペダルを踏んだまま操作しないでください。車が急発進したり、トランスミッションなどに重大な損傷をあたえるなどして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、異常過熱するため思わぬ事故につながるおそれがあります。
- アクセルペダルを過度に踏んで空ぶかししたり、タイヤを空転させないでください。トランスミッションなどを損傷し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 数回試して脱出できないときは、脱出操作を中止し、けん引による救援を依頼してください。（けん引される時→ 429 ページ）

 知識

- TRC の作動で脱出しにくいときは、TRC を停止してください。
(VDC&TRC OFF スイッチ→ 259 ページ)

▼ 脱出手順

- 1 駐車ブレーキをかけ、セレクトレバーを  レンジに入れ、エンジンを停止する
- 2 タイヤ前後の土や雪などを取り除く
- 3 スリップしているタイヤの下に、石や木などをあてがい滑り止めにする
- 4 エンジンを始動する
- 5 セレクトレバーを  または  レンジに入れ、注意しながら、アクセルペダルを軽く踏む

故障したとき

エンスト

安全な場所まで移動してください。
付近に人がいる場合は押ししてもらってください。

 注意

- 車を押す場合、セレクトレバーは  レンジに入れてください。

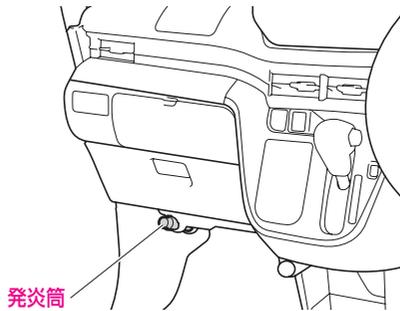
 知識

- 緊急を要する場合は発炎筒で合図してください。

踏切内の場合

踏切内で動かなくなったり、脱輪などですぐ動かせない場合は、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。

発炎筒



発炎筒は高速道路や踏切内での故障など、非常事態が発生したときに使用する非常信号用具です。

▼ 設置場所

グローブボックスの左下に設置されています。

⚠ 注意

- 非常用信号としてのみお使いください。
- お子さまに絶対触らせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 発炎筒を使うとき、顔や体に向けるとやけどの危険があるのでさけてください。
- ガソリンなどの可燃物のそばで使用すると、火災をまねく危険がありますのでさけてください。
- トンネル内では使用しないでください。トンネル内では非常点滅表示灯や懐中電灯で合図してください。

📖 知識

- 使用方法は、発炎筒に記載されています。あらかじめよく読んでください。
- 発炎筒を使うときは、非常点滅表示灯も点滅させてください。
- 発炎筒には有効期限がありますので、事前に確認しておいてください。

けん引されるとき

故障車の移動は、スバル販売店、または専門業者に依頼し、車両積載車で4輪とも持ち上げて運搬してください。

(スバル販売店、スバル指定サービス工場とJAFロードサービスの連絡先は、別冊の「スバルサービスネットワーク」に記載されています。)

警告

- 後輪だけを持ち上げたけん引は、車両が不安定になるので、行わないでください。
- AWD車の場合、前輪、または後輪だけを持ち上げたけん引は絶対にしないでください。前輪、または後輪だけを持ち上げて運搬すると、駆動装置が損傷したり、車がレッカー車(台車)から飛び出すおそれがあります。

やむを得ず、ロープによるけん引をするときは、下記の注意にしたがってください。

けん引を行う前に

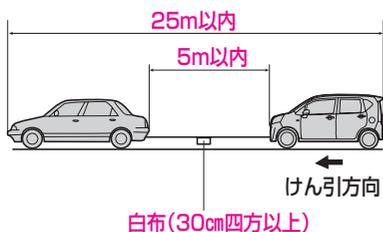
注意

- 他車をけん引する能力はありません。車体のいずれかにロープをかけるなどのけん引はしないでください。
- ロープによるけん引を行う前に、駆動系に故障がないことを、スバル販売店、スバル指定サービス工場にご確認ください。駆動系に故障の可能性がある場合は、ロープによるけん引はしないでください。
- 下記の場合は、駆動系の故障が考えられるため、ロープによるけん引はせずにスバル販売店にご連絡ください。
 - エンジンがかかるが車が動かない
 - 異常な音がする
- ロープによるけん引をするときの速度は30km/h以下、けん引距離は50km以内にしてください。この速度・距離を超えると、トランスミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。
- プッシュスタート装着車のプッシュエンジンスイッチが故障したときは、ハンドルロックが解除できないため、ロープによるけん引はできません。

⚠ 注意

- けん引される車は、下記の事項を守って慎重に運転してください。通常と同じ感覚で運転すると、事故につながるおそれがあります。
- できるだけ人や荷物をおろし、車体を軽くしてください。
- エンジンスイッチはハンドルロックを解除させるために“ACC”にし、セレクトレバーは **N** レンジにしてください。
- エンジンが停止していると、いつもよりハンドル操作が重くなりますので、できるだけエンジンを始動してください。
また、ブレーキの効が悪くなりますので、通常より強めにブレーキペダルを踏んでください。
- 長い下り坂では、ブレーキが過熱して、効かなくなるおそれがありますので、けん引しないでください。

けん引の方法



- 前の車の制動灯に注意して、常にけん引ロープをたるませないように気を付けてください。
- けん引ロープには必ず白い布（30cm四方以上）を付けてください。

ロープをかける位置

ロープは必ずけん引フックにかけてください。

- けん引フックは、サブトランクに格納しています。

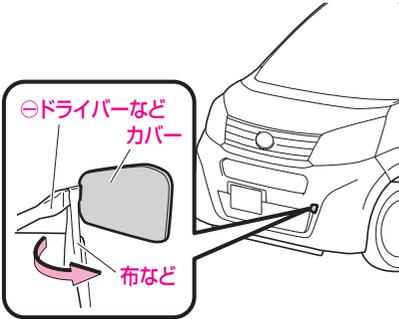
(格納場所→ 414 ページ)

▼ けん引フックの取り付けかた

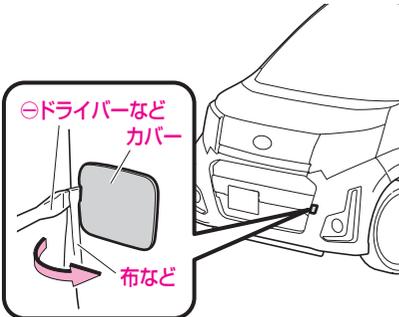
1 カバーを外す

- 薄刃の⊖ドライバーなどをカバーの切りかきに差し込みます。
(傷付き防止のため、ドライバーの先端に布などを巻いてください)

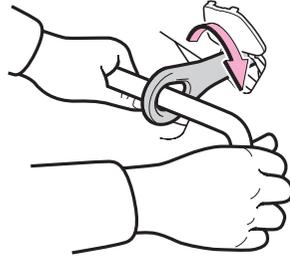
標準車



カスタム仕様車



2 けん引フックを差し込み、ホイールナットレンチでしっかりと固定する



知識

- けん引が終わったら、けん引フックを取り外し、カバーを確実に取り付けてください。

パンクしたとき

高速走行中にパンクやバースト（破裂）したときは、ハンドルをしっかり持って、徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。

急ブレーキをかけるとハンドルを強く取られ危険です。

（タイヤパンク応急修理セット→419 ページ）

バッテリーあがりの処置

下記のような症状が見られるとバッテリーあがりが考えられます。

- スターターが回らない
- スターターが回っても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない
- ヘッドランプがいつもより暗い
- ホーンの音が小さい、または鳴らない
- キーレスアクセス装着車のアクセスキーでドアが解錠しない

処置のしかた

▼ 処置を行う前に

⚠ 警告

- 火気をバッテリーに近付けないでください。バッテリーから発生する可燃ガスにより爆発するおそれがあり危険です。
- バッテリー液が万一皮膚や目に付いてしまったら、その箇所を多量の水で十分洗浄して、ただちに医師の診断を受けてください。バッテリー液には希硫酸が含まれており、毒性、腐食性があります。
- 処置の手順でブースターケーブルをバッテリーあがり車のバッテリーの ⊖ 端子に接続しないでください。火花が発生し、バッテリーから発生する可燃ガスに引火する危険があります。
- バッテリーの液量がバッテリー側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下になったらそのまま使用または充電をしないでください。バッテリーの破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。
- ブースターケーブルを接続するとき、端子と端子を絶対に接触させないでください。火花が発生し、引火する危険があります。

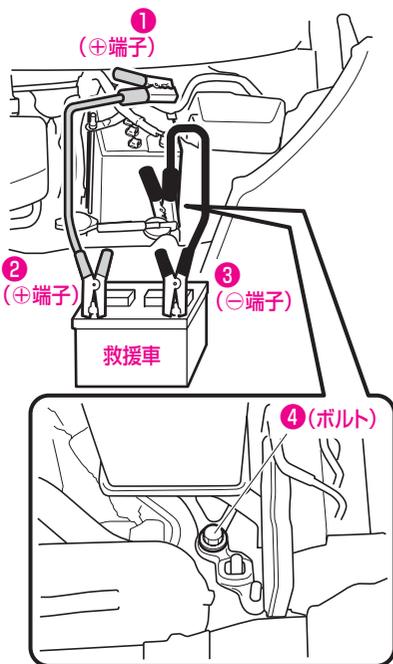
⚠ 注意

- 押しがけによる始動はできません。
- 必ず 12V バッテリー車と接続してください。
- ブースターケーブル接続の際には、⊕ 端子をボディ金属部や ⊖ 端子に接触させたり、逆に接続しないでください。
- ケーブルが冷却ファンやベルトに巻き込まれないように、接続には十分注意してください。

▼ 処置の手順

- 1 バッテリーの ⊕ 端子のカバーを外す
- 2 1 本目のブースターケーブルを以下の順に接続する
 - 1 バッテリーあがり車の ⊕ 端子
 - 2 救援車の ⊕ 端子
- 3 2 本目のブースターケーブルを以下の順に接続する
 - 3 救援車の ⊖ 端子
 - 4 未塗装の金属部

(図に示すような固定された部分)



- 4 救援車（電源側の車）のエンジンを始動し、少しエンジン回転を高めを保つ
- 5 バッテリーあがり車のエンジンを始動する
- 6 ブースターケーブルを接続順序の逆で外す

📖 知識

バッテリーあがりを防ぐために

- 下記のことをお守りください。
 - エンジンを止めたままランプをつけたり、オーディオを長時間使用しない。
 - エンジン回転中でも渋滞などで長時間止まっている場合は、不要な電装品の電源を切る。

バッテリーを交換するときは

⚠ 警告

- バッテリーを固定する金具やバッテリー端子のナットを外したあとは、確実に締め付けてください。走行中にゆるんで外れると、ショートの原因となり、火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- バッテリーを交換するときは、この車専用のスバル指定バッテリーに交換してください。専用バッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やアイドリングストップが正常に作動しなくなる原因となります。
- バッテリーの端子から直接電装品の電源をとらないでください。アイドリングストップが正常に作動しなくなります。

(「アイドリングストップ」専用バッテリー→ 314 ページ)

📖 知識

- バッテリー液量が減っていると充電能力が低下して寿命が短くなります。ときどき点検して液の補充をしてください。
- バッテリーを交換したとき、新しいバッテリーは、バッテリーを設置するトレイの車両後方側に設置してください。

オーバーヒートの処置

下記の状態がオーバーヒートです。

- 水温警告灯が赤色に点滅・点灯し、警告ブザーが鳴ったとき
- ボンネットから蒸気が立ちのぼり、エンジンの出力が低下したとき

処置のしかた

車を安全な場所に止め、以下の処置をしてください。

警告

処置を行う前に

- 水温が高いときは、冷却水注入口を外さないでください。冷却水の圧力が冷却水注入口にかかっているため、蒸気や熱湯が吹き出し、大変危険です。
- 冷却ファンに絶対に触れないでください。突然、ファンが回転するため、大変危険です。

▼ 処置の手順

- 1 ボンネットから蒸気が出ているとき
 - エンジンを止めて、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。蒸気が出なくなったらエンジンを始動しボンネットを開け、風通しを良くします。
- 2 ボンネットから蒸気が出ていないとき
 - エンジンをかけたままボンネットを開け、風通しを良くします。
- 3 1 または 2 の処置を行ったあと、エンジンルームをチェックする
 - 下記のような状態であれば、ただちにエンジンを止めてスバル販売店にご連絡ください。
 - 冷却ファンが回転していないとき
 - ホース類などから蒸気や熱湯が漏れているとき
 - 冷却水リザーバータンクの水がないとき
 - ファンベルトが切れているとき
- 4 水温警告灯が消灯し、警告ブザーが止まったらエンジンを止める
- 5 エンジンが十分に冷えてから冷却水の量、ファンベルトのゆるみ、ラジエーターのコア（放熱部）の著しい汚れやゴミの付着の有無などを点検する
- 6 冷却水が不足しているときは、補給する
 - 冷却水の補給は、別冊の「メンテナンスノート」を参照してください。

⚠ 注意

- 冷却水は、エンジンが熱いときに入れな
いでください。急に冷たい冷却水を入れ
ると、エンジンが損傷するおそれがありま
す。冷却水は、エンジンが十分に冷えて
からゆっくりと入れてください。

📖 知識

オーバーヒートを防ぐために

- 日頃から冷却水の量と冷却水の漏れが
ないかを点検するように心がけてください。
(冷却装置、冷却水の点検は別冊の「メ
ンテナンスノート」参照)

アクセスキーが使用できないとき

キーレスアクセス装着車

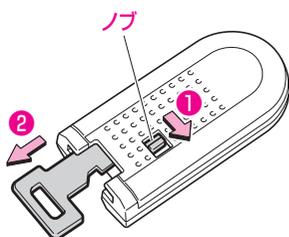
電池の消耗などにより、アクセスキーが使用できない場合は、一時的な対処として、アクセスキー、またはメカニカルキーを使用してドアの施錠、解錠、およびブッシュエンジンスイッチの操作を行うことができます。

警告

- 電池の消耗などにより、アクセスキーが使用できない場合でも、アンテナは電波を発信していますので、植込み型心臓ペースメーカー、および植込み型除細動器を使用されている方は、車外アンテナ・車内アンテナから約 22cm 以内に近付かないようにしてください。

(アンテナ→ 91 ページ)

メカニカルキーの取り出しかた



アクセスキーのノブを (1) の方向にスライドさせたまま、メカニカルキーを (2) の方向に引いて取り出します。

- 使用後は、メカニカルキーを必ずアクセスキーに格納しておいてください。

ドアの施錠、解錠

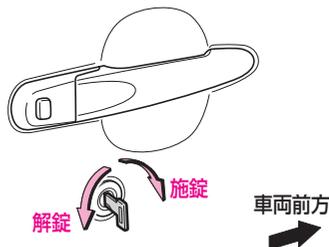
知識

盗難警報装置がセットされている場合

- キーを差して解錠しドアを開けると、盗難警報装置の警報が作動します。警報が作動した場合は、ただちに次項「エンジンのかけかた」の手順 1～3 にしたがって、キーを認識させてください。警報が停止します。

(盗難警報装置→ 76 ページ)

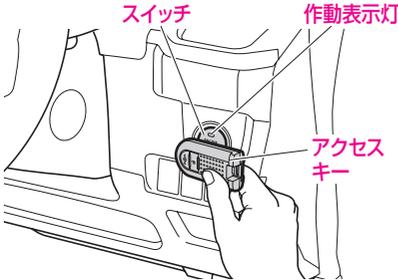
(エンジンのかけかた→ 439 ページ)



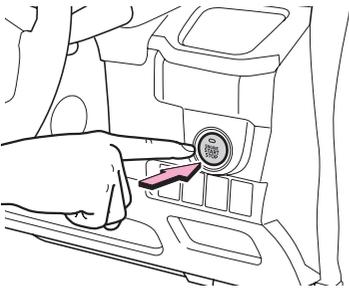
キーを確実に差し込み、
施錠：車両前方に回す
解錠：車両後方に回す

エンジンのかけかた

- 1 セレクトレバーが  の位置で、ブレーキペダルをしっかりと踏む
- 2 ブレーキペダルを踏んだまま、キーを  のようにプッシュエンジンスイッチに接触させる
 - アクセスキーの中心をスイッチの中心に接触させます。



- 3 キーが認識されて、スイッチの作動表示灯が緑色に点灯する
- 4 作動表示灯が点灯している間にスイッチを押すと、エンジンが始動する



▼ エンジンの停止方法

通常のエンジン停止方法と同様に、セレクトレバーを  レンジに入れて、スイッチを押します。

📖 知識

- 下記の状態になると、スイッチを押してもエンジンの始動はできません。もう一度ははじめからやり直してください。
 - キーの認識後、作動表示灯が消灯した
 - プッシュエンジンスイッチを“OFF”にした
- 手順通りに操作をしてもエンジンが始動できないときは、スバル販売店にご相談ください。

▼ エンジンスイッチモードの切り替え

- アクセスキーをプッシュエンジンスイッチに接触させたままプッシュエンジンスイッチを押します。スイッチを押すごとに「OFF → ACC → ON → OFF」の順に切り替わります。

■ ハンドルロックを解除するには

エンジンの始動操作をしたときに、スイッチの作動表示灯が緑色に高速点滅したときは、ハンドルロックが解除されていないため、エンジンの始動ができません。

ハンドルを左右に動かしながら、もう一度エンジンの始動操作をしてください。

■ キーを閉じ込めたとき

キーを閉じ込めたときは、JAF などを呼んでください。

別冊の「スバルサービスネットワーク」に記載されています。

▼ キーをなくした場合

電波式リモコンドアロック装着車

保管していたキーナンバーを最寄りのスバル販売店にお持ちください。

📖 知識

- キーの閉じ込みで困らないために下記の習慣を心がけてください。
 - 日頃からキーを使ってロックしてください。
 - バッグなどにスペアキーを入れておいてください。

キーレスアクセス装着車

保管していたアクセスキーとキーナンバーを最寄りのスバル販売店にお持ちください。

📖 知識

- アクセスキー使用時は特にキーを閉じ込めやすくなります。ドアを施錠する際は、必ずアクセスキーを携帯していることを確認するか、リモコン操作で施錠を行ってください。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、下記の手順で車両を停止させてください。

警告

走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは

- ブレーキの効きが悪くなりハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、可能な限り減速するようにしてください。
- キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

緊急停止方法

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

警告

- ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

- 2 セレクトレバーを **N** レンジに入れる

▼ セレクトレバーが **N** レンジに入った場合

- 3 減速後、車を安全な道路脇に停めて、エンジンを停止する

▼ セレクトレバーが **N** に入らない場合

- 4 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

- 5 エンジンを停止する

電波式リモコンドアロック装着車

- エンジンスイッチを“ACC”にして、エンジンを停止します。



キーレスアクセス装着車

- プッシュエンジンスイッチを3秒以上押し続けるか、3回以上連打して、エンジンを停止します。



3秒以上押し、または3連打する

- 6 車を安全な道路脇に停める

事故が起きたとき

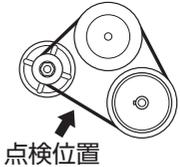
交通事故が起きたときはあわてずに下記の処置を取りましょう。

▼ 処置の方法

- 1 ただちに車を止めます。車を道のはしに停車し、昼夜問わず非常用表示板を立てるなどの必要な処置を取ります。
- 2 負傷者を救護します。人命救助が第一です。負傷者があれば救急車を呼んだり、最寄りの救急病院などへ運ぶなどして救護します。
- 3 警察へ事故の報告をします。最寄りの警察署または派出所へ事故を報告して警察官の指示にしたがいます。この届出は法令で義務付けられています。
- 4 相手方の確認とメモをします。氏名、住所、電話番号などをメモしておきます。
- 5 購入した販売会社と保険会社へ連絡します。

サービスデータ

サービスデータ

項 目		サービスデータ		
点火プラグ	エンジン型式	プラグ型式	NGK	デンソー
	KF型(ターボ車以外)		ILKR6F11 (イリジウムプラグ)	SXU20HPR11 (イリジウムプラグ)
	KF型(ターボ車)		ILKR7D8 (イリジウムプラグ)	SXU22HPR8 (イリジウムプラグ)
ファンベルト	たわみ量(mm) 押力98N{10kgf}時	7.9~9.7(点検時)		
		 <p>点検位置</p>		
アイドル回転数(rpm)		800		
ブレーキ ペダル	遊び(mm)	0.5~3.0		
	床板とのすき間(mm) (踏力294N{30kgf}時)	77.7以上		
駐車ブレーキ	踏みしろ (踏力245N{25kgf}時)	5~7ノッチ		
バッテリー		M-42		
フューエル タンク	容量(ℓ) (無鉛ガソリン使用)	30		
ウォッシュャー タンク	容量(ℓ)	1.5		

項		目	サービスデータ
エンジン オイル	使用オイル と交換時期	ターボ車以外	<ul style="list-style-type: none"> ・ SUBARU MOTOR OIL SN 0W-20*¹ または5W-30 ・ SUBARU MOTOR OIL SM 0W-20*¹ または5W-30 ・ アミックスモーターオイルSAE0W-20*¹ または5W-30(API分類SM以上) 6か月ごとまたは、 10,000kmごと(5,000kmごと* ²) のどちらか早い方
		ターボ車	<ul style="list-style-type: none"> ・ SUBARU MOTOR OIL SN 5W-30 ・ SUBARU MOTOR OIL SM 5W-30 ・ アミックスモーターオイルSAE5W-30 (API分類SM以上) 6か月ごとまたは、 5,000kmごと(2,500kmごと* ²) のどちらか早い方
	交換量(ℓ)	オイル交換時	約2.7
		オイルと オイルフィルター (オイルクリーナー) 交換時	約2.9
オイルフィルター (オイルクリーナー)	交換時期	10,000kmごと(5,000kmごと* ²)	
トランスミッション オイル	交換時期		50,000kmごと
	使用オイル		アミックスCVTフルード- DC
	交換量(ℓ)	ターボ車以外	約2.4(ドレン)、約5.7(全容量)
		ターボ車	約2.5(ドレン)、約5.8(全容量)

*1 省燃費性に優れるオイルです。

*2 シビアコンディション条件での定期交換の場合
シビアコンディション条件とは、走行距離大(20,000km以上/年)や
短距離走行の繰り返し(8km以下/回)または外気温が氷点下での繰り返し
走行が多い場合などに適用します。
詳しくは別冊の「メンテナンスノート」を参照してください。

⚠ 注意

CVT車のトランスミッションオイルを交換する場合

- スバル指定オイル（アミックス CVT フルード -DC）のみご使用ください。
ほかのオイルを使用したり、混合して使用すると、故障するおそれがあります。
オイルの交換については、必ずスバル販売店にご相談ください。

項 目		サービスデータ
トランスファ オイル	交換時期	100,000kmごと
	使用オイル	アミックスデファレンシャル ハイポイドギヤオイルSAE80W-90 (API分類GL-5)
	交換量(ℓ)	約0.57
リヤ デファレンシャル オイル	交換時期	30,000kmまたは2年(初回は3年)
	使用オイル	アミックス ATF D3-SP
	交換量(ℓ)	約0.73
ブレーキオイル	交換時期	2年ごと(初回は3年)
	使用オイル	アミックスブレーキフルード (DOT3相当)
エアクリーナー エレメント	交換時期	40,000kmごと(20,000kmごと*)
冷却水 (除くりザーバー タンク)	交換時期	2年ごと(初回は3年)
	使用液	アミックスロングライフクーラント (高防錆力タイプ)
	規定濃度(%)	50
	交換量(ℓ)	ターボ車以外 ターボ車

- * シビアコンディション条件での定期交換の場合
シビアコンディション条件とは、走行距離大(20,000km以上/年)や
短距離走行の繰り返し(8km以下/回)または外気温が氷点下での繰り返し
走行が多い場合などに適用します。
詳しくは別冊の「メンテナンスノート」を参照してください。

タイヤサイズ	タイヤ空気圧 (空車時：kPa(kgf/cm ²))				タイヤの溝の 深さ(mm)	タイヤ位置 交換時期
	前 輪		後 輪			
	一般	高速	一般	高速		
155/65R14	240{2.4}				1.6以上	5,000kmごと
165/55R15						

📖 知識

- 標準装着タイヤ、装着可能なタイヤのサイズと空気圧は、車種・グレードにより異なりますので、運転席ドアを開けたボディ側に貼ってある「タイヤ空気圧」のラベルをご覧ください。

さくいん

ア

アームレスト	342
アームレストボックス	349
アイドリング回転数	444
アイドリングストップ	302
アイドリングストップ OFF	
スイッチ	312
アイドリングストップ OFF	
表示灯	311
アイドリングストップ時間	163
アイドリングストップシステム	302
アイドリングストップ積算時間	
・カスタム仕様車	179
・標準車	164
アイドリングストップ表示灯	310
アウター（ドア）ミラー	131
アクセサリソケット	341
アクセスキー	84
アクセスキーが使用できないとき	438
アシストグリップ	345
足踏み式駐車ブレーキ	246
アンチロックブレーキシステム	
（ABS）	252
アンテナ	337

イ

EPS（電動パワーステアリング）	
警告灯	146
EBD	252
イグニッション（エンジン）スイッチ	
・キーレスアクセス装着車	241
・電波式リモコンドアロック 装着車	239
イグニッションキー	84
ISO FIX 固定バー&テザーアンカー	60
イモビライザー機能	75
インジケーターランプ（表示灯）	149
インナーハンドル	113
インナー（ルーム）ミラー	130
インパネアンダートレイ （運転席）	347
インパネセンタートレイ	347
インパネトレイ（助手席）	347
インパネボックス（助手席）	349
インパネロアポケット	347

ウ

ウインカー（方向指示）スイッチ …	226
ウインカー（方向指示）表示灯 ……	149
ウインドウォッシャー液の補給 ……	369
ウインドウデフォッガースイッチ …	335
ウインドゥ反転機構（運転席） ……	115
ウインドゥガラス （パワーウインドゥ） ……	114
ウォーニングランプ（警告灯） ……	136
ウォッシャースイッチ ……	223
ウォッシャータンクの容量 ……	444
上向き表示灯 ……	150
運転席 SRS エアバッグ ……	64
運転席シートリフター ……	122
運転席・助手席シートベルト 警告灯 ……	141

エ

エアクリーナーエレメントの データ ……	446
エアコン	
・オート ……	326
・マニュアル ……	318
エアコンガス ……	381
エアバッグ ……	64
エアフィルター ……	381
ABS ……	252
ABS 警告灯 ……	144
AWD 車 ……	231
eco ゲージ ……	184
eco ゲージの表示設定 ……	205
エコドライブアシスト照明	
・カスタム仕様車 ……	183
・標準車 ……	167

エコドライブアシスト照明の 表示設定

・カスタム仕様車 ……	205
・標準車 ……	164
SRS エアバッグ ……	64
SRS エアバッグ警告灯 ……	144
SRS エアバッグコンピューター ……	73
SRS カーテンシールドエアバッグ …	64
SRS サイドエアバッグ ……	64
エマージェンシーストップ シグナル ……	301
LLC（冷却水）のデータ ……	446
エンジンオイルのデータ ……	445
エンジンオイルレベルゲージ ……	368
エンジン回転計（タコメーター） …	157
エンジンがかからないとき ……	426
エンジンキー ……	84
エンジン警告灯 ……	137
エンジンスイッチ	
・キーレスアクセス装着車 ……	241
・電波式リモコンドアロック 装着車 ……	239
エンジンスタートサポート ……	233
エンジンフード（ボンネット） ……	364
エンジンルーム ……	362
エンジンルームサービスカバー ……	363
エンディング画面 ……	187

オ

オイルの交換量	445
オイルフィルターのデータ	445
オイルプレッシャー (油圧)	
警告灯	137
応急修理セット	419
オートエアコン	326
オート格納式ドアミラー (キーレスアクセス連動)	133
オート (パワー) ウィンドウ	114
オートライト機能	219
オーバーヒートの処置	436
オープナー	
・フューエルリッド	119
・ボンネット	364
オープニング画面	185
オープニング画面の設定	
・お知らせ通知	208
・表示・非表示	205
・メンテナンス	211
オドメーター (積算距離計)	
・カスタム仕様車	172
・標準車	159
オルタネーター (ファン) ベルトの 点検基準値	444
温度調節センサー	334

カ

カーゴルームランプ	339
カーテンシールドエアバッグ	64
カードホルダー	344
外気温	
・カスタム仕様車	177
・標準車	162
回生制御	315
鍵 (キー)	84
可変ロードリミッター機構	38
カラーマルチインフォメーション ディスプレイ	168
カラーマルチインフォメーション ディスプレイの表示画面の設定	200
間欠ワイパー (ワイパー・ ウォッシャースイッチ)	223

キ

キー	84
キーインターロック	240
キー (エンジン) スイッチ	
・キーレスアクセス装着車	241
・電波式リモコンドアロック 装着車	239
キー閉じ込み防止機能	108
キー抜き忘れ警告ブザー	240
キーの電池交換	401
キーレスアクセス	90
キーレスアクセス警告灯	99
キーレスアクセスの警告	94
キーを閉じ込めたとき	440
給油口 (フューエルリッド)	119
緊急停止するには	441

ク

空気圧のデータ	447
空調	318
クーラー（エアコン）	
・オートエアコン	326
・マニュアルエアコン	318
クーラント（冷却水）のデータ	446
区間距離計（トリップメーター）	
・カスタム仕様車	172
・標準車	159
曇り取り	
・フロント（オートエアコン）	327
・フロント （マニュアルエアコン）	321
・リヤ	335
クラクション（ホーン）スイッチ	226
クリーナー（オイルフィルター）の データ	445
クリーンエアフィルター	381
グローブボックス	348

ケ

警音器（ホーン）スイッチ	226
計器（メーター）	156
警告灯	136
警告ブザー	
・アイドリングストップシステム 警告ブザー	309
・エンジン冷却水温警告ブザー	140
・キー抜き忘れ警告ブザー	240
・キーレスアクセス警告ブザー	94
・シートベルト警告ブザー （運転席・助手席）	141
・ステアリング制御警告ブザー	146
・スマートアシストⅡの ブザー音	298
・駐車ブレーキ警告ブザー	246
・燃料残量警告ブザー	143
・ブレーキ警告ブザー	139
・ランプ消し忘れ警告ブザー	221
警報（盗難警報装置）の停止方法	79
けん引されるとき	429

コ

工具	414
光軸調整ダイヤル	222
高水温警告灯	140
後席（リヤシート）	124
航続可能距離	
・カスタム仕様車	176
・標準車	161
後方誤発進抑制制御機能	276
故障したとき	427
誤発進抑制制御機能	276
小物入れ	
・アームレストボックス	349
・インパネボックス	349
コンビネーションメーター	156

サ

サービスデータ	444
サイドエアバッグ	64
サイド（ドア）ミラー	131
サイドトレイ	347
サブトランク	351
3点式ELRシートベルト	35
サンバイザー	344

シ

シート	
・フロント	122
・リヤ	124
シートアレンジ	129
シートヒーター	343
シートベルト	35

シートベルト警告灯 （運転席・助手席）	141
シートリフター	122
CVT 警告灯	140
CVT 車	230
事故が起きたとき	442
室内照明	338
シフトセレクトインジケーター	
・カスタム仕様車	174
・標準車	151
シフトレバー	247
シフトロック解除ボタン	249
シフトロック機構	248
車載工具	414
車線逸脱警報 OFF 表示灯	294
車線逸脱警報機能	288
車線逸脱警報作動灯	294
ジャッキの使いかた	415
車両盗難防止（イモビライザー） 機能	75
車両を緊急停止するには	441
集中ドアロック	107
充電警告灯	138
充電、放電状態表示	181
使用オイル	445
照度調整	
・カスタム仕様車	206
・標準車	165
衝突回避支援ブレーキ機能	268
衝突警報機能 （対車両・対歩行者）	268
照明	338
助手席アンダートレイ	350
助手席 SRS エアバッグ	64

助手席シートバックポケット	349
助手席シートベルト警告灯	141
ショッピングフック	355
ショルダーアジャスター	37

ス

水温警告灯	140
水温表示灯	150
スタック（立ち往生）したとき	426
ステアリングスイッチ	
・POWER モード 切り替えスイッチ	250
・TFT カラーマルチインフォ メーションディスプレイ	168
ステアリング制御警告灯	146
ステアリングホイール （チルトステアリング）	134
スノー（タイヤ）チェーン	410
スパーク（点火）プラグの型式	444
スピードメーター	156
スマートアシスト OFF スイッチ	299
スマートアシスト OFF 表示灯	293
スマートアシスト機能低下コード	297
スマートアシスト“故障”表示	295
スマートアシスト“作動”表示	293
スマートアシストⅡ	262
スマートアシスト“停止”表示	296
スマートクール	312
スライド調整	
・フロントシート	122
・リヤシート	124

セ

積算距離計（オドメーター）	
・カスタム仕様車	172
・標準車	159
セキュリティ表示灯	151
セレクトレバー	247
先行車発進お知らせ機能	285
洗車	358
前照灯（ヘッドランプ）の 切り替え	220
前席（フロントシート）	122

ソ

速度計（スピードメーター）	156
ソナー	267

タ

ターボ車	230
ターンシグナルインジケーター （方向指示器表示灯）	149
ターンシグナル（方向指示） スイッチ	226
タイヤチェーン	410
タイヤの交換	372
タイヤの点検	370
タイヤのデータ	447
タイヤのローテーション	371
タイヤパンク応急修理セット	419
タコメーター	157
単眼カメラ	266
暖房（エアコン）	
・オートエアコン	326
・マニュアルエアコン	318

チ

蓄冷エバポレーター	312
チェーン	410
チェックエンジン警告灯	137
チェンジ（セレクト）レバー	247
チケットホルダー	344
チャージ（充電）警告灯	138
チャイルドシート	41
チャイルドシート固定バー	43
チャイルドシートの選びかた	44
チャイルドシートの固定のしかた	49
チャイルドシートの種類	41
チャイルドブルーフ	109
駐車ブレーキ	246
駐車ブレーキの点検基準値	444
駐車ブレーキ未解除警告灯	138
チルトステアリング	134

ツ

ツール（工具）	414
---------	-----

テ

TRC	255
TRC OFF 表示灯	258
TFT カラーマルチインフォメーション ディスプレイ	168
TFT カラーマルチインフォメーション ディスプレイの表示画面の設定	200
低水温表示灯	150
ディスクホイール（タイヤ）の 交換	372
ディスクホイール（タイヤ）の データ	447
テザーアンカー	43
デファレンシャルオイルのデータ	446
デフォッガースイッチ	335
デフロスター（曇り取り）	
・フロント（オートエアコン）	327
・フロント （マニュアルエアコン）	321
・リヤ	335
デュアル SRS エアバッグ	64
点火プラグの型式	444
電球の交換	386
点検整備項目（サービスデータ）	444
電池の交換	401
電動格納式（ドア）ミラー	131
電動格納式ヒータードアミラー	133
電波式リモコンドアロック	89

ト

ドア	101
ドア（パワー） ウィンドウ	114
ドアポケット	350
ドアミラー	131
ドア連動機能	340
ドアロック	107
盗難警報装置	76
盗難警報装置作動の停止方法	79
時計	
・カスタム仕様車	173
・標準車	166
時計の調整	
・カスタム仕様車	203
・標準車	166
ドライブインフォメーション	175
トラクションコントロール (TRC)	255
トランスファオイルのデータ	446
トランスミッションオイルの データ	445
トリップメーター（区間距離計）	
・カスタム仕様車	172
・標準車	159
ドリンクホルダー	352

ナ

内気センサー	334
--------	-----

ニ

日射センサー	334
--------	-----

ネ

燃費（平均燃費）	
・カスタム仕様車	175
・標準車	160
燃料カットシステム	426
燃料給油口（フューエルリッド）	119
燃料計	
・カスタム仕様車	174
・標準車	158
燃料残量警告灯	143
燃料（フューエル）タンクの容量	444

ハ

パーキング（駐車）ブレーキ	246
パーキング（駐車）ブレーキの 点検基準値	444
パーキングブレーキ未解除警告灯	138
ハイビーム（ヘッドランプ上向き） 表示灯	150
ハザードインジケーター （非常点滅表示灯）	149
ハザード（非常点滅表示灯） スイッチ	227
挟み込み防止機構	115
発炎筒	428
バック（ルーム）ミラー	130
パッシング （ヘッドランプの切り替え）	220
バッテリー	314
バッテリーあがりの処置	432
バッテリーあがり防止機能	340
バッテリーの型式	444
発電制御	315

バニティーミラー	345
バルブ（電球）の交換	386
パワーウィンドウ	114
パワーステアリング警告灯	146
パワードアロック	107
POWER モード 切り替えスイッチ	250
POWER モード表示灯	251
パンク応急修理セット	419
パンクしたとき	432
半ドア警告灯	142
ハンドル（チルトステアリング）	134

ヒ

ビークルダイナミクスコントロール （VDC）	254
ヒーター（エアコン） ・オートエアコン	326
・マニュアルエアコン	318
ヒートッドミラー	133
非常点滅表示灯	149
非常点滅表示灯スイッチ	227
日付	173
日付の調整	203
ヒューズボックス	382
表示画面設定（TFT カラーマルチ インフォメーションシステム）	200
表示灯	149
ヒルスタートアシスト	313
ヒルホールドシステム	260

フ

ファンベルトの点検基準値	444
VDC	254
VDC&TRC OFF スイッチ	259
VDC&TRC 警告灯	257
VDC OFF 表示灯	258
VOC 作動表示灯	257
フィルターのデータ ・オイルフィルター	445
・クリーンエアフィルター	381
フォグランプスイッチ	223
フォグランプ表示灯	150
プッシュエンジンスイッチ	241
フット（足踏み式駐車）ブレーキ	246
不凍液（冷却水）のデータ	446
フューエルウォーニング （燃料残量警告灯）	143
フューエルタンクの容量	444
フューエル（燃料） カットシステム	426
フューエルメーター（燃料計） ・カスタム仕様車	174
・標準車	158
フューエルリッド	119
冬用タイヤ	410
プラグの型式	444
プリテンショナー&可変ロードリミッター 機構付シートベルト	38
フルタイム AWD システム	231
ブレーキ（ABS）	252
ブレーキオイルのデータ	446
ブレーキオーバーライドシステム	230
ブレーキオーバーライドシステム 表示灯	155

ブレーキ警告灯	139
ブレーキペダルの点検基準値	444
ブレード（ワイパー）の交換	377
フロントアームレスト	342
フロントアームレストボックス	349
フロントシート	122
フロントシートベルト	35
フロントドア	101
フロントフォグランプスイッチ	223
フロントマップランプ	338
フロントワイパー・ウォッシャー スイッチ	223

へ

平均燃費	
・カスタム仕様車	175
・標準車	160
ヘッドランプ上向き表示灯	150
ヘッドランプの切り替え	220
ヘッドレスト	127
ベルトの点検基準値	444

ほ

ホイール（タイヤ）の交換	372
ホイール（タイヤ）のデータ	447
方向指示器表示灯	149
方向指示レバー	226
ホーンスイッチ	226
補給口（フューエルリッド）	119
ポジション表示 （シフトセレクトインジケーター）	
・カスタム仕様車	174
・標準車	151
ボンネット	364

ま

前倒し	126
マスターウォーニング	292
窓ガラス（パワーウィンドウ）	114
マニュアルエアコン	318
マルチインフォメーションディスプレイ	
・カスタム仕様車	168
・標準車	159

み

ミラー	
・ドアミラー	131
・ルームミラー	130

め

メーター	156
メインキー	84
メカニカルキー	85
メッセージ	189
メッセージアイコン	173
メッセージ確認	180
メンテナンスデータ （サービスデータ）	444

こ

油圧（オイルプレッシャー） 警告灯	137
----------------------	-----

ラ

ライティングスイッチ	218
ライティングスイッチ表示灯	150
ラジエーター液（冷却水）のデータ	446
ラバー（ワイパー）の交換	377
ランプ消し忘れ警告ブザー	221
ランプ自動消灯機能	220

リ

リクエストスイッチ	104
リクライニング調整	
・フロントシート	122
・リヤシート	124
リバース連動リヤワイパー	225
リフター	122
リモコンスイッチ	
・キーレスアクセス	90
・電波式リモコンドアロック	89
リヤウインドウデフォグガー スイッチ	335
リヤゲート	110
リヤシート	124
リヤシートベルト	35
リヤデファレンシャルオイルの データ	446
リヤドア	106
リヤワイパー・ウォッシャー スイッチ	225

ル

ルーフアンテナ	337
ルームミラー	130
ルームランプ	339

レ

冷却水のデータ	446
冷房（エアコン）	
・オートエアコン	326
・マニュアルエアコン	318
レーザーレーダー	264
レベリング警告灯	145

ロ

ローテーション	371
ロービーム・オートレベリング 警告灯	145

ワ

ワイパー・ウォッシャースイッチ	223
ワイパーディアイサースイッチ	336
ワイパーの交換	377
ワイヤレスドアロック （電波式リモコンドアロック）	89
W数（電球）	386
ワンプッシュ式オートオープン ドリンクホルダー	352

3	
3点式ELRシートベルト	35

4	
4WD (AWD) 車	231

A	
ABS	252
ABS 警告灯	144
A/C (エアコン)	
・オートエアコン	326
・マニュアルエアコン	318
AWD 車	231

C	
CVT 警告灯	140
CVT シフトセレクトインジケーター	
・カスタム仕様車	174
・標準車	151
CVT 車	230

E	
EBD	252
eco ゲージ	184
eco ゲージの表示設定	205
EPS (電動パワーステアリング)	
警告灯	146

I	
ISO FIX 固定バー&テザーアンカー	60

L	
LLC (冷却水) のデータ	446

P	
POWER モード	
切り替えスイッチ	250

S

SRS エアバッグ	64
SRS エアバッグ警告灯	144
SRS エアバッグコンピューター	73

T

TFT カラーマルチインフォメーション ディスプレイ	168
TFT カラーマルチインフォメーション ディスプレイの表示画面の設定	200
TRC	255
TRC OFF 表示灯	258

V

VDC	254
VDC OFF 表示灯	258
VDC&TRC OFF スイッチ	259
VDC&TRC 警告灯	257
VCD 作動表示灯	257
V (ファン) ベルトの点検基準値	444

W

W 数 (電球)	386
----------------	-----

● 次の名称はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。

当社は使用許諾に基づき使用していません。

- TRC
- VSC

● 次の名称はダイハツ工業株式会社の登録商標です。

当社は使用許諾に基づき使用していません。

- ECO IDLE
- アミックス
- AMMIX
- スマートアシスト
- スマアシ
- スマートクール
- キーフリーシステム

軽自動車を廃車したときは

自動車検査証返納の手続きが必要になりますので、軽自動車検査協会事務所で手続きを行ってください。

返納に必要な書類など（**A**は一時使用中止時、**B**は解体返納時に必要です）

- A** 自動車検査証返納証明書交付申請書・自動車検査証返納届出書
- B** 解体届出書
- A B** 自動車検査証
- A B** 車両番号標（ない場合は「車両番号標未処分理由書」）
- A B** 軽自動車税申告書
- A B** 印鑑

A 一時使用中止時

7番窓口

ナンバー頒布



6番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告



2番窓口

申請書類の確認



3番窓口

検査手数料収納



2番窓口

申請書類の確認

B 解体返納時

7番窓口

ナンバー頒布



6番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告



2番窓口

申請書類の確認



5番窓口

申請書の受付、および検査証交付

※上記の順序は一般的な例です。

使用者・所有者・使用者の住所を変更したときは

検査証記載事項変更の手続きが必要になりますので、使用中の本拠位置を管轄する軽自動車検査協会事務所で手続きを行ってください。

申請に必要な書類など（**C**は使用者・所有者を変更した場合、**D**は引っ越しなどにより、使用者の住所を変更した場合に必要です）

- C D** 自動車検査証記入申請書
- C D** 自動車検査証
- C D** 使用者の住所を証する書面（印鑑証明書、または住民票抄本などで発行後 3 ヶ月以内のもの）
- C** 自動車損害賠償責任保険証明書、または自動車損害賠償責任共済証明書（使用者が変わった場合に必要です）
- C D** 車両番号標（同じ管轄であれば変更する必要がありません）
- C** 軽自動車税申告書・自動車取得税申告書
 - D** 軽自動車税申告書
- C D** 印鑑

C D（ナンバー変更あり）

2 番窓口

申請書類の確認



7 番窓口

ナンバー頒布



5 番窓口

申請書の受付、および検査証交付



6 番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告



7 番窓口

ナンバー頒布

C D（ナンバー変更なし）

2 番窓口

申請書類の確認



6 番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告



5 番窓口

申請書の受付、および検査証交付

※上記の順序は一般的な例です。

ご意見、ご感想、お問い合わせはお近くのスバル販売店
または弊社「SUBARUお客様センター」へお願いいたします。

*お乗りのお車に関してお電話などでお問い合わせをいただく際は、お客さまへ正確・迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証などをご準備いただきますようご協力をお願いしております。

①車検証記載事項

型式・車台番号・登録番号・登録年月日

②走行距離

③販売店・担当者名

SUBARU お客様センター

SUBARU コール  0120-052215

受付時間【平日】 9:00～17:00
【土日祝】 9:00～12:00、13:00～17:00

※平日の12:00～13:00および土日祝は
(1)のインフォメーションサービスのみとなります。

SUBARU お客様センターでは下記の内容を承っております。
(1)ご意見/ご感想/ご案内(カタログ、販売店、転居手続き 他)
(2)お問合せ/ご相談

富士重工業株式会社
〒150-8554 東京都渋谷区恵比寿1-20-8 (エビススバルビル)

禁複製・転載

編集・発行 **富士重工業株式会社**

スバルカスタマーセンター